大宰府条坊跡 50

－日吉・五反田・土居ノ内地区の調査－

令和２（2020）年

太宰府市教育委員会

序

本書は、太宰府市の中央部に広がる大宰府条坊跡で実施した発掘調査の報告書です。

今回報告する学校院跡前面域での調査では、古代の井戸や多くの陶磁器が出土し、学校院の南側一帯における古代大宰府の状況を知る手がかりを得ることができました。また、条坊を踏襲する位置で中世の道路も検出され、古代に整備された区画が政庁廃絶後も連綿と利用され続けたことがわかりました。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

結びになりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

令和２年３月
太宰府市教育委員会
教育長　樋田 京子

例言

1. 本書は太宰府市観世音寺１丁目で行われた、大宰府条坊跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系（日本測地系）を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限りG.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 遺構の実測及び写真撮影は、各担当者が行った。
4. 第109次調査の航空測量は、㈱アジア航測が行った。
5. 遺構の空中写真撮影について、第67次調査は㈲空中写真稲富、第109次調査は㈱アジア航測、第79・317次調査は㈲空中写真企画が行った。
6. 出土した金属製品の保存処理は㈱タクトが行った。
7. 遺物の実測は、山本麻里子、福井円、吉富千春、今岡一恵、元田晃子、宮崎が行った。
8. 表入力・写真整理は、瀬戸口みな子、市川晴美が行った。
9. 遺物の整理接合・復元作業は、馬場由美、住山景子、末永亜由子が行った。
10. 遺物の写真撮影は、㈲システム・レコが行った。
11. 図の浄書は、宮崎が行った。
12. 本書に用いた分類は以下のとおり。

    須恵器・・・太宰府市教委『宮ノ本遺跡Ⅱ　－窯跡篇－』（太宰府市の文化財第10集）1992年

    土器・・・・太宰府市教委『大宰府条坊跡Ⅱ』（太宰府市の文化財第7集）1983年

    陶磁器・・・太宰府市教委『大宰府条坊跡XV』（太宰府市の文化財第49集）2000年

    瓦・・・・・九州歴史資料館『大宰府史跡出土軒瓦・叩打痕文字瓦型式一覧』2000年
13. 本書の執筆・編集は宮崎が担当した。

目次

Ⅰ、遺跡の位置と歴史 …… 3

Ⅱ、調査体制 …… 5

Ⅲ、調査および整理方法 …… 6

Ⅳ、調査報告

1、第33次調査 …… 7

(1) 調査に至る経緯 …… 7

(2) 基本層位と検出遺構 …… 7

(3) 出土遺物 …… 7

(4) 小結 …… 8

2、第36次調査 …… 9

(1) 調査に至る経緯 …… 9

(2) 基本層位 …… 9
(3) 検出遺構 …… 9
(4) 出土遺物 …… 12
(5) 小結 …… 21
3、第39次調査 …… 28
(1) 調査に至る経緯 …… 28
(2) 調査所見 …… 28
(3) 出土遺物 …… 28
(4) 小結 …… 28
4、第67次調査 …… 29
(1) 調査に至る経緯 …… 29
(2) 基本層位 …… 29
(3) 検出遺構 …… 32
(4) 出土遺物 …… 33
(5) 小結 …… 46
5、第79次調査 …… 55
(1) 調査に至る経緯 …… 55
(2) 基本層位 …… 55
(3) 検出遺構 …… 56
(4) 出土遺物 …… 58
(5) 小結 …… 67
6、第109次調査 …… 72
(1) 調査に至る経緯 …… 72
(2) 基本層位 …… 72
(3) 検出遺構 …… 73
(4) 出土遺物 …… 75
(5) 小結 …… 94
7、第317次調査 …… 100
(1) 調査に至る経緯 …… 100
(2) 基本層位 …… 100
(3) 検出遺構 …… 100
(4) 出土遺物 …… 109
(5) 小結 …… 139
8、推定朱雀門礎石の移設について …… 154

V、調査まとめ …… 155

写真図版・・・主な遺構および遺物写真
付録　CD（遺構および遺物写真）

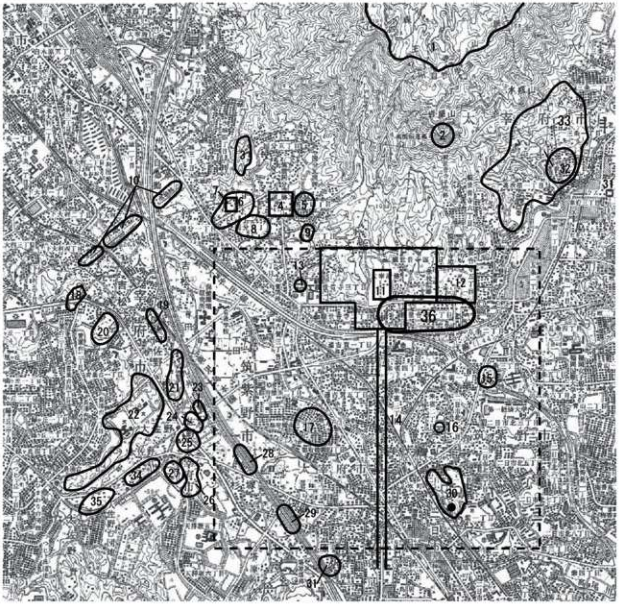
紀年銘資料

①A.D.927　延長5年、大宰府74次SD205A溝
②A.D.1091 寛治5年、平安京左京4条1坊SE8井戸
③A.D.1224 貞応3年、大宰府33次SD605溝
④A.D.1304 嘉元2年、大宰府109.111次SD3200溝
⑤A.D.1330 元徳2年、大宰府45次SX1200池
⑥A.D.784　延暦3年、長岡京102次SD10201溝
⑦A.D.1459・1465 長禄3・寛正5年、福岡市井相田C11・S016池
⑧A.D.1501 文亀元年、大宰府70次SD1805溝
⑨A.D.1265 文永2年、博多62次713土壙

文献

①九州歴史資料館　「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
②田辺昭三・吉川義彦　「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
③九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
⑤九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988
⑦福岡市教育委員会「井相田B(遺跡II)」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
⑧九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨福岡市教育委員会「博多48」「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995

Fig.1　大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁編年



1. 大野城跡
2. 岩屋城跡
3. 陣ノ尾遺跡
4. 筑前国分寺跡
5. 辻遺跡
6. 国分松本遺跡
7. 筑前国分尼寺跡
8. 国分千足町遺跡
9. 御笠団印出土地
10. 水城跡
11. 大宰府政庁跡
12. 観世音寺
13. 遠賀団印出土地
14. 大宰府条坊跡（鏡山峯、褐越内）
15. 君畑遺跡
16. 般若寺跡
17. 市ノ上遺跡
18. 神ノ前窯跡
19. 原口遺跡
20. 篠振遺跡
21. 前田遺跡
22. 宮ノ本遺跡
23. 雛川遺跡
24. フケ遺跡
25. 尾崎遺跡
26. 脇道遺跡
27. 殿城戸遺跡
28. 剣塚遺跡
29. 唐人塚遺跡
30. 峯・峯畑遺跡（●は峯火葬墓）
31. 太宰府天満宮(安楽寺跡)
32. 浦城跡
33. 原遺跡
34. 京ノ尾遺跡
35. カヤノ遺跡
36. 報告地域

Fig.2　太宰府市とその周辺の遺跡（1/30000）

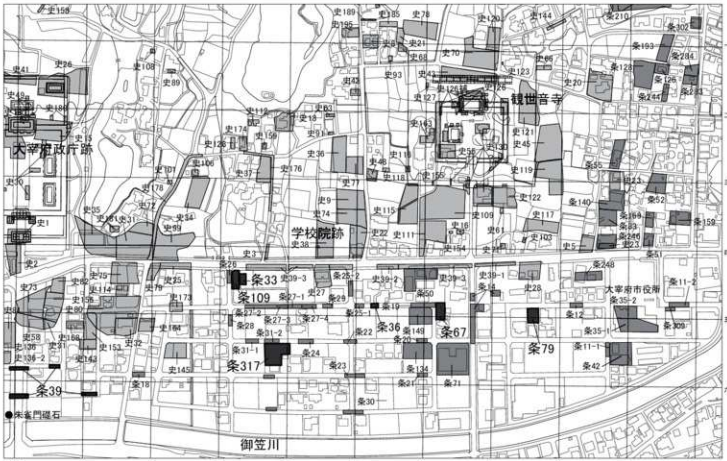


Fig.3　調査地とその周辺調査地点（1/5000）

Ⅰ、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に脊振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。市役所から博多湾まで直線距離で 15km、筑後川まで 20km の位置関係である。

旧石器時代や縄文時代の遺物が市内各所の調査で散見されるが、集落などは確認されていない。弥生時代になると、市内の周縁部の平地や微高地に集落が営まれ、弥生中期には高雄地区吉ケ浦遺跡や国分地区松本遺跡で甕棺墓群が見つかっている。古墳時代には前期から中期にかけて、割竹形木棺を内部主体とする円墳（菖蒲浦、下高尾、宮ノ本）が築造されている。宮ノ本 12 号墳では、獣帯鏡が副葬され、菖蒲浦古墳では中心主体部に割竹形木棺という畿内型古墳の内部主体を導入しながらも、周囲には箱式石棺や土坑墓を有し、「特定個人＋特定近親者集団墓」という弥生時代からの在地型の墓制が継続していたことが認められる。また、5 世紀中頃には行政区こそ太宰府市であるが、福岡平野を見渡す丘陵に帆立貝形前方後円墳の成屋形古墳が築造されている。6 世紀になって、四王寺山や高尾山の裾部に円墳が僅かに築造されるが、群集墳と呼べる状況を示していない。

7 世紀になると大宰府政庁が置かれ、博多側には四王寺山と吉松丘陵を塞ぐ水城跡の土塁が築造されたほか、周囲に山々には大野城・基肄城・阿志岐城などの古代山城が築造された。2016 年には筑紫野市前畑遺跡で丘陵上に築造された土塁が発見され、周囲の古代山城と合わせ、羅城を形成していた可能性を示すものとして注目された。

四王寺山の南麓には大宰府政庁、観世音寺、学校院のほかに官衙が並び、その政庁を北辺中央に置いた南側一帯にはいわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。大宰府政庁跡では、7 世紀後半～ 12 世紀前半まで建物等が確認され、大きく三時期に分かれ、Ⅰ期は掘立柱建物、Ⅱ・Ⅲ期は瓦葺きの礎石建物と考えられている。その周辺には官衙群が広がっていたとされ、西側の蔵司の地名が残る丘陵では、コ字形に配された礎石建物群が検出されている。政庁前面の広場を挟んだ両側に位置する日吉・不丁地区では、政庁Ⅱ期の掘立柱建物群が検出され、硯などの文具類も多く出土している。さらに西側の大楠地区や広丸地区でも多くの掘立柱建物が確認され、その北側ではかつて遠賀団印が出土し、大型掘立柱建物も検出されるなど、奈良時代から平安前期にかけて、右郭の官衙域が御笠川以北、そして 8 坊路まで広がっている可能性も考えられる。左郭については、学校院地区では、学業という地名が残されているものの、調査範囲が狭く、また史跡地という事情から、下層ほど遺構状況が明確につかめていない。その東隣には観世音寺はかつて「府の大寺」と呼ばれ、現在でも礎石群や仏像群がその隆盛を物語っている。また、条坊の中央やや南側では、大型掘立柱建物が並んで見つかり、佐波里製の匙など高級食器も出土するなど、外国使節を安置・供給する客館跡と考えられている。

大宰府条坊の規模は南北 22 条、東西 12 坊の約 2km 四方におよぶものと推定され、南辺部は筑紫野市まで広がり、『続日本紀』神護景雲 3(769) 年 10 月甲辰の条に「此府人物殷繁、天下之一都会也」と記され、同じく『続日本紀』宝亀元 (770) 年 3 月甲申の条には「大宰管内大風、壊官舎百姓并廬舎一千卅餘口」と記され、都市であったことが理解できる。そして、政庁の正面からは、道幅 36m（奈良時代）の中央大路（推定朱雀大路）が造られていたことが発掘調査からわかっている。

条坊の外側に位置する大佐野地区は、6 世紀前半～ 9 世紀中頃の大規模須恵器窯である牛頸窯跡群に抜ける谷筋に位置し、すぐ東側を官道が通る要衝である。発掘調査では、カヤノ遺跡で 7 世紀末～ 8 世紀初頭の掘立柱建物群が確認され、周辺の京ノ尾遺跡でも奈良時代の遺物が多く出土している。また、向佐野地区の宮ノ本遺跡では、古代の墳墓が 100 基以上確認され、買地券や鏡など多くの貴重な副葬品が出土している。

条坊の北西には、筑前国分寺や国分尼寺が造られ、国分寺については、塔心礎をはじめ伽藍配置が残り、保存されている。その近くに位置する国分松本遺跡では、7 世紀末の戸籍計帳関係の木簡が出土している。

中世になるとまちの中心は、観世音寺や五条から太宰府天満宮周辺などかつての条坊域の東部へ移る。観世音寺の東隣の御所ノ内地区は、武藤少弐氏の屋敷があったと伝えられ、南側の露切地区と共に、蔵を伴う屋敷や礫敷の道路などが見つかっている。また、五条地区の一画では、13 世紀後半～ 14 世紀前半頃の多くの梵鐘鋳造土坑や溶解炉が見つかり、大規模な鋳物工房が存在したことがわかっている。宝満山を含め寺社を中心にその周辺一帯は高い密度で遺構が展開している。また、周辺の山々には岩屋城や有智山城など九州の戦国史に名を残す山城が築造され、激しい戦いが繰り広げられている。

近世の太宰府は、中世から引き続き太宰府天満宮を中心に宰府や五条の町ができ、街道筋の集落として通古賀が形成されているが、その周縁に位置する他の集落は都市近郊型の農村集落であった。その後、昭和 40 年代以降宅地化が進み住宅街と変化している。

Ⅱ、調査体制

(昭和 57 ／ 1982 年度)・・・第 33・36・39 次調査

統括	教育長	陶山直次郎			
庶務	社会教育課長	西山義則			
	文化財係長	黒板力			
	主事	岡部大治			
調査	技師	山本信夫			

(昭和 62 ／ 1987 年度)・・・第 67 次調査

統括	教育長	藤寿人			
庶務	社会教育課長	花田勝彦			
	文化財係長	鬼木冨士夫			
	主事	岡部大治	白水伸司		
調査	技師	山本信夫	狭川真一	緒方俊輔	
	技師（嘱託）	山村信榮			

(昭和 63 ／ 1988 年度)・・・第 79 次調査

統括	教育長	藤寿人			
庶務	社会教育課長	花田勝彦			
	文化財係長	鬼木冨士夫			
	主事	川原和典			
調査	技師	山本信夫	狭川真一	緒方俊輔	
	技師（嘱託）	山村信榮			

(平成 3 ／ 1991 年度)・・・第 109 次調査

統括	教育長	長野治己				
庶務	教育部長	中川シゲ子				
	文化課長	佐藤恭宏				
	埋蔵文化財係長	富田譲				
	文化振興係長	大田重信				
	主任主事	岡部大治	川谷豊			
調査	主任技師	山本信夫	狭川真一	城戸康利	緒方俊輔	
	技師	山村信榮	中島恒次郎	塩地潤一		

(平成 29・30 ／ 2017・2018 年度)・・・第 317 次調査

統括	教育長	樋田京子
	教育部長	緒方扶美
文化財課	課長	城戸康利
保護活用係	係長	江坂研治

	主任主査	井上信正	髙橋学
	主任主事	岡部大治	
	主事	久木原駿史（平成 29 年度）	
	〃	伊藤裕貴（文化庁記念物課研修、平成 29 年度）	
	〃	豊増慧大（平成 30 年度）	
調査係	係長	山村信榮	
	主任主査	宮崎亮一	
	主任主事	有田ゆきな	
	主任技師	遠藤茜	沖田正大　中村茂央
文化財課事務取扱			
	係長	中島恒次郎（都市計画課 景観・歴史のまち推進係）	

（令和元／ 2019 年度）・・・報告書刊行

統括	教育長	樋田京子	
	教育部長	江口尋信	
文化財課	課長	城戸康利	
保護活用係	係長	江坂研治	
	主任主査	井上信正	髙橋学
	主任主事	岡部大治	
	主事	豊増慧大	
	嘱託	井手上由美	
調査係	係長	山村信榮	
	主任主査	宮崎亮一	
	技術主査	遠藤茜	
	主任技師	沖田正大	中村茂央
	技師	木村純也	
文化財課事務取扱			
	係長	中島恒次郎（都市計画課 景観・歴史のまち推進係）	

Ⅲ、調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群 I』（太宰府市の文化財第 14 集　1989）、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』（太宰府市教育委員会 2001 年 9 月改訂）に基づいている。

調査では、表土剥ぎをバックホーによって行った。遺構図や土層図は適時 1/10、1/20 等で記録し、遺構全体図は第 109 次調査は航空測量で行い、第 33 次調査は平板測量、その他は人力によって 1/20 の縮尺で実測を行った。ただし、第 79・109 次調査については、調査精度・記録が不十分である。

整理に際し、時期が特定できそうな遺物については、実測作業を行っている。一緒に出土している遺物については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。

これらの調査で得られた出土遺物や実測図等は太宰府市文化ふれあい館に保管している。

Ⅳ、調査報告

1、 第 33 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字観世音寺（現在．観世音寺１丁目）字五反田 232-2 である。

観世音寺地区土地区画整理事業に伴って発掘調査を実施し、平板測量を行った。調査期間は 1982（昭和 57）年５月 10 日～５月 20 日で、調査面積は 42 ㎡。調査は山本信夫が担当した。

(2) 基本層位と検出遺構

表土の下には、東側で黄色粘土とその下位に黄灰色粗砂があり、それらに切り込んで西側で暗茶色土が堆積していた。

遺構面は西や南に向かってやや低くなっており、標高は東側で約 35.5m、西側で 35.2m、南側で 35m である。遺構は深さ 0.15m 前後の浅いピットが散在する程度であった。また、西側は土地そのものが遺構面からさらに 0.3m 前後下がっている。

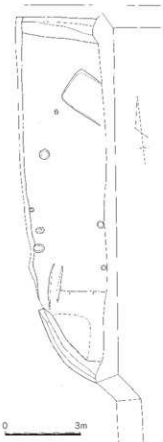


Fig.4 第 33 次調査遺構全体図 (1/150)

(3) 出土遺物

表土出土遺物（Fig.5）

土師質土器

脚付鉢 (1) 復元口径 12.1 ㎝。鉢部の器高は 3.95 ㎝。胎土は断面灰色で、外面は淡黄橙色を呈する。口縁端部は若干内湾する。外面はミガキで、口縁端部には花文のスタンプが施されている。脚は欠損するが４ヶ所あったとみられる。

国産陶器

壺 (2) 胎土は砂粒や黒色粒を多く含み、外面には不透明で鈍い光沢のある赤褐色釉を薄くかける。底部外面は糸切りである。備前焼とみられる。復元底径 5.3 ㎝。

龍泉窯系青磁

椀(3～6) 3･4はⅡ-b類。外面に蓮弁を施す。5はⅣ類。透明度の低いやや黄色味の淡緑色釉を施す。6はⅣ類。釉は淡緑色で、透明度は低く、鈍い光沢を持つ。内面には花文が陽刻され、外面には縦線がヘラ彫りされている。

瓦類

平瓦 (7) 凸面は「平井」の文字が彫られた格子叩きである。

土製品

鞴羽口 (8) 胎土は白色砂粒を多く含み、胎土は被熱で一部暗赤色に変色している。内面の一部が残るが、他は摩滅し残っていない。

石製品

石鍋 (9) 復元口径 21.1 ㎝。外面上部には低い鍔が削り出され、ケズリ加工が残る。滑石製。

排土出土遺物（Fig.5）

高麗青磁

椀（10） 胎土は白色微砂粒をやや多く含み、色調は淡灰色を呈する。釉は鈍い光沢があり、透明度の低い灰緑色釉を施す。内面には白色象嵌の圏線が施されている。

(4) 小結

調査地では顕著な遺構は認められなかった。西側隣接地では調査地より低い土地ながら遺構の存在が確認されている。また、調査地が大きく削平された状況も見られないことから、当初から遺構が希薄な土地だったと推測される。

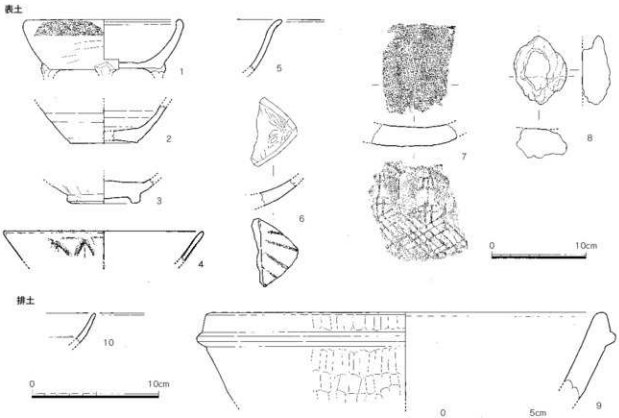


Fig.5 第 33 次調査出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、石製品は 1/2）

表 1 第 33 次調査 出土遺物一覧表

表土	
須恵器	甕
土師器	甕
土師質土器	脚付鉢
越州窯系青磁	椀；I-5(1)、I?(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅰ-1(2)、Ⅰ-1?(1)、Ⅱ-b(2)、Ⅲ?(1)、Ⅳ(1) 龍泉破片Ⅲ×Ⅳ(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(2)、皿；Ⅰ-1(1)
白磁	椀；Ⅱ-1(1)、Ⅳ(5)、Ⅳ-1a(1)、Ⅳ～Ⅷ(4)、 有段(2)、内面櫛目(1)、広東系(2) 皿：Ⅲ-1(1)、Ⅵ(1)、Ⅸ-2(1)、内面段有(1)、 白磁破片(2)
中国陶器	甕；F゛(1) 他；盤E(1)
肥前系磁器	皿、破片
国産陶器	備前?、椀、蓋、鉢
瓦類	文字瓦（Ⅰ-8b「平井」）
金属製品	用途不明鉄製品
石製品	石鏃
土製品	輪羽口

排土	
高麗青磁	椀

2、第 36 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字観世音寺（現在．観世音寺 1 丁目）字土居ノ内 147 付近で、学校院跡の南東 100m に位置する。

観世区画整理事業に先立ち、事業調整する中で、道路予定地を部分的に調査することとなった。今回の調査面積は 72.4 ㎡である。調査期間は 1982（昭和 57）年 11 月 16 日～ 12 月 7 日で、調査は山本信夫が担当した。旧調査地区番号は 57 区画 2 トレンチである。

なお、遺物の選別作業は、主に山本・狭川が行っている。

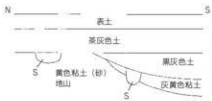


Fig. 6　第 36 次調査基本土層模式図

(2) 基本層位（Fig. 6）

表土の下に茶灰色土があり、それを除去すると黄色粘土や黄色砂の地山に遺構が展開している。遺構面は標高 35m である。

(3) 検出遺構

井戸

36SE001（Fig. 8）

掘り方は、南北 2.5m、東西 2.9m、深さ 2.2m の円形で、やや西側に桶が据えられていた。桶は 2 段分残っていて、最下段は内径 0.54m、高さ 0.6m で、桶は 19 枚の縦板で作られていた。2 段目は上半部が腐食し欠損しているが、内径 0.66 ～ 0.7m、遺存高 0.45m で、桶は 19 枚の縦板で作られていた。

36SE015（Fig. 8）

掘り方は、東西 1.94m、南北 2.4m、深さ 1.78m の隅丸方形状で、底面中央に井戸枠が残る。方形に組まれた井桁は、内法 0.96 × 0.9m を測り、東西井桁の外側には縦板が残り、井桁が縦板の下端を押さえる役目をしていたことがわかる。井桁内の中央には 0.6m 四方に組まれた、深さ 0.3m の箱型の木枠が据

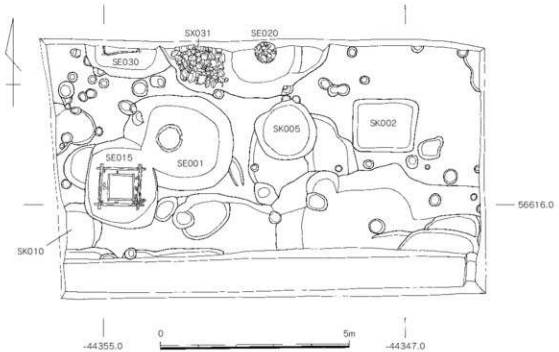


Fig. 7　第 36 次調査遺構全体図（1/100）

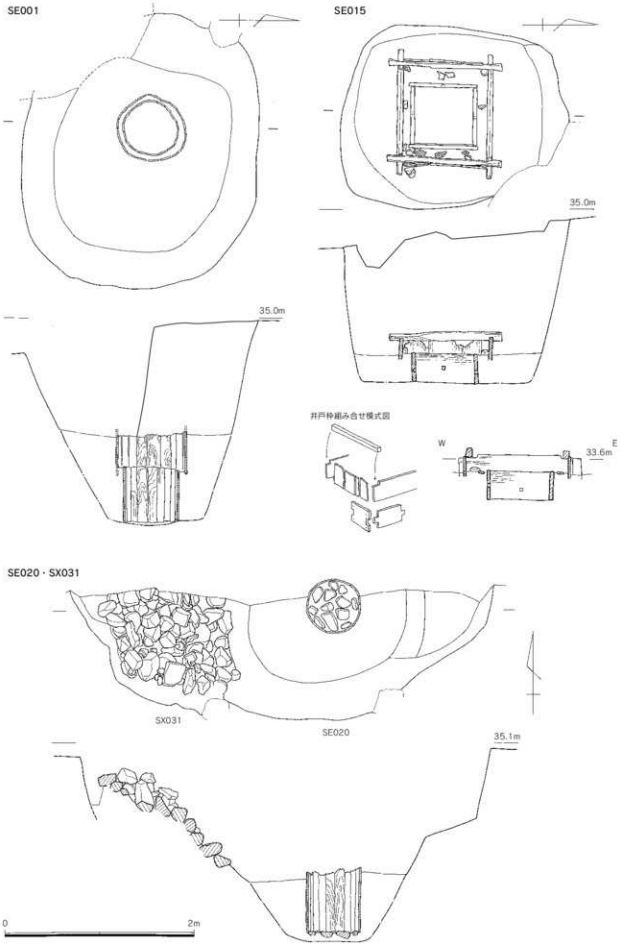


Fig.8 36SE001・015・020、SX031 遺構実測図 (1/40)

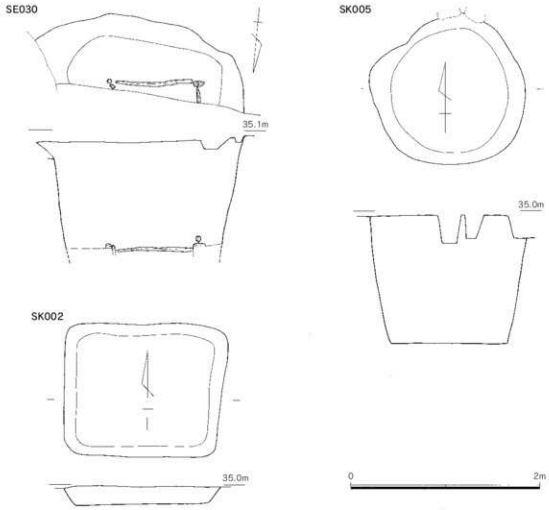


Fig.9　36SE030、SK002・005 遺構実測図（1/40）

えられ、木枠と井桁との間には部分的に礫や瓦が敷かれていた。木枠の各部材の中央付近には方形孔があり、湧水を取り込むためのものと推測される。

36SE020（Fig.8）

調査区北辺にあり、SX031 に切り込んで掘られた井戸で、東西 3.3m、南北 1.5m 以上、深さ約 2m で、中央付近に桶枠が遺存していた。桶は 20 枚の縦板で作られ、内法径 0.54m、深さは 0.66m が残っていたが、上部は腐植していた。桶底には礫が敷かれていた。埋土上面には 0.4 × 0.6m 程の礫が出土していたが、埋没過程で埋められたものとみられる。

36SE030（Fig.9）

調査区端で検出された井戸で、東側は SX031 に切られていた。東西は 2.28m 以上で、深さ 1.27m の掘り方で、掘り方中央付近に方形井戸枠が遺存していた。井戸枠は横桟とみられる幅 0.04m 程の部材が残り、内法 0.88m 程である。井戸枠角に径 0.05m 程の隅柱が残っていた。

土坑

36SK002（Fig.9）

規模が東西 1.72m、南北 1.4m、深さ 0.2m の方形土坑である。

36SK005（Fig.9）

規模が 1.65 × 1.6m、深さ 1.35m の円形土坑である。

36SK010

調査区端のため、全形が不明だが、東西 1m 以上、南北 1.25m 以上、深さ 0.35m の土坑である。

その他の遺構

36SX031（Fig.8）

大きさ 0.2m 前後の角礫が集石された遺構である。東側は SE020 によって切られているが、集石の範囲は東西 1.4m、南北 1.1m 以上で、北側は調査区外へ続いている。礫層の厚さはおよそ 0.2 ～ 0.4m である。

(4) 出土遺物

井戸

36SE001

36SE001 最上層出土遺物（Fig.10）

土師器

小皿 a（1）　復元口径 9.4 cm。底部切り離しは回転糸切り。

須恵質土器

鉢（2、3）　2 は肥厚せず口縁部に至る。3 は口縁部を断面三角形状に肥厚させる。

青白磁

紅皿（4）　復元口径 5.8 cm。口縁部を肥厚させる。内外面に淡く水色がかった透明釉を施す。

小皿（5）　内外面に淡く水色がかった透明釉を施すが、外面底部は露胎。内面底部はヘラ描き花文を描く。

36SE001 上層出土遺物（Fig.10）

土師器

小皿 a（6）　復元口径 9.4 cm。底部切り離しは回転糸切り。

白磁

椀（7）　内面底部にヘラ描き文様を施し、若干緑色がかった釉を内外面に施す。Ⅵ類か。

青白磁

小壺（8）　復元口径 5.6 cm。内外面とも淡く水色がかった透明釉を施すが、口縁端部は露胎。外面は連弁を巡らす。

金属製品

鉄釘（9）　頂部はＬ字形に曲げている。先端部は欠損する。現存長 3.4 cm、幅 0.35 × 0.4 cm。

36SE001 埋土中出土遺物（Fig.10）

土師器

小皿 a（10 ～ 13）　復元口径 8.8 ～ 10.6 cm。底部切り離しは回転糸切り。

瓦器

椀 c（14）　内外面ともミガキ c だが単位が不明瞭。復元高台径 7.4 cm。

灰釉陶器

壺（15）　胎土は灰色で内外面とも回転ナデ調整し、淡い緑黄色釉を薄く施す。

越州窯系青磁

鉢（16）　小片で全形がわかりづらいが、径が大きいため鉢のようなものと推測した。口縁端部外面には突帯を 2 条巡らし、内外面とも淡い緑黄色釉を薄く施す。

36SE001 井戸内出土遺物（Fig.10）

須恵質土器

鉢（17）　口縁部が断面三角形状をなす。

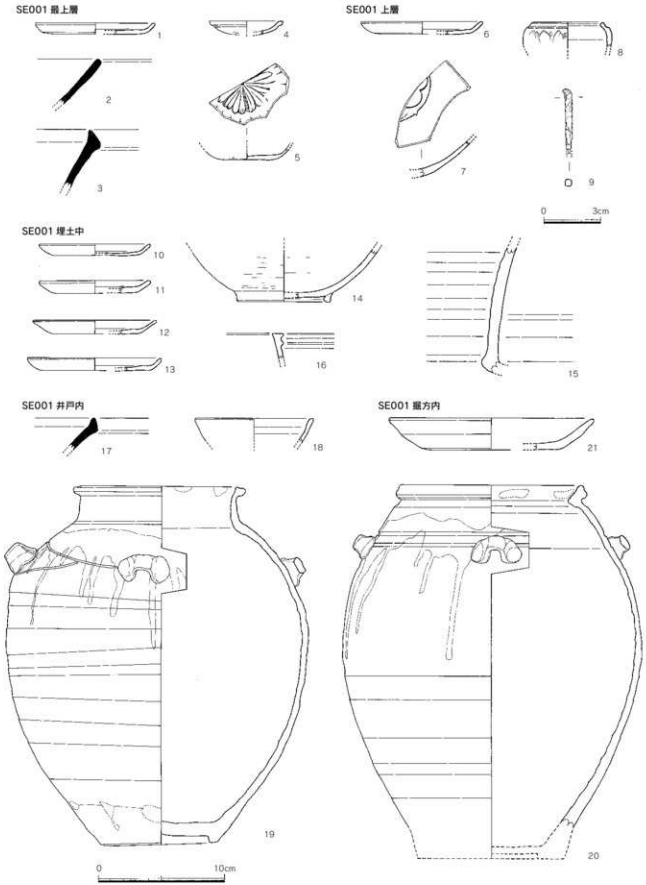


Fig. 10　36SE001 出土遺物実測図（1/3、9は1/2）

緑釉陶器

椀（18）　復元口径9.4㎝。胎土は黄灰色の土師質である。内外面に緑色釉を施す。洛北産か。

中国陶器

四耳壺（19、20）　19は口径13.6㎝、器高28.3㎝、底径9.2㎝。Ⅴ類。胎土は白色砂粒や赤色粒が混じり、淡橙灰色を呈する。肩部に波状沈線を巡らし、内外面に光沢のある茶灰色釉を施し、外面肩部には暗茶褐色釉を掛ける。一部外面は白濁化する。20は口径14.4㎝。Ⅶ類。胎土は細かい白色砂粒が混じり、淡黄灰色や淡灰色を呈する。肩部に沈線を2条巡らし、内外面に光沢のある灰緑色釉を施し、頸部には暗茶褐色釉を掛ける。

36SE001 掘方内出土遺物（Fig.10）

土師器

坏a(21)　復元口径16.2㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。色調は淡橙黄色を呈する。

36SE015

36SE015 出土遺物（Fig.11）

土師器

皿a（1）　口径11.95㎝。体部は大きく外開きする。底部切り離しは回転ヘラ切り。

椀c（2、3）　2は口径12.6㎝。口縁端部を僅かに外反させる。

緑釉陶器

椀（4）　胎土は精製され須恵質に焼成する。内外面に淡緑黄色釉を施す。京都産か。

石製品

小型容器（5）　径3.8㎝、器高2.1㎝。中央に径3㎝程の円孔を彫る。外面には擦痕が残る。滑石製。

36SE015 埋土出土遺物（Fig.11）

土師器

坏a（6）　復元口径11.6㎝。底部切り離しは回転ヘラ切り。

椀c（7）　復元口径12.8㎝。内外面とも回転ナデ調整。口縁端部を僅かに外反させる。

36SE015 井戸内出土遺物（Fig.11）

土師器

皿c（8）　復元口径12.2㎝。色調は黄橙色を呈する。

坏a（9）　復元口径11.0㎝。底部切り離しは回転ヘラ切り。

椀c（10、11）　10は内面にミガキbのような工具痕が残る。底部切り離しは回転ヘラ切り。口縁端部は僅かに外反させる。復元口径14.4㎝。11は内面を工具ナデ調整する。

椀（12、13）　口縁端部は僅かに外反させる。12は内外面に黒斑がみられる。13の内面はミガキbのあとミガキcを施す。

甕（14）　内外面ともヨコナデで、外面には煤が付着する。

黒色土器A類

椀c（15）　15は内面ミガキc、外面はヨコナデだがミガキも施しているか。

椀（16、17）　16は口縁端部を僅かに外反させる。内面はミガキbのあとミガキcを施す。17は口縁端部を外反させず立ち上げる。

木製品

曲物底板（18）　径14.0㎝、厚さ0.9㎝。埋没時の土圧で一部変形している。表面に一部漆のような赤色付着物が残る。また、虫食い痕がみられる。

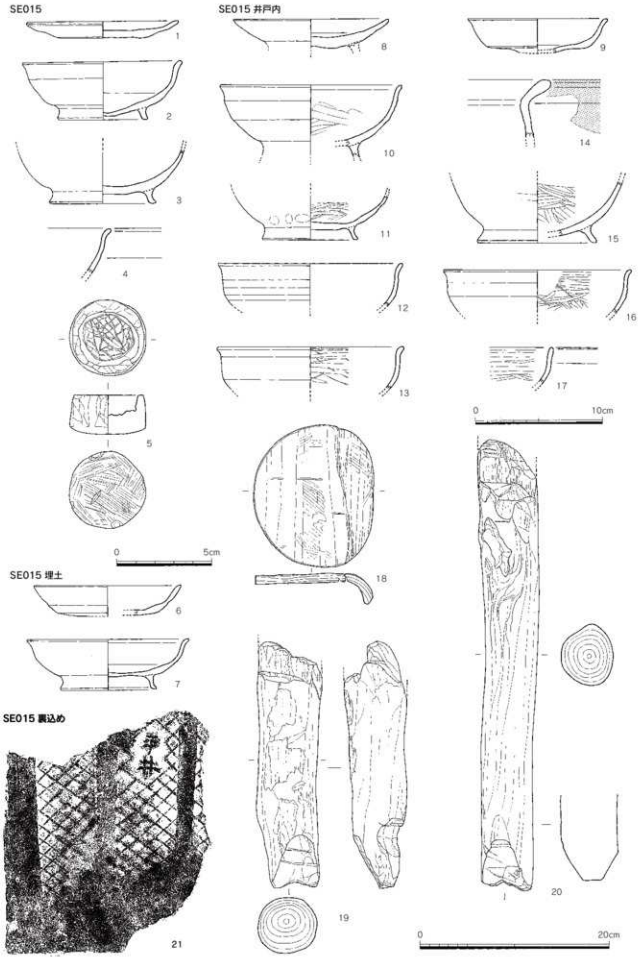


Fig. 11　36SE015 出土遺物実測図（1/3、石製品は 1/2、瓦類・木製品は 1/4）

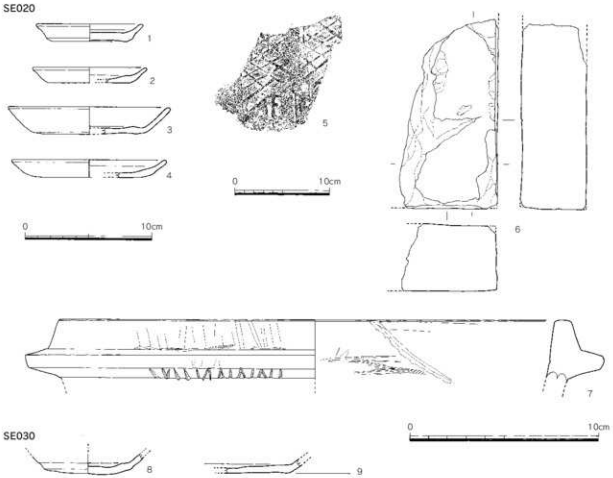


Fig.12　36SE020・030 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、石製品は 1/2）

木杭(19,20)　19 は現存長 26.1cm、径 6.6 ～ 7.0cm。端部を 2 方向からカットし、一部抉り込みがある。一部樹皮が残る。20 は現存長 47.8cm、径 6.3 ～ 7.6cm。先端部は 2 方向からカットした後、先端部のみさらに 2 方向の削り込みを行っており、尖っていない。

36SE015 裏込め出土遺物（Fig.11）

瓦類

平瓦（21）「平井」の文字瓦。九歴分類 901Ga。

36SE020 出土遺物（Fig.12）

土師器

小皿 a（1、2）　復元口径 8.4 cmと 9.0 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 a（3）　復元口径 12.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

丸底坏 a（4）　復元口径 12.2 cm。底部はヘラ切りで、底部の押し出しは甘い。

瓦類

平瓦（5）「佐」の文字瓦。九歴分類 902J。

無文塼（6）　胎土は砂粒を多く含み灰色を呈する。全面ナデ調整。厚さ 5.3 cm。

石製品

石鍋（7）　復元口径 27.2 cm。鍔の下面に刻み目を施す。滑石製。

36SE030 出土遺物（Fig.12）

土師器

坏 a（8）　やや丸味のある底部で、底部切り離しは回転ヘラ切りのあとナデ調整か。

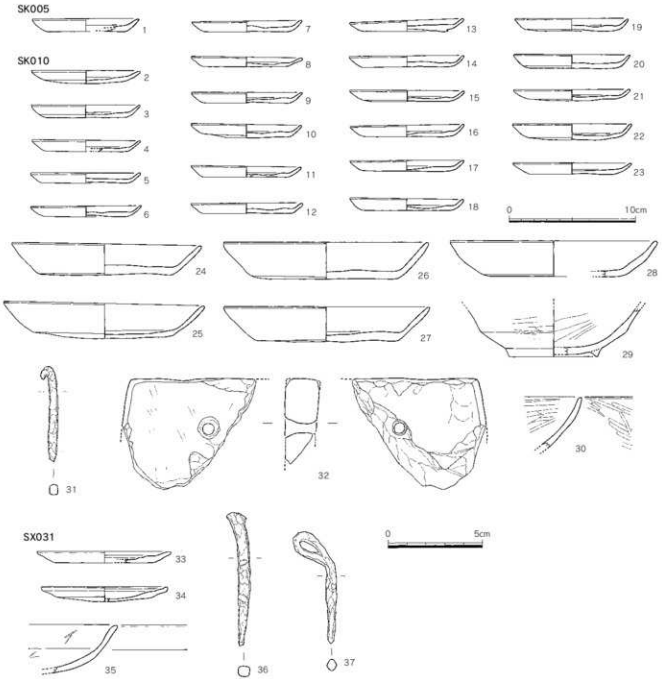


Fig.13　36SK005・010・031 出土遺物実測図（1/3、金属製品・石製品は 1/2）

皿 a（9）　底部外面は回転ヘラケズリ。色調は淡茶色を呈する。

土坑

36SK005 出土遺物（Fig.13）

土師器

小皿 a（1）　復元口径 8.2 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

36SK010 出土遺物（Fig.13）

土師器

小皿 a（2 ～ 23）　復元口径 8.6 ～ 9.4 ㎝。底部切り離しは全て回転糸切りで、板状圧痕を残す。

坏 a（24 ～ 28）　復元口径 15.0 ～ 16.4 ㎝。底部切り離しは全て回転糸切りで、板状圧痕を残す。色調は黄橙色を呈する。

瓦器

椀ｃ（29）　内外面ともミガキを施すが光沢はない。断面三角形の低い高台を貼付する。

椀（30）　内外面ともミガキｃを施す。

金属製品

鉄釘（31）　頂部をＬ字形に折り曲げる。長さ 5.0 ㎝、幅 0.4 ～ 0.55 ㎝。

石製品

滑石加工品（32）　石鍋の二次加工品で、厚さ 1.8㎜で、径 0.6 ㎝の円孔を穿つ。

その他の遺構

36SX031 出土遺物（Fig.13）

土師器

小皿ａ（33）　復元口径 10.6 ㎝。底部切り離しは回転ヘラ切り。

小皿 a2（34）　復元口径 10.0 ㎝。口縁端部内面に沈線がめぐる。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

丸底坏ａ（35）　底部押し出しで、内面にミガキｂを施し、コテ当て痕を残す。

金属製品

鉄釘（36）　現存長 7.0 ㎝、中央幅 0.6 × 0.6 ㎝。

鉄製環状金具（37）　端部を輪状に作る。現存長 6.0 ㎝、幅 0.35 ～ 0.6 ㎝。

土層

茶灰色土出土遺物（Fig.14）

土師器

小皿ａ（1 ～ 5）　口径 8.4 ～ 9.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

小皿ｃ（6）　口径 9.05 ㎝。

坏ａ（7 ～ 10）　口径 15.0 ～ 16.2 ㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。色調は橙色を呈する。

瓦器

椀ｃ(11)　低い断面三角形高台を貼付する。燻しがないが､内外面にミガキを施す。復元高台径 6.0 ㎝。

須恵質土器

鉢（12）　内外面とも回転ナデ。体部は暗灰色で、口縁端部は黒灰色を呈する。

土師質土器

羽釜（13）　鍔を巡らす。胎土は暗黄色で、内外面はヨコナデ調整。

鍋（14）　口縁部をＬ字形に曲げる。内面ヨコナデ、外面は摩滅し調整不明。

火舎（15）　　口縁部をＬ字形に曲げ、上面に浅い刻み目を施す。

黒釉陶器

天目椀（16）　胎土は灰色で、内面と外面上半部に茶褐色釉を施す。

中国陶器

壺（17）　復元口径 9.6 ㎝。胎土は微細な砂粒を若干含み、灰黄色を呈する。内外面に茶褐色釉を薄く施す。B 群。

瓦類

文様塼（18）　上面に蓮華文を施し、側面はナデ調整。厚さ 5.8 ㎝。

土製品

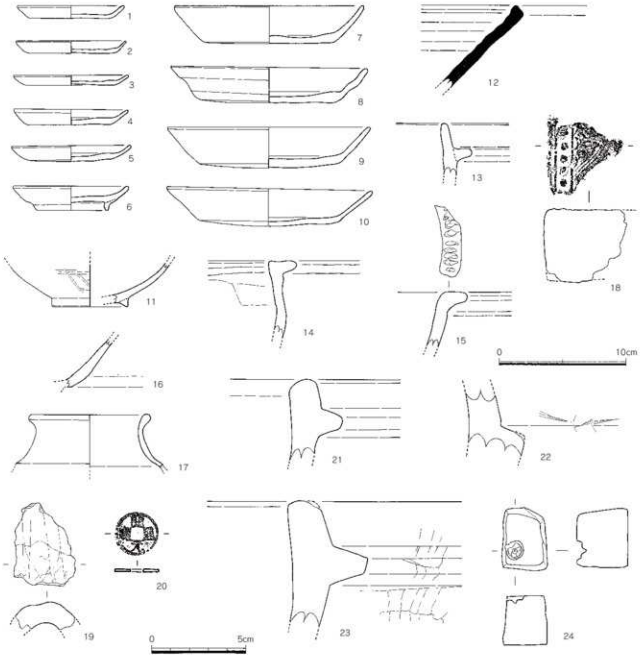


Fig. 14　第 36 次調査茶灰色土出土遺物実測図（1/3、金属製品・石製品は 1/2）

鞴羽口（19）　外面は縦方向のナデ。被熱により灰白色と暗灰色に変色する。

金属製品

銭貨（20）「開元通宝」。径 2.3 ㎝。

石製品

石鍋（21 ～ 23）　滑石製。

滑石加工品(24)　大きさは3.3 × 2.3 ㎝、厚さ 2.7 ㎝。方形に加工され、径 1 ㎝の円孔が彫られている。

黒灰色土出土遺物（Fig. 15）

土師器

小皿 a（1 ～ 12）　底部切り離しは、8・12 が回転ヘラ切り以外は回転糸切りで、板状圧痕を残す。復元口径 8.6 ～ 10.0 ㎝。

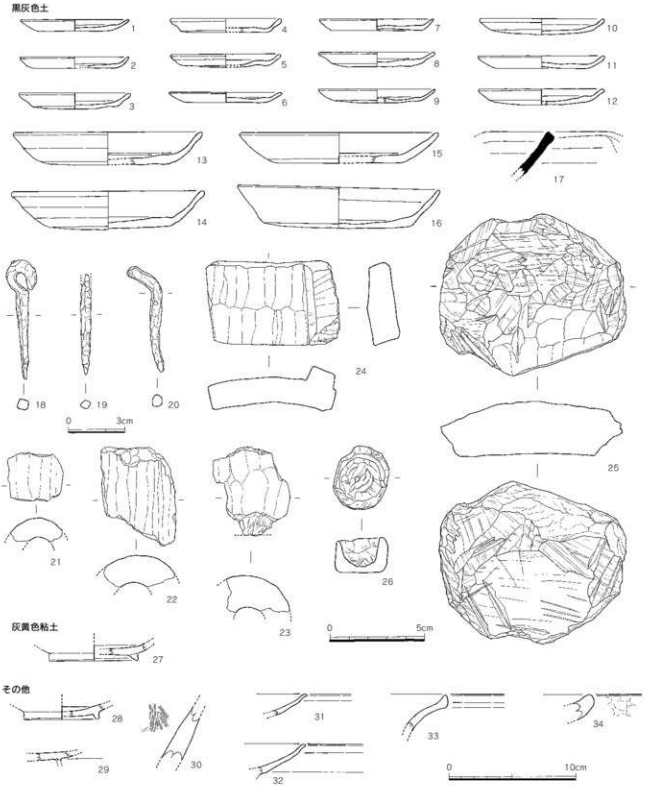


Fig. 15　第 36 次調査黒灰色土・灰黄色粘土、その他の出土遺物実測図（1/3、金属製品・石製品は 1/2）

坏 a（13 ～ 16）　復元口径 15.0 ～ 16.0 ㎝、底部切り離しは回転糸切り。色調は橙黄色を呈する。

須恵質土器

鉢（17）　片口の鉢で、体部は肥厚させず口縁部に至る。

金属製品

鉄製環状金具（18）　頂部を輪状に作り、先端を細くし釘状をなす。長さ 6.3 ㎝。

鉄釘(19、20)　19は頂部を欠損する。現存長5.3㎝。20は上部が曲がる。現存長5.6㎝、幅0.6㎝前後。

土製品

鞴羽口（21～23）　外面に縦方向のナデ調整が残る。22はあまり被熱していない。

石製品

石鍋加工品（24、25）　24は石鍋の瘤状把手部分を再利用したもので、方形に加工している。大きさは4.5×7.0㎝、厚さ1.3㎝。滑石製。25は8.5×9.6㎝、厚さ2.8㎝。内外面を細かく削り整形する。滑石製。

小型容器(26)　大きさ2.7×3.1㎝、厚さ1.85㎝の円柱状で、内面を円形に彫り込んでいる。滑石製。

灰黄色粘土出土遺物（Fig.15）

緑釉陶器

椀c（27）　底部には断面三角形の低い高台を貼付する。復元口径7.0㎝。内外面に濃緑色釉を薄く施すが、高台内面は露胎。須恵質。近江もしくは東海産。

その他の出土遺物（Fig.15）

緑釉陶器

椀(28)　復元高台径5.9㎝。胎土は須恵質に焼成され、内面にうっすらと淡灰緑色釉を施す。京都産。段落ち黒灰色土より出土。

皿（29）　土師質で光沢のある淡緑黄色釉を施す。段落ち黒灰色土より出土。

壺（30）　内面にはハケが残り、内外面に明緑色釉や暗緑色釉を施す。胎土は土師質。段落ち黒灰色土より出土。

灰釉陶器

皿（31、32）　口縁端部を僅かに曲げている。内外面とも回転ナデで、灰緑色釉を施す。31は黒灰色土より出土。32は段落ち黒灰色土より出土。

壺（33）　胎土は灰色で、回転ナデの後内面に緑灰色釉を施す。SK029より出土。

土製品

トリベ（34）　内面ナデ、外面に指頭圧痕が残る。SX033より出土。

(5) 小結

今回の調査では、遺構・遺物の多くが12世紀以降のもので、12世紀より古い遺構は10世紀中頃埋没のSE015のみであった。狭い面積で言及するのは無理があるかもしれないが、この調査地の遺構面は安定した地盤状況であり、河川氾濫を受けていないことを考えると、この付近は、12世紀になるまでは目立った造作がない、比較的閑散とした広い土地利用がなされた場所であったと推測される。

また、約50m東側にある第19次調査で多量に出土した中国陶器と一連のものとみられる壺が、SE001から2点出土しており、この調査地付近まで、それらを取り扱った人々の活動範囲であった可能性が考えられる。

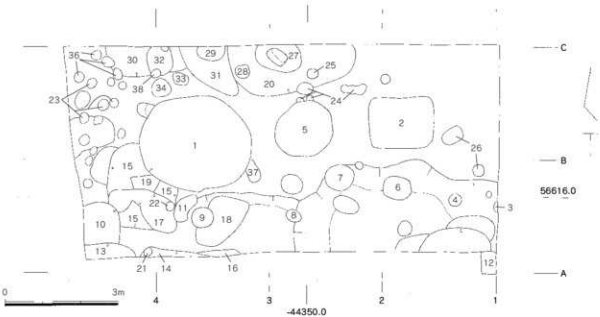


Fig. 16　第 36 次調査遺構略測図（1/100）

表2　第36次調査　遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土等	時期	地区
1	36SE001	井戸		12世紀後半～13世紀前半	AB3
2	36SK002	土坑		平安末期以降	B1
3		ピット		平安後期	A1
4		ピット		平安末期以降	A1
5	36SK005	土坑		13世紀以降	B2
6		ピット		平安時代～	A1
7		ピット		平安時代～	A2
8		ピット		平安時代～	A2
9		ピット		平安時代～	A3
10	36SK010	土坑		12世紀後半～13世紀前半	A4
11		ピット			A3
12		土坑？			A1
13		土坑		12世紀後半～13世紀前半	A4
14		土坑		12世紀後半～13世紀前半	A3・4
15	36SE015	井戸	S-15→17	10世紀中頃	A3・4
16		土坑	S-16→14		A3
17		窪み		12世紀以降	A3・4
18		土坑		平安時代～	A3
19		窪み	S-15→19→17→1	12世紀以降	A4
20	36SE020	井戸	S-31→20	12世紀中頃～後半	B2・3
21		ピット		鎌倉時代	A4
22		ピット		12世紀以降	A3
23		ピット群		12世紀以降	B4
24		ピット群		12世紀以降	B2
25		ピット		12世紀後半以降	B2
26		ピット群		平安時代～	AB1
27		窪み		12世紀中頃～後半	B2
28		ピット		12世紀中頃～後半以降	B3
29		土坑		12世紀中頃以降	B3
30	36SE030	井戸		平安時代	B3・4
31	36SX031	礫群	S-31→20	12世紀中頃	B3
32		窪み		12世紀後半以降	B3・4
33		ピット		12世紀中頃～後半	B3
34		ピット		12世紀後半以降	B3
36		ピット群		平安時代～	B4
37		土坑		12世紀代？	A3
38		ピット		12世紀	B3・4
茶灰色土		包含層	遺構検出時の取上げ土層でもある。	13世紀後半～14世紀前半	
黒灰色土		堆積層	調査地南側	12世紀後半～13世紀前半	
灰黄色粘土		堆積層	調査地南側	12世紀中頃～後半	

表3　第36次調査　出土遺物一覧表①

S-1盛土層

須恵器	器	破片
土師器	器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、椀c
黒色土器A類	器	破片
瓦	器	軒c
須恵質土器	器	鉢(東播系)
	瓶	瓶：Ⅳ(1)、Ⅴ-4(1)、Ⅶ(1)
石	器	鏃：Ⅱ-1a(1)、Ⅳ～Ⅶ(1)、Ⅴ～Ⅶ(1)
		磨：Ⅱ(1)、Ⅲ(1)　白磁破片：(2)、瓜口縁(1)
青白磁	器	小皿(1)、紅皿(1)
同安窯系青磁	器	椀：1-1b(2)　皿：1(2)
中国陶	器	造型(4)　耳壺Ⅲ(1)　甕(1)　中国陶器破片(1)
瓦	類	平瓦、丸瓦

S-1上層

須恵器	器	破片
土師器	器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、椀c、甕、壺不
瓦	器	軒c
石	器	鏃：VⅡ?(1)、Ⅶ(1)
	磨	磨：Ⅱ-1(1)、Ⅵ-1a(1)、Ⅵ-3(1)、Ⅴ～Ⅶ(1)
		皿?(1)　白磁破片：(3)、広東系(1)、白唐津(1)
青白磁	器	小皿(1)
龍泉窯系青磁	椀：1×Ⅱ(1)　皿：1(1)
同安窯系青磁	椀：1-1b(1)
中国陶	器	造型(4)　中国陶器破片(1)
瓦	類	平瓦、丸瓦
金属製品	鉄釘	

S-1井戸内

土師器	器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、坏
瓦	器	軒
須恵質土器	器	椀(東播系)
緑釉陶	器	椀
石	磨	磨：破片(1)　白磁破片：(1)、瓜口縁(1)
同安窯系青磁	椀：1-1b(1)
中国陶	器	四耳壺：Ⅳ-1(1)、Ⅴ(1)、Ⅶ(1)
瓦	類	丸瓦

S-1最力内

土師器	器	坏a(ⅰ)
瓦	器	軒c
石	磨	磨：Ⅲ(1)

S-1堆土中

須恵器	器	破片
土師器	器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、坏c、甕、器台脚部
黒色土器B類	破片
瓦	器	軒c
瓦質土器	器	鉢
灰釉陶	器	壺、破片
中世須恵陶器	甕
石	磨	磨：Ⅳ-1a(1)、Ⅴ内面磨目(2)、Ⅴ-4×Ⅶ-1×3(1)、破片(1)
		磨：Ⅵ-a(1)　壺：(1)
		白磁破片：(4)、瓜口縁(1)、内面磨目(1)
越州窯系青磁	椀?(1)　皿(1)　破破片1(1)
龍泉窯系青磁	椀系破片(1)
同安窯系青磁	椀：1-1(1)、1-1b(2)、1-2b(3)、鍔-1b(1)　皿：1(1)
中国陶	器	造型(12)　壺×水注(1)　水注(2)　耳壺Ⅳ(1)　破片(1)
瓦	類	破片
石	製品	滑石加工品

S-2

土師器	器	坏a(ⅰ)
石	製品	石鏃

S-3

須恵器	器	破片
土師器	器	破片
石	磨	磨：破片(1)
瓦	類	破片

S-4

土師器	器	破片(ⅰ)

S-5

須恵器	器	甕、破片
土師器	器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、坏c、椀c
緑釉陶	器	破片
石	磨	磨：破片(2)　白磁破片(1)
越州窯系青磁	椀：1-2b(1)
中国陶	器	壺(1)
瓦	類	破片

S-6

須恵器	器	破片
土師器	器	破片(ⅰ?)

S-7

須恵器	器	坏、破片
土師器	器	小皿a(ⅰ?)、坏、椀c、甕
黒色土器A類	椀
瓦	器	破片
金属製品	鉄釘
土製品	土錘

S-8

須恵器	器	破片
土師器	器	破片
瓦	類	平瓦

S-9

土師器	器	破片
瓦	類	破片

S-10

須恵器	器	破片
土師器	器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、坏c?、甕、破片
瓦	器	軒、椀c
灰釉陶	器	椀
石	磨	磨：Ⅳ(1)、Ⅴ-1×Ⅶ-2(1)、Ⅴ-4×Ⅶ-1×3(1)
		Ⅵ-1b(1)、Ⅶ(1)　白磁破片(1)
越州窯系青磁	椀：1-1a(1)
同安窯系青磁	皿：1(1)
瓦	類	瓦?
金属製品	鉄釘、鉄滓
土製品	焼石加工品

S-11

土師器	器	坏a(ⅰ)、破片(孔あり)

S-12

須恵器	器	破片
土師器	器	坏a(ⅰ)、坏、甕
瓦	類	平瓦

S-13

須恵器	器	坏c
土師器	器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、丸底坏
瓦	器	破片
石	磨	磨：Ⅴ(1)、Ⅶ(1)、破片(2)　白磁破片(2)
同安窯系青磁	椀：鍔-1a(1)
瓦	類	破片
土製品	土錘

S-14

須恵器	器	破片
土師器	器	坏a(ⅰ)、丸底坏
石	磨	磨：Ⅴ-2(1)
中国陶	器	破片(1)
瓦	類	破片

S-15 (S-15堆土も含む)

須恵器	器	坏c
土師器	器	坏a、坏c、椀c、皿a
緑釉陶	器	椀
越州窯系青磁	椀：1(1)、鍔(1)
瓦	類	破片
石	製品	砥石製小型容器
木	製品	木板

S-15井戸内

須恵器	器	甕
土師器	器	坏a、脚付皿、小椀c、中椀c、大椀c、椀、甕
黒色土器A類	椀c、椀
黒色土器B類	椀
瓦	類	破片
木製品	造物巡廻

S-15井戸内ウラゴメ

土師器	器	坏c
瓦	器	破片
石	磨	磨：Ⅴ(1)
瓦	類	平瓦(格子)

S-17

須恵器	器	破片
土師器	器	小皿a(ⅰ?)、坏a、丸底坏a、椀c、甕
石	磨	磨：Ⅵ?(1)
瓦	類	平瓦

S-18

須恵器	器	甕
土師器	器	小皿a?、坏a、椀
石	磨	磨：破片(1)
瓦	類	破片

表3　第36次調査　出土遺物一覧表②

S-19

須恵	器	破片
土師	器	小盌a(イ)、ハ)、Ⅳa(イ)、椀c、甕
緑釉陶	器	小盌、小盌？
越州窯系青磁		破片Ⅲ(1)
金属製	品	鉄釘

S-20

須恵	器	破片
土師	器	小盌a(イ)、ハ)、Ⅳa(イ)、丸底坏
瓦	器	椀c
石	器	椀：Ⅳ(1)、Ⅴ-4×Ⅶ-1×3(2) 盌：Ⅳ×Ⅴ(1)、Ⅶ-1a(1)
緑釉陶器		椀：Ⅰ(2)、Ⅰ-1a(1)
同安窯系青磁		盌：Ⅰ(1)
中国陶器		甕(1)　　中国陶器破片(1)
瓦	類	平瓦、丸瓦、塼
石	製品	石鏃

S-20井戸内

土師	器	小盌a(イ)、Ⅳa(イ)
瓦	器	破片
瓦	類	平瓦(格子)、熨斗塼
土製	品	土塊
石製	品	石鏃

S-21

土師	器	小盌a、Ⅳa(イ)
瓦	類	破片

S-22

土師	器	小盌a(イ)、破片
石	器	椀：Ⅶ(1)　盌：Ⅶ(1)

S-23

土師	器	小盌a(イ)、鍋台写器
瓦	器	破片
石	器	椀：破片(1)　盌：Ⅶ-a(1)、破片(1) 石錐破片：(1)、盌石錐(1)
緑釉陶器		椀：Ⅰ(1)
中国陶器		破片(2)
瓦	類	破片
土製	品	土壁

S-24

須恵	器	破片
土師	器	破片(イ)
中国陶器		盌：(1)
瓦	類	破片

S-25

土師	器	小盌a(イ)、Ⅳa(イ)、Ⅳc
瓦	器	破片
越州窯系青磁		椀：Ⅰ-1(1)
瓦	類	破片

S-26

土師	器	破片
中国陶器		盌：(1)
瓦	類	破片
土製	品	土塊
石製	品	滑石片

S-27

須恵	器	甕?
土師	器	小盌a(イ)、ハ)、Ⅳa(イ)、丸底坏a、甕
瓦	器	椀c
石	器	破片(1)
瓦	類	平瓦

S-28

須恵	器	破片
土師	器	小盌a(イ)、坏
瓦	類	破片

S-29

土師	器	小盌a(イ)、ハ)、小盌d、Ⅳa(イ)、Ⅳc、丸底坏a
灰釉陶器		盌
越州窯系青磁		椀：Ⅰ(1)　　托?(1)
同安窯系青磁		盌：Ⅰ(1)
中国陶器		破片(1)
金属製	品	鉄釘

S-30

須恵	器	Ⅳc、甕
土師	器	小盌a(ハ)、盌a、Ⅳa(ニ)、ハ)、椀c、甕
黒色土器A	類	破片
緑釉陶器		椀
石	器	椀：破片(1)　盌：広東系?(1)
越州窯系青磁		椀：Ⅱ(1)
瓦	類	平瓦

S-30井戸内

瓦	類	平瓦

S-30堀土

須恵	器	破片
土師	器	椀c

S-31

須恵	器	甕
土師	器	小盌a(イ)、ハ)、小盌d、Ⅳa(イ)、丸底坏a、甕、把手
黒色土器A	類	破片
石	器	椀：破片(1)　石錐破片(1)
青	石	破片(1)
越州窯系青磁		盌(1)　越Ⅱ類片(1)
同安窯系青磁		椀：Ⅲ?(1)　盌：Ⅰ(1)
瓦	類	破片
金属製	品	鉄釘、鉄製帯状金具
石製	品	滑石(チャート)、石鏃

S-32

須恵	器	甕?
土師	器	小盌a(イ)、Ⅳa(ニ)、甕
黒色土器A	類	破片
瓦	器	椀c
石	器	盌：Ⅶ-1a(1)
瓦	類	平瓦

S-33

土師	器	Ⅳa(イ)
瓦	器	破片
石	器	椀：内面磨耗(1)
同安窯系青磁		椀：Ⅲ?-1a(1)、Ⅲ?-1(1)
金属製	品	トリベ

S-34

須恵	器	破片
土師	器	小盌a(イ)、小盌b(ハ)
瓦	類	破片

S-36

土師	器	Ⅳc、甕
石	器	破片(1)
中国陶器		盌：1-2b(1)
瓦	類	破片
土製	品	生産用具?

S-37

土師	器	Ⅳa(イ)
瓦	器	破片

S-38

土師	器	小盌a(イ)、丸底坏

黒灰色土（S-10上黒灰色土も含む）

須恵	器	甕c、甕、椀c
土師	器	小盌a(イ)、Ⅳa(イ)、Ⅳc、丸底坏a、甕
瓦	器	椀c
須恵質土	器	鉢（東播系）
緑釉陶	器	破片
灰釉陶	器	盌
石	器	椀：Ⅱ(1)、Ⅱ-1(2)、Ⅳ-1a(4)、Ⅳ(7)、破片(16)、Ⅴ(2) Ⅴ-3(1)、Ⅴ-1×Ⅶ-2(4)、Ⅶ-b(1)、Ⅺ(1) 内面磨耗(1)、小椀(1) 盌：Ⅴ～Ⅶ(3)、Ⅵ-1a(3)、Ⅶ-1(1)、Ⅸ-1(1) Ⅺ-2(1)、破片(2) 小盌(1)、盌広東系(1) 石錐破片：(5)、盌石錐(3)、広東系(3)
青	石	破片(1)
越州窯系青磁		破片(1)　　Ⅱ類盌(1) 椀：1(2)、1-3×2(1)、1-4a(1)
龍泉窯系青磁		龍泉破片：1(1)　Ⅳ類坏?(1)
同安窯系青磁		椀：1-1b(2)、1-2(1)
瓦	器	破片(1)
中国陶器		盌：破片(1)
瓦	類	平瓦
金属製	品	鉄釘、鉄滓
土製	品	輪羽(2)
石製	品	滑石製品

灰黄色粘土

須恵	器	Ⅳa、椀c、甕
土師	器	小盌a(イ)、丸底坏a、椀c
瓦	器	椀、椀c
緑釉陶器		椀、破片
石	器	椀：Ⅱ-1(1)、Ⅳ(1)、Ⅴ内面磨耗(1)、Ⅶ(1)、破片(2) 盌：Ⅱ-1a(1)、Ⅲ(2)、Ⅳ?(1)、Ⅴ～Ⅶ(1)、広東系(1) 石錐破片(1)
越州窯系青磁		破片?(1)
中国陶器		破片(4)
瓦	類	破片
金属製	品	鉄滓

表3　第36次調査　出土遺物一覧表③

茶灰色土　※は重出されているが、概数時行方不明

須恵器	器	蓋c、壺、鉢
土師器	器	甘塩a(1)、小皿c、坏a(1)、坏c、丸底坏a、椀c、小鉢?、甕
瓦	器	椀c、破片
土師質土	器	鍋、羽釜、火舎
須恵質土	器	鉢、擂鉢、破片
灰釉陶	器	破片(1)
中世国産陶	器	壺
緑釉瓶系青磁	器	椀：I-7(1) ※
白磁		椀：II-6(6)、II-1(1)、III×M(5)、IV(11)、IV-1(1)、IV×V(1)、IV～VIII(55)、V-1(4)、V-2(5)、V-2b-3b(3)、V-3(2)、V-4a(2)、V-4(7)、VIII-2(2)、VIII-3-2(4)、IX(3)、段金(14)、内面線付(4)、内陸線(1)、広東系(1)　※ 皿：II-1a?(7)、III-2?(1)、V-1(5)、VI(7)、VIII(1)、VIII-1c(1)、VIII-2(1)、IX(6)、IX-1(4)、IX-1d(1)、破片(2) 他：坪：板状(1)、北宋タイプ?(1)、壺(8)
青磁	器	小皿?(1)、小椀(1)、分子(1) ※
龍泉窯系青磁	器	椀：I-7(1)、I-1(14)、I-4(9)、I-6c(2)、II-a(1)、II-b(11)、内面ヘラ文(1)　※ 皿：I-1(1)、I-2(1) 坪：壺-5b(1)　他：壺(4)、瓶(3)
同安窯系青磁	器	椀：I-1(1)、I-1a(8)、I-1b?(1)、I-1b(22)、I-1c(4)、I-1c?(2)、II-7(2)、III-7(2)、III-1a(1)、内線ヘラ文(1)　※ 皿：I-7(2)、I-1a(8)、I-1b×2(2)、I-2(2)　同安破片?(1)
高麗青磁	器	椀：破片(1)　象嵌：破片(3) ※
青磁	器	青磁(5)、北朝破片(1) ※
中国陶磁	器	甕(3)、壺類(13)、青壺(3)、壺IV-1(1) 外注×壺(1)、壺×鉢(1)、鉢I-1b(4)、鉢(3)、甕(2) 皿：I-1(3)、I-1b(3)、破片(2) 破片類(3)、(類(1)、　陶器破片(22)
瓦	類	平瓦、文様瓦
金属製	品	鉄片、釘?、鉄製(開元通宝)
石製	品	砥石類、管丸鏡、滑石破片、滑石加工品、滑曜石、硬石
土製	品	輪羽口、製塩土下

段落　黒灰色土

須恵器	器	破片
土師器	器	甘塩a(1)、坏a(1)、丸底坏a、蓋c、甕
瓦	器	椀c
瓦質土器	器	鉢
緑釉陶	器	椀、皿
灰釉陶	器	皿
土師質土	器	鍋
白磁		椀：II-1(1)、IV-1a(2)、V-1×VIII-2(6)、V-4×VIII-1×3(6) VIII(2)、IX(1)、XI-1(1)、破片(9)、広東系(1) 皿：II-1a(2)、II-7(1)、III(1)、III-1(1)、IV(1)、V×VI(1) VI(1)、VI-a(1)、VI-1a(3)、V～VIII(1)、IX-1a(1) 白磁破片：(8)、広東系(2)、内面線付(2)、口縁外反(3) 底白磁(3)　壺類(2)　水注肥手(1)
青磁	器	破片(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：I-7(2)、I-2(1)、I-6b(1)、II-b(1) 坪類(1)　壺(1)　象嵌：破片(1)
同安窯系青磁	器	椀：I-1(1)、I-2b(3)、壺(2) 皿：I-2(2)、I-2b(3)
中国陶磁	器	甕(4)、耳壺(3)、壺(6)、壺類(4)、水注肥手(1) 皿(1)、盤(1)、中国陶器破片(4)
瓦	類	破片
金属製	品	鉄釘、紙淨、鉄製環状金具
石製	品	石錘
土製	品	輪羽口、土塊

表 4　第 36 次調査　土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1 縄上層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-001	Fig.10-1	(9.4)	0.9	(8.2)	○	○

S-1 上層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-001	Fig.10-6	(9.6)	1.0	(7.4)	○	

S-1 暗土中

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-001	Fig.10-10	(9.6)	0.9	(7.0)	○	○
	小皿a	イト	#-002	Fig.10-13	(8.8)	1.0	(6.7)	○	○
	小皿a	イト	#-004	Fig.10-12	(9.6)	1.1	(7.0)	○	○
	小皿a	イト	#-002	Fig.10-12	(10.6)	1.0	(9.0)	○	○
瓦器	椀c		#-005	Fig.10-14		4.1+α	(7.4)		

S-1 縄方内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	#a	イト	#-001	Fig.10-21	(16.2)	2.5	(11.0)	○	○

S-5

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-001	Fig.13-1	(8.2)	1.0	(6.4)		

S-10

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-008	Fig.13-2	8.6	1.0	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	#-021	Fig.13-3	(8.8)	1.0	(7.4)	○	○
	小皿a	イト	#-023	Fig.13-4	(8.6)	0.9	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	#-005	Fig.13-5	8.7	0.8	7.2	○	○
	小皿a	イト	#-027	Fig.13-6	8.7	0.95	6.6	○	○
	小皿a	イト	#-002	Fig.13-7	8.7	0.85	7.0		○
	小皿a	イト	#-016	Fig.13-9	(9.0)	0.95	7.2	○	○
	小皿a	イト	#-010	Fig.13-10	8.8	1.05	6.9	○	○
	小皿a	イト	#-017	Fig.13-11	8.8	0.85	6.6	○	○
	小皿a	イト	#-007	Fig.13-8	8.9	0.8	6.8	○	○
	小皿a	イト	#-029	Fig.13-12	8.9	0.95	7.2	○	○
	小皿a	イト	#-003	Fig.13-13	9.0	0.85	6.7	○	○
	小皿a	イト	#-009	Fig.13-14	(9.0)	0.9	(7.2)	○	○
	小皿a	イト	#-010	Fig.13-15	(9.0)	0.9	(7.0)	○	○
	小皿a	イト	#-006	Fig.13-16	9.0	0.9	7.2	○	○
	小皿a	イト	#-026	Fig.13-17	9.0	0.85	7.3	○	○
	小皿a	イト	#-001	Fig.13-18	9.0	0.95	7.2	○	○
	小皿a	イト	#-026	Fig.13-19	9.0	1.0	7.1	○	○
	小皿a	イト	#-019	Fig.13-20	(9.2)	1.1	(7.9)	○	○
	小皿a	イト	#-004	Fig.13-21	(9.2)	0.9	6.8	○	○
	小皿a	イト	#-021	Fig.13-22	(9.4)	1.3	(7.1)	○	○
	小皿a	イト	#-020	Fig.13-23	(9.4)	0.9	(8.8)	○	○
	#a	イト	#-011	Fig.13-24	(15.0)	2.5	10.6	○	○
	#a	イト	#-025	Fig.13-25	15.8	2.8	11.0	○	○
	#a	イト	#-026	Fig.13-26	16.2	2.9	11.2	○	○
	#a	イト	#-024	Fig.13-27	16.3	2.8	11.3	○	○
	#a	イト	#-012	Fig.13-28	(16.4)	2.8	(11.2)	○	
瓦器	椀c		#-013	Fig.13-29		3.8+α	(7.0)		
	椀		#-014	Fig.13-30		4.0+α			

S-10 上 黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト?	#-006	Fig.15-1	(9.6)	0.9	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	#-007	Fig.15-2	(9.6)	0.9	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	#-002	Fig.15-6	(9.6)	0.8	(6.4)	○	○
	小皿a	イト	#-004	Fig.15-7	(9.6)	0.9	(7.2)	○	○
	小皿a	イト?	#-005	Fig.15-9	(9.2)	1.1	6.9		○
	小皿a	イト?	#-003	Fig.15-11	(10.6)	1.0	7.4	○	
	#a	イト	#-001	Fig.15-16	16.0	3.2	11.6		○

S-13

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	ヘラ	#-005	Fig.11-1	11.95	1.3	7.3	○	
	椀c		#-001	Fig.11-2	12.6	4.55	7.1	○	
	椀c	ヘラ	#-002	Fig.11-3		4.1+α	(8.4)	○	○

S-13 西ドット内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	#a		#-004	Fig.11-9	(11.0)	2.2			
	皿c		#-001	Fig.11-8	(12.2)	2.35+α			
	椀c		#-005	Fig.11-10	(14.4)	5.7+α			
	椀c		#-002	Fig.11-11		5.5+α	7.15		
	椀		#-009	Fig.11-12	(14.6)	5.0+α			
	椀		#-003	Fig.11-13	(14.8)	5.3+α			
黒色土器?	椀c		#-006	Fig.11-15		4.8+α			
	椀		#-008	Fig.11-16	(14.8)	5.8+α			
	椀		#-007	Fig.11-17		2.9+α	(9.4)		

S-13 埋土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	#a	ヘラ	#-001	Fig.11-6	(11.6)	2.4	(7.8)	○	
	#a		#-002	Fig.11-7	(12.8)	4.6	7.6	○	

S-20

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-001	Fig.12-1	(8.4)	1.35	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	#-005	Fig.12-7	(9.6)	1.25	(6.8)	○	○
	#a	イト	#-002	Fig.12-3	(12.8)	2.15	(9.0)	○	○
	丸皿#a	ヘラ	#-006	Fig.12-4	(12.2)	1.4	(10.0)	○	○

S-30

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	#a	ヘラ	#-002	Fig.12-8		1.6+α	(7.0)	○	
	皿a	ヘラ	#-001	Fig.12-9		1.05+α			

S-31

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ?	#-003	Fig.13-32	(10.6)	0.9	(8.0)		
	小皿a2	ヘラ?	#-004	Fig.13-34	(10.6)	1.2	(7.6)		○
	丸皿#a	ヘラ?	#-002	Fig.13-33		3.7+α			

黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-004	Fig.15-3	8.8	1.2	6.8	○	○
	小皿a	イト	#-003	Fig.15-5	(8.8)	1.0	(6.0)	○	○
	小皿a	ヘラ?	#-002	Fig.15-8	(9.2)	1.15	(7.0)	○	○
	小皿a	ヘラ?	#-004	Fig.15-12	(10.0)	0.95	(8.2)	○	○
	#a	イト	#-005	Fig.15-15	(15.8)	2.4	(10.3)	○	○

路面 黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-009	Fig.15-4	(8.8)	1.1	(7.2)	○	○
	小皿a	イト	#-007	Fig.15-10	(9.8)	1.2	(8.3)	○	○
	小皿a	イト	#-008	Fig.15-13	(15.0)	2.4	(10.8)	○	○
	#a	イト	#-001	Fig.15-14	15.4	3.1	9.5	○	○

黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	#-017	Fig.14-1	(8.4)	1.0	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	#-016	Fig.14-2	8.7	1.0	7.0	○	○
	小皿a	イト	#-019	Fig.14-3	9.0	0.8	7.2	○?	○
	小皿a	イト	#-015	Fig.14-4	9.0	1.25	6.1	○	○
	小皿a	イト	#-010	Fig.14-5	9.4	1.25	8.6	○	○
	小皿i		#-012	Fig.14-6	9.60	1.95	5.5		
	#a	イト	#-023	Fig.14-7	(15.0)	3.0	(10.2)	○	○
	#a	イト	#-020	Fig.14-8	15.6	2.8	10.9	○	○
	#a	イト	#-014	Fig.14-9	(16.0)	3.2	(11.1)	○	○
	#a	イト	#-013	Fig.14-10	(16.2)	3.0	11.0	○	○
瓦器	椀		#-008	Fig.14-11		4.4+α	(6.0)		

3、第 39 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字観世音寺（現在．観世音寺 1 丁目）字日吉 261、262、264、267 付近で、大宰府政庁跡と御笠川の間に位置する。調査は観世土地区画整理事業に伴って実施され、4 ヶ所にトレンチを設定した。調査は 1982（昭和 57）年 5 月 10 日～ 1983（昭和 58）年 3 月 15 日の期間内に他の確認調査と共に実施した。調査は山本信夫が担当した。

(2) 調査所見

深さ 1.5m で、遺物を含む砂層が確認されたが、遺構は確認されなかった。

(3) 出土遺物

この調査の出土遺物について、以下の 2 点のみが収蔵庫に保管されている。

第 39 次調査出土遺物（Fig.17）

越州窯系青磁

椀（1）　高台畳付以外に茶緑色釉を施し、高台畳付と内面底部に目跡が残る。I-1a 類。

瓦類

軒平瓦（2）　上外区に珠文、それ以外の外区は鋸歯文とする。残存範囲では、凸面はヘラケズリで、凹面も部分的にヘラケズリである。焼成良好で色調は灰色を呈する。老司Ⅱ式。

(4) 小結

調査地一帯の田圃の形状は、御笠川が蛇行したような円弧を描いていた。調査の結果、それを裏付けるように、遺構は残されておらず、御笠川の氾濫によって消滅したものと推測される。

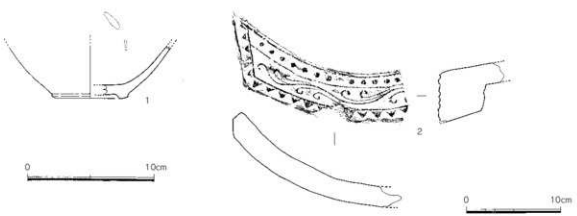


Fig.17　第 39 次調査出土遺物実測図（1/3、2 は 1/4）

4、第 67 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字観世音寺字土居ノ内 167-1 で、観世音寺の前面に位置する。

1986（昭和61）年 12 月、学生寮建設に伴い、文化財の取り扱いについて問い合わせがあった。建築内容について協議の結果、鉄筋造ということで発掘調査を実施することとなった。

調査期間は 1987（昭和62）年 9 月 25 日～ 10 月 15 日で、調査・遺物選別は主に緒方俊輔が担当した。対象面積 304 ㎡、調査面積 179 ㎡である。

(2) 基本層位（Fig. 18）

遺構面は SE030 付近から南に向かって下がっていた様子が窺え、遺構検出面の北端と南端とでは 0.8 ～ 1.3m 程の高低差がある。そこに暗灰色砂が 0.4m 前後堆積し、その上面に黒褐色土が 0.6m 前後と厚く堆積している。黒褐色土の上面には真砂土などの新しい盛土が厚さ 0.3m 程あり現地表面となる。調査区の土層を確認すると、現代盛土直下の黒褐色土に SD010 や SE030 の主要遺構が掘り込まれており、黒褐色土は整地である可能性が高い。

なお、地山は北側から明茶色粗砂、黄色土、茶灰色砂などである。

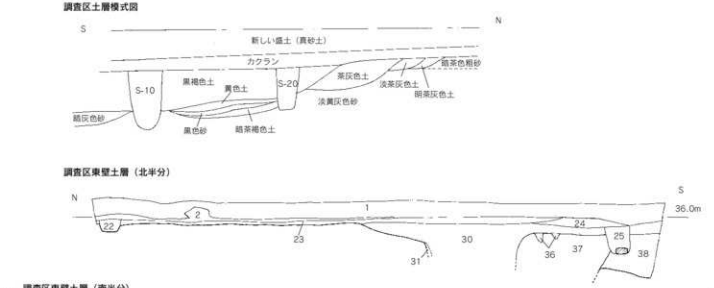


Fig. 18　第 67 次調査基本土層模式図・調査区東壁土層実測図（1/60）

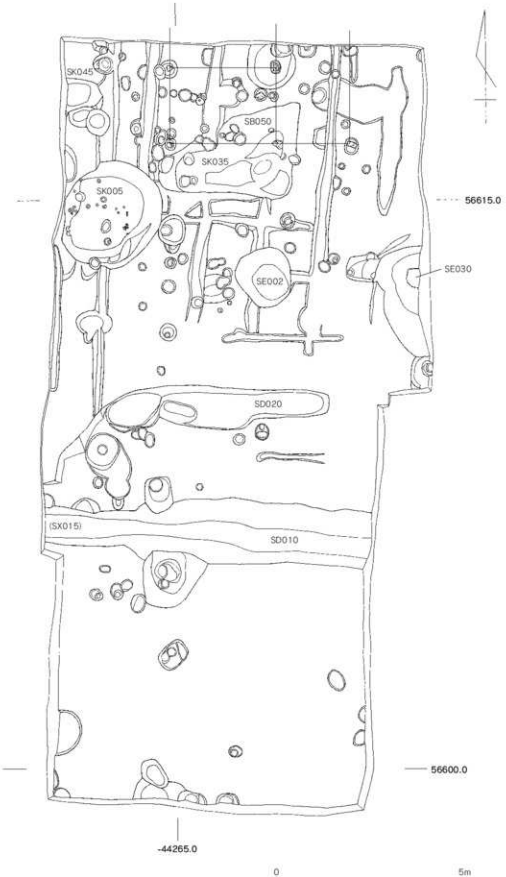


Fig. 19　第67次調査遺構全体図（1/100）

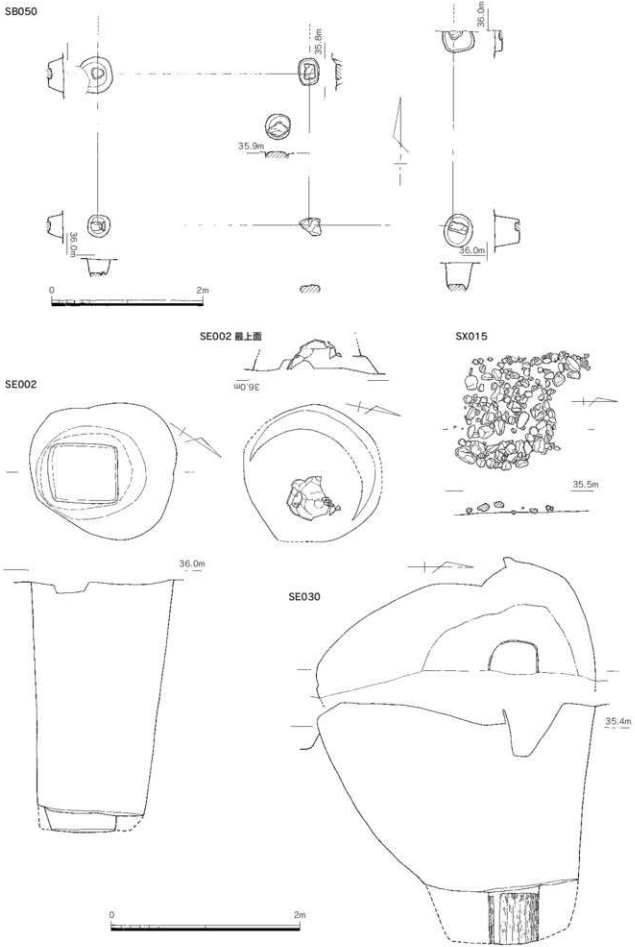


Fig.20　67SB050・SE002・030、SX015 遺構実測図（1/40、SB050 は 1/50）

(3) 検出遺構

礎石建物

67SB050（Fig.20）

調査地北側で根石を据える柱穴が７ヶ所検出された。根石のレベルはまちまちで、全体の建物形状は明確ではないが、身舎の東側に庇を設けた建物と推測され、ほぼ正方位で建築されている。身舎の柱間は東西2.8m、南北2mで、身舎と庇間は1.9m、庇の柱間は2.6mである。根石は0.1m前後の大きさであることから、３寸ほどの柱が用いられたものと推測される。建物は北側と西側の調査区外に続くものと考えられる。

溝

67SD010

調査時は全体的に掘り下げた状態で検出していたが、調査区壁の土層で確認すると表土直下から掘り込んでいる。検出長8.65m、幅0.9～1.7m、深さ0.5m前後で、底面はほぼフラットである。振れはW-3°　4′　17″ -Nの東西溝である。埋土は底面が地山に近い淡灰色砂や黒灰色砂で、中層まで砂層が堆積し、自然堆積したものと推測される。中層より上位は茶色土が厚く堆積し、人為的に埋められた可能性が高い。

67SD020

検出長4.5m、幅0.7～1.1m、深さ0.2m前後の東西溝である。振れはW-1°　17′　20″ -Nである。

井戸

67SE002（Fig.20）

掘り方は1.45×1.6m、深さ2.65mの円形で、底面で0.62×0.74mの方形井戸枠痕跡が確認されたが、枠材は残存していなかった。また、埋土の最上面からは常滑産とみられる国産陶器大甕が出土した。大甕は底部付近のみで、井戸の埋め戻しに伴うものか別遺構なのかは不明である。

67SE030（Fig.20）

この井戸は、調査区壁の土層で確認すると表土直下から掘り込んでいる。南北2.95m、東西1.2m以上の掘り方で、腐食が目立っていたが、北側に寄った位置に、径0.5m、高さ0.5mの桶の井戸枠が遺存していた。

土坑

67SK005（Fig.21）

SK005の中央で、2.5×1.8mの茶褐色土の楕円形プランを検出しSK003としたが、SK005の埋土の違いとみられ同一遺構と考えられる。規模は東西2.58m、南北2.86m、深さ0.58mの円形土坑である。

67SK035（Fig.21）

規模が2.6×3.7m、深さ0.77mの三角形状の土坑である。

67SK045

調査区北西隅で検出された土坑で、東辺を撹乱の溝に、南側はSK005に切られているため、全形が不明瞭で、土坑か窪みかの判別も難しい。検出規模は東西1m前後、南北約3.2m、深さは全体として0.2mで、中央に土坑があり、最深で0.55mである。

集石遺構

67SX015（Fig.20）

67SD005の西端上面で検出された礫群。検出範囲は南北1m、東西1.3mで、礫は重なることなく、厚さは0.1m前後である。礫は大きさ0.05～0.2m前後の花崗岩で　礫に混じって瓦片や銅銭などが出土

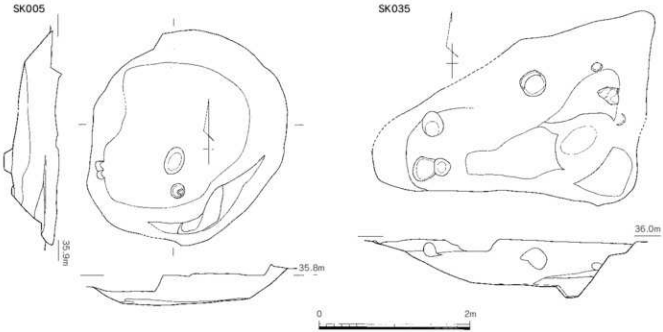


Fig.21　67SK005・035 遺構実測図（1/50）

した。

(4) 出土遺物

溝

67SD010

67SD010 上層出土遺物（Fig.22）

土師器

小皿 a（1、2）　口縁部を欠損。復元底径は 4.4 ㎝と 4.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（3、4）　復元口径は 12.2 ㎝と 12.6 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

瓦質土器

鉢（5）　外面はナデ、内面は細かいヨコハケ調整。

青磁

坏（6）　内面を花弁状に削る。光沢のある緑灰色釉を厚く施す。外面中位に小さな突帯が巡る。復元口径 10.4 ㎝。

輸入染付

皿（7）　復元高台径 7.3 ㎝。藍色釉で内面に文様、高台に圏線を巡らす。

椀（8）　外面に薄水色釉や藍色釉で草花文を描く。

土製品

鞴羽口（9、10）　9・10 とも復元径 7.6 ㎝。被熱で暗灰色に変色する。

67SD010 中層出土遺物（Fig.22）

須恵質土器

鉢（11）　内面底部と外面底部は使用により平滑となる。復元底径 9.0 ㎝。

中国陶器

壺（12）　胎土は微細な白色砂粒と黒色砂粒を多く含み、灰色を呈する。内外面とも回転ナデで、外面上半部は茶褐色釉で下半は灰色釉を施す。

金属製品

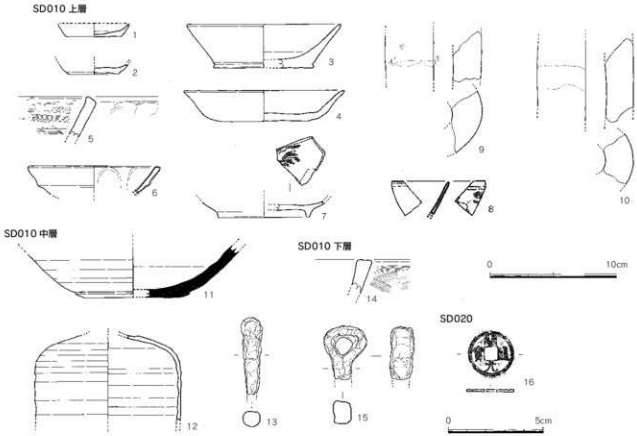


Fig.22　67SD010・020 出土遺物実測図（1/3、金属製品は 1/2）

鉄釘（13）　先端部を欠損し、現存長 4.1 ㎝。

67SD010 下層出土遺物（Fig.22）

土師質土器

鉢（14）　口縁部を若干肥厚させる。外面は細かいヨコハケ調整。

金属製品

鉄製環状金具（15）　輪状部分で先端は欠損する。厚さ 2.3 × 1.3 ㎝。現存長 2.85 ㎝。

67SD020 出土遺物（Fig.22）

金属製品

銭貨（16）　開元通寶。径 2.5 ㎝。

井戸

67SE002

67SE002 上層出土遺物（Fig.23）

土師器

小皿 a（1、2）　底部切り離しは回転糸切り。

67SE002 甕内出土遺物（Fig.23）

土師器

坏 a（3）　底部切り離しは糸切り。

中世国産陶器

大甕（4）　底径 18.1 ㎝。胎土は白色砂粒を含み、淡灰色や明灰色を呈する。内面はナデ調整、外面はナデの後部分的に平行叩きを施す。常滑産。

67SE002 中層出土遺物（Fig.23）

土師器

小皿ａもしくは坏ａ（5）　底部切り離しは糸切り。

67SE002 下層出土遺物（Fig.23）

土師器

小皿ａ（6～9）　4～7は復元口径8.6～9.4㎝。底部切り離しは回転ヘラ切り。

坏（10）　胎土は赤色粒を多く含み、淡橙色を呈する。内面回転ナデ、外面は摩滅し調整不明。復元底径5.4㎝。

丸底坏ａ（11、12）　復元口径が14.6㎝と15.1㎝。内面にミガキｂを施し、コテ当て痕を残す。

黒色土器Ａ類

椀ｃ（13）　復元高台径7.6㎝。内面はミガキｃである。

中世国産陶器

甕（14、15）　胎土は暗灰色の砂粒をやや含み、焼成良好で灰色を呈する。内外面とも回転ナデで、内面は灰被りしている。東海系で渥美産か。

瓦類

軒丸瓦（16）　複弁で外区に鋸歯文。

平瓦（17～19）　17は二重格子叩き。18・19は四角囲いした「観世音寺」の文字瓦。

金属製品

鉄釘（20）　頭部が若干曲がっているが、先端部は欠損する。現存長3.2㎝、幅0.5㎝。

67SE030

67SE030 出土遺物（Fig.23）

土師器

小皿ａ（21～25）　復元口径7.6～8.4㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏ａ（26、27）　復元口径は10.8㎝と12.4㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

中世国産陶器

甕（28）　口縁部を大きく曲げ、内外面に暗茶褐色や灰黄色の釉が覆うが、内面は灰被りで白濁化する。

白磁

皿（29）　Ⅸ-2c類。復元口径11.8㎝。

瓦類

軒平瓦（30）　均整唐草文。

67SE030 中層出土遺物（Fig.23）

土師器

小皿ａ（31、32）　復元口径は8.2㎝と8.4㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏ａ（33）　復元口径11.4㎝。底部切り離しは回転糸切り。

瓦器

椀（34）　外面は回転ナデ、内面はミガキｃを施す。焼成良好で須恵器のような仕上がり。

67SE030 下層枠内出土遺物（Fig.23）

土師器

小皿ａ（35）　復元口径7.6㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

67SE030 裏込め出土遺物（Fig.23）

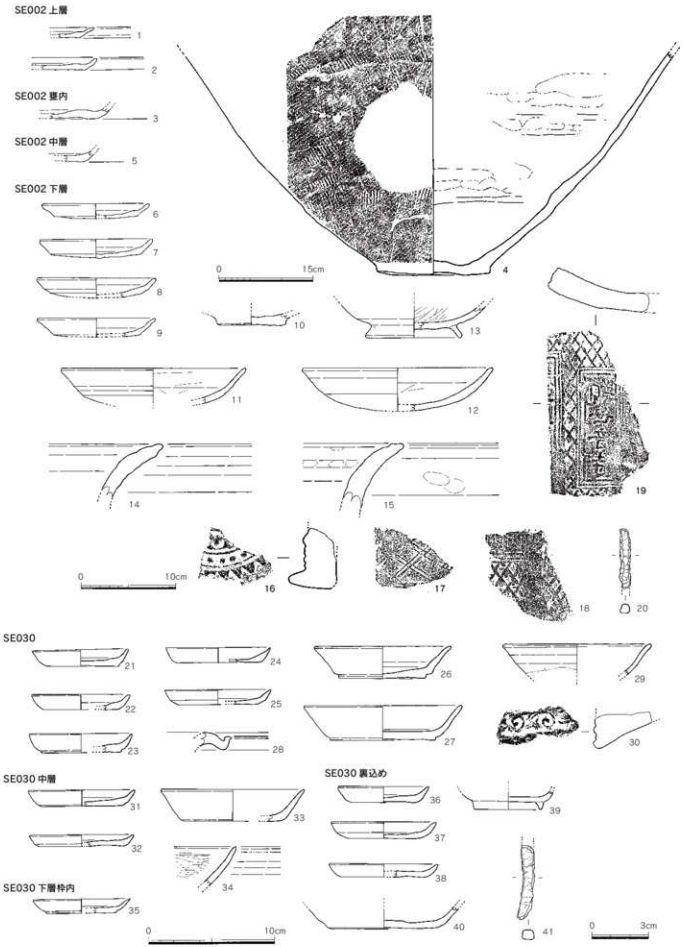


Fig. 23　67SE002・030 出土遺物実測図（1/3、4 は 1/6、瓦類は 1/4、金属製品は 1/2）

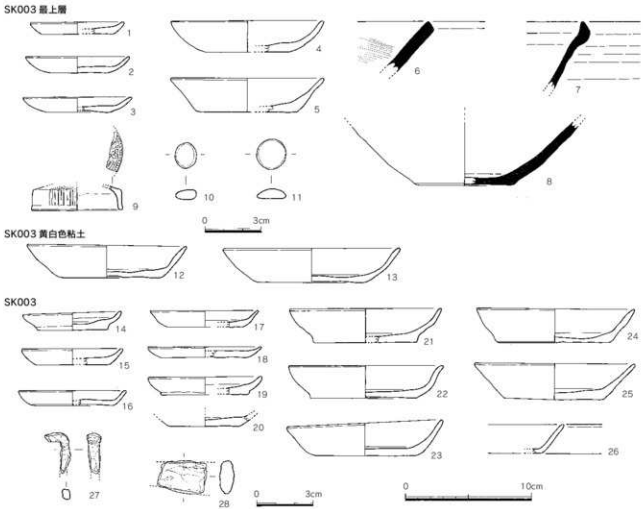


Fig.24　67SK003 出土遺物実測図（1/3、金属製品・石製品は 1/2）

土師器

小皿 a（36 ～ 38）　復元口径 7.2 ～ 8.6 ㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

小皿 c（39）　断面三角形の低い高台を貼付する。復元高台径 5.4 ㎝。

坏 a（40）　底部切り離しは回転糸切り。

金属製品

鉄釘（41）　上部を欠損し、現存長 4.0 ㎝、幅 0.5 ㎝。

土坑

67SK003

67SK003 最上層出土遺物（Fig.24）

土師器

小皿 a（1 ～ 3）　復元口径 7.4 ～ 8.6 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（4、5）　復元口径は 12.0 ㎝と 12.1 ㎝。底部切り離しは回転糸切りか。

須恵質土器

鉢（6 ～ 8）　6 は内面ヨコハケ。7 は口縁端部を断面三角形とする。東播系。8 は復元底径 8.0 ㎝。体部内外面は回転ナデで、内面は使用により平滑となる。底部は回転糸切り。

黄釉陶器

合子蓋（9）　復元口径 7.2 ㎝。胎土は黄白色で、外面はヘラ描き文様を施し、茶色味がかった黄色釉

を薄く施す。内面は露胎。

石製品

平玉石（10、11）　10が1.4×1.1㎝、厚さ0.5㎝。色調は緑青色や黄白色を呈する。11が1.6×1.55㎝、厚さ0.5㎝。色調は白色を呈する。

67SK003 黄白色粘土出土遺物（Fig.24）

土師器

坏a（12、13）　13は摩滅が目立つが、12の底部切り離しは回転糸切り。口径は12.5㎝と14.0㎝。

67SK003 出土遺物（Fig.24）

土師器

小皿a（14～20）　復元口径7.8～9.0㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏a（21～26）　復元口径12.0～12.7㎝。底部切り離しは回転糸切り。

金属製品

鉄釘（27）　頭部をL字形に折り曲げる。先端部は欠損。現存長2.15㎝。

不明鉄製品（28）　両端を欠損。幅2.6㎝、厚さ0.75㎝。

67SK005 出土遺物（Fig.25）

土師器

小皿a（1～7）　復元口径7.7～8.8㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏a（8～13）　復元口径12.1～13.6㎝。底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

石製品

砥石（14）　長さ9.2㎝、幅3.3～4.95㎝。4面使用し、条痕が残る。

67SK005 黒色粗砂出土遺物（Fig.25）

土師器土器

火鉢（15）　口縁部に向かって肥厚させる。内面ナデ、外面は輪花状に押圧し、花文スタンプを施す。

須恵質土器

鉢（16）　内外面とも回転ナデ調整し、口縁端部は黒色化する。東播系。

甕（17）　復元口径24.0㎝。体部内面はヨコハケ、外面は小さな格子叩き。胎土は0.1㎝以下の白色砂粒を多く含み灰褐色を呈する。

瓦質土器

擂鉢（18）　復元底径11.0㎝。内面には4本単位の擂り目を施す。

中世国産陶器

甕（19）　胎土は0.2㎝以下の白色砂粒を多く含み、暗灰茶色を呈する。

瓦類

平瓦（20、21）　20はやや縦長の格子叩き。21は左字の「観世音寺」の文字瓦。

石製品

石鍋（22）　復元底径15.4㎝。内外面ともケズリ成形する。滑石製。

67SK035

67SK035 上層出土遺物（Fig.26）

土師器

坏a（1）　焼成前に外面から径0.5㎝の円孔を穿つ。

瓦器

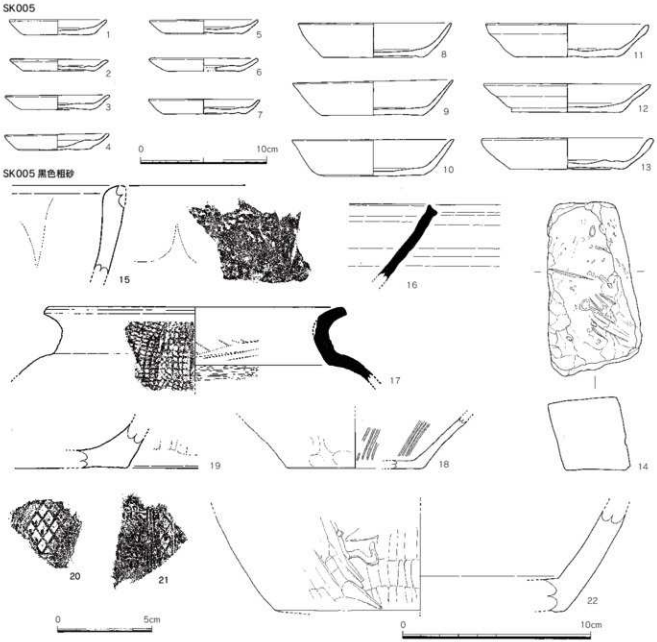


Fig. 25　67SK005 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、石製品は 1/2）

椀（2）　内外面とも摩滅し調整不明。

須恵質土器

鉢（3、4）　口縁部に向かって肥厚せずに直線的に外反する。内外面とも回転ナデ調整。

甕（5）　外面は斜めハケの後、内外面とも回転ナデ。

中世国産陶器

甕（6、7）　6は胎土に白色砂粒や茶色粒を多く含み、灰色を呈する。内外面ともヨコナデで外面は灰被りする。東海系で渥美産か。7は破片で正確な位置は不明瞭。胎土は白色砂粒を多く含み、灰色を呈する。外面に平行叩きを施す。内面はナデで指頭圧痕を残す。常滑産。

瓦類

丸瓦（8、9）　8は若干大きめの格子叩き。9は小さな格子叩きで「□王」の文字瓦。九歴分類 918B。

金属製品

鉄釘（10）　先端を欠損し現存長 4.95 ㎝。

67SK035 中層出土遺物（Fig.26）

瓦類

平瓦（11）　大きな格子叩き。

石製品

石鍋加工品（12）　瘤状把手部分を幅 3.3 ㎝に切断し研磨する。滑石製。

67SK035 下層出土遺物（Fig.26）

土師器

小皿 a(13 ～ 16)　復元口径8.6 ～ 9.2 ㎝。底部切り離しは、14 が回転糸切り。13･15 が回転ヘラケズリ。

椀 c（17）　復元高台径 6.4 ㎝。内外面ともヨコナデ調整。

丸底坏（18 ～ 20）　18 は内面ミガキ b、外面はヨコナデ調整。18 は内外面ともヨコナデ調整。20 は復元口径 16.0 ㎝。内面はミガキ b を施す。

中国陶器

壺（21）　胎土は灰色で、外面には草花文をヘラ描き、内外面とも濃い茶色釉を施す。

67SK035 出土遺物（Fig.26）

土師器

小皿 a（22 ～ 24）　底部切り離しは、22 が回転糸切り。23・24 が回転ヘラ切り。

丸底坏 a（25）　復元口径 16.0 ㎝。内面はミガキ b でコテ当て痕が残る。

壺（26）　口縁端部を折り曲げる。内外面ともヨコナデ調整。

須恵質土器

鉢（27）　口縁部を肥厚させる。東播系。

瓦類

平瓦（28）　欠損し四角囲い部分しか残っていないが、「観世音寺」の文字瓦とみられる。

67SK045 出土遺物（Fig.26）

土師器

坏 a（29）　全体的に摩滅し調整不明。

瓦類

平瓦（30）「平井」の文字瓦。九歴分類 901Ib。

鬼瓦（31）　目玉部分で、焼成良好で胎土は灰色を呈する。

石製品

石鍋（32）　外面ヘラケズリし、外面には煤が付着する。滑石製。

土製品

土壁（33）　胎土は砂粒とスサを多く含む。両面平坦に仕上げる。厚さ 2.3 ㎝。

集石遺構

67SX015 出土遺物（Fig.27）

土師質土器

鉢（1）　口縁部に向かって肥厚させる。内面はヨコハケ、外面はタテハケの後ナデ調整。

瓦質土器

火鉢（2）　外面下部はヘラケズリ、底部外面は細かい砂粒が付着する。

瓦類

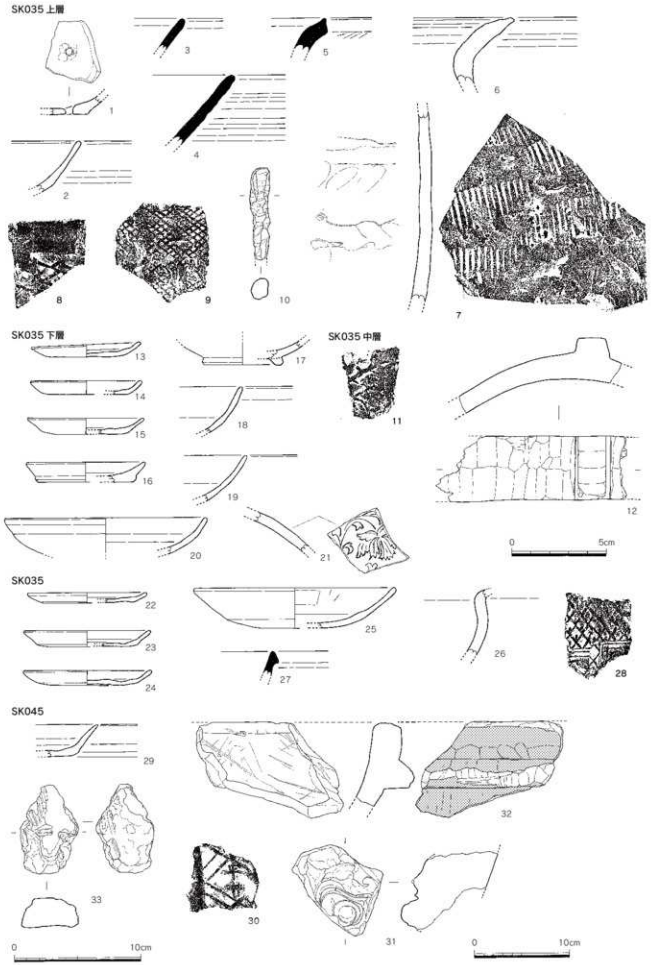


Fig. 26　67SK035・045 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2）

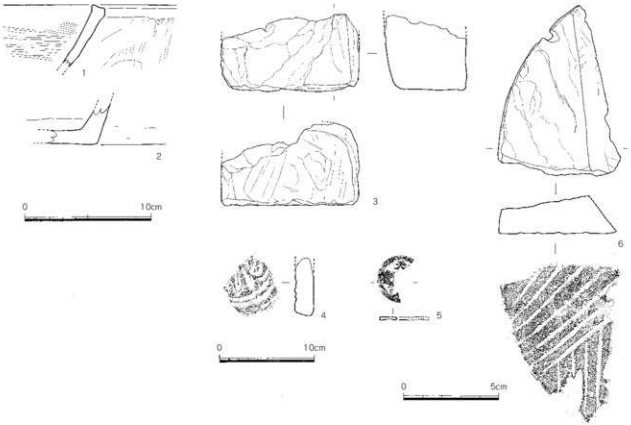


Fig. 27　67SX015 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2）

無文塼（3）　厚さ 6.5 ㎝。幅 10.9 ㎝。焼成は良好で灰色を呈する。内外面ともナデ調整。

瓦類

軒丸瓦（4）　焼成は不良で大きく欠損するが、瓦当面には蓮弁が彫り込まれている。

金属製品

銭貨（5）　押しつぶされ変形し、一部読めないが「天□□寶」とある。

石製品

石臼加工品（6）　擂り面を残すが、割れ面が研磨され、砥石として再利用したものか。色調は紫茶色を呈する。

堆積層

黒褐色土出土遺物（Fig. 28）

土師器

小皿 a（1 ～ 3）　復元口径 7.8 ～ 9.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

小皿 a もしくは小皿 b（4）　底径は小さく 3.8 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（5）　復元口径 12.0㎝。底部切り離しは回転糸切り。

須恵質土器

鉢（6）　復元底径 7.7 ㎝。底部外面は回転糸切り。内面は使用によりやや平滑となる。

土師質土器

擂鉢（7）　内面は細かいハケに擂り目を施す。

鉢（8）　色調は淡橙色を呈し、外面はナデ調整し、片口部分の外面にヨコハケが残る。

瓦類

軒平瓦（9）　中心飾を花文とする均整唐草文。外区は素文。

土製品

土製円板（10）　大きさは3.1～3.3㎝、厚さ0.7㎝。側面が研磨されている。

石製品

滑石加工品（11）　大きさ4.9×5.1㎝、厚さ1.7㎝。円形状に加工し、部分的に浅い孔を彫る。

方形硯（12）　幅7.0㎝、最大厚1.9㎝。両面とも硯面が設けられ、一部に墨痕が残る。

黒色砂出土遺物（Fig.28）

土師器

小皿b（13）　破片で残存する口縁部が歪んでいるが、意図的かは不明。復元口径6.8㎝。底部切り離しは回転糸切り。

暗茶褐色土出土遺物（Fig.28）

土師器

坏a（14）　底部切り離しは回転糸切り。

茶灰色土出土遺物（Fig.28）

土師器

小皿a（15、16）　復元口径7.6㎝と8.0㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏a（17）　口径12.2㎝。体部は大きく外開きする。底部切り離しは回転糸切り。

瓦器

椀c（18）　断面三角形の低い高台を貼付する。

土師質土器

火鉢（19）　箱型の火鉢で、胎土は白色砂粒を多く含み、色調は暗橙黄色を呈する。口縁部は内側に張り出している。外面はナデ調整、内面はナデの後一部ハケ調整する。

須恵質土器

鉢(20、21)　東播系。20は口縁端部を断面三角形状に肥厚させる。21は口縁端部を上方に肥厚させる。

瓦質土器

火鉢（22、23）　22は口縁部を肥厚させる。外面は摩滅するが内面はミガキ。色調は灰白色を呈する。23は復元底径11.0㎝。内面は使用により平滑となる。

白磁

皿（24）　Ⅸ-1b類。復元口径10.2㎝。

瓦類

軒平瓦（25）　偏行唐草文。

瓦玉（26）　大きさは2.2×2.4㎝、厚さ1.9㎝。

石製品

石鍋（27）　外面にヘラケズリ、内面は使用による傷が残る。鍔の上付近に径0.7㎝の円孔を穿つ。滑石製。

滑石加工品（28）　硯のような形状を作るが、上部に径0.45㎝の円孔を穿つ。

明茶色土出土遺物（Fig.29）

須恵質土器

鉢（29）　復元口径30.0㎝。口縁部は肥厚させ、端部のみ暗灰色を呈する。内外面ともヨコナデ。

明茶灰色土出土遺物（Fig.29）

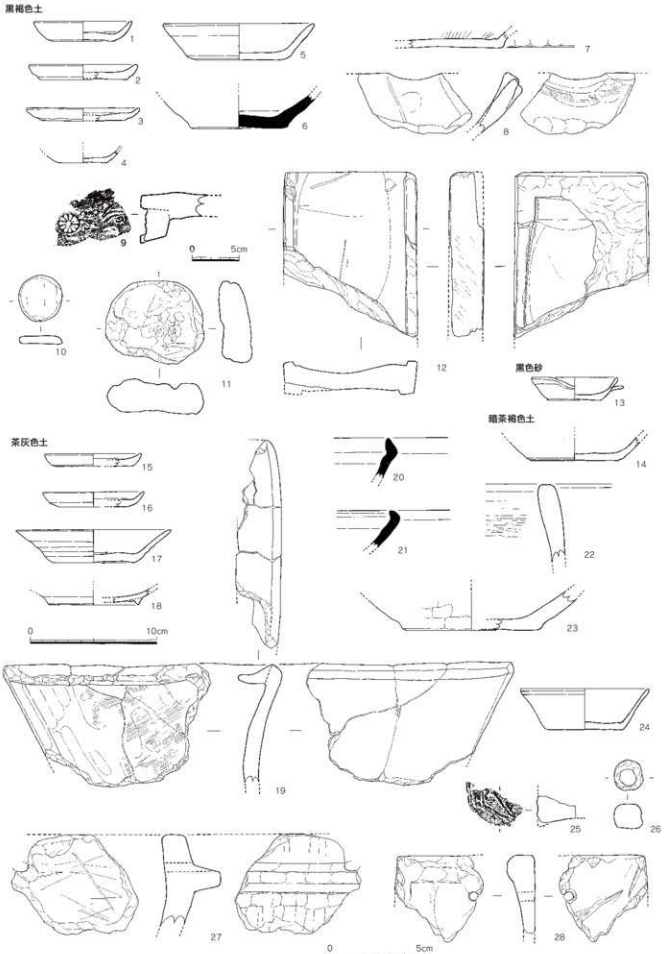


Fig. 28　第67次調査堆積層出土遺物実測図（1/3、瓦類は1/4、金属製品・石製品は1/2）

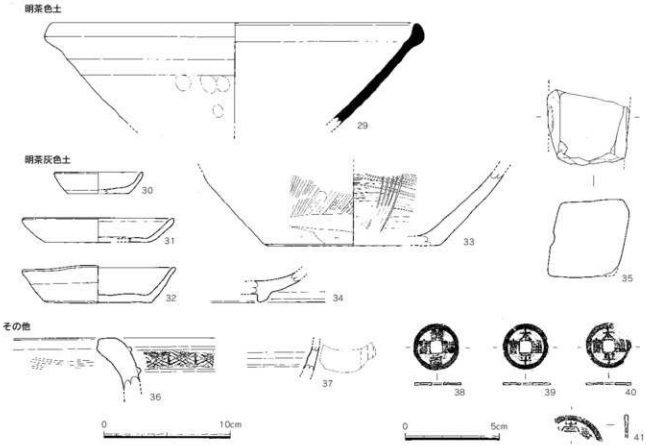


Fig.29　第67次調査堆積層・その他の出土遺物実測図（1/3、金属製品・石製品は1/2）

土師器

小皿b（30）　復元口径7.0㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏a（31、32）　口径は12.0㎝と12.1㎝。底部切り離しは回転糸切り。

瓦質土器

擂鉢（33）　復元底径14.0㎝。外面はタテハケで最下部はヘラケズリ、内面はヨコハケの後5本単位の擂り目を施す。

龍泉窯系青磁

椀（34）　光沢のある白濁した青緑白色釉を内外面に施す。Ⅳ類系か。

石製品

砥石（35）　断面方形で4面使用する。

その他の出土遺物（Fig.29）

土師器

火鉢（36）　口縁部を内湾させる。内面は一部ヨコハケ、外面は2条の突帯を巡らせ、突帯間には格子目のスタンプを巡らす。胎土は明赤灰色で、外面は暗褐灰色を呈する。表土より出土。

越州窯系青磁

壺（37）　胎土は灰色を呈し、外面に不透明なオリーブ色釉を施す。内面は回転ナデで露胎。外面に押圧線を施す。SE002より出土。

金属製品

銭貨（38～41）　38は「明道元寶」。径2.5㎝。SX083より出土。39は「太平通寶」。径2.45㎝。SX048より出土。40は「太平通寶」。径2.4㎝。SX092より出土。41は小片で復元径3.6㎝。「崇」の文

字が確認できる。攪乱より出土。

(5) 小結

今回の調査では、調査地南半分の遺構基盤層が大きく氾濫を受けた様子が窺え、検出された遺構は、14世紀代にその氾濫原を埋めた後に掘削されたものであった。また、北半分でも古代の遺構が未検出で、12世紀以降の遺構がほとんどで、建物・井戸・溝などの主な遺構は、13世紀後半以降のものであった。よって、この付近は鎌倉時代になって、活発な土地利用がなされていったことが理解できる。しかし、井上条坊案の5条路が推定されている調査地南側付近で、中世後期埋没の東西溝（SD010・020）が検出されている。この東西溝周辺では遺構が希薄なことからも道路であった可能性もあり、古代の条坊道路が氾濫を受けた後も、区画境や道路として認識され続け、造成後も踏襲されていたことを物語っている。

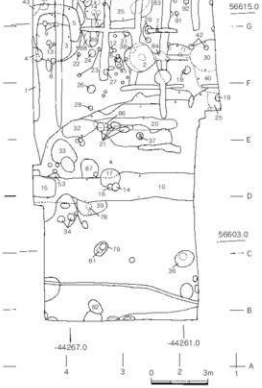


Fig.30　第67次調査遺構略測図（1/200）

表5　第67次調査 条坊関連遺構座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向 (m)	Y方向 (m)	
67SD010	東端中点	56606.010	-44260.100	-97.055	561.629	W-3° 4′ 17″ -N
	西端中点	56606.450	-44268.300	-96.697	553.425	
67SD020	東端中点	56609.620	-44261.200	-93.456	560.493	W-1° 17′ 20″ -N
	西端中点	56609.710	-44265.200	-93.406	556.492	

表6　第67次調査　遺構一覧表①

S-番号	遺構番号	種別	埋土等	時期	地区
1		溝もしくは段落	暗茶色粗砂	13世紀～、近世か?	EF4
2	67SE002	井戸		12世紀中頃前後	F2
3	67SK005(003)	土坑	茶褐色土	13世紀後半～14世紀前半	FG3・4
4		窪み	S-1・3→4	14世紀～	F4
5	67SK005	土坑	S-5→3	13世紀後半～14世紀前半	FG3・4
6		ピット	S-11→6	近世	F3
7		小溝	撹乱溝より古い		F2
8		ピット	S-3→8	中世	F4
9		ピット群	S-3→9	中世	G4
10	67SD010	東西溝		中世後期	C1・4
11		ピット群	S-11→6		F3
12		ピット			F3
13		ピット群	S-3→13	中世	F4
14		ピット	S-17→14	中世	D3
15	67SX015	集石遺構		中世後期	D4
16		ピット	S-17→16→14	中世	D3
17		窪み		14世紀～	D3
18		ピット			F1
19		ピット	淡茶灰色砂		E1
20	67SD020	溝	S-20→黄色土	中世後期	E2・3
21		ピット群		中世	E3
22		ピット		11世紀～	F3
23		ピット群			F3
24		ピット			F3
25		土坑		平安後期	E1
26		ピット		12世紀以降	E3
27		ピット	撹乱溝の下層		F3
28		ピット			E3
29		ピット群	S-7下層		F2
30	67SE030	井戸		13世紀後半～14世紀前半	F1
31		ピット			F2
32		窪み		12世紀以降	E3
33		窪み		12世紀以降	D3・4
34		ピット群		12世紀以降	C3・4
35	67SK035	土坑		12世紀中頃前後	G2・3
36		土坑		12世紀以降	B1
37		ピット		12世紀以降	E2
38		ピット	「S-2」の下層で「S-2下層」より新	12世紀中頃前後	F2
39		窪み	S-39→10	12世紀以降	C3
40	67SE030	井戸	S-30のウラゴメ	13世紀後半～14世紀前半	F1
41		溝	撹乱と似た土なので撹乱か。		F1
42		ピット群		12世紀以降	F1
43		ピット	S-44→43	13世紀～	G4
44		ピット		11世紀後半以降	G4
45	67SK045	土坑	S-45→5	12世紀後半前後	G4
46		ピット	暗茶色粗砂		F2
47		ピット	明茶灰色土の下層ピット	12世紀以降	F2
48		ピット		12世紀以降	H2

表6　第67次調査　遺構一覧表②

49		ピット			H2
50	67SB050	建物		13世紀代	G2
51		ピット群		平安後期	G2
52		土坑		14世紀～	H2
53		ピット?	S-53→15	12世紀以降	D4
54	67SB050	ピット群	S-52下層。SB050の一部。	12世紀以降	H2
56		ピット群		12世紀以降	H2
57		窪み			H3
58		ピット	S-57下層	平安後期	H3
59		ピット			H3
61		ピット群			H3
62		ピット			H3
63		ピット		平安後期	H3
64		ピット群			G3
66	67SB050	ピット	67SB050の一部		G3
67		ピット			G3
68		ピット群		12世紀以降	G3
69		ピット	S-45下層	12世紀代	G4
71		ピット	S-71→68		G3
72		ピット	S-45下層		H4
73		ピット群		12世紀以降	G3
74		ピット		12世紀以降	G3
76		ピット		平安後期～	G3
77	67SB050	ピット	67SB050の一部	13世紀	G2
78		ピット	S-39の下層	12世紀以降	C3
79		ピット	S-81→79	12世紀以降	C3
81		ピット	S-81→79		C3
82		土坑		12世紀以降	B3
83		ピット			G2
84		ピット		12世紀以降	F2
86		窪み	S-20下層		E3
87		土坑		12世紀以降	D3
88		ピット			F3
89		土坑		12世紀代	F3
91		ピット			G2
92		ピット			G1
93		ピット		平安後期	G2
黒褐色土		堆積層		中世	
暗灰色砂		堆積層		中世	
黄色土		堆積層		中世	
黒色砂		堆積層	暗茶褐色土→黒色砂→黄色土→黒褐色土	中世	
暗茶褐色土		堆積層	暗茶褐色土→黒色砂	14世紀～	
茶灰色土		堆積層	茶灰色土→黒褐色土→黒色砂	14世紀～	
明茶色土		堆積層	茶灰色土と同一層	14世紀～	F2
淡茶灰色土		堆積層	明茶灰色土→淡茶灰色土→茶灰色土	14世紀～	
明茶灰色土		堆積層	明茶灰色土→淡茶灰色土→茶灰色土	14世紀～	
淡黄灰色砂		堆積層		13世紀中頃～	

表７　第67次調査　出土遺物一覧表①

S-1

縄文弥生青磁	器	鉢：Ⅱ-b(1)
国産陶	器	擂鉢小底Ⅱ(1)
白	磁	碗×水注蓋?(1)

S-2上層　（取り上げラベル：S-2の9月分）

須恵	器	小皿a，坏a，坏c，坏a?，
土師	器	小皿a，坏，椀c，甕a，供膳具，
黒色土器B類	椀，椀c	
中世国産陶	器	甕(常滑，瀬戸)
瓦	類	平瓦(鐵目)，丸瓦(格子)

S-2甕内　（取り上げラベル：S-2甕中）

須恵	器	破片
土師	器	坏a(1)，丸底坏a，供膳具，破片
中世国産陶	器	大甕(常滑)，破片
瓦	類	破片

S-2中層　（取り上げラベル：S-2下層）

須恵	器	破片
土師	器	小皿a(1)，小?，小皿a×坏a(1)，坏a?，丸底坏a?，丸底坏c?，丸底坏，椀c，供膳具，甕a，甕b，鍋?，甕?，破片
黒色土器A類	破片
黒色土器B類	破片
石	類	破片

S-2下層　（取り上げラベル：S-2の10月分）

須恵	器	蓋c，坏c，坏a，坏c，坏身，甕，蓋a，破片
土師	器	小皿a(?)，小皿，小皿c×丸底坏c，丸底坏a，丸底坏c，丸底坏，椀c，供膳具，甕a，甕b，鍋?，甕?，破片
製塩土器	器	焼塩壺
黒色土器A類	椀，椀c，破片
黒色土器B類	椀，椀c，破片
瓦	器	破片(鐵分?)
中世国産陶	器	甕(常滑)
緑釉陶	器	碗(淡黄灰色)(1)
朝鮮系無釉陶器	破片
白	磁	椀：Ⅱ-(1)，Ⅳ-1a(1)，Ⅳ(2)，Ⅳ×Ⅷ?(段②)(1) Ⅴ-2(1)，Ⅳ～Ⅶ×Ⅱ～Ⅴ(3)，不明椀×皿(1) 皿：Ⅱ-1×Ⅱ(1)，Ⅳ?(1)，Ⅴ-2(1)
青白	磁	龍泉合子蓋(1)
越州窯系青磁	椀：Ⅰ-1a(1)，Ⅰ-2(2)，Ⅱ-2b～d(1)，Ⅱ-3a(1) 水注天蓋皿(1)
瓦	類	軒丸瓦，丸瓦(格子)，平瓦(格子，二重格子)
金属製品	鉄釘，不明鉄製品，鉛滓
土製品	土塊
石製品	砥石，鉄片(黒曜石)

S-2特内

須恵	器	小坏c，坏c，坏c，破片
土師	器	小皿，坏a，椀，供膳具，丸底坏a，甕a，破片
黒色土器A類	破片
黒色土器B類	破片

S-2クラゴメ

木製品	木片

S-2埋土

須恵	器	坏，蓋
土師	器	小皿a，丸底坏a，椀，供膳具
製塩土器	器	焼塩壺
黒色土器A類	椀
黒色土器B類	椀
瓦	類	平瓦(鐵目，格子)，丸瓦(格子)

S-3 最上層

須恵	器	甕，蓋×鍋?，短頸壺
土師	器	皿c，小皿a(?)，坏a(1)，鉢a?)脚手
須恵質土器	鉢
緑釉陶器	器	椀：Ⅱ-b(1)，皿(1)
白	磁	椀：Ⅷ-2(1)　皿：小皿(1) 四耳壺(1)，不明Ⅳ～Ⅷ(2)
中国陶	器	壺：四耳壺Ⅲ(1)　甕：Ⅰ～Ⅳ(2) 他：盤Ⅰ(2)，Ⅰ-2b(1)(3) 不明：A'(1)，A'a(1)，A"(1)，C'（外1条沈線）(1)
瓦	類	平瓦
金属製品	鉄釘
石製品	砥石

S-3 上層

須恵	器	短頸壺
土師	器	小皿a(1)，坏a(1)，坏b(1?)
白	磁	椀：Ⅱ(1)　皿：Ⅸ-1a～c(1)　不明：Ⅳ～Ⅶ(1)
青白	磁	龍泉合子蓋(1)
越州窯系青磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	短頸壺(1)
中国陶	器	壺：四耳壺Ⅲ(1)　盤Ⅰ(3)，Ⅰ-2b(1)

S-3

須恵	器	蓋坏，坏c，甕
土師	器	坏a(1)，大坏??，坏×皿(1)，小皿a(1)，椀?，椀c(1?ﾅｽ)，坏，丸底坏?
瓦	器	椀
須恵質土	器	鉢(東播系)
中世国産陶	器	大甕(常滑)(1)
白	磁	椀：Ⅰ-1(1)，Ⅱ(1)，Ⅱ-3?(1)，Ⅱ-1a×Ⅷ-2(1)，Ⅳ(1)，Ⅳ-1a(1)，Ⅴ-4×Ⅷ-1×Ⅷ-3(1)，Ⅷ(1) 皿：Ⅱ～Ⅴ(1)，IX-1b(1)，IX-1a～c 不明：Ⅳ～Ⅷ(1)，椀Ⅳ～Ⅷ×皿Ⅱ～Ⅴ(1)
緑釉陶器	椀：皿-2(2)　坏皿-1a(1)　緑釉破片?(1)
中国陶	器	壺：Ⅳ(1)　鉢：Ⅰ(1) 盤Ⅰ(2)，Ⅰ-2(2)，Ⅰ-2b②，Ⅰ-2b③，Ⅱ(1)
瓦	類	平瓦，丸瓦
金属製品	鉄釘，用途不明鉄製品

S-3 黄白色粘土

土師	器	小皿a(1)，坏a(1)，坏a(1?ﾅｽ不明)

S-4

土師	器	破片(1)

S-5 上層 黒色粘砂

須恵	器	坏c，甕
土師	器	小皿a，坏c(1)，皿a(1)
須恵質土器	器	甕，鉢(東播系)
瓦質土器	器	鍋蓋
土師質土器	器	火鉢
中世国産陶	器	大甕(常滑)(1)，大甕(備前)(1)
白	磁	椀：Ⅴ-2(1)，Ⅴ-4×Ⅷ-1×Ⅷ-3(1)　皿：IX-1a～c(1)
越州窯系青磁	不明1-2b（外縁片薬り）(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅱ-b(4)
中国陶	器	盤Ⅰ-b(1)，Ⅱ-a(1)
瓦	類	平瓦，丸瓦
金属製品	鉄釘
石製品	砥石，鉄片(黒曜石)

S-5

須恵	器	蓋×坏?
土師	器	小皿a(1)，坏a(1)
白	磁	椀：Ⅷ(1)　皿：Ⅵ-1b(1)
石製品	鉄石

S-5中層

金属製品	鉛滓

S-6

肥前系陶	器	破片(瀬戸)(1)

S-7

土師	器	破片

S-8

土師	器	破片(1)
黒色土器B類	破片

S-9

土師	器	坏×皿(1)

S-10 上層

須恵	器	蓋，坏c，大甕，甕，破片
土師	器	小皿a(1)，坏a(1)，坏b(1)，坏×皿(1)，甕a，破片
瓦	器	椀，椀c
瓦質土	器	鉢，破片
中世国産陶	器	大甕(常滑)(1)
国産陶	器	近世(1)
白	磁	椀：Ⅳ(3)，Ⅳ～Ⅷ(1)，Ⅴ(2)，Ⅴ-4×Ⅷ-1×Ⅷ-3(1)，Ⅵ(1)，Ⅷ(1)　椀Ⅳ×Ⅷ×皿Ⅱ～Ⅴ?(4) 皿：IX-1(2)，IX-1a～c 四耳壺Ⅱ(1)，破片Ⅳ～Ⅷ(2)
越州窯系青磁	破片?(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅰ-1(1)，Ⅰ-2×4(1)，Ⅱ-a?(1)，Ⅱ-b(2) 破片：Ⅰ?(3)，Ⅲ?(1)　坏Ⅳ?(1)
同安窯系青磁	皿：Ⅰ(1)
高麗青磁	破片?(2)
青磁(未分類)	不明(1)　坏(1)
青白磁	皿(1)，破片(1)
染付（輸入）明染(1)，古窯染付(1)，小野分類碗c
中国陶	器	壺Ⅲ(1)　破片：B"(1)，C'(1)
黒軟質陶器	破片(1)
瓦	類	平瓦
金属製品	鉄釘
土製品	出輪羽口

表7　第67次調査　出土遺物一覧表②

S-10 中層

須恵器	器	不明(胴部(内外平行叩)、甕
土師器	器	小皿a(1)、坏a(1)、坏b?、坏
須恵質土師器	器	鉢
中世国産陶器	器	大甕(常滑)(2)
国産陶器？	器	四耳a(1)
白磁	器	椀：Ⅱ(3)、Ⅳ?（浅□）(1)、V~4×V類~1×V類~3(1)、V類~1×V類~3(1)　椀Ⅱ×黒Ⅵ(1) 皿：Ⅱ~1a(1)、Ⅸ~1a~c(1)、不明皿(1) 不明Ⅳ~V類(1)、椀×黒(1)　　盤黒(2)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ~2×4(1)、Ⅱ~b(1)
褐釉陶器	器	小皿(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ~1(1)、皿(1)
同安窯系青磁	器	椀：Ⅰ(2)　　皿：Ⅰ(1)
中国陶器	器	壺：四耳壺Ⅲ~1(1)、壺E(1)　　鉢：Ⅰ~1b(1) 盤Ⅲ(2)、破片C'(1)
金属製品	鉄製	

S-10 下層

土師器	器	坏b(1)、椀c、鉢?
須恵質土師器	器	不明(3) 5 5.(1)は魚住
土師質土師器	器	鉢
中世国産陶器	器	破片
白磁	器	椀Ⅳ~V類×黒Ⅱ×V(1)、不明椀×黒(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：椀×黒Ⅱ(1)
長沙窯系青磁	器	水注(鴨嘴)(1)
瓦	類	軒平瓦(無文)
石製品	器	滑石片、石鏃
金属製品	器	環状金具

S-11

須恵器	器	破片
土師器	器	破片

S-12

須恵器	器	坏c
土師器	器	破片
瓦	類	破片

S-13

土師器	器	坏

S-14

土師器	器	破片
白磁	器	椀：Ⅳ(1)

S-15

須恵器	器	高坏（外3ヶ所ヘラ描）、甕
土師器	器	坏a、設台、鉢
土師質土師器	器	鉢
瓦質土器	器	火鉢
中世国産陶器	器	大甕(常滑)(1)
白磁	器	椀：Ⅳ×V×Ⅵ(1)　　四耳壺(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ~1(1)　　破片Ⅰ?(1)
同安窯系青磁	器	椀：Ⅰ~1b(1)
中国陶器	器	四耳壺XII(2)
瓦	類	軒丸瓦、平瓦、丸瓦、塼
金属製品	器	銅銭、鉄滓
石製品	石	石臼転用品

S-16

土師器	器	破片

S-17

土師器	器	坏b(1)
黒色土器A	類	破片
白磁	器	椀：Ⅳ(1)
金属製品	器	鉄滓

S-18

土師器	器	破片

S-19

須恵器	器	破片
土師器	器	坏a(1)、破片

S-20

須恵器	器	破片
土師器	器	小皿a(1)、坏a(1)、甕、破片
瓦	器	破片
中世国産陶器	器	大甕(常滑)(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ~2×4(1)、Ⅱ~b(1)　　破片Ⅰ?(1)
青白磁	器	椀：皿(型)　(1)
中国陶器	器	四耳壺Ⅲ×Ⅳ(1)
精		鐵：隠元通宝

S-21

土師器	器	坏×黒
中世国産陶器	器	大甕(常滑)(1)

S-22

土師器	器	破片
白磁	器	椀：V(1)

S-23

須恵器	器	坏
土師器	器	坏

S-24

土師器	器	坏×黒
金属製品	器	鉄滓

S-25

須恵器	器	蓋?、坏a
土師器	器	小皿a(~?)、坏a、破片
中国陶器	器	水注H肥手

S-26

須恵器	器	高3
土師器	器	坏a(1)

S-27

須恵器	器	破片

S-28

土師器	器	破片

S-29

土師器	器	坏×黒、椀c

S-30

須恵器	器	甕
土師器	器	小皿a(1)、坏a(1)
緑釉陶器	器	破片(1)
中世国産陶器	器	甕
白磁	器	椀：Ⅳ×V×V類(1) 皿：盤×Ⅳ×V類~?(1)、Ⅸ~2c(1)
青白磁	器	椀(1)
中国陶器	器	四耳壺：Ⅱ~1(1)、XII(5)　　甕：Ⅰ~4(2)
瓦	類	軒平瓦、平瓦
金属製品	器	鉄滓

S-30 中層

須恵器	器	蓋、破片
土師器	器	小皿a(1)、坏a(1)、坏b?~?
瓦	器	破
龍泉窯系青磁	器	破片皿
中国陶器	器	破片(1)

S-30 下層

土師器	器	坏a(1)
瓦	類	丸瓦

S-30 下層 検内

須恵器	器	破片
土師器	器	小皿a(1)、坏a(1)
瓦	器	破
中世国産陶器	器	大甕(常滑)(3)、破片(1)
白磁	器	椀：Ⅱ~1(1)　　皿：Ⅳ~V類(1)　不明Ⅳ~V類(1)
青白磁	器	破片(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅲ~2(1)
瓦	類	破片

S-30 ﾋﾟｯﾄ(E)S-40

須恵器	器	甕、破片
土師器	器	小皿a、小皿a(1)、小皿c、坏a(1)
黒色土器B	類	破片
中国陶器	器	破片(1)
白磁	器	椀：Ⅱ(1)、Ⅳ(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ~1(1)、Ⅱ~b(1)

S-31

土師器	器	破片

S-32

須恵器	器	甕（縦ﾀﾀｷ平行叩）
土師器	器	坏a(1)、坏×黒(1)
瓦	器	破片
中世国産陶器	器	大甕(常滑)(1)
龍泉窯系青磁	器	破片Ⅰ?(1)
白磁	器	破片Ⅳ~V類(2)
瓦	類	破片
金属製品	器	鉄滓

S-33

須恵器	器	甕
土師器	器	坏a(1)
国産陶器	器	破片(青釉)(1)
龍泉窯系青磁	器	破片Ⅰ?(1)
瓦	類	平瓦

S-34

土師器	器	小皿a(1)

表7　第67次調査　出土遺物一覧表③

S-35 上層

須恵	器	蓋3、壺1、甕c、坏c、鍋、破片
土師	器	椀3、小皿a(イ)、小皿c、坏a(イ)、ハ)、坏×皿(イ)、ハ) 椀c、供膳具、鍋、鉢器、鉢ヤ、壁×鉢
黒色土器	B類	椀c
黒色土器	B類	破片
瓦	器	丸瓦、椀c、破片
土師質土	器	鍋?
須恵質土	器	鉢、壁
中世国産陶	器	大甕(常滑)(1)、不明(1)
白磁		椀：Ⅱ-2?(1)、Ⅳ(1)、Ⅳ×Ⅴ×Ⅶ(1)、Ⅴ×Ⅶ〔内片蓋〕(1) 皿：Ⅵ(1)　椀×皿(1)　底(1)
中国陶	器	四耳壺XII(1)
瓦	類	平瓦、丸瓦
金属製	品	鉄釘、鉄浮
石製	品	滑石片
土製	品	焼土、土塊

S-35 中層

須恵	器	蓋、壺3、坏、鉢
土師	器	小皿a(ハ)、坏a(イ)、丸底坏、破片
瓦	器	椀
硬質陶	器	椀〔硬灰色〕(1)
白磁	椀：Ⅱ(1)、Ⅳ(1)、Ⅳ×Ⅴ×Ⅶ(1)、Ⅶ-1×Ⅶ-3(1) 皿：Ⅱ-1a×Ⅲ(1)、Ⅲ～Ⅴ(1) 不明Ⅳ～Ⅶ(1)	
越州窯系青磁	椀：Ⅰ-2b(1)	
瓦	類	平瓦
金属製	品	鉄浮
石製	品	石鏃、次加工品

S-35 下層

須恵	器	蓋、坏c、鉢、壺
土師	器	小皿a(イ)、ハ)、丸底坏a、椀c
瓦	器	破片
硬質陶	器	破片〔硬灰黄灰色〕(2)
白磁	椀：Ⅱ(1)、Ⅳ(1) 皿：椀Ⅳ～Ⅶ×皿Ⅱ～Ⅴ(1)、底×水注Ⅱ?(1)	
中国陶	器	壺：四耳壺Ⅲ-1〔花文〕(1)　破片C'(1)
瓦	類	平瓦、丸瓦、破片

S-35

須恵	器	壺
土師	器	小皿a(イ)、ハ)、丸底坏a、椀c×丸底坏c、丸底坏、椀c、壺
瓦	器	椀
須恵質土	器	鉢
白磁	椀：Ⅱ'-1(1)、Ⅳ(1)、V'-1(1)、Ⅴ～Ⅶ(1) 皿：Ⅶ?(1)　破片Ⅳ～Ⅶ(1)	
中国陶	器	鉢：Ⅰ-1b(2)
瓦	類	平瓦
金属製	品	鉄浮

S-36

土師	器	小皿(イ)

S-37

土師	器	坏、皿(イ)
中国陶	器	破片A'(1)

S-38

土師	器	小皿a(イ)、坏a(イ)、鍋、破片(イ)
金属製	品	鉄浮

S-39

土師	器	坏a(イ)、椀c
瓦	類	平瓦

S-40

金属製	品	鉄釘

S-41

土師	器	破片
国産陶	器	古瀬陶器(1)

S-42

須恵	器	大甕、破片
土師	器	坏a(イ)、鍋

S-43

須恵	器	破片
土師	器	小皿a(イ)、坏×皿
須恵質土	器	鉢
越州窯系青磁	椀：Ⅱ-b(1)	
瓦	類	平瓦

S-44

土師	器	坏
白磁	椀：Ⅳ(1)	

S-45

須恵	器	蓋3、坏c、鍋、破片
土師	器	小皿a(イ)、坏a(イ)、皿
瓦	器	椀c
須恵質土	器	鉢(東播系)
白磁	椀：Ⅳ(1)、Ⅳ×V'-4×Ⅶ-3(1)、V(1)、 V'-4×Ⅶ-1×Ⅶ-3(1)、V×Ⅶ〔内面櫛目〕(1) 皿：Ⅱ-1(1)、Ⅱ-1a(1)、Ⅵ(1)、Ⅵ-1a(1) 椀Ⅱ×皿Ⅵ(1)、四耳壺(1)、不明Ⅳ～Ⅶ(3)	
越州窯系青磁	椀：Ⅱ-b(1)	
同安窯系青磁	皿：Ⅰ-1a(1)	
中国陶	器	破片A'-a(1)、鉢Ⅲ-b(1)
瓦	類	平瓦、丸瓦
金属製	品	鉄浮
土製	品	土塊
石製	品	石鏃

S-46

土師	器	破片

S-47

土師	器	小皿a(イ)

S-48

土師	器	坏×皿(イ)
金属製	品	鋼銭

S-49

須恵	器	蓋3
土師	器	破片
黒色土器	B類	椀c
金属製	品	鉄浮、銅片

S-51

土師	器	小皿a、丸底坏a
瓦	器	椀

S-52

須恵	器	壁、壺
土師	器	小皿a(イ)、坏、坏a(イ)、椀c?
須恵質土	器	鉢(東播系)
国産陶	器	破片(瀬戸)(1)
白磁	椀：Ⅱ(2)、Ⅳ～Ⅶ(1)　皿：Ⅵ×Ⅶ(1)、Ⅸ-1a～c(1) 不明Ⅳ～Ⅶ(2)	
青磁（太分類）	椀花坏×皿?(1)	
中国陶	器	鉢：Ⅰ～Ⅳ(1)　鉢Ⅱ-a(1)、破片B"(1)

S-53

土師	器	坏a(イ)、坏×皿(イ)、壁
越州窯系青磁	椀：Ⅲ(1)	

S-54

土師	器	小皿a(イ)、供膳具、破片

S-56

須恵	器	蓋3、坏
土師	器	坏(イ)

S-57

須恵	器	蓋c??、高坏
土師	器	破片
瓦	類	丸瓦
金属製	品	鉄浮

S-58

土師	器	小皿a(ハ)、坏(ハ)?)、丸底坏a

S-59

土師	器	破片
土製	品	土錘

S-61

土師	器	坏×皿

S-62

須恵	器	壁
土師	器	破片
瓦	器	椀
越州窯系青磁	破片Ⅰ?(1)	

S-63

須恵	器	破片
土師	器	破片
越州窯系青磁	破片Ⅰ?(1)	

S-64

土師	器	破片

表7　第67次調査　出土遺物一覧表④

S-66

須恵器	器	破片
土師	器	破片

S-67

須恵器	器	坏
土師	器	坏×蓋
石製	品	剥片(黒曜石)

S-68

須恵	器	破片
土師	器	小皿a(ｲ),ハ(不明),坏a(ｲ), 破片
瓦	器	丸瓦
中国陶	器	四耳壺Ⅱ×Ⅳ(1)

S-69

土師	器	坏×蓋(ｲ), 甕
瓦	器	丸瓦
中世国産陶	器	大甕(常滑?)(1)

S-71

須恵	器	破片
土師	器	破片

S-72

須恵	器	高台
土師	器	坏a?(ハ?), 甕c

S-73

土師	器	坏×蓋(ｲ)

S-74

土師	器	坏×蓋(ｲ)
瓦	器	破片

S-76

土師	器	小皿a, 丸底坏a
瓦	類	破片

S-77

須恵	器	甕
土師	器	小皿, 坏
中国陶	器	鉢:Ⅰ-1b(1)　壺Ⅱ(1)
金属製	品	鉄釘

S-78

土師	器	坏a(ｲ), 破片

S-79

土師	器	坏a(ｲ)

S-81

土師	器	破片

S-82

土師	器	坏a(ｲ)
白	磁	椀IV～VⅢ×底Ⅱ～Ⅴ(1)
瓦	類	平瓦

S-83

土師	器	坏×蓋
金属製	品	銅銭

S-84

土師	器	坏×蓋(ｲ)

S-86

土師	器	破片

S-87

須恵	器	坏a(ｳ)
土師	器	小皿a(ｲ),ハ(不明), 破片
瓦	類	破片

S-88

土師	器	丸底坏a, 甕

S-89

須恵	器	甕, 破片
土師	器	小皿a(ｲ,ﾊ), 坏a(ｲ), 丸底坏a, 椀c×丸底坏c, 甕a, 甕b?
瓦	類	破片
金属製	品	鉄片, 鉛滓

S-91

土師	器	破片

S-92

土師	器	破片
金属製	品	銅銭

S-93

須恵	器
土師	器	小皿a(ﾊ), 椀

黒褐色土

須恵	器	坏c, 甕, 大甕, 高坏脚, 壺?, 破片
土師	器	小皿a(ｲ), 小皿a×小皿b(ｲ), 坏a(ｲ), 坏×蓋(ｲ), 坏c, 大坏×大蓋c?, 甕a, 鍋把手, 供膳具(ｲ) 破片, 施設(土製品)
瓦	器	椀, 椀c
須恵質土	器	鉢
土師質土	器	鉢, 擂鉢
中世国産陶	器	大甕(常滑?)(7)
国産陶	器	近世c, 蓋(1), 不明(3)
白	磁	椀:Ⅱ(3), Ⅱ-1(2), Ⅳ(5), Ⅳ～Ⅶ(1), Ⅴ(2), Ⅴ〔外ﾀﾃ?〕(1), Ⅴ-1(2), Ⅴ-1×Ⅶ-2(1), Ⅴ-2×Ⅵ(1), Ⅴ-4×Ⅶ-1×Ⅶ-3(2), Ⅵ-1b(1), Ⅵ-1b?(1), Ⅶ〔内面櫛目〕(2), Ⅶ-1×Ⅶ-3(1), Ⅶ-2(1) 皿:Ⅱ-1(1), Ⅱ-1b(1), Ⅵ(2), Ⅸ-1c(1) 他:椀IV～VⅢ×底Ⅱ～Ⅴ(2), 四耳壺(2)。 不明椀×底(1), 不明IV～VⅢ(3), 蓋頂b?(1), 蓋頂b?(1)
青白	磁	椀×蓋(1)
越州窯系青	磁	他:底×水注(1)
龍泉窯系青	磁	椀:Ⅰ-2×4(1), Ⅰ-4(1), Ⅱ～b(7), Ⅲ-2(2) 皿:小椀×坏蓋〔外蓮弁あり〕(1) 不明:Ⅰ7(1), Ⅲ7(1)
同安窯系青	磁	椀:Ⅰ-1a×Ⅱ(1), Ⅰ-1b(1), Ⅲ-2(1) 皿:Ⅰ(1), Ⅰ7(1) 龍泉×同安(1)
青磁(主分類)		不明青磁(1), 坏a?(1)
染付(輸入)		近世染付(5), 染付(ふいご?)?(1)
中国陶	器	壺:四耳壺Ⅵ(1), XII?(2) 甕:1～IV(4), 7A〔内円明〕(1) 他:鉢1-2(1), Ⅱ(1), Ⅱ-1(1), Ⅱ-b(1) 不明:a^{n}(1), c^{n}(1)
黒釉陶	器	椀(1), 字茶入れ?(1), 不明(2)
瓦	類	平瓦, 軒平瓦
金属製	品	鉄釘, 鉛滓
土製	品	円盤状土製品(小皿の加工品)
石製	品	滑石加工品, 方形硯

暗灰色砂

土師	器	小皿a(ｲ), 坏a(ｲ)
中世国産陶	器	大甕(常滑?)(1)

黄色土

土師	器	坏×蓋(ｲ)
瓦	類	破片

黒色砂

土師	器	小皿b(ｲ), 坏a(ｲ)
瓦	類	丸瓦

暗茶褐色土

須恵	器	高, 甕
土師	器	坏a(ｲ), 破片(ｲ)
黒色土器B	類	破片
白	磁	椀:Ⅳ～VⅢ(1)　皿:Ⅸ-1(1)

茶灰色土

須恵	器	甕, 鉢, 破片
土師	器	小皿a(ｲ), 坏c(ｲ), 坏a(ｲ), 坏×蓋, 椀c, 供膳具 甕×鉢?, 破片
黒色土器B	類	破片
瓦	器	破片
須恵質土	器	鉢(1)
土師質土	器	火鉢
瓦質土	器	火鉢, 鉢
中世国産陶	器	大甕(常滑?)(1), 大甕(備前)(1)
国産陶	器	近世不明(1)
白	磁	椀:Ⅱ(2), Ⅱ?(1), Ⅳ(5), Ⅳ-1a(1), Ⅳ～VⅢ(3), Ⅳ～VⅢ(1), Ⅴ(1), Ⅴ-1(1), Ⅴ-4×VⅢ-1×VⅢ-3(1), Ⅴ-4b(2), VⅢ(1), VⅢ-1×VⅢ-3(1) 皿:Ⅱ～Ⅴ(1), Ⅳ?(1), Ⅴ(1), Ⅵ-1a(2), Ⅵ×VⅢ(4), Ⅸ-1a～c(1), Ⅸ-1c(1), 小皿(1) 他:椀Ⅱ×底VⅢ(6), 椀Ⅱ×VⅢ-2(1), 壺×水注Ⅱ?(1), 椀IV～V×VⅠ×VⅢ×底Ⅱ～Ⅴ(7), 不明(6), 不明IV～VⅢ(7), 不明椀×底(3), 枕付(2)
青白	磁	皿?(1)
越州窯系青	磁	底Ⅱ(1), 破片Ⅰ(1)
龍泉窯系青	磁	椀:Ⅰ(1), Ⅰ-2×Ⅰ-3〔櫛目〕(1), Ⅱ-b(4) 破片Ⅰ?(1), 小椀×ⅢⅢ〔外蓮弁あり〕(1)
同安窯系青	磁	椀:Ⅰ-1b(3)　破片(1), 龍泉×同安(1)
青磁(主分類)		鉄青磁(1)
染付(輸入)		近世染付(2)
中国陶	器	壺:四耳壺Ⅵ×IV(1), XII?(2) 鉢:Ⅰ(1), Ⅰ-1b(1)　甕:1～IV(3) 他:Ⅰ(2), Ⅰ-2b①, Ⅱ-1①, Ⅱ-a(1) 不明:a^{n}(1), A^{n}-a^{n}×A^{n}-b(1), B^{n}-a(1), B^{n}(1)
瓦	類	丸瓦(無文), 軒平瓦, 丸瓦, 破片
金属製	品	鉄釘, 用途不明鉄製品, 鉛滓
石製	品	滑石加工品
その他		鉄製

表7　第67次調査　出土遺物一覧表⑤

明茶色土

須恵器	器	坏×蓋
須恵質土器	器	鉢
国産陶器	器	破片(岩倉?)(1)
白	磁	椀：Ⅴ(1)　蓋：Ⅸ-1a～c(1)
緑黒薬系青磁	椀	Ⅰ-2×4(1)　破片Ⅰ?(1)
青磁（未分類）	不明青磁(1)	
染付（輸入）	近世染付(1)	
中国陶器	四耳壺XII(1)　甕：Ⅰ～Ⅳ(1)	
金属製品	鉛浮	

淡茶灰色土

須恵器	器	甕
土師器	器	坏×蓋
白	磁	蓋：Ⅱ?(1)、Ⅱ～Ⅴ(1)、Ⅸ-1(1)
緑黒薬系青磁	椀	Ⅱ-b(1)、Ⅲ-2(1)　破片Ⅰ(1)
青磁（未分類）	破片(1)	
中国陶器	器	甕：Ⅰ～Ⅳ(1)
瓦	類	平瓦
金属製品	鉛浮	

明茶灰色土

須恵器	器	甕、破片
土師器	器	小皿a(1)、小皿b(1)、坏a(1)、椀c
中世国産陶器	器	大甕(常滑)(2)
白	磁	椀：Ⅶ(1)　椀Ⅱ×蓋Ⅵ(1)
同安緑系青磁	椀	Ⅰ-1b(1)
青磁（未分類）	不明青磁「外面ニハケ文様」(1)	
中国陶器	器	甕：Ⅰ～Ⅳ(2) 水注V?(2)、盤Ⅱ-b(1)、不明B"(1)、C'(1)
瓦	類	平瓦
金属製品	鉛浮	
石製品	砥石	

淡黄灰色砂

土師器	坏(1)	
白	磁	椀：Ⅵ～Ⅶ(1)　椀IV～Ⅶ×蓋Ⅱ～Ⅴ(1)
緑黒薬系青磁	椀	Ⅰ-2×4(1)　小椀×坏蓋（外面ヘラ削り）

表採

土師器	鉢(1)	
緑黒薬系青磁	椀	Ⅰ-1(1)、Ⅱ-a(1)
染付（輸入）	近世染付(1)	
中国陶器	四耳壺XII(1)	

表土

須恵器	破片	
土師器	小皿a(1)、小皿b(1)、坏a(1)、丸底坏a、椀a	
土師質土器	火鉢	
中世国産陶器	大甕(常滑)(1)	
国産陶器	破片(伊万里)(1)、近世陶器(2)	
白磁	椀：IV～VII(1)、V(1)、V-1×VII-2(1)、VII(1)	
	坏ふた×坏付ふた(1)、椀IV～VII×蓋Ⅱ～Ⅴ(1)、 坏付(1)、破片(1)	
青白磁	小皿(1)	
緑黒薬系青磁	椀：Ⅰ-1(1)、Ⅰ-2×4(1)、Ⅱ-b(3)	
同安緑系青磁	椀：Ⅰ-1b(1)　蓋：Ⅰ(1)	
黒釉青磁	椀：Ⅲ(1)	
青磁（未分類）	不明青磁「外面ヘラ削り」(1)	
中国陶器	四耳壺XII(2)　破片A"-b(1)、B"(1)、不明(1)	
瓦	類	破片
金属製品	金属	

櫛瓦

須恵器	器	甕、破片
土師器	器	坏b(1)、椀c、破片
瓦	器	椀c
緑釉陶器	器	椀（緑灰色）(1)、破片（緑灰色）(1)
灰釉陶器	器	破片(1)
黒釉青磁	器	椀、蓋、破片
国産陶器	器	天目(美濃?)(2)、近世：擂鉢(2)、不明(8)、破片(1)
白磁	椀	椀、土瓶?、植木鉢、擂鉢、蓋、
	椀	椀：Ⅱ(3)、IV(2)、IV～VII(1)、V(2)、 V?（浅芯）(1)、V-1(2)、V-2b(1)、 V-1×VII-2(1)、VII(4)、破片(1)
	蓋	蓋：Ⅱ～Ⅴ(1)、V-2(1)、VI(2)、Ⅸ-1a～c(2)
	小皿	小皿：(1)
	四耳壺(1)、水注把手(1)、盃のつまみ(1)、 不明IV～VII(5)、椀Ⅱ×蓋VI(1)、 椀IV～VII×蓋Ⅱ～Ⅴ(3)、不明椀×蓋(2)	
青白磁	小皿(1)、椀×蓋(2)	
染付（輸入）	近世染付(1)	
越州黒系青磁	椀：Ⅰ-2(1)、Ⅰ-4(1)　破片Ⅰ(2)	
緑黒薬系青磁	椀：Ⅰ(1)、Ⅰ-1(3)、Ⅱ-b(3)、Ⅲ-2(2)	
	小椀：Ⅱ-b?(1)　破片Ⅰ?(1)	
同安緑系青磁	椀：Ⅰ-1b(1)	
	蓋：Ⅰ(2)、Ⅰ-1b×Ⅰ-2(2)	
	椀蓋×同安(3)、双耳壺×瓶(1)	
中国陶器	四耳壺：Ⅱ-1(1)、XII(2)　鉢：Ⅰ(1)	
	盤：Ⅰ-b(1)、Ⅱ(1)、Ⅱ-b(1)	
	不明：B"(1)、B'(1)、C'(1)	
黒釉陶器	椀	
瓦	破片	
土製品	土塊	
金属製品	銅銭、鉄釘、鉛浮	

出土地不明

須恵器	坏c	
土師器	小皿a、坏a、坏b	
白磁	椀：Ⅱ?(1)、IV(2)、IV-1a(2)、V(1)、V-1×VII-2(1)、 V-2×IV(1)、V-4×VII-1×VII-3(1)、V-4b(1)、 VII(1)、博多6-Ⅲ(1)	
	蓋：Ⅱ×IV×VII(1)、VI(2)	
	皿(1)、椀Ⅱ×蓋VI(1)、椀IV～VII×蓋Ⅱ～Ⅴ(2)	
越州黒系青磁	椀：Ⅰ-2(1)	
緑黒薬系青磁	椀：Ⅰ-2×Ⅰ-3(1)、Ⅱ-b(3)	

表8　第67次調査　土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-2上層・下層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.23-1	-	0.85	-	-	○
	小皿a	イト	R-005	Fig.23-2	-	0.9	-	○	○
	小皿b	ヘラ	R-010	Fig.23-6	(8.6)	1.15	(6.0)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-012	Fig.23-4	(9.0)	1.5	(7.1)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-007	Fig.23-8	(9.4)	(1.4)	(7.3)	-	-
	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.23-9	(9.4)	1.5	(6.9)	○	○
	杯		R-002	Fig.23-10	-	0.9+α	(5.4)	-	-
	丸底杯a		R-013	Fig.23-11	(14.6)	2.7+α	-	-	-
	丸底杯a	ヘラ?	R-003	Fig.23-12	(15.1)	3.4	-	-	○
黒色土器A	椀c		R-014	Fig.23-13	-	2.6+α	(7.6)	-	-

S-2内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯a	イト	R-001	Fig.23-3	-	0.8+α	-	-	-

S-2中層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a+杯a	イト	R-001	Fig.23-5	-	0.8+α	-	-	△?

S-3最上層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト?	R-004	Fig.24-1	(7.4)	0.95	(5.6)	△?	-
	小皿a	イト	R-006	Fig.24-2	(8.2)	1.3	(5.2)	○	○
	小皿a	イト	R-003	Fig.24-3	(8.6)	1.7	(5.2)	○	○
	杯a	イト?	R-001	Fig.24-4	(13.6)	2.5	(6.6)	△?	-
	杯a	イト?	R-002	Fig.24-5	(12.1)	2.7	(8.0)	-	-

S-3黒白色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯a	イト	R-001	Fig.24-12	12.5	2.6	8.1	○	○
	杯a	-	R-002	Fig.24-13	(14.0)	2.7	(8.8)	○	-

S-3

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿b	イト	R-006	Fig.24-14	7.8	1.4	5.5	○	-
	小皿a	-	R-011	Fig.24-15	(8.0)	1.3	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	R-007	Fig.24-16	8.3	1.2	6.8	○	○
	小皿a	ヘラ?	R-012	Fig.24-17	(8.6)	1.3	(6.0)	○	-
	小皿b	イト	R-009	Fig.24-18	(9.0)	0.85	(7.0)	○	○
	小皿a	イト	R-008	Fig.24-19	(9.0)	1.45	(7.0)	○	-
	小皿a	イト	R-010	Fig.24-20	-	0.8+α	5.6	○	-
	杯a	イト	R-013	Fig.24-21	(12.0)	2.7	(9.2)	○	-
	杯a	イト	R-005	Fig.24-22	(13.2)	2.6	8.4	○	○
	杯a	イト	R-004	Fig.24-23	12.3	2.6	8.1	△	○
	杯a	イト	R-004	Fig.24-24	12.8	2.8	8.6	○	○
	杯a	イト	R-002	Fig.24-25	(12.7)	2.85	8.6	○	○
	杯a	-	R-013	Fig.24-26	-	2.3	-	-	○

S-5

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-005	Fig.25-1	(7.7)	1.2	(5.6)	○	○
	小皿a	イト	R-003	Fig.25-2	(7.8)	0.95	5.6	○	○
	小皿a	イト	R-006	Fig.25-3	8.2	1.1	5.3	○	○
	小皿b	イト	R-001	Fig.25-4	8.3	1.5	5.8	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.25-5	8.6	1.05	6.3	○	○
	小皿a	イト	R-004	Fig.25-6	(8.6)	1.05	(5.6)	○	○
	小皿a	イト	R-007	Fig.25-7	(8.6)	1.15	(6.6)	○	-
	杯a	イト	R-013	Fig.25-8	(12.1)	2.7	(8.0)	○	○
	杯a	イト	R-009	Fig.25-9	12.6	2.7	8.1	○	○
	杯a	イト	R-008	Fig.25-10	12.8	2.9	8.3	○	○
	杯a	イト	R-010	Fig.25-11	12.8	3.1	8.2	○	○
	杯a	イト	R-012	Fig.25-12	(13.2)	2.25	8.8	○	○
	杯a	イト	R-011	Fig.25-13	(13.6)	2.45	(9.0)	○	○

S-10上層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.22-1	-	1.0+α	(4.4)	○	×
	小皿a	イト	R-001	Fig.22-2	-	0.8+α	4.0	○	×
	杯a	イト	R-004	Fig.22-3	(12.2)	3.05	(7.8)	○	×
	杯a	イト	R-003	Fig.22-4	(12.6)	2.45	(7.2)	○	×

S-30

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-005	Fig.22-21	7.8	1.2	5.7	○	○
	小皿a	イト	R-007	Fig.22-22	(7.6)	1.2	(5.0)	○	-
	小皿a	イト	R-004	Fig.22-23	(8.1)	1.5	(6.4)	-	○
	小皿a	イト	R-003	Fig.22-24	(8.3)	1.7	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	R-006	Fig.22-25	(8.5)	1.2	(6.0)	○	-
	小皿a	イト	R-001	Fig.22-26	(8.6)	1.3	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.22-27	(8.6)	1.4	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	R-008	Fig.22-28	(8.6)	1.45	(6.0)	○	○
	杯a	イト	R-003	Fig.22-29	-	1.4+α	(5.4)	○	○
	杯a	イト	R-003	Fig.22-30	-	1.6+α	(6.8)	○	×

S-30下層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.22-32	(8.2)	0.9	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.22-31	(8.6)	1.3	(6.6)	○	○
	杯a	イト	R-003	Fig.22-33	(14.4)	2.55	(7.6)	-	-
瓦器	椀		R-004	Fig.22-34	-	2.1+α	-	-	-

S-30下層内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.22-35	(7.6)	1.1	(5.6)	○	○

S-30クライメ

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-004	Fig.22-36	(7.2)	1.1	(5.0)	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.22-37	(8.2)	1.3	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	R-003	Fig.22-38	(8.6)	1.65	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	R-004	Fig.22-39	-	1.4+α	(5.4)	○	○
	杯a	イト	R-003	Fig.22-40	-	1.6+α	(6.8)	○	×

S-35上層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.26-1	-	1.4+α	-	-	-
瓦器	椀		R-002	Fig.26-2	-	4.0+α	-	-	-

S-35下層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.26-13	8.6	1.0	5.8	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.26-14	(8.8)	1.1	(6.6)	-	-
	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.26-15	(9.2)	1.3	(7.0)	○	-
	小皿a	-	R-004	Fig.26-16	(9.4)	1.6	(8.0)	-	-
	椀c		R-005	Fig.26-17	-	1.9+α	(6.4)	-	-
	丸底杯		R-006	Fig.26-18	-	3.6+α	-	-	-
	丸底杯		R-007	Fig.26-19	-	3.6+α	-	-	-
	丸底杯		R-008	Fig.26-20	(16.0)	2.9+α	-	-	-

S-35

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-003	Fig.26-22	(8.4)	0.8	(7.6)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.26-23	(10.0)	1.3	(8.6)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.26-24	(10.2)	1.15	(7.6)	○	○
	丸底杯a	ヘラ	R-006	Fig.26-25	(16.0)	3.2	-	○	-

S-45

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯a		R-001	Fig.26-29	-	2.55+α	-	-	-

黒褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-011	Fig.28-1	7.8	1.6	5.0	-	-
	小皿a	イト	R-003	Fig.28-2	(8.6)	1.2	(7.0)	-	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.28-3	(9.0)	1.6	(6.8)	-	-
	小皿a+b	イト	R-004	Fig.28-4	-	0.9+α	6.8	-	○
	杯a	イト	R-001	Fig.28-5	(12.0)	2.9	(7.4)	○	○

黒色砂

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿b	イト	R-001	Fig.28-13	(6.8)	1.15~1.8	4.4	-	-

暗茶褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯a	イト	R-001	Fig.28-14	-	1.9+α	(7.0)	-	-

茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.28-15	(7.6)	1.0	(6.6)	-	-
	小皿a	イト?	R-003	Fig.28-16	(8.0)	1.2	(6.4)	-	-
	杯a	イト	R-001	Fig.28-17	15.2	2.6	8.6	○	-
瓦器	椀c		R-004	Fig.28-18	-	1.3+α	(7.0)	-	-

明茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿b	イト	R-001	Fig.29-30	(7.0)	1.7	(4.9)	-	-
	杯a	イト	R-002	Fig.29-31	(12.0)	1.9	(8.4)	-	-
	杯a	イト	R-003	Fig.29-32	12.1	1.6~1.95	8.5	○	-

5、第 79 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字観世音寺字露切 106、107-1、107-2（現在．観世音寺 1 丁目 64）である。

1988（昭和 63）年 5 月から、当該地における埋蔵文化財の取り扱いについての問い合わせが始まり、1988（昭和 63）年 10 月 28 日、調査対象地にトレンチを 3 ヶ所設定したところ、南側の 2 つのトレンチでは遺構が確認できず、氾濫原であることが判明したため、遺構が確認された北側のみ発掘調査することとなった。調査期間は 1988（昭和 63）年 10 月 28 日～ 11 月 11 日で、調査・遺物選別は緒方俊輔が担当した。対象面積 252.33 ㎡、調査面積 61.5 ㎡である。

なお、今回の調査は、調査精度・記録が不十分という状況での報告となっている。

(2) 基本層位（Fig.32）

最上面に耕作土が 0.4m 程あり、その下に真砂土（厚さ 0.2m）があり、旧耕作土と床土（厚さ 0.2m）を除去すると灰白色砂層で遺構が確認できる。なお、南端のトレンチについては耕作土の下に真砂土が 1m 程盛土されていて、灰白色砂層まで深さ 1.8m あり、北側との高低差は約 1m あり、御笠川の影響を大きく受けている。

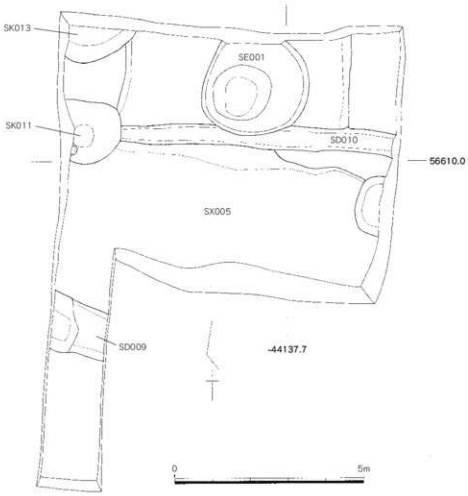


Fig.31 第 79 次調査遺構全体図（1/100）

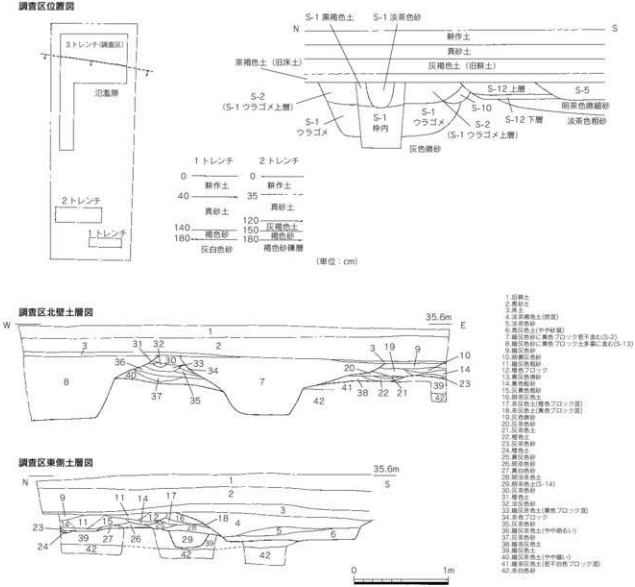


Fig.32　第79次調査　調査区位置図・土層実測図（1/40）

(3) 検出遺構

溝

79SD009

検出範囲が狭いが、やや斜行した東西方向の溝である。幅1.25～1.5m、深さ0.1～0.2m。

79SD010

検出長7.2mの東西溝で調査区外へと続いている。幅0.4～0.6m、深さ0.1～0.22mで東に向かって下がっている。振れはE-2°　52′　28″-S。記録が不十分で明確に言い難いがSD014はSD010の下層と推測される。

井戸

79SE001（Fig.33）

調査当初はSE001とSX002は別遺構とみられていたが、遺構北側の調査区北壁土層を観察したところ、SX002はSE001の裏込めと判明したと記録が残る。この井戸の調査記録は不十分で写真や記録がほとんどなく検証が難しい状況だが、残された僅かな記録からSE001に関係した遺構であるように思え

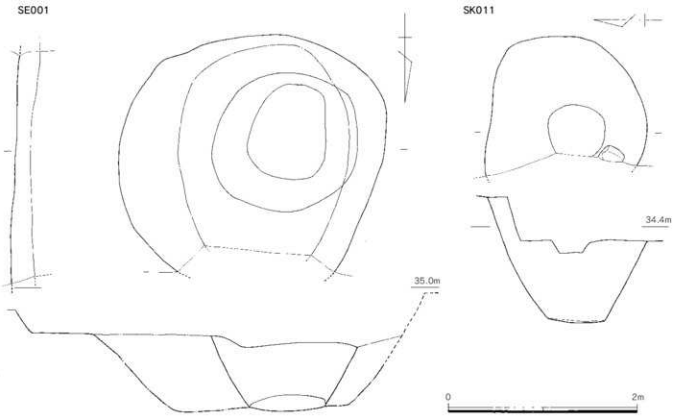


Fig.33　79SE001、SK011 遺構実測図（1/40）

る。しかし、土層と検出状況の略図とでは特に西側が大きく異なっており、これらの規模や堆積状況から SX002 全てが SE001 と関係あるとするには疑問が残る。

以上のような状況の中、SX002 については、土層で見る限り、SE001 の一部を含んでいることは間違いないため、SE001 裏込め上層として報告する。しかし、切り合い違いや別遺構の確認ミスの可能性があり、他の遺構を一緒に掘っている可能性は捨てきれない。

掘り方は、東西 4.35m、南北 2.5m 以上で、北側が調査区外へと続き、南側は SX005 に切られている。遺構検出時にすでに径 1.5m の井戸枠痕とみられる淡茶色砂が検出された。淡茶色砂の下には黒褐色土となるが井戸枠材は残存していなかった。上述した淡茶色砂の周囲を、SX002 として掘り下げると、深さ 0.5m 前後で中央付近に東西 2.8m、南北 2.5m 以上、深さ 0.59m の掘り方が検出された。遺構検出面から最深まで 1.1m と浅く、調査担当者は井戸と記録しているものの、中世井戸にしては掘り方が非常に大きいこと、そして、井戸にしては浅いことから土坑である可能性も考えられる。

79SK011（Fig.33）

南北 1.65m、東西 1.45m 以上、深さ 1.34m。西側は調査区外へと続く。埋土は粘質土である。

79SK013

調査区北西隅にあり、東西 1.88m 以上、南北 0.95m 以上、深さ 0.71m。床土直下で検出され、埋土は暗灰色砂に黄色ブロック土を多量に含む。

段落ち

79SX005

SX012 が堆積した後、SX002 が掘られ、その後その SX002 を削り込み堆積した堆積層である。最上層は段落ちの灰褐色土で調査され、上層は茶色味を帯びた土、下層は明茶色微砂である。

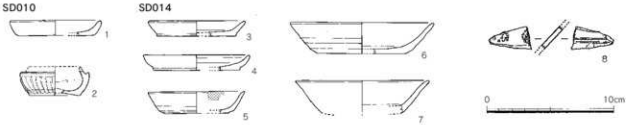


Fig.34　79SD010・014 出土遺物実測図（1/3）

79SX012

SX005 の下層で検出された堆積層で、北側の一部を SX002 に切られている。

(4) 出土遺物

溝

79SD010 出土遺物（Fig.34）

土師器

小皿 a（1）　復元口径 7.2 ㎝、底部切り離しは回転糸切り。

青白磁

合子身（2）　外面を蓮弁状につくり、内外面ともややくすんでいる光沢のある淡水色釉を施し、受け部と外面底部は露胎。

79SD014 出土遺物（Fig.34）

土師器

小皿 a（3、4）　復元口径は 7.6 ㎝と 8.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

小皿 b（5）　復元口径 7.6 ㎝で、底部切り離しは回転糸切り。口縁部に煤が付着する。

坏 a（6）　復元口径 11.4 ㎝で、底部切り離しは回転糸切り。

白磁

皿（7）　Ⅸ-1b 類。全面施釉し、口縁端部内面の釉を掻き取る。

高麗青磁

椀（8）　内外面とも深い緑灰色で、外面に圏線、内面に花文状の白色象嵌を施す。

井戸

79SE001

79SE001 淡茶色砂出土遺物（Fig.35）

土師器

坏 a（1）　復元口径 13.0 ㎝。底部切り離しは回転ナデで板状圧痕を残す。

79SE001 黒褐色土出土遺物（Fig.35）

土師器

小皿 a（2 ～ 4）　2･3 の復元口径 8.0 ㎝と 8.6 ㎝。4 は底径が小さく 4.8 ㎝。底部切り離しは回転ナデ。

白磁

皿（5）　Ⅸ-1c 類。

青白磁

小椀（6）　復元口径 8.0 ㎝。光沢のある明緑灰色釉を施し、口縁端部の釉を拭き取る。

79SE001 枠内出土遺物（Fig.35）

須恵質土器

鉢（7）　口縁端部が断面三角形を呈する。東播系。

瓦類

平瓦（8）　大きな格子に葉脈のような文様を入れる。

79SE001 裏込め上層出土遺物（Fig.35）

土師器

小皿 a（9 ～ 13）　復元口径 8.0 ～ 9.9 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

小皿 b（14）　復元口径 8.6 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。口縁部には煤が付着する。

坏 a（15）　復元口径 14.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

瓦器

椀（16）　復元口径 16.0 ㎝。内外面ともミガキ c で、内面は摩滅が目立つ。

土師質土器

鉢（17）　内面はヨコハケ、外面は摩滅が目立ち、煤が点在する。

須恵質土器

鉢（18 ～ 20）　口縁部は 18・19 が若干肥厚させ、20 は断面三角形状に肥厚させる。東播系。

瓦質土器

鉢（21 ～ 23）　内外面ともハケ調整だが、22 はヨコナデ調整。

中世国産陶器

甕（24、25）　24 の胎土は白色砂粒や黒色粒を少量含み、断面は褐灰色を呈し、内外面は鈍い赤褐色や暗緑色を呈する。口縁端部は折り曲げ肥厚させる。東海系。25 は白色砂粒を含み内外面とも茶褐色を呈する。内外面ともヨコナデで外面には菱形状の押印文を施す。

白磁

皿（26）　Ⅸ-b 類。復元口径 10.3 ㎝。口縁端部は釉を拭き取り煤が付着する。

青白磁

合子身（27）　復元底径 4.8 ㎝。外面に連弁を施し、緑灰白色釉を施釉するが、受け部と外面下半は露胎である。

龍泉窯系青磁

椀（28）　鎬蓮弁に明オリーブ灰色釉を厚く施す。Ⅲ-2C 類。

高麗青磁

壺（29）　胎土は灰褐色で、外面は光沢のある明オリーブ灰色釉で、白色と黒色の象嵌を施す。内面は回転ナデで露胎。

石製品

石鍋（30、31）　滑石製。31 は低く小さな鍔を削り出す。全体的に使用により摩滅する。

79SE001 裏込め出土遺物（Fig.36）

土師器

小皿 a（32 ～ 37）　復元口径 8.0 ～ 9.0 ㎝、底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（38）　復元口径 14.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

瓦器

椀 c（39）　断面三角形の低い高台を貼付する。復元高台径 6.0 ㎝。内外面とも摩滅するがミガキが僅かに残る。

須恵質土器

鉢（40）　東播系。

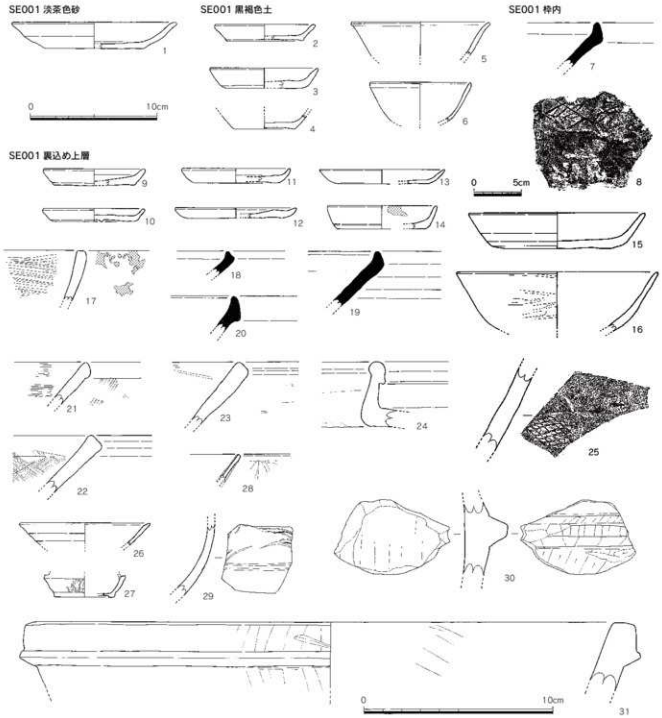


Fig.35　79SE001 出土遺物実測図①（1/3、瓦類は 1/4、石製品は 1/2）

瓦質土器

鉢（41）　内外面ともハケ調整。色調は灰白色を呈する。

擂鉢（42）　外面はハケの後ナデ調整。内面はヨコハケの後に擂り目を施す。

中世国産陶器

甕（43、44）　43 は口縁端部を折り曲げ丸く肥厚させる。胎土は黒色粒や白色粒を含み粗目である。外面は褐灰色を呈する。備前焼。44 の胎土は白色砂粒を多く含み、色調は内外面とも茶褐色で、断面は黒灰色を呈する。内面は横方向の工具ナデ、外面はナデの後一部平行叩きを施す。

石製品

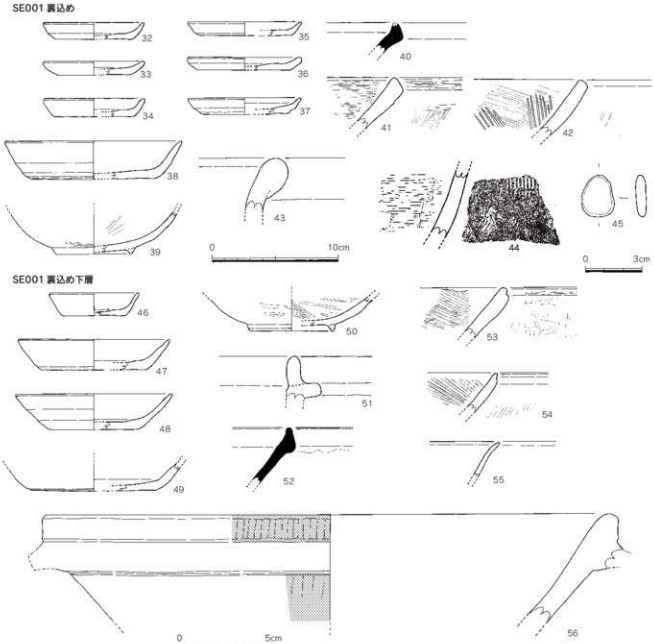


Fig.36　79SE001 出土遺物実測図②（1/3、石製品は 1/2）

平玉石（45）　大きさは 1.2 × 1.7 cm、厚さ 0.55 cm。色調は黒色を呈する。

79SE001 裏込め下層出土遺物（Fig.36）

土師器

小皿 b（46）　復元口径 7.1 cm、底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（47 ～ 49）　復元口径 12.0 cmと 12.4 cm。底部切り離しは回転糸切り。

瓦器

椀 c（50）　内外面ともミガキ c を施す。復元高台径 6.6 cm。

土師質土器

釜（51）　鍔の下半や口縁部は煤が付着する。

須恵質土器

鉢（52）　口縁部は断面三角形を呈する。端部外面のみ暗灰色を呈する。東播系。

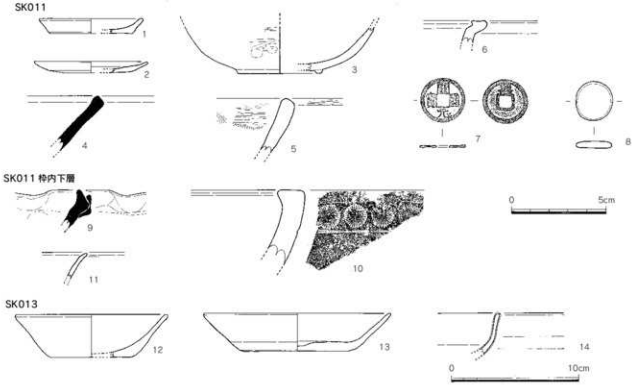


Fig.37　79SK011・013 出土遺物実測図（1/3、金属製品・石製品は 1/2）

瓦質土器

鉢（53、54）　口縁端部外面に沈線を施す。55 は内面ハケの後斜めハケ、外面はハケの後ナデ調整。56 は内外面ともハケ調整。

白磁

椀（55）　Ⅸ類。口縁端部内面の釉を拭き取る。

石製品

石鍋（56）　復元口径 30.4 ㎝。外面には煤が付着し、内面は使用により摩滅している。滑石製。

土坑

79SK011

79SK011 出土遺物（Fig.37）

土師器

小皿 a（1、2）　底部切り離しは、1 が回転糸切り。2 が回転ヘラ切り。

瓦器

椀 c（3）　底部を押し出し、内外面ともミガキ c を施すが、内面は単位不明瞭である。

須恵質土器

鉢（4）　ほとんど肥厚せず口縁部に至る。色調は灰色で、口縁部のみ暗灰色を呈する。

瓦質土器

鉢（5）　外面はヨコナデ、口縁部と内面はハケ調整。

灰釉陶器

壺（6）　小片で全形が不明瞭。内外面に黄色味がかった灰緑色釉を施し、貫入が入る。

金属製品

銭貨（7）　表に「開元通寶」、裏に「興」。径 2.5 ㎝。鋳造地は山南道興州。

石製品

平玉石（8）　大きさは2.1×1.95㎝、厚さ0.35㎝。色調は暗灰色を呈する。

79SK011 枠内下層出土遺物（Fig.37）

須恵質土器

鉢（9）　片口鉢で、口縁端部を肥厚させる。東播系。

瓦質土器

火鉢（10）　外面には2条の沈線間に花文スタンプを施す。

白磁

皿（11）　Ⅸ類。

79SK013 出土遺物（Fig.37）

土師器

坏a（12、13）　底部切り離しは回転糸切り。復元口径は12.0㎝と14.8㎝である。

龍泉窯系青磁

椀（14）　明淡緑色釉を厚く施し、貫入が入る。Ⅳ類。

段落ち

79SX005

79SX005 最上層出土遺物（Fig.38）

土師器

小皿a（1）　復元口径8.7㎝。底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

坏a（2）　復元口径11.0㎝。底部切り離しは回転糸切り。

土師質土器

鍋（3）　口縁部近くで屈曲させ、若干内湾しながら口縁部に至る。体部内面はヨコハケ。

龍泉窯系青磁

壺もしくは瓶（4）　胎土は淡灰色で、外面と内面上半部には光沢のある薄い黄緑色釉を施す。外面には断面円形の耳のようなものを貼付する。

79SX005 出土遺物（Fig.38）

須恵器

壺（5）　復元底径6.2㎝。底部は回転糸切り。内外面とも回転ナデで、内面底面はナデ調整。篠窯。

土師器

小皿a（6、7）　復元口径は8.8㎝と9.4㎝。底部切り離しは回転糸切り。

小皿aもしくは小皿b（8）　復元底径4.2㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏a（9～13）　復元口径11.0～13.0㎝。底部切り離しは回転糸切り。13の底部は若干厚底となっている。

須恵質土器

鉢（14、15）　東播系。14の内面は使用により平滑である。

甕（16）　胎土は微細な砂粒を含み、灰色を呈する。外面は小さな格子叩き、内面は同心円の当て具痕をナデ消している。産地不明。

瓦質土器

鉢（17、18）　口縁部に向かって肥厚させ、内面ヨコハケ。17の外面はタテハケの後ナデ調整。18はナデ調整で指頭圧痕が残る。

龍泉窯系青磁

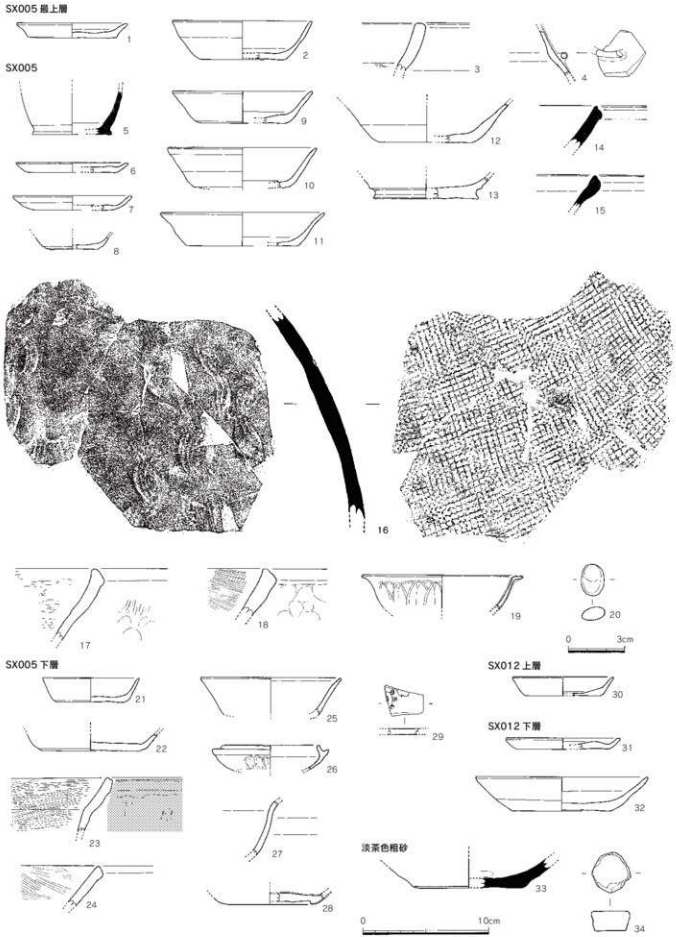


Fig. 38　79SX005、淡茶色粗砂出土遺物実測図（1/3・石製品は 1/2）

坏（19）　Ⅲ-4類。青緑色釉を厚く施す。

石製品

平玉石（20）　大きさは1.2×1.7㎝、厚さ0.7㎝。色調は黒色を呈する。

79SX005 下層出土遺物（Fig.38）

土師器

小皿b（21）　復元口径7.6㎝、底部切り離しは回転糸切り。

坏a（22）　底部切り離しは回転糸切り。

土師質土器

鍋（23）　口縁部を若干屈曲し外反させる。内面はヨコハケ。外面には厚く煤が付着する。

瓦質土器

鉢（24）　外面はナデ、内面はハケ調整。

白磁

皿（25）　Ⅸ-1c類。復元口径11.2㎝。

青白磁

合子身（26）　復元口径7.7㎝。外面には蓮弁を削り出し、内外面に淡青灰色釉を施すが、受け部と外面下半は露胎である。

龍泉窯系青磁

椀（27）　Ⅳ類。口縁部を外反させる。やわらかな光沢のある緑黄色釉を施し、貫入が入る。

坏（28）　Ⅳ類。内外面とも明緑灰色釉を施し、碁笥底の内面には露胎部分がある。

輸入染付

皿（29）　明染。胎土は白灰色を呈する。内面には藍色釉で文様を描く。

79SX012

79SX012 上層出土遺物（Fig.38）

土師器

小皿b（30）　復元口径8.0㎝、底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

79SX012 下層出土遺物（Fig.38）

土師器

小皿a（31）　復元口径9.0㎝、底部切り離しは回転糸切り。

坏a(32)　復元口径13.6㎝､体部は大きく外開きする。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

堆積層

淡茶色粗砂出土遺物（Fig.38）

須恵質土器

鉢（33）　底部外面は回転糸切り。内面は使用によりやや平滑となる。復元底径9.0㎝。

瓦類

瓦玉（34）　大きさは3.0×3.1㎝、厚さ1.35㎝。

整地層

黄茶色砂出土遺物（Fig.39）

土師器

小皿a（1）　復元口径9.0㎝、底部切り離しは回転糸切り。

小皿b（2）　復元口径7.4㎝、底部切り離しは回転糸切り。

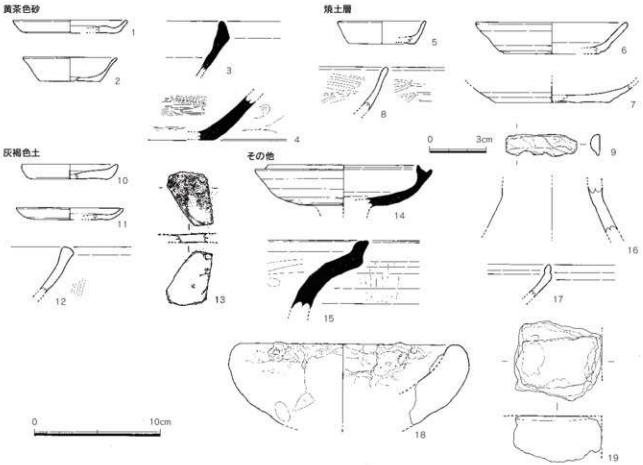


Fig.39 第79次調査 整地層、土層、その他の出土遺物実測図（1/3、9は1/2）

須恵質土器

鉢（3、4） 3は口縁部が断面三角形をなし、内外面とも回転ナデ。4は外面ナデ、内面ヨコハケ。底部は板状圧痕を残す。

焼土層出土遺物（Fig.39）

土師器

小皿b（5） 復元口径7.0㎝、底部切り離しは回転糸切り。

坏a（6、7） 底部切り離しは回転糸切り。6は復元口径12.0㎝、7は体部を大きく外開きする。

瓦器

椀（8） 内外面にミガキcを施す。

金属製品

棒状製品（9） 現存長3.3㎝、幅1.15㎝、厚さ0.5㎝。銅製で全体的に緑青が付く。

その他の土層

灰褐色土出土遺物（Fig.39）

土師器

小皿a（10、11） 復元口径7.6～8.4㎝、底部切り離しは回転糸切り。

土師質土器

鉢（12） 色調は淡茶色を呈する。外面にタテハケのような痕跡が残る。

輸入染付

椀もしくは皿（13） 藍色釉で内面に花文、外面に文字が書かれている。

その他の出土遺物（Fig. 39）

須恵器

高坏(14)　復元口径 12.0 ㎝。体部下半には細かいカキ目もしくはヘラケズリである。SK013 より出土。

大甕 b（15）　外面はタテハケの後ヨコナデ。内面は回転ナデ調整。色調は淡灰色を呈する。SX001(SX002) より出土。

緑釉陶器

壺（16）　胎土は土師質で白灰色を呈する。内外面に淡黄緑色釉を施す。黄茶色砂より出土。

縄文土器

浅鉢（17）　胎土は砂粒を少量含み、黒色や灰白色を呈する。口縁部は折り曲げ、外面は沈線状の窪みが一条巡る。内外面とも摩滅し調整不明。SD010 より出土。

土製品

トリベ（18）　復元口径 18.0 ㎝。内面は溶解する。試掘調査で出土。

鋳型（19）　胎土は砂粒を少量含み、籾殻痕が多くみられる。片面には真土とみられる細かい砂が 2 層残る。試掘調査で出土。

(5) 小結

今回の調査は、古代の遺物は含まれるものの、遺構・整地層も最終埋没時期が全て 14 世紀以降であった。整地以下の堆積層も同じような時期であることから、14 世紀に土地を大きく削平するような氾濫があり、その直後に整地され土地利用がなされたことが窺える。その後も御笠川の氾濫は繰り返されたようで、調査以前の田圃の畦畔にも氾濫原をあらわすような不規則な地割が残され、調査地南半部の確認調査でも遺構が流され、砂層の堆積が確認されている。

また、調査地は井上条坊案の 5 条路の推定ラインに位置する。上述のように古代に遡る遺構は確認されていないが、東西溝の SD010 が掘られているように、中世になっても条坊の区画を踏襲する地割とその意識が残っていたことを物語るものである。

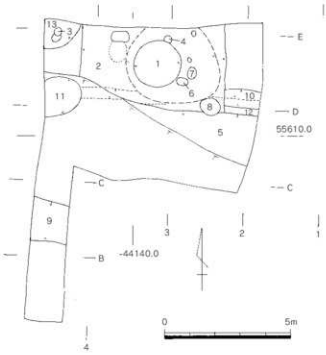


Fig. 40　第 79 次調査 遺構略測図（1/150）

表 9　第 79 次調査　遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土等	時期	地区
1	79SE001	井戸	S-10→1→5	14世紀前半	DE2・3
2	79SX001 (79SX002)	井戸と窪み	S-2→5　SE001の裏込め上層	14世紀前半	DE2～4
3		ピット		中世	E4
4		ピット		中世	D3
5	79SX005	段落ち	S-12→2→5。最上層は段落灰褐色土で調査。上層は茶色味を帯びた土、下層は明茶色微砂	14世紀前半～	C2～3
6		ピット		中世	D2
7		ピット		中世	D2
8		窪み		中世	D2
9		溝		14世紀～	B4
10	79SD010	溝	S-12→10→2	14世紀？～	D2
11	79SK011	土坑	井戸の可能性がある。	14世紀～	D4
12	79SX012	段落ち	上層・下層に分かれる。S-12→2→5	14世紀？～	D1・2
13	79SK013	土坑		14世紀～	E4
14	79SD010	溝	S-10の下層のことか？	14世紀～	
黄茶色砂		整地？	S-2が切り込む層で、S-2の東西に残存する整地?層。	14世紀～	Dライン
焼土層		整地？	黄茶色砂の下層。検出範囲不明瞭。	14世紀～	
淡茶色粗砂		堆積層	S-5の下層にある堆積層。堆積範囲不明瞭。	14世紀～	
灰褐色土		旧耕土			

表 10　第 79 次調査 条坊関連遺構座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向 (m)	Y方向 (m)	
79SD010	西端中点	56610.736	-44142.077	-91.148	679.599	E-2° 52′ 28″ -S
	東端中点	56610.376	-44134.907	-91.436	686.772	

表 11　第 79 次調査　出土遺物一覧表①

S-1赤茶色土

須恵器	破片
土師器	坏、坏a×小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)
瓦器	破片
中世国産陶器	甕
白磁	碗破片IX(2)
青白磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-4(1)、III-2C(1)
中国陶器	壺(3)、中国陶器破片(1)
石製品	滑石片

S-1暗内

須恵器	甕?
土師器	坏a(ⅰ)、椀c、破片
土師質土器	破片
須恵質土器	鉢(東播系)
中世国産陶器	甕
白磁	椀：IV-1(2)、IV-1a(1)　皿破片(1)　白磁破片(1)
中国陶器	盤(1)　中国陶器破片（C群(1)、破片(1)
瓦器	椀：平瓦(格子)、丸瓦(無文)
金属製品	鉄片
石製品	石鏃

S-1黒褐色土

須恵器	甕
土師器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、破片
須恵質土器	鉢
白磁	碗皿：IX-1c(1)、IX-2(1)　白磁破片蓋口(1)
青白磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：III-2C(1)
金属製品	鉄片
石製品	石鏃

S-1クラズメ

須恵器	転用硯
土師器	小皿a(ⅰ)、坏a(ⅰ)、椀c、器台
瓦器	椀c
土師質土器	破片
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢、擂鉢
中世国産陶器	甕(東海系)
中国陶器	可盆(1)　中国陶器破片(3)
石製品	平瓦(格子)
金属製品	鉄片
石製品	砥石、滑石片、硯石

S-1クラズメ下層

須恵器	甕、破片
土師器	小皿a、小皿b、坏a(ⅰ)、破片
瓦器	椀c
土師質土器	鍋、釜
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢、破片
白磁	椀：IV-2)、IV-1a(1)、IX-1)、破片(1) 皿：II-1b×2(1)　底部(2)
龍泉窯系青磁	椀：I-1)、II-b(1)、II-c(1)　龍泉皿破片(1)
同安窯系青磁	椀：I-1(1)　皿：I-1b(1)　同安破片(1)
中国陶器	壺(2)　盤II-1-1)　中国陶器破片(1)
瓦器	椀：平瓦(格子)、丸瓦(無文)
金属製品	鉄片
石製品	石鏃

S-2赤色土（S-1裏込めと上層）

土師器	小皿×坏a(ⅰ)、坏
中世国産陶器	甕
同安窯系青磁	椀：I-1)、I-1b(1)

S-2（S-1裏込めと上層）

須恵器	甕、鉢A、鉢4、坏a、壺、大甕b、壺、破片
土師器	皿C-皿a(ⅰ)、小皿b(ⅰ)、坏、坏a(ⅰ)、椀c
製塩土器	焼塩壺
黒色土器B類	椀
瓦器	椀、椀c
土師質土器	鍋×大鍋、鍋、鉢、破片
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甕(東海系)
白磁	椀：II-1)、IV-(2)、V-(1)、V-1×VII-1×3(1)、破片(2)、広東系(1) 皿：II-1a(1)、IX-1b(1)、破片(1) 底：III-2)、破片(1) 白磁破片：口縁外反(1)、IX-(1)、内面櫛目(1) 広東系(1)、破片(1)
青白磁	破片(2)　合子身(2)
龍泉窯系青磁	椀：I-2(1)　皿：I-1(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-1(3)、I-1c(1)、I-2(2)、II-b(4)、III-2C(2)、III-C(1) 皿：I-1(1)、I-1b(1)　龍泉破片(1)
同安窯系青磁	椀：I-1(1)、I-1b(1)、I-1c(1)
高麗青磁	盤(1)
中国陶器	鉢(1)　壺(2)　中国陶器破片(2) 盤：I-2(1)、I×II(3)、破片(1)
瓦器	平瓦(格子、無文)、丸瓦(無文)、瓦玉
金属製品	鉄片
石製品	石鏃、硯石、平玉石、丸石

S-3

土師器	坏a(ⅰ)、破片

S-4

土師器	破片
金属製品	鉄片

段落（灰褐色土（S-5除上層）

須恵器	甕、壺
土師器	小皿a(ⅰ)、小皿b(ⅰ)、坏a(ⅰ)、丸底坏?、燈籠瓦
瓦器	椀
土師質土器	鍋
須恵質土器	鉢(東播系)、壺
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甕(常滑)、壺
白磁	椀：V(1)、V-4(1) 皿：V-VII(1)、VI-1(1)、IX(1)、XI-3?(1) 底皿(1)　白磁破片(2)、内面櫛目(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-2(3)　皿×椀(1)　龍泉破片蓮弁(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(1)　皿：I-2b(1)
中国陶器	盤(1)　盤II-1-1)
瓦器	椀：平瓦(無文)
金属製品	鉄片

S-5

須恵器	甕、壺、破片
土師器	小皿a(ⅰ)、小皿a×b、坏、坏a(ⅰ)、丸底坏?、丸底坏a、椀
黒色土器A類	破片
瓦器	椀c、破片
土師質土器	鉢、鍋?、甑?
須恵質土器	鉢(東播系)、壺
瓦質土器	甕、鉢、擂鉢
中世国産陶器	甕(常滑)
白磁	椀：II-1(1)、IV-1a(1)、V-3(2)、V-1×VII-2(3) V-4×VII-1×3(1)、破片(2) 皿：V-VII(1)、底II-1(1) 壺：III-1) 白磁破片：(8)、広東系(2)、内面櫛目(1)
龍泉窯系青磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-1(2)、I-2(1)、II-a(1)、II-b(1) 坏：III-4a-1)　龍泉破片(2)
同安窯系青磁	椀：I-1(1)、I-1a(1)、I-1b(2) 皿：I-1(1)、I-2b(1)
中国陶器	鉢(1)、壺(2)、中国陶器破片(2)
黒釉陶器	天目椀(1)
瓦器	平瓦(格子、菱格子)、丸瓦(格子)、瓦玉
金属製品	鉄片
石製品	滑石加工品、平玉石

S-5下層

土師器	小皿a(ⅰ)、小皿b(ⅰ)、坏、坏a(ⅰ)、椀c、 高坏×器台、燈籠
瓦器	破片
土師質土器	破片
須恵質土器	破片
瓦質土器	鉢、破片
中世国産陶器	甕
白磁	椀：II-1(2)、IV(4)、IV-1a(2)、V-4×VII-1×3(3) V(1)、XI?(1)、 皿：IV-2(1)、VI-1a(2)、V～VII(1)、IX-1c(1)、IX-2(1) 底皿(1)　白磁破片内面櫛目(1)
青白磁	合子身(1)
染付（輸入）	皿?
龍泉窯系青磁	椀：I-1a(1)、I(1)、I-2(1)、II-a(1)、II-b(4) II-2C(1)、IV(1) 坏：IV-1)　龍泉破片(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(3) 皿：I-1(1)、I-1b(1)、III-a?(1)
中国陶器	壺：IV-1(1)、破片(3) 盤(2)、盤II-1-1)
瓦器	椀：平瓦(格子)
金属製品	鉄片
石製品	石鏃

S-6

土師器	坏a(ⅰ)、破片

S-7

土師器	坏、坏a

S-8

土師器	坏a(ⅰ)、丸底坏?、破片
中国陶器	破片(2)

S-9

土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c
須恵質土器	鉢
中世国産陶器	甕
白磁	皿：VI-1b(1)、IX-1(1)
同安窯系青磁	皿：I(1)

表 11　第 79 次調査　出土遺物一覧表②

S-10

須恵器	器	壺
土師器	器	小皿a(1)、坏、坏a(5)
土師質土器	器	破片
須恵質土器	器	鉢、破片
白磁	器	碗、破片(1)
青白磁	器	合子身(1)
龍泉窯系青磁	器	碗：Ⅱ-b(1)
中国陶磁	器	盤：Ⅱ-1(1)
國文土器	器	浅鉢
瓦	類	丸瓦、塼?
金属製品		鉄淳

S-11

須恵器	器	蓋?、破片
土師器	器	小皿a(1)、ｽﾀﾝﾌﾟ、小皿b?、坏、坏a(1)、甕、鍋類
黒色土器A類	器	椀c
瓦	器	椀、椀c
須恵質土器	器	鉢(東播系)
瓦質土器	器	鉢
瓦釜陶器	器	竈
中世国産陶器	器	甕
須恵質(輸入)		朝鮮系無釉陶器
白磁	器	椀：Ⅰ-5(1)、Ⅳ-1a(1)、破片(1) 皿：Ⅱ-1b(1)、Ⅵ(1)、Ⅵ-1a(1)、破片(1) 白磁破片(4)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ(1)、Ⅱ(2)、Ⅱ-b(1)　龍泉破片(2)
同安窯系青磁	器	皿：Ⅰ-1(1)
中国陶磁	器	鉢：Ⅰ-1b(1)、破片(1) 盤Ⅲ-1(1)　中国陶器破片(4)
瓦	類	平瓦(無文)、丸瓦(無文)
金属製品		銅銭、鉄片?
石製品		砥片(黒曜石)、平玉石
土製品		焼土塊

S-11枠内

須恵器	器	壺
土師器	器	小皿a(1)、坏、坏a(1)、椀c
土師質土器	器	鉢
瓦質土器	器	鉢?
中世国産陶器	器	甕
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ(1)

S-11枠内下層

須恵器	器	壺
土師器	器	小皿a(>?)、坏、丸底坏、盤×大皿
須恵質土器	器	鉢(東播系)
瓦質土器	器	鉢、火鉢
白磁	器	皿：Ⅸ-1c(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ-2(1)、Ⅱ-b(1)　皿：Ⅰ-1b(1)
瓦	類	丸瓦(無文)
金属製品		鉄淳

S-12上層

須恵器	器	坏
土師器	器	小皿b(1)、坏a(1)
中世国産陶器	器	甕
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅱ-b(1)
石製品		丸石

S-12下層

土師器	器	小皿a(1)、坏a(1)、甕類
白磁	器	椀：Ⅵ-1a(1)、皿(1)　白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ-2(1)、Ⅱ-2(1)
中国陶磁	器	破片(2)
瓦	類	平瓦(「亀格子」)

S-13

須恵器	器	品坏、破片
土師器	器	坏a(1)
瓦	器	椀
白磁	器	椀：Ⅳ(2)、Ⅳ-1a(1)、Ⅴ(1)、広東系(1)、破片(1) 皿：Ⅵ-1b(1)　白磁破片(3)
青白磁	器	合子(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ-2(1)、Ⅱ-a(1)、Ⅱ-b(3)、Ⅳ(1)　龍泉破片(1)
同安窯系青磁	器	椀：Ⅰ-2b(1)、Ⅰ-3(1)
中国陶磁	器	盤：Ⅰ-2b(1)、Ⅰ×Ⅱ(1)　水注Ⅲ～Ⅴ(1)　陶器破片(1)
瓦	類	破片

S-14

須恵器	器	壺
土師器	器	小皿a(1)、坏、坏a(1)、甕
瓦	器	椀
土師質土器	器	鉢
須恵質(輸入)		破片
白磁	器	皿：Ⅵ-2(1)、Ⅸ-1b(1)　白磁破片Ⅸ(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅱ-2C(1)
同安窯系青磁	器	椀：Ⅰ-1b(1)
高麗青磁	器	象嵌(1)
中国陶磁	器	甕(1)　中国陶器破片(2)
瓦	類	平瓦(格子(大))、丸瓦(格子、無文)
金属製品		鉄淳
土製品	器	焼土塊

灰褐色土

須恵器	器	坏、坏身、甕
土師器	器	小皿a(1)、坏a(1)、坏c、丸底坏a、甕類
瓦	器	椀c、椀
土師質土器	器	鉢
須恵質土器	器	鉢、破片
中世国産陶器	器	甕
白磁	器	椀：Ⅳ-1a(1)、Ⅴ(1)　皿：Ⅸ-1(1)　白磁破片Ⅸ(1)
青白磁	器	合子身(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ-1a(1)、Ⅰ-2(1)、Ⅰ-2×3(1)、Ⅱ-b(1)
同安窯系青磁	器	椀：Ⅰ-1(1)、Ⅲ-1(1)
中国陶磁	器	盤(1)　中国陶器破片(1)
瓦	類	平瓦、丸瓦(格子)

黄茶色砂

須恵器	器	蓋、蓋?、椀c、坏c、甕、破片
土師器	器	小皿a(1)、小皿b(1)、小皿c、坏a(1)、椀c、甕類
瓦	器	椀、破片
土師質土器	器	破片
須恵質土器	器	鉢(東播系)、鉢?
瓦質土器	器	鉢、盤
中世国産陶器	器	甕
白磁	器	椀：Ⅳ-1a(1)、Ⅴ(1)、広東系(1)　白磁広東系破片(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅱ-b(1)
同安窯系青磁	器	椀：Ⅰ-1b(2)
中国陶磁	器	四耳壺(1)　壺(1)　盤Ⅱ(1)
瓦	類	平瓦(鐵甘、格子)
石製品		砥破片?、紡石
土製品	器	焼土塊
その他		江化木

焼土層

須恵器	器	壺
土師器	器	小皿a(1)、小皿b(1)、坏、坏a(1)、把手
瓦	器	椀
土師質土器	器	鉢?
瓦質土器	器	鍋?
緑釉陶器	器	椀c?皿
白磁	器	椀：Ⅴ(1)　皿：Ⅸ-2(1)、破片(1)　白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	器	破片Ⅱ(1)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ(1)、Ⅰ-1(1)、Ⅰ-1a(1)、Ⅱ-b(1)
中国陶磁	器	壺(2)
瓦	類	丸瓦(格子、無文)
金属製品		鉄片、鉄釘、用途不明銅製品

淡茶色粘砂

須恵器	器	甕、破片
土師器	器	小皿a(?)、坏a(1)、丸底坏
瓦	器	椀
須恵質土器	器	鉢
須恵質(輸入)		朝鮮系無釉陶器
中世国産陶器	器	甕(東海系) 椀：Ⅱ(1)、Ⅳ(2)、内底沈線(1)、破片(1)
白磁	器	皿：Ⅳ(1)、破片(1) 白磁破片(5)、Ⅸ(1)
青白磁	器	破片(2)
龍泉窯系青磁	器	椀：Ⅰ(1)、Ⅰ-2(1)、Ⅱ-b(1)
同安窯系青磁	器	椀：Ⅰ-1b(1)　皿：Ⅰ-1(1)
韓国・同安窯系青磁		印花?(1)
中国陶磁	器	水注(1)　中国陶器破片(1)
瓦	類	平瓦(格子、無文)、丸瓦(格子、無文)、瓦玉
金属製品		鉄淳
土製品		輪羽口

排土

須恵器	器	壺
土師器	器	小皿a(1)、坏、坏a、坏a×小皿a(1)
瓦	器	椀
龍泉窯系青磁	器	皿破片(1)
瓦質土器	器	鉢
瓦	類	平瓦(燻し瓦)、丸瓦(格子)

試掘表土

須恵器	器	壺
土師器	器	坏a(1)、椀、甕類
瓦質土器	器	甕?
瓦	類	丸瓦(格子)、破片
土製品		トリベ、塼

表 12　第 79 次調査　土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：**板状圧痕**

S-1淡茶色砂

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	M_a	イ	R-001	Fig.35-1	(13.0)	2.1	(8.1)	○	○

S-1黒褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-002	Fig.35-2	(9.0)	1.3	(3.2)	○	○
	小皿a	イ	R-002	Fig.35-3	(8.6)	1.6	(7.0)	×	×
	小皿a	イ	R-003	Fig.35-4	—	1.1+α	(4.8)	○	○

S-1ウワゴメ

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-007	Fig.36-32	(8.6)	1.3	(6.2)		
	小皿a	イ	R-003	Fig.36-33	(8.0)	1.1	(5.8)	○	○
	小皿a	イ	R-005	Fig.36-34	(8.0)	1.45	(6.5)		×
	小皿a	イ	R-006	Fig.36-35	(9.0)	1.1	(7.8)	—	—
	小皿a	イ	R-004	Fig.36-36	(9.6)	1.0	(7.4)	—	×
	小皿a	イ	R-001	Fig.36-37	(9.0)	1.3	(7.6)	—	×
	M_a	イ	R-008	Fig.36-38	(14.0)	3.0	(10.6)	—	○
瓦器	椀c		R-009	Fig.36-39	—	3.2+α	(6.0)		

S-1ウワゴメ下層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿b	イ	R-003	Fig.36-46	(7.1)	1.8	(5.0)	○	×
	M_a	イ	R-003	Fig.36-47	(12.0)	2.4	(8.8)	—	○
	M_a	イ	R-002	Fig.36-48	(12.4)	2.8	(7.0)	○	×
	M_a	イ	R-004	Fig.36-49	—	2.1+α	(6.0)	○	○
瓦器	椀c		R-010	Fig.36-50	—	2.6+α	(6.6)		

S-2 (S-1ウワゴメ上層)

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-009	Fig.35-8	(8.6)	1.3	(6.5)	○	
	小皿a	イ	R-003	Fig.35-10	(8.1)	1.0	(7.6)	○	○
	小皿a	イ	R-002	Fig.35-11	(8.6)	1.15	(6.8)		
	小皿a	イ	R-023	Fig.35-12	(9.6)	0.8	(7.2)	○	○
	小皿a	イ	R-023	Fig.35-13	(8.9)	1.1	(7.5)	○	○
	小皿b	イ	R-008	Fig.35-14	(9.6)	1.65	7.0		
	M_a	イ	R-010	Fig.35-15	(14.0)	1.85	(8.0)	○	○
瓦器	椀		R-024	Fig.35-16	(16.0)	3.6+α			

S-5

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-001	Fig.36-6	(8.8)	0.8	(7.6)	○	
	小皿a	イ	R-008	Fig.36-7	(9.4)	1.15	(6.8)	○	
	小皿a×小椀b		R-009	Fig.36-8		1.0+α	(4.2)	○	○
	M_a	イ	R-003	Fig.36-9	(11.0)	2.5	(6.2)	○	
	M_a	イ	R-011	Fig.36-10	(11.6)	3.2+α	(7.6)	○	○
	M_a	イ	R-010	Fig.36-11	(13.8)	2.25	(8.8)	○	
	M_a	イ	R-002	Fig.36-12		2.0+α	(7.4)	○	
	M_a	イ	R-012	Fig.36-13		1.1+α	(6.2)	○	○

S-5下層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿b	イ	R-006	Fig.36-21	(7.6)	1.95	(5.0)	○	
	M_a	イ	R-007	Fig.36-22		1.6+α	(7.0)	○	

S-10

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-001	Fig.34-1	(7.2)	1.2	(6.2)		

S-11

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-006	Fig.37-1	(8.2)	1.2	(6.6)		—
	小皿a	ハラ	R-005	Fig.37-2	(9.0)	0.9	(6.8)	○	—
瓦器	椀c		R-001	Fig.37-3		3.0+α	(6.6)		

S-12上層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-001	Fig.38-30	(8.0)	1.4	(6.0)	○	○

S-12下層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-001	Fig.38-31	(9.6)	0.9	(7.2)	○	—
	M_a	イ	R-002	Fig.38-32	(13.6)	2.7	(7.8)	○	○

S-13

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	M_a	イ	R-001	Fig.37-12	12.0	3.4	(6.4)		
	M_a	イ	R-002	Fig.37-13	14.8	3.0	(9.0)	○	○

S-14

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-003	Fig.34-3	(7.6)	1.2	(6.2)	○	×
	小皿a	イ	R-004	Fig.34-4	(8.4)	1.2	(6.8)	○	×
	小皿b		R-005	Fig.34-5	(7.4)	1.7	(5.1)		
	M_a	イ	R-005	Fig.34-6	(11.4)	2.45	(7.2)	○	×

調茶色砂

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-002	Fig.39-1	(9.0)	1.05	(7.6)	○	
	小皿b	イ	R-001	Fig.39-2	(7.4)	1.9	(4.8)	○	—

橙土層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-001	Fig.39-5	(7.8)	1.8	(5.2)		
	M_a	イ	R-003	Fig.39-6	(12.0)	2.5	(7.6)		○
	M_a	イ	R-002	Fig.39-7	—	1.45+α	(9.0)		○
瓦器	椀		R-004	Fig.39-8	—	3.3+α	—		

灰褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-003	Fig.39-10	(7.6)	1.2	(6.0)	○	○
	小皿a	イ	R-004	Fig.39-11	(8.4)	0.95	(6.8)	○	

段落灰褐色土(S-5上層)

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ	R-001	Fig.38-1	(8.7)	1.2	(7.0)	○	○
	M_a	イ	R-002	Fig.38-2	(11.0)	3.1	(6.8)		○

6、第 109 次調査

(1) 調査に至る経緯

太宰府市大字観世音寺（現在，観世音寺１丁目）字五反田 230-3、232-2、249-2、249-3、249-15 で、県道を挟んだ北側に学校院跡がある。

調査地については、1990（平成 2）年 6 月より、共同住宅建設に伴う文化財の取り扱いについて協議が行われ、同年 11 月 7 日に保護法 57 条 2 の 1 項の届出があった。調査地は遺構面が浅く、保存が見込まれないため、開発者の商栄協立株式会社による費用負担のもと発掘調査を実施することとなった。調査期間は 1991（平成 3）年 5 月 16 日～6 月 21 日で、調査は主に緒方俊輔が担当した。調査対象面積 328.03 ㎡、調査面積 173.7 ㎡。

(2) 基本層位（Fig.42）

盛土の下には旧表土があり、その下に茶灰色砂の床土があり、その下に薄い茶褐色土、暗茶灰褐色土

Fig.41　第 109 次調査遺構全体図（1/150）

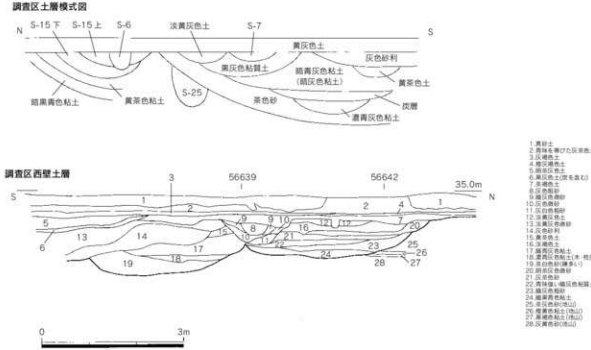


Fig. 42　第 109 次調査基本土層図、調査区西壁土層実測図 (1/80)

があり、その下で最上面の遺構が検出された。

調査区は、調査区の南側 1/3 付近から地形が下がっていて、その堆積過程の中で 3 面の遺構面が確認されているが、堆積状況は水平堆積ではなく、粘土と砂が複雑に堆積し、整地というより氾濫などの自然堆積を繰り返す中で、遺構面が形成されている。なお、地山は茶灰色砂と灰黄色砂に薄い粘土層が挟まる互層である。

(3) 検出遺構

調査区は、調査区の南側 1/3 付近から地形が下がっていて、その堆積過程の中で 3 面の遺構面が確認された。最上層から 1 面、2 面、3 面として報告する。なお、北側で確認された遺構は第 1 面で報告する。

○第 1 面

溝

109SD007

東西方向ではあるが若干蛇行する溝で、両端とも調査区外へと続いている。幅 0.75 ～ 1.5m、深さ 0.25m 前後である。

109SD010

東西方向の溝で両端とも調査区外へと続いている。幅 0.6 ～ 1.06m、深さ 0.1m 前後。振れは W-7° 43′ 46″ -N である。

井戸

109SE006 (Fig. 43)

掘り方は東西 1.32m、南北 1.54m、深さ 0.9m の円形で、底面近くでは曲物痕とみられる円形の埋土が検出された。

109SE020 (Fig. 43)

掘り方の大きさは検出面で径 1.1m 以上、深さ 0.25m 付近では径 0.72m の円形となり、その底部近くでは曲物が遺存していた。曲物は井戸底に格子叩きの瓦と礫を置き、その上に据えていた。深さは検出面から 1.15m である。

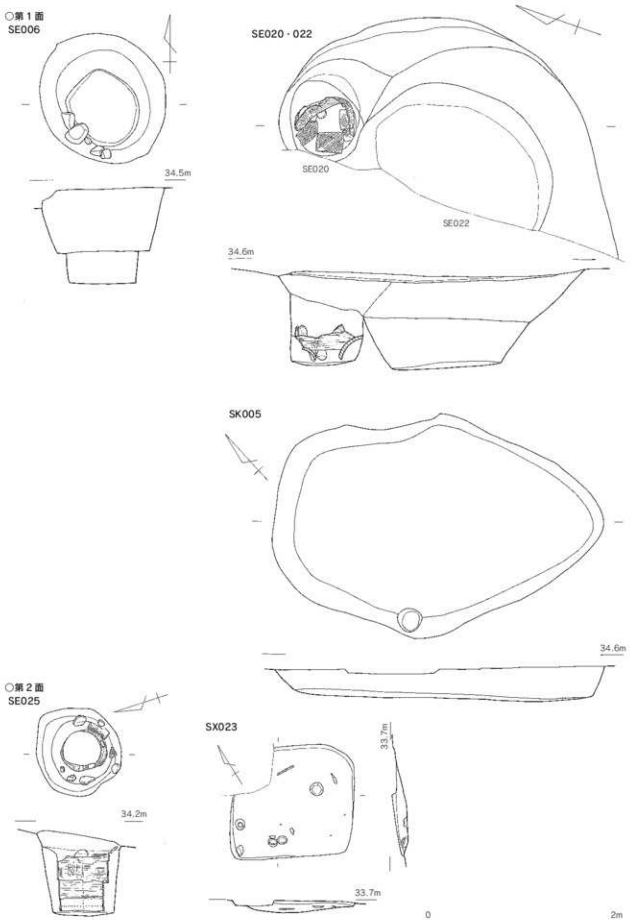


Fig. 43　109SE006・020・022・025、SX023 遺構実測図（1/40）

109SE022（Fig.43）

調査区端で検出され、西側調査区外に続いている。大きさは南北3.0m、東西1.9m、深さ1.09mの円形状の土坑で、井戸枠は確認されていないが、井戸と推測される。SE020を切って掘り込んでいる。

土坑

109SK005（Fig.43）

大きさは3.4×2.5m、深さ0.3m前後の楕円形土坑である。

○第2面

井戸

109SE025（Fig.43）

径0.9m、深さ0.86mの円形掘り方で、中央に曲物が2段積まれている。曲物の下段は径0.46m、高さ0.32m。残りが悪く割れが激しい。上段は径0.52m、高さ0.26mで、一部縦方向に板材や杭を立て、その外側にも東半分に曲物が置かれていた。裏込めは暗黒灰色粘土であった。この曲物は、浄化装置として井戸底に据えられたもの、もしくは井戸枠として積まれた可能性も考えられる。

杭列

109SX030

調査区南側の流路底で確認された杭列で、木杭は13本で、列は成していないが、検出範囲は4mで、およそN-30°-Wの方位で点在し、その途中に木の根や横木も検出された。流路状の窪みの下端に沿うような配置を示しており、護岸補強として打ち込まれた可能性が高い。

その他の遺構

109SX023（Fig.43）

暗青灰色粘土と濃青灰色粘土の間で見つかった炭層で、検出範囲は11.8m×2.6m、深さ0.1mの方形である。土師器と木片とともに骨片が僅かに出土している。

○第3面

流路

109SX024

調査区南辺部で検出された。流路の方位はおよそN-51°-Wで、南東部が最も深く0.9mである。幅は8m以上である。埋土は砂層を中心とするが部分的に粘土層がみられる。

(4) 出土遺物

○第1面

溝

109SD007

109SD007 出土遺物（Fig.44）

土師器

椀（1、2） 口縁部を若干外反させる。内外面とも摩滅する。

椀c（3） やや高い高台を貼付する。

土製品

鋳型（4） 胎土は白色砂粒とスサ混じりで、内面に真土とみられる細かい砂が薄く残り、椀型の鋳型と推測される。

瓦類

平瓦（5） 二重格子叩き。

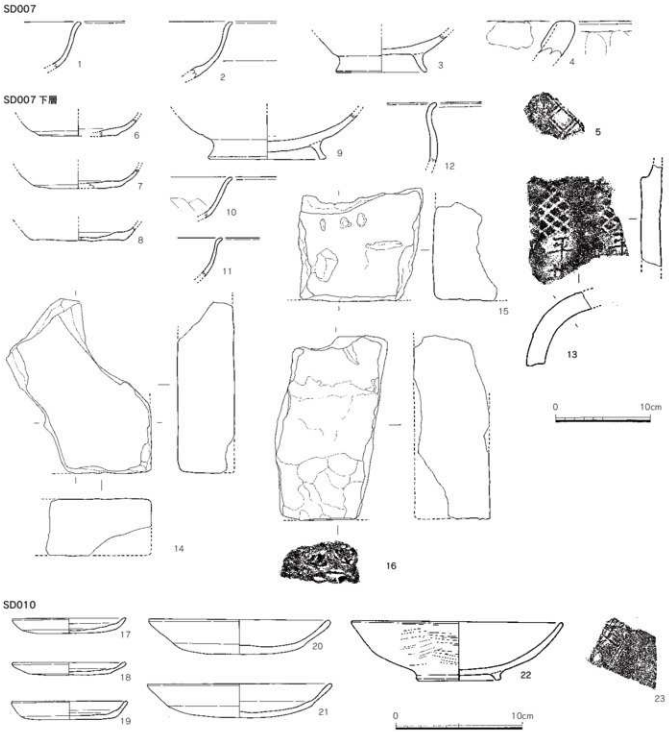


Fig. 44　109SD007・010 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4）

109SD007 下層出土遺物（Fig. 44）

土師器

坏 a（6 ～ 8）　底部切り離しは回転ヘラ切りである。6・7 は体部が若干丸味を持つ。

椀 c（9）

椀（10、11）　口縁端部は若干外反させる。10 の内面はミガキ b を施す。

黒色土器 A 類

甕（12）　外面はヨコナデで、内面は摩滅し調整不明。

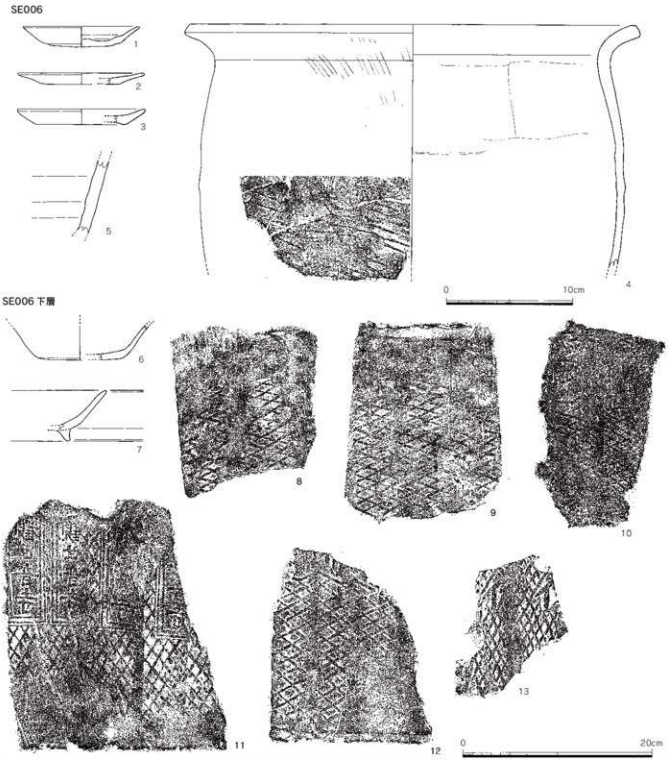


Fig.45　109SE006 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4）

瓦類

丸瓦（13）　陰文の格子叩きに「平井」の文字瓦。九歴分類 901E。

無文塼（14、15）　14 は厚さ 4.5 ㎝。内外面とも摩滅し、白灰色を呈する。15 は外面をケズリ調整し、焼成はやや不良で灰白色を呈する。

文様塼(16)　表裏とも摩滅が目立つが、側面に蓮華文様を残す。色調は淡黄橙色を呈する。厚さ 5.9 ㎝。

109SD010 出土遺物（Fig.44）

土師器

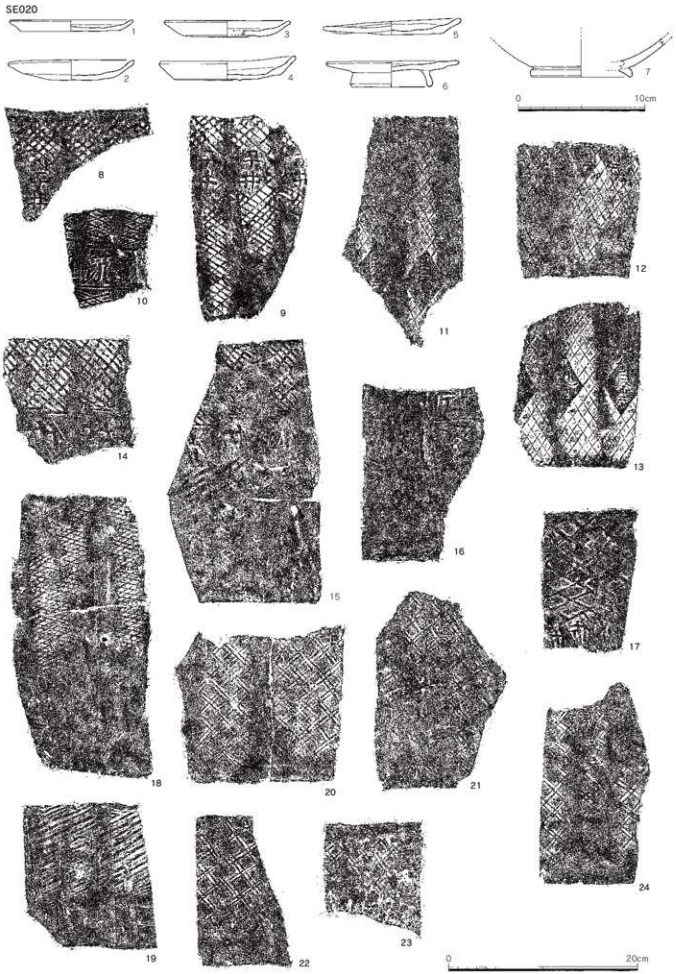


Fig. 46　109SE020 出土遺物実測図①（1/3、瓦類は 1/4）

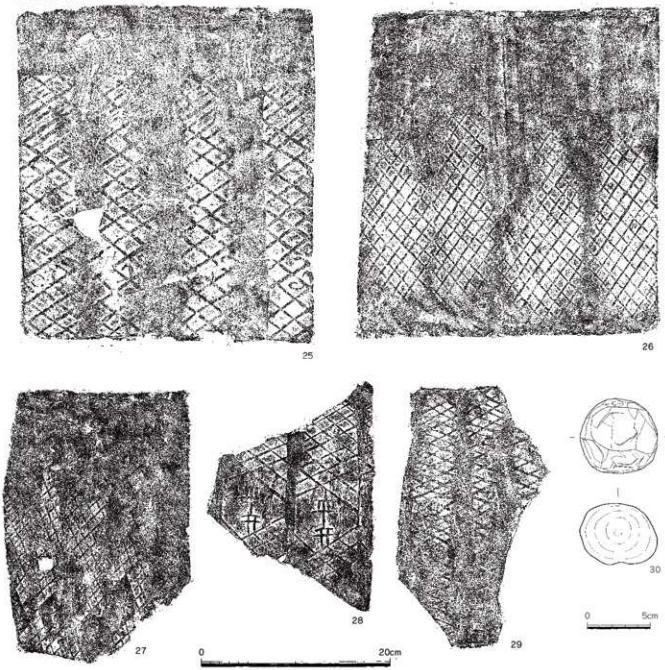


Fig. 47　109SE020 出土遺物実測図②（瓦類は 1/4、木製品は 1/3）

小皿 a（17 ～ 19）　復元口径 9.0 ～ 9.2 cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。

丸底坏 a（20、21）　復元口径は 14.3 cmと 14.6 cm。底部押し出しで、内外面とも摩滅する。

黒色土器 B 類

椀 c（22）　口径 16.7 cm、器高 4.65 cm。内外面ともミガキ c だが、全体的に摩滅が目立つ。

瓦類

平瓦（23）　二重格子叩きに「安」の文字瓦。九歴分類 904D。

井戸

109SE006 出土遺物（Fig. 45）

土師器

小皿 a（1 ～ 3）　復元口径 9.2 ～ 10.0 cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。1・2 は口径に対して底径

が普通に比べやや小さい。

甕（4）　復元口径 36.0 ㎝。体部上半部はタテハケ、下半は叩きを施す。内面はヘラケズリ。

陶器

壺もしくは鉢（5）　内面は回転ナデ、外面は化粧土と釉が混ざったような濁青色釉を施す。胎土は黄白色を呈する。輸入か国産か判別が難しい。

109SE006 下層出土遺物（Fig.45）

土師器

坏ａ（6）　平らな底部で、体部は若干外反する。全体的に摩滅する。

椀ｃ（7）　体部が直線的に外反する。

瓦類

平瓦（8 ～ 11）　8・9 は横長の格子叩き。10 は九歴分類 906c で、横長の格子叩きに四角囲いに「筑」の文字瓦。11 は九歴分類 905B で、四角囲いに「観世音寺」の左字の文字瓦。

丸瓦（12､13）　12 はやや大きめの格子叩き。13 は九歴分類 902A で､縦長格子叩きで「佐」の文字瓦。

109SE020

109SE020 出土遺物（Fig.46）

土師器

小皿ａ（1 ～ 5）　復元口径 9.75 ～ 10.9 ㎝。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

小皿ｃ（6）　復元口径 10.55 ㎝、器高 2.1 ㎝。

黒色土器Ｂ類

椀ｃ（7）　摩滅が目立ち調整不明。復元高台径 8.0 ㎝。

瓦類

丸瓦（8 ～ 24）　8・9 は「平井」の文字瓦。9 は九歴分類 901Gb。10 は四角囲いに「筑」の文字瓦。九歴分類 906c。11 ～ 13 は「賀茂」の文字瓦で、九歴分類 903G。14 ～ 17 は「佐」の文字瓦。14・15 は九歴分類 902Db。「佐」の左字。16 は九歴分類 902E。17 は九歴分類 902F。「佐」の左字。18 は細かい横長格子叩き。19 は平行叩き。20 ～ 23 は二重格子叩き。20・22 は「瓦」の文字瓦。24 は九歴分類 903A に似たもので「賀茂瓦」の文字瓦。

109SE020 井戸枠内出土遺物（Fig.47）

瓦類

平瓦（25 ～ 29）　25 は大きい格子叩き。長さ 35.5 ㎝、幅 31.0 ㎝。色調は茶褐色を呈する。26 は長さ 34.5 ㎝、幅 31.5 ㎝。色調は茶褐色を呈する。27 は「賀茂」の文字瓦。九歴分類 903G。28 は大きめの格子叩きに「平井」の文字瓦。九歴分類 901Ha。29 は横長のやや大きめの格子叩き。

木製品

木錘（30）　半分欠損し、幅 4.8 × 6.1 ㎝、残存長 5.9 ㎝。劣化しているが全面にうっすらとケズリ痕が残る。

109SE022

109SE022 上層出土遺物（Fig.48）

土師器

坏ａ（1）　口径 14.25 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

丸底坏ａ（2）　復元口径 15.2 ㎝。

瓦器

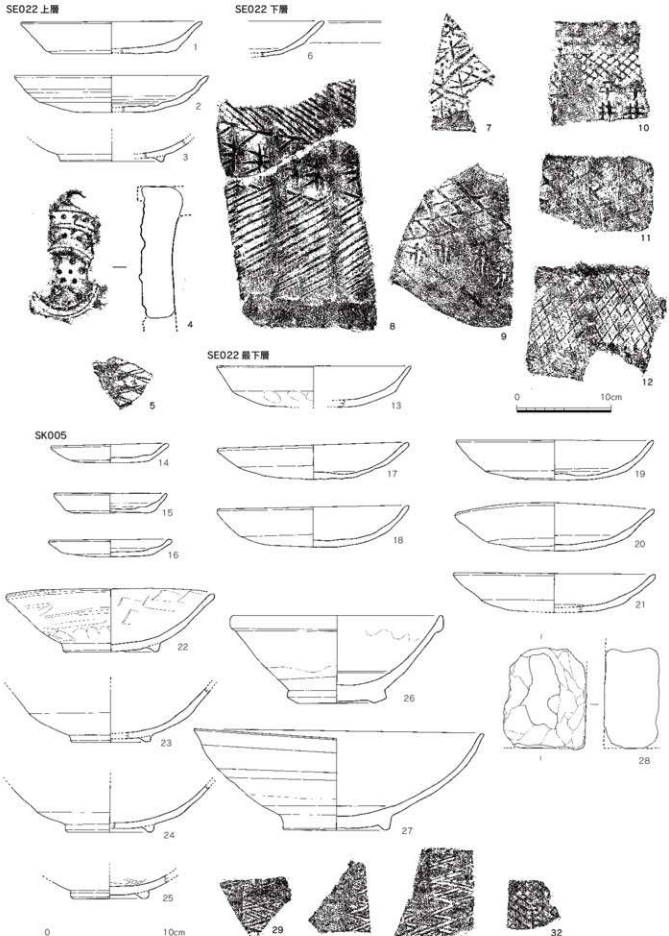


Fig.48　109SE022、SK005 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4）

椀ｃ（3）　復元高台径 8.2 ㎝。

瓦類

軒丸瓦（4）　中房の連子は 1+6+10、複弁とみられる。九歴分類 290B か。

平瓦（5）　横長の二重格子叩き。

109SE022 下層出土遺物（Fig.48）

土師器

丸底坏ａ（6）　内外面とも摩滅するが、外面底部にはヘラ切り痕が残る。

瓦類

平瓦（7）　大きな二重格子に＊を合わせた叩きである。

丸瓦（8 ～ 12）　8 は平行叩きに「未」の左字。九歴分類 914。9 は大きな格子叩きに「佐」の左字。九歴分類 902F。10 は「平井」の文字瓦。九歴分類 901Gb。11 は大きな格子叩き。12 は縦長格子叩きに「賀茂」の一部とみられる文字瓦。

109SE022 最下層出土遺物（Fig.48）

土師器

丸底坏ａ（13）　復元口径 15.4 ㎝。外面下半に指頭圧痕、内面にミガキｂを施す。

土坑

109SK005 出土遺物（Fig.48）

土師器

小皿ａ（14 ～ 16）　口径 9.3 ～ 9.8 ㎝。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

丸底坏ａ（17 ～ 21）　口径 15.2 ～ 16.0 ㎝。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕があり、底部を押し出す。全体的に摩滅が目立つ。20 は全体的に歪みが目立つ。

瓦器

椀ｃ（22 ～ 25）　低い高台を貼付する。22 は若干歪んでいるが復元口径 16.8 ㎝。外面は部分的にミガキｃ、内面はミガキｂを施す。23・24 もミガキを施すが摩滅が目立つ。

白磁

椀（26）　Ⅳ-1a 類。口径 16.6 ㎝、器高 6.9 ㎝。

鉢（27）　口縁部は若干歪みがある。Ⅱ-1 類。口径 23.0 ㎝、器高 7.2 ～ 7.6 ㎝。釉はやや緑色がかった灰白色を呈する。

瓦類

無文塼（28）　焼成やや不良で摩滅が目立つ。色調は淡灰色を呈する。

平瓦（29 ～ 31）　横長の二重格子叩きである。

丸瓦（32）　正格子叩きに「平」の文字瓦。

○第 2 面

井戸

109SE025

109SE025 井戸枠内出土遺物（Fig.49）

土師器

坏ａ（1 ～ 4）　復元口径 10.6 ～ 11.4 ㎝。底部切り離しは回転ヘラ切り。

椀ｃ（5、6）　やや丸味のある底部に高台を貼付する。高台径は 7.5 ㎝と 7.7 ㎝。

黒色土器Ａ類

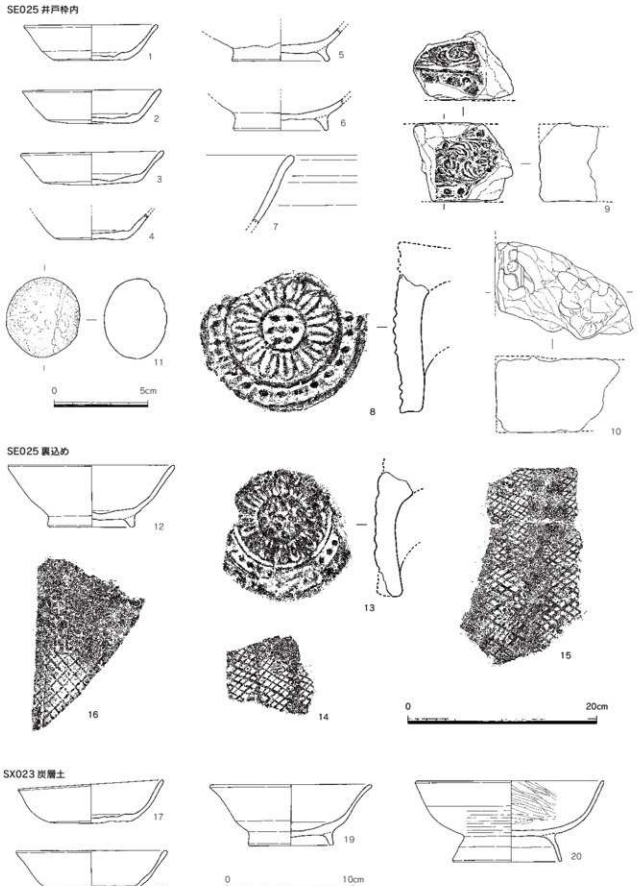


Fig. 49　109SE025、SX023 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、石製品は 1/2）

鉢（7）　内外面ともヨコナデ調整するが、ミガキは施されていない。

瓦類

軒丸瓦（8）　中房の連子は1+6で単弁蓮華文。外縁は素文である。九歴分類145。

文様塼（9、10）　9は上面と側面に蓮華文を施す。10は摩滅が目立つが、上面に珠文と文様がうっすらと確認できる。

石製品

丸石（11）　大きさ3.3～4.25㎝。明確に加工痕は確認できないが、自然石とは考えにくい。

109SE025 裏込め出土遺物（Fig.49）

土師器

椀ｃ（12）　復元口径13.2㎝。体部は直線的に外開きする。

瓦類

軒丸瓦（13）　摩滅が目立つが複弁で、中房の連子は1+4+8である。

丸瓦（14、15）　14は九歴分類918B。「四王」の文字瓦。15は九歴分類918B。「天」の文字瓦。

平瓦（16）　正格子叩きに「平井瓦」の文字瓦。九歴分類901B。

その他の遺構

109SX023 炭層土出土遺物（Fig.49）

土師器

坏ａ（17、18）　口径は11.4㎝と12.0㎝。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

椀ｃ（19）　若干丸い底部に高台を貼付する。復元口径12.8㎝。

黒色土器Ａ類

椀ｃ（20）　復元口径14.9㎝。丸味のある体部に薄く高い高台を貼付する。内外面とも回転ナデで、内面はミガキｃを施す。

○第３面

流路

109SX024

黄灰色土出土遺物（Fig.50）

土師器

皿ａ（1）　復元口径12.7㎝、大きく外開きする。内外面とも摩滅し調整不明。

黒色土器Ｂ類

椀（2）　復元口径16.0㎝。口縁端部を僅かに外反させる。摩滅が目立つが内面にミガキｃを施す。

緑釉陶器

椀ｃ（3）　低い高台を貼付する。復元高台径6.1㎝。胎土は土師質で、内外面とも淡緑色釉を施すが剥落が目立つ。防長産。

灰釉陶器

椀ｃ（4）　淡く緑色がかった釉を施す。復元高台径8.4㎝。

瓦類

無文塼（5）　厚さ5.9㎝。色調は淡黄橙色を呈する。表面は摩滅し調整不明。

石製品

石鍋（6、7）　滑石製の石鍋で、内外面に加工痕を残す。7はやや小さな石鍋。

淡黄灰色土出土遺物（Fig.50）

土師器

坏 a（8） 体部中位で若干屈曲する。復元口径 10.3 cm。

坏（9） 直線的な体部である。

椀（10） 体部は丸味があり、口縁部を僅かに外反させる。

椀 c（11、12） 高台径 7.2 cmと 7.7 cm。12 は底部に径 4.5 cm程の孔を穿つ。

緑釉陶器

椀（13） 削り出し高台で、復元高台径 6.6 cm。焼成良好で須恵質となる。体部内外面には薄い緑色釉を施し、やわらかい光沢を持つ。内面には重ね焼き痕が残る。

鉢（14） 鉢と推測したが、破片ゆえに明確に言い切れない。大きな径を持つ器種である。胎土は乳白色の土師質で、外面は平行叩きの後、内面は不定方向のナデの後に黄緑色釉を施す。

瓦類

軒平瓦（15） 瓦当は偏行唐草文で、上下外区に珠文を施す。凸面は不定形な格子叩き。

灰色砂利出土遺物（Fig.50）

土師器

椀 c（16、17） ハ字形の高台を貼付する。内面は摩滅し調整不明。16 は口径 14.2 cm。口縁端部を僅かに外反する。

椀 c もしくは丸底坏 c（18） 丸味のある坏部である。復元高台径 9.9 cm。

瓦類

無文塼（19） 全体的に摩滅する。色調は暗灰黄色を呈する。

平瓦（20、21） 20 は「佐瓦」の異体字とみられる文字が僅かに確認できる。九歴分類 902G。21 は欠損するが「□井瓦」の文字瓦。九歴分類 901B。

軒丸瓦（22） 蓮弁は単弁で、外縁素文。

丸瓦（23） 二重格子叩き。

黄茶色土出土遺物（Fig.50）

土師器

坏（24、25） 体部中位で若干丸味を持つ。

甕（26） 復元口径 11.4 cm。内外面とも摩滅し調整不明。

黒灰色粘質土出土遺物（Fig.51）

土師器

坏 a（27 ～ 35） 復元口径 10.6 ～ 14.0 cm。底部切り離しは回転ヘラ切りである。底部は平坦もしくは僅かに丸味を持つ。

皿 c（36） 復元口径 13.0 cm。底部は内外面ともナデ調整。

椀 c（37 ～ 39） 37 は直線的な体部。38・39 は若干丸味のある底部に高台を貼付する。

黒色土器 A 類

椀（40） 外面は摩滅するが、内面にはミガキ c が残る。

大皿 c もしくは鉢（41） 高台径 14.0 cm。底部外面は回転ヘラケズリ、内面は摩滅するが僅かにミガキが残る。胎土は淡赤橙色を呈する。

土製品

トリベ（42） 内面は被熱で溶解する。

瓦類

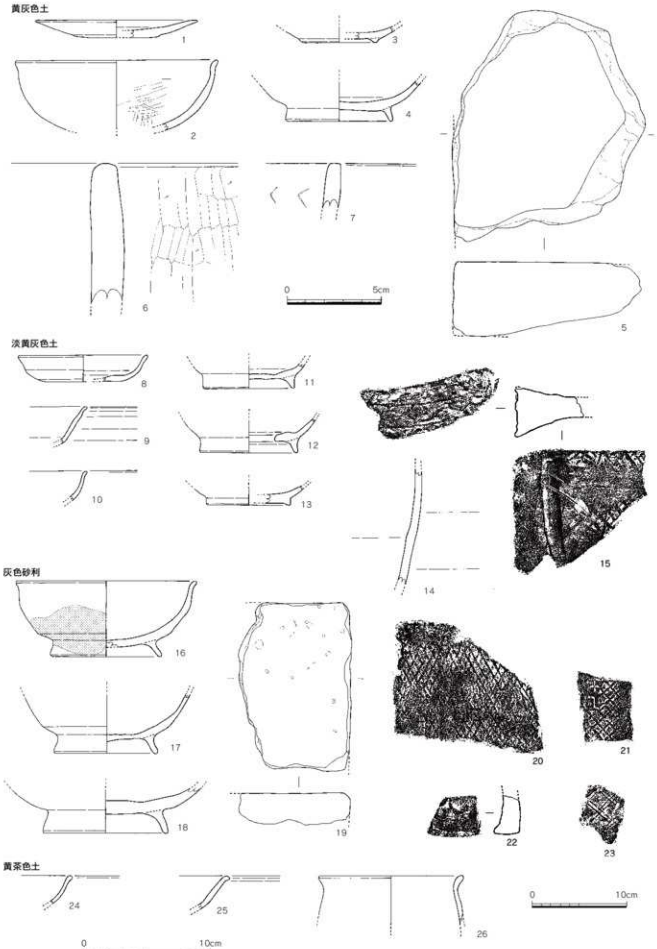


Fig. 50　第 109 次調査堆積層出土遺物実測図①（1/3、瓦類は 1/4、石製品は 1/2）

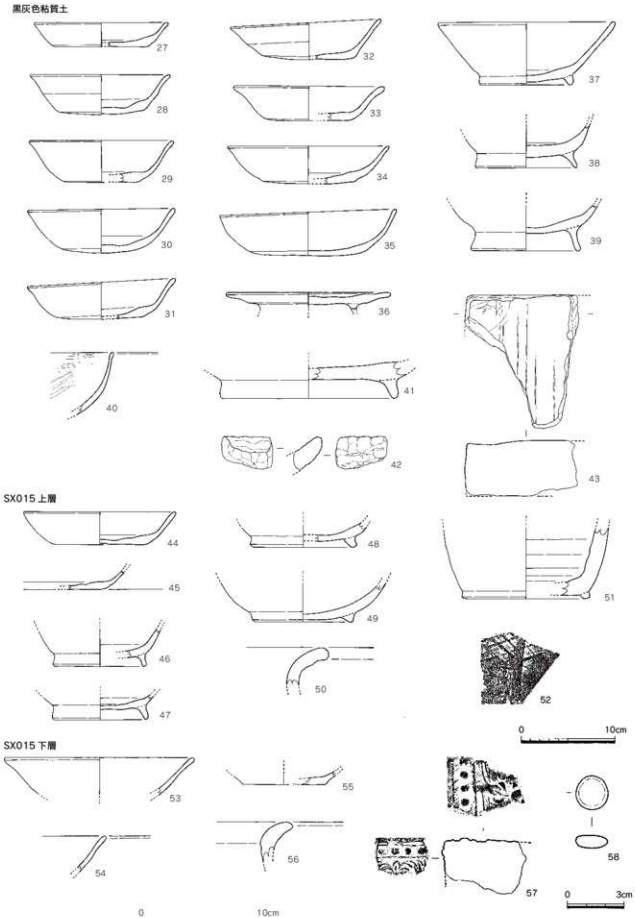


Fig. 51　第 109 次調査堆積層出土遺物実測図② (1/3、瓦類は 1/4、石製品は 1/2)

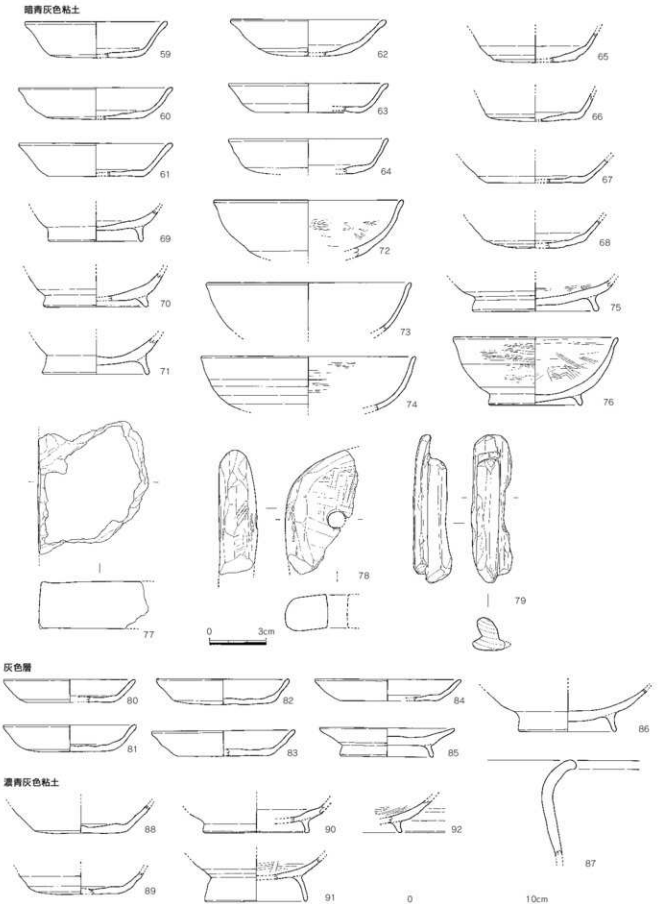


Fig.52　第109次調査堆積層出土遺物実測図③（1/3、石製品は1/2）

塼（43） 胎土は白色砂を多く含み、白灰色を呈する。内外面とも摩滅するが、側面に文様を施したような痕跡が見られる。

109SX015 上層出土遺物（Fig.51）

土師器

坏a（44、45） 44は復元口径11.9㎝。45の底部切り離しは回転ヘラ切り。

椀c（46～49） 46～48は若干丸味のある底部に高台を貼付する。49は丸味のある体部に断面三角形の低い高台を貼付する。

甕（50） 内外面ともヨコナデ調整。

灰釉陶器

壺（51） 高台径10.0㎝。胎土は黒色粒を多く含み灰色を呈し、外面に黒緑色釉が施される。内外面とも回転ナデ。

瓦類

平瓦（52） 横長の格子叩きで「平井」とみられる文字瓦。

109SX015 下層出土遺物（Fig.51）

土師器

坏（53、54） 直線的に外反する体部である。内外面とも摩滅し調整不明。

坏a（55） 底部を平坦に仕上げる。復元底径6.6㎝。

甕（56） 口縁部は若干肥厚する。全体的に摩滅し調整不明。

瓦類

文様塼（57） 側面と上面に珠文や蓮華文を施す。焼成良好で灰色を呈する。

石製品

平玉石（58） 大きさ1.8×1.7㎝、厚さ0.7㎝。色調は白色を呈する。

暗青灰色粘土出土遺物（Fig.52）

土師器

坏a（59～68） 低部は若干丸味を持つものが多い。底部切り離しは全て回転ヘラ切りで、板状圧痕を残す。色調は淡茶灰色などを呈する。復元口径11.3～12.6㎝。

椀c（69～71） 底部は若干丸味を持つ。復元高台径7.6～8.4㎝。

黒色土器A類

椀（72～74） 復元口径15.0～17.0㎝。外面回転ナデ、内面ミガキcを施すが摩滅が目立つ。

椀c（75） 復元高台径10.0㎝。内面ミガキcを施す。

黒色土器B類

椀c（76） 復元口径13.0㎝、器高5.35㎝。口縁部を僅かに外反させる。内外面とも細かいミガキcを施す。

瓦類

無文塼（77） 内外面ともナデ調整。色調は淡灰色を呈する。厚さ5.0㎝。

石製品

滑石加工品（78） 全面ケズリ整形され、細かく条痕が残る。中央に径1㎝の円孔を穿つ。厚さ2.0㎝。滑石製。

木製品

用途不明木製品（79） 長さ11.7㎝、幅3.2×3.0㎝。突起状に削り出しているが、全面劣化し加工

痕は不明瞭。

灰色層出土遺物（Fig.52）

土師器

坏ａ（80～84）　復元口径 10.4～11.4 ㎝。大きさからすると小皿との区別が難しい。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

小皿ｃ（85）　復元口径 10.6 ㎝。

椀ｃ（86）　丸味のある底部に、若干高い高台を貼付する。

甕（87）　摩滅が目立つが、外面下半は叩きか。

濃青灰色粘土出土遺物（Fig.52）

土師器

坏ａ（88、89）　底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕を残す。

椀ｃ（90）　若干丸味のある底部に、若干高めの高台を貼付する。

黒色土器Ａ類

椀ｃ（91、92）　２点とも外面は回転ナデ、内面はミガキを施す。91 は細く高い高台を貼付する。

灰色砂礫出土遺物（Fig.53）

瓦類

軒平瓦（93）　瓦当面は二重格子である。

文様塼（94）　厚さ 6.2 ㎝。摩滅するが上面にうっすらと珠文などの文様が残る。

茶白色砂出土遺物（Fig.53）

須恵器

大甕（95）　頸部に波状文を巡らす。焼成良好で灰色を呈する。

土師器

坏ａ（96、97）　96 は復元口径 11.0 ㎝。丸味のある底部であるが、器高が低い。97 は丸味のある底部である。

椀ｃ（98）　復元高台径 7.8 ㎝。

瓦類

軒丸瓦（99、100）　99 は単弁で、外縁鋸歯文で外区は珠文を巡らす。100 は単弁で、外縁素文で内縁は連珠文を巡らす。九歴分類 170A。

土製品

鞴羽口（101）　中央には径 2.3 ㎝程中空とする。先端は溶解し黒灰色に変色する。

茶色砂出土遺物（Fig.53）

土師器

坏ａ(102～104)　底部切り離しは回転ヘラ切り。102 は復元口径 11.6 ㎝。103 は丸味のある底部である。

椀ｃ（105、106）　僅かに丸味のある底部にややハ字形に高台を貼付する。

甕（107）　外面タテハケで、体部内面はヘラケズリである。

瓦類

平瓦（108、109）　108 はやや大きめの格子叩きに「大」の文字瓦。109 は二重格子叩き。

無文塼（110）　厚さ 5.6 ㎝。胎土は白色砂粒を多く含み、表面はナデ調整する。

黄茶色粘土出土遺物（Fig.54）

須恵器

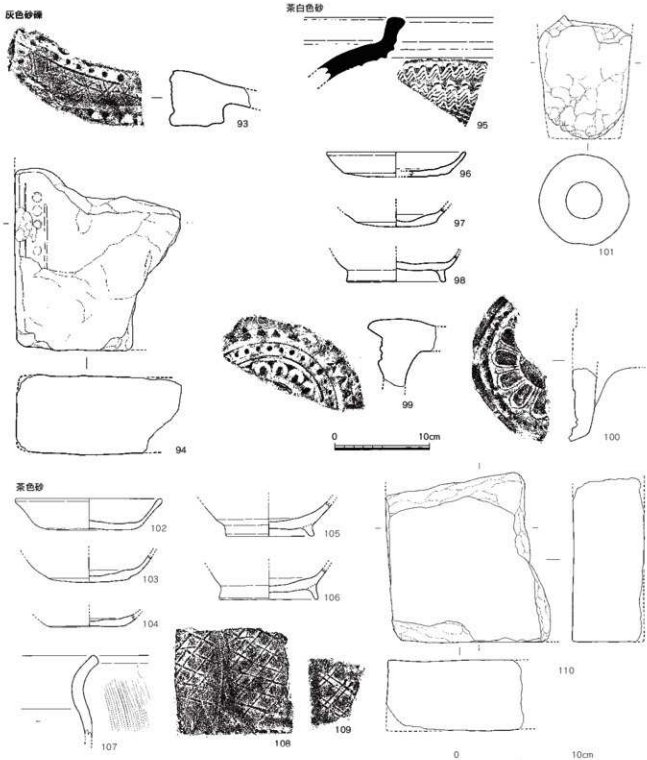


Fig.53　第 109 次調査堆積層出土遺物実測図④（1/3、瓦類は 1/4）

椀（111）　底部切り離しは回転糸切り。体部内外面は回転ナデ調整。篠窯。

土師器

坏 a（112 ～ 118）　復元口径 11.1 ～ 12.6 cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。体部と体部の境は若干丸味を持つ。

椀 c（119）　丸味のある底部に高台を貼付する。復元口径 13.2 cm。

黒色土器 A 類

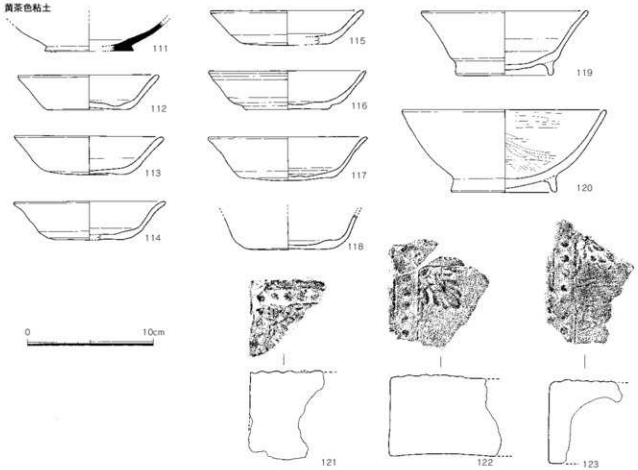


Fig.54　第109次調査堆積層出土遺物実測図⑤（1/3）

椀ｃ（120）　復元口径16.2㎝。外面は回転ナデ、内面はミガキｃを施す。

瓦類

文様塼（121～123）　上面に蓮華文を施し、側面はナデ調整。厚さは122が6.2㎝、123は6.4㎝。

暗黒青色粘土出土遺物（Fig.55）

須恵器

蓋３（124）　復元口径16.0㎝。外面上半部が回転ヘラケズリ。外面端部には重ね焼き痕を残す。

蓋４（125）　口縁端部内面に僅かに窪みが巡る。

坏ａ（126）　復元口径14.2㎝。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整。

坏ｃ（127）　底部端に高台を貼付する。

甕（128）　復元口径20.0㎝。口縁部内面には一部ミガキのような痕跡を残す。体部外面は小さな格子叩きで、内面は当て具痕を残す。

土師器

皿ａ（129）　復元口径12.8㎝。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

坏ａ（130～132）　復元口径11.0㎝。底部外面は、130が若干丸味を持つが、他は平坦に仕上げる。

脚付椀（133）　高い脚を貼付する。坏部内外面はヨコナデ。色調は橙色を呈する。

黒色土器Ａ類

鉢ｃ（134）　復元高台径11.4㎝。体部外面は回転ヘラケズリ、内面はミガキとみられるが、使用により平滑となる。色調は外面が橙色を呈する。

土製品

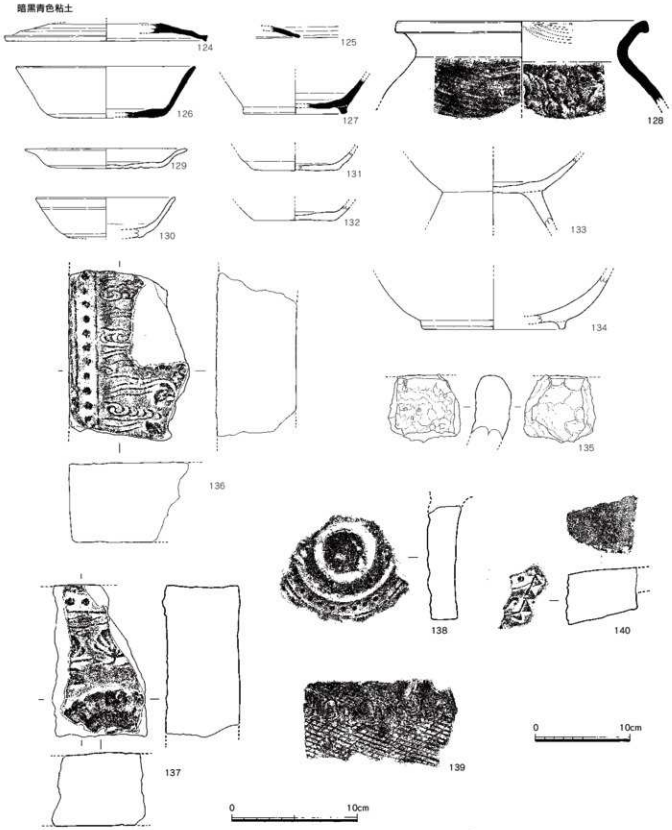


Fig.55　第 109 次調査堆積層出土遺物実測図⑥（1/3、瓦類は 1/4）

トリベ（135）　スサ入りの胎土で、内面は被熱で溶解する。

瓦類

文様塼（136、137）　136 は厚さ 6.3 ㎝。色調は黄白色を呈する。上面のみ文様を施す。文様は蔓唐

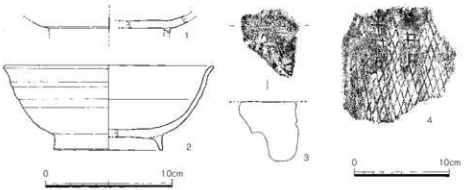


Fig.56　第 109 次調査その他の出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4）

草文の一部とみられる葉状文があり、周囲に水波文を配し、縁辺部に珠文を並べる。側面や裏面はケズリ整形する。137 は上面のみ文様を施す。文様は蓮華文とその周囲に蔓唐草文を施し、周囲に水波文を配し、縁辺部に珠文を並べる。側面や裏面はケズリ整形する。厚さ 6.1 ㎝。色調は灰色を呈する。

軒丸瓦（138）　中房や蓮弁は摩滅しほとんど残っていないが、珠文は巡る。

丸瓦（139）　小さな横長格子叩きと雲文を施す。

軒平瓦（140）　外区の鋸歯文と珠文が残る。

その他の出土遺物（Fig.56）

緑釉陶器

皿（1）　焼成は土師質で、内外面とも黄緑色に施釉する。表採。

灰釉陶器

椀 c(2)　復元口径 16.6 ㎝、器高 6.7 ㎝、復元高台径 8.6 ㎝。内外面とも回転ナデでうっすらと施釉され、内面底部は使用により平滑となる。SD008 より出土。

瓦類

文様塼（3）　摩滅が目立つが文様がうっすら残る。土師質に仕上げる。SX016 より出土。

丸瓦（4）　縦長格子叩きで「平井瓦」の文字瓦。九歴分類 901D。側溝内排土より出土。

(5) 小結

今回の調査では、北半分が比較的浅い位置で遺構が検出され、南側では氾濫原を基盤とした遺構を検出した。南側の氾濫原は、Ⅶ期（9 世紀中頃～後半）に埋没が始まり、自然堆積を重ねる途中でも遺構が掘削されていた。

今回の報告した現場の中では、日吉官衙域に最も近いのだが、官衙に関連するような遺構や遺物は確認されず、官衙域がこの地まで及んでいなかった可能性が高い。さらに日吉官衙の廃絶時期と氾濫原の埋没開始時期が一致しており、このような河川の氾濫が日吉官衙廃絶の遠因になった可能性もあり得る。

検出された遺構の時期は、9 ～ 12 世紀前半までで、それ以降の動きは全く確認できない。政庁廃絶後、観世音寺や太宰府天満宮、五条周辺など太宰府における活動域が東に移っていく中、この付近はほとんど土地利用がなされなかったと推測される。

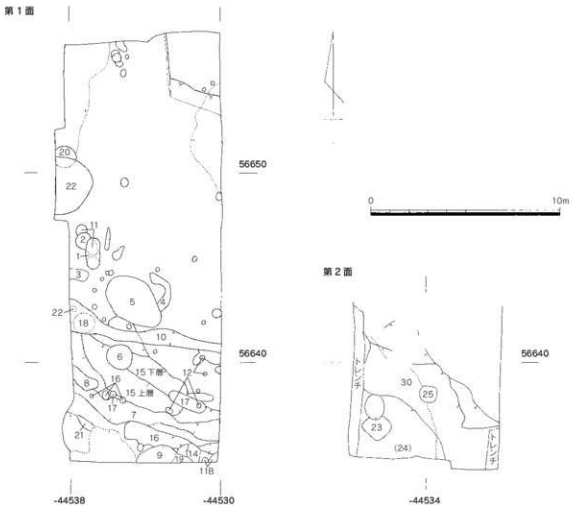


Fig.57　第109次調査遺構略測図（1/200）

表13　第109次調査　遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土等	時期	遺構面
1		ピット	S-1→2	平安後期	第1面
2		ピット	S-1→2	平安後期	第1面
3		ピット		平安時代	第1面
4		窪み		平安時代	第1面
5	109SK005	土坑		XⅡ期	第1面
6	109SE006	井戸	S-15→6	Ⅸ～Ⅹ期	第1面
7	109SD007	溝		Ⅸ期	第1面
8		溝	灰色土　S-7→8	平安中期	第1面
9		窪み		Ⅷ～Ⅸ期	第1面
10	109SD010	溝	S-18→10　S-22→10	XⅡ期	第1面
11		ピット群		平安後期	第1面
11B		ピット群	調査区南東隅	XⅠ～XⅡ期	第1面
12		ピット群		平安時代	第1面
14		窪み		平安時代	第1面
15	109SX015	堆積層		Ⅷ～Ⅸ期	第1面
16		窪み		平安中期	第1面
17		ピットと土坑		Ⅷ～Ⅸ期	第1面
18		土坑	木片出土。	平安前期	第1面
19		窪み		Ⅸ期	第1面
20	109SE020	井戸	S-20→22	XⅠ期	第1面
21				平安時代	第1面
22	109SE022	井戸	ピットと番号重複。上層・下層・最下層で取り上げ。	XⅢ期	第1面
22		ピット	井戸と番号重複。S-22で取り上げ。S-10の底面。		第1面
23	109SX023	炭層	遺物出土	Ⅶ～Ⅷ期	第2面
24	109SX024	流路			第3面
25	109SE025	井戸		Ⅸ期前後	第2面
30	109SX030	杭列			第2面
黄灰色土					
淡黄灰色土			黄茶色土と同一層か。	Ⅷ～Ⅸ期	
灰色砂利				Ⅸ期前後	
黄茶色土				Ⅸ期前後？	
黒灰色粘質土				Ⅶ期	
暗青灰色粘土				Ⅶ期	
炭層					
南炭層				Ⅸ期	
濃青灰色粘土				Ⅶ期	
茶色砂				Ⅶ期	
黄茶色粘土				Ⅶ期	
暗黒青色粘土				Ⅵ期	
黄茶色粘土				Ⅶ期	
南黄灰色土					
暗灰色粘土					
西側溝　灰色砂礫			西トレンチ	Ⅶ期	
側溝内　暗灰褐色粘土			西トレンチ		
西側溝　茶白色砂			西トレンチ	Ⅶ～Ⅷ期	
西側溝　暗灰色粘土			西トレンチ	Ⅶ期	

表 14　第 109 次調査　出土遺物一覧表①

S-1

須	恵	器甕?
土	師	器小皿a(~?)、丸底坏、椀c、破片
黒 色 土	器 A	椀破片
白		縁椀：破片(1)
瓦		軒平瓦(格子)、丸瓦(格子,無文)

S-2

須	恵	器甕、壺
土	師	器椀、椀c
黒 色 土	器 B	椀椀
瓦		軒丸瓦(格子)

S-3

土	師	器坏
黒 色 土	器 B	椀破片
瓦		軒平瓦(格子)

S-4

土	師	器坏、甕

S-5

須	恵	器c、坏、坏c、甕、壺
土	師	器小皿a(~?)、丸底坏a、椀c、甕、鉢?、供膳具
瓦		器椀
白		縁椀：IV-1a(1)、V(1)　蓋：XI(1)　白縁破片(1)
瀬 戸 美 濃 青		縁椀：II-2(1)　皿：I-1(1)　鉢：II-1(1)　縁破片(1)
中 国	陶	器壺(1)
瓦		軒平瓦(格子、二重格子、無文)、丸瓦(縄目、無文)、瓦当?、塼
石	製	品石鏃

S-6

須	恵	器甕?、壺、壺
土	師	器小皿a(~?)、坏a×小皿a、椀c、甕、壺類
黒 色 土	器 A	椀椀
瀬 戸 美 濃 青	縁	椀：II-1(1)　縁破片1(2)、II底部(1)
中 国	系	陶器壺　器?　鉢
瓦		軒平瓦(縄目,格子,無文)、丸瓦(格子,無文)

S-6下層

須	恵	器坏、甕
土	師	器坏、坏a(~?)、椀c、甕、破片
黒 色 土	器 A	椀椀、椀c
黒 色 土	器 B	椀椀c
緑	釉	陶器椀
灰	釉	陶器皿
瀬 戸 美 濃 青	縁	椀：II-1(1)　縁破片1(2)、II(1)
瓦		軒平瓦(縄目,格子,無文)、丸瓦(縄目,格子,無文)

S-7

須	恵	器?、坏c、甕、破片
土	師	器丸底坏?、椀、椀c、甕
黒 色 土	器 A	椀椀
黒 色 土	器 B	椀椀
瓦		軒平瓦(縄目、二重格子)、丸瓦(格子)
土	製	品輪羽口、鞴型

S-7下層

須	恵	器坏、坏c、甕
土	師	器坏、坏a(~?)、椀c、椀、甕、鉢?、器台、破片
黒 色 土	器 A	椀椀c、甕
黒 色 土	器 B	椀椀、皿?
灰	釉	陶器皿
瀬 戸 美 濃 青	縁	椀：I-2(3)　縁破片1(4)、II(1)
瓦		軒平瓦(縄目,格子、二重格子?,無文)、丸瓦(縄目し,格子)、塼

S-8

須	恵	器椀c
土	師	器坏、破片
黒 色 土	器 B	椀椀、破片
灰	釉	陶器椀
瓦		軒丸瓦(格子)
そ	の	他粘土塊

S-9

須	恵	器甕、破片
土	師	器坏、坏a、椀c、甕
黒 色 土	器 A	椀椀、椀c
瓦		軒平瓦(格子、二重格子)、丸瓦(格子)、破片

S-10

須	恵	器甕
土	師	器小皿a(~?)、坏、丸底坏a、甕、器台
瓦		器椀c
白		縁椀：IV(1)　白縁破片(1)、広東系(1)
瓦		軒平瓦(縄目,格子、二重格子)、丸瓦(格子,無文)、塼?
石	製	品鍛石?、滑石加工品

S-11

土	師	器坏、坏a×小皿a(~?)、椀c、甕
黒 色 土	器 A	椀椀
瓦		軒破片

S-11B

須	恵	器坏、甕
土	師	器椀、椀c、甕

S-12

土	師	器坏
瓦		軒平瓦(格子,無文)

S-14

須	恵	器壺
土	師	器小皿c、椀c、椀c、破片

S-15上層

須	恵	器坏蓋、器?、坏、甕、壺、破片
土	師	器坏、坏a(~?)、椀c、甕、甕類、破片
製	塩	土器焼塩壺
黒 色 土	器 A	椀椀、椀c
黒 色 土	器 B	椀椀、椀c、破片
灰	釉	陶器壺
瀬 戸 美 濃 青	縁	椀：I-1a(1)　縁破片1(1)、II(1)
瓦		軒平瓦(縄目,格子)

S-15下層

須	恵	器甕、壺類
土	師	器坏、坏a(~?)、椀、椀c、甕
古 式 土	師	器甕
緑	釉	陶器破片
瀬 戸 美 濃 青	縁	椀：I(1)
瓦		軒平瓦(縄目,格子)、丸瓦(格子,無文)、文様塼
石	製	品平玉石、滑石片
金	属	製品金具

S-16

須	恵	器甕
土	師	器小皿、坏a×小皿a、椀c、椀c、甕
黒 色 土	器 A	椀椀
瀬 戸 美 濃 青	縁	椀：II-2(1)
瓦		軒平瓦(格子)、文様塼

S-17

須	恵	器坏、甕
土	師	器坏a(~?)、椀c、甕、破片
黒 色 土	器 A	椀椀c
黒 色 土	器 B	椀椀
瀬 戸 美 濃 青	縁	破片1(1)
瓦		軒平瓦、破片(縄目)、破片

S-18

須	恵	器甕
土	師	器坏、坏a(~?)、椀c、甕、破片
黒 色 土	器 A	椀椀c
瀬 戸 美 濃 青	縁	破片II(1)
瓦		軒平瓦(縄目,無文)

S-19

土	師	器坏a(~?)、椀c、甕
黒 色 土	器 A	椀椀c
瓦		軒平瓦(格子)、丸瓦(無文)

S-20

土	師	器小皿a(~?)、小皿c、丸底坏、鉢?
黒 色 土	器 B	椀椀c
瓦		軒平瓦(縄目,格子,無文)、丸瓦(格子)
石	製	品石鏃

S-20井戸枠内

瓦		軒平瓦(格子,無文)、丸瓦(格子)
木	製	品木簡

S-21

須	恵	器壺?、甕
土	師	器坏、坏a(~?)、椀、甕、鉢付鉢?
黒 色 土	器 A	椀椀
瓦		軒平瓦(縄目,格子)
土	製	品土錘

S-22

製	塩	土器焼塩壺
白		縁皿：VI-1a(1)

S-22上層

須	恵	器甕、壺
土	師	器坏a(4.~?)、丸底坏a、椀c、甕、破片
黒 色 土	器 A	椀椀c
白		縁椀：IV(2)　皿：VI-b(1)
瓦		軒平瓦(縄目、二重格子,無文)、丸瓦(無文)、軒丸瓦
石	製	品石鏃

S-22下層

須	恵	器甕
土	師	器小皿a(~?)、坏a(~?)、丸底坏a、甕類
黒 色 土	器 A	椀椀c
白		縁椀：II(1)、IV(1)、破片(1)
瓦		軒平瓦(縄目,格子)、丸瓦(格子)

S-22縁下

土	師	器丸底坏a、破片
白		縁椀：IV(1)、破片(4)

表 14　第 109 次調査　出土遺物一覧表②

S-23(四層)

須恵	器	器?甕。
土師	器	器?甕(ハ?)、椀、鉢c、壺類
黒色土器A	椀	椀、鉢c
金属	製品	鉄刺

S-25柿内

須恵	器	器?蓋坏類
土師	器	器?甕、ヘラ?(ハ?)、椀c、壺、鉢類
黒色土器A	椀	椀
瓦	類	平瓦(縄目、無文)、丸瓦(格子)、軒平瓦、軒丸瓦、文様博、破片
木	製	品	櫛
石	製	品	丸石

S-25ウラゴメ

須恵	器	器?壺、甕?、蓋
土師	器	器?甕、椀c、壺
瓦	類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子、無文)、軒丸瓦、博?

S-30

木	製	品	板材

黄灰色土

須恵	器	器c、壺
土師	器	器?小皿a(ハ?)、椀c、皿a、壺、壺類
黒色土器A	椀	椀
緑釉陶器	器	椀c、蓋?
灰釉陶器	器	椀c、蓋?
猪州窯系青磁	碗	1-2(1)
瓦	類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(格子、無文)、無文博
石	製	品	石鏃
金属	製品	鉄刺?

黄灰色土

須恵	器	器?甕c、坏、椀c、壺
黒色土器A	椀	椀
須恵質土器	器	壺
黒色土器B	椀	椀
緑釉陶器	器	椀、鉢?
瓦	類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(無文)
石	製	品	石斧
その	他	品

淡黄灰色土

須恵	器	器c、器3、坏?c、坏c、壺
土師	器	器?c、椀c、椀、坏、鉢?、壺、甕b
製塩	土器	形製土器壺
黒色土器A	椀	椀
緑釉陶器	器	椀、鉢?
瓦	類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子、無文)、軒平瓦、瓦玉
石	製	品	石斧
その	他	品

黒灰色粘質土

須恵	器	器c、器1、器3、坏、坏c、壺、破片
土師	器	器c、坏?a(ハ?)、椀c、壺、把手
黒色土器A	椀	椀、椀c、大皿c×鉢
緑釉陶器	器	椀
瓦	類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(縄目消し、格子)、博、破片
石	製	品	石斧
金属	製品	鉄滓
土製	品	トリベ

灰色砂利

須恵	器	器?c、坏、坏c、蓋坏、壺、甕
土師	器	器?a(ハ?)、丸底坏c、椀、椀c、椀c×丸底坏c、壺
黒色土器A	椀	破片
緑釉陶器	器	破片
猪州窯系青磁	碗	破片1(1)
瓦	類	平瓦(縄目、格子、二重格子、無文)、丸瓦(縄目消し、格子、無文)、軒丸瓦、無文博
金属	製品	鉄滓
土製	品	焼土塊

暗青灰色粘土

須恵	器	器?c、器3、坏、坏c、壺、鉢?
土師	器	器?坏?a(ハ?)、椀c、壺
黒色土器A	椀	椀c
黒色土器B	椀	椀、椀c
猪州窯系青磁	碗	1-5(1)、Ⅱ-2(1)、Ⅱ-2d(1)
瓦	類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(縄目消し、格子)
石	製	品	砥標本、滑石加工品
木	製	品	用途不明木製品、加工材
その	他	品

褐・灰色層(四層の淀江?)

須恵	器	器?鉢?
土師	器	器?小皿c、坏、坏a(ハ?)、高坏、椀c、壺、壺類、鉢類
黒色土器A	椀	椀c
猪州窯系青磁	碗	破片1(1)、Ⅱ(1)
瓦	類	平瓦(縄目)、丸瓦(格子)
石	製	品	石鏃
その	他	品

濃青灰色粘土

須恵	器	器?壺、器c、器c3、坏c、椀、鉢
土師	器	器c、坏?a(ハ?)、坏c、高坏、椀c、椀c、壺、破片
黒色土器A	椀	椀c
瓦	類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(縄目消し、格子、無文)、平瓦(縄目、格子)、博?

黄茶色粘土

須恵	器	器?c、椀(稜底系)、壺、蓋
土師	器	器?坏、坏a(ハ?)、椀c、壺、鉢類
黒色土器A	椀	椀、椀c
瓦	類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子)、軒丸瓦、文様博

暗黒青色粘土

須恵	器	器、器1、器3、器4、器c、坏、坏a、坏c、皿a、高坏、椀、壺、破片
土師	器	器?坏、坏a(ハ?)、椀c、椀、壺類、鉢、鉢付椀、破片
黒色土器A	椀	鉢c
猪州窯系青磁	碗	1-1(1)、Ⅱ-2(1)　越破片:Ⅱ(1)
中国陶磁	器	壺(1)　中国陶器破片(1)
瓦	類	平瓦(縄目、無文)、丸瓦(縄目、格子)、軒平瓦、軒丸瓦、文様博
土製	品	トリベ

茶白色砂

須恵	器	器1、器c、器3、坏、坏a、坏c、壺、大壺、蓋
土師	器	器?a(ハ?)、坏c、坏d、椀、椀c、壺、器??
古式土師	器	壺
黒色土器A	椀	椀c
緑釉陶器	器	壺?
瓦	類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(格子、無文)、軒丸瓦
金属	製品	鉄滓
石	製	品	敲石(安山岩)、石鏃
土	製	品	輪羽1

西側溝 灰色砂礫

須恵	器	器?壺、器1、坏、坏c、壺、破片
土師	器	器?坏、坏a、椀c、壺、鉢c、鉢c類、破片
黒色土器A	椀	椀、椀c
猪州窯系青磁	碗	1-2(1)　越破片(1)
灰釉陶器	器	壺
瓦	類	平瓦(縄目)、丸瓦(格子、無文)、軒平瓦、文様博

西側溝 暗灰色粘土

須恵	器	器?壺?、器c、坏c、壺
土師	器	器?坏a(ハ?)、椀c、壺、破片
黒色土器A	椀	椀
黒色土器B	椀	椀c
緑釉陶器	器	破片
猪州窯系青磁	碗	1-2(1)　小皿?(1)
瓦	類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子、無文)

側溝内 暗灰褐色粘土

須恵	器	器?壺、器3、坏、壺、蓋
土師	器	器?坏a、皿a、椀c、壺
黒色土器A	椀	椀
猪州窯系青磁	碗	破片1(1)
瓦	類	平瓦(縄目)、丸瓦(無文)
土製	品	輪羽1

側溝内 崩落土

須恵	器	器?壺、壺、破片
土師	器	器?坏、坏c、椀c、壺
黒色土器A	椀	椀
猪州窯系青磁	碗	1-5(1)
瓦	類	平瓦(格子)

側溝内 排土

須恵	器	器?壺1、坏c、壺
土師	器	器?小皿c、坏a(ハ?)、皿a、椀、椀c、壺
黒色土器A	椀	椀c
瓦	類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子、無文)

暗青黒色粘土

土師	器	器?坏a(ハ?)、壺

若土

土師	器	器?小皿a(ハ)

表採

緑釉陶器	器	蓋

出土地不詳

須恵	器	器c3、坏、坏c、壺、破片
土師	器	器?坏a(ハ?)、椀、椀c、壺、壺c
黒色土器A	椀	椀
黒色土器B	椀	破片
白	磁	碗白磁破片(2)
猪州窯系青磁	碗	1-2(2)、Ⅱ-2(1)　皿:Ⅱ(2)
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ-b(1)
土製品	土製品	
中国陶磁	器	
瓦	類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(格子、二重格子、無文)、博
石	製	品	石鏃

茶色砂

須恵	器	器c、坏、坏c、壺、蓋
土師	器	器?坏a(ハ?)、椀c、壺、破片
黒色土器A	椀	椀、破片
黒色土器B	椀	破片
猪州窯系青磁	碗	破片1(1)、Ⅱ(1)
瓦	類	平瓦(縄目、二重格子、無文)、丸瓦(縄目消し、格子)、軒丸瓦、無文博

表 15　第 109 次調査　土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕
縄文早期終末

番号	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
5-5								
上層	小皿a	F-018	Fig.49-15	8.3	1.2～1.6	6.4	－	○
	小皿a　ヘラ	F-001	Fig.49-16	9.0	1.8	7.0	○	○
	皿a　ヘラ	F-002	Fig.49-18	9.8	1.4	6.9	○	○
	丸皿Ma　ヘラ	F-003	Fig.49-17	11.2	2.0～2.8	－	－	○
	丸皿Ma　ヘラ	F-006	Fig.49-19	15.2	3.0～3.5	－	－	○
	丸皿Ma	F-004	Fig.49-19	(15.6)	3.1	－	－	○
	丸皿Ma　ヘラ	F-005	Fig.49-20	16.2	3.6～3.8	－	－	○
	丸皿Ma	F-003	Fig.49-21	(16.0)	3.9	－	－	○
丸層	鉢c	F-008	Fig.49-22	16.8	5.1	(7.6)	－	○
	鉢c	F-009	Fig.49-23	－	3.2～6	(8.2)	－	○
	鉢c	F-011	Fig.49-24	－	2.8～6	(7.2)	－	○
	鉢c	F-010	Fig.49-25	－	2.8～4	(7.6)	－	○
5-6								
上層	小皿a　ヘラ	F-002	Fig.49-1	(9.2)	1.6	(5.2)	○	○
	小皿a　ヘラ	F-001	Fig.49-2	(10.0)	1.9	(5.2)	○	○
	小皿a	F-002	Fig.49-3	(10.0)	1.2	(7.2)	○	○
5-6下層								
上層	皿a　ヘラ?	F-001	Fig.49-6	－	1.8～2	(6.8)	－	○
	鉢c	F-002	Fig.49-7	－	5.9	－	－	○
5-7								
上層	皿a	F-001	Fig.50-1	－	1.2	－	－	○
	鉢c	F-002	Fig.50-2	－	3.9	－	－	○
	鉢c　イト	F-004	Fig.50-3	－	3.9～4	(7.2)	－	○
5-7下層								
上層	皿a　ヘラ	F-001	Fig.49-9	－	1.8～2	(6.4)	○	○
	皿a　ヘラ	F-002	Fig.49-11	－	1.6～2	(7.0)	○	○
	皿a　ヘラ	F-003	Fig.49-8	－	1.6～2	(7.0)	○	○
	皿a　ヘラ	F-001	Fig.49-8	－	1.6～2	(7.0)	○	○
	鉢c	F-008	Fig.49-10	－	3.2～4	－	－	○
	鉢c	F-003	Fig.49-11	－	3.0～4	－	－	○
5-10								
上層	小皿a　ヘラ	F-005	Fig.49-17	(9.6)	1.2	(7.4)	○	○
	小皿a　ヘラ	F-004	Fig.49-18	(9.8)	1.6	(6.4)	○	○
	小皿a　ヘラ	F-003	Fig.49-19	9.5	1.5	(7.6)	○	○
	丸皿Ma　ヘラ	F-002	Fig.49-20	(14.6)	2.7	－	－	○
	丸皿Ma　ヘラ	F-001	Fig.49-21	11.8	2.75	－	－	○
黒色土層	鉢c	F-008	Fig.49-22	16.7	5.65	8.7	－	○
5-15上層								
上層	皿a　－	F-008	Fig.50-14	(11.8)	3.6	7.5	○	○
	皿a　ヘラ	F-003	Fig.51-05	－	1.9～2	－	○	○
	鉢c	F-004	Fig.50-16	－	3.0～4	(7.4)	－	○
	鉢c	F-003	Fig.51-07	－	3.0～4	7.55	○	○
	鉢c	F-002	Fig.50-15	－	3.0～4	(8.4)	－	○
	鉢c	F-003	Fig.51-09	－	3.0～4	(7.4)	－	○
5-15下層 黒系色粘土								
上層	皿	F-002	Fig.51-03	(15.6)	3.0～4	－	－	○
	皿	F-002	Fig.51-01	－	2.0～3	－	－	○
	皿	F-001	Fig.51-02	－	1.2～2	(6.6)	－	○
5-20								
上層	小皿a　ヘラ	F-023	Fig.46-1	9.75	0.9	7.6	－	○
	小皿a　ヘラ	F-024	Fig.46-2	10.0	1.6	7.4	○	○
	小皿a　ヘラ	F-019	Fig.46-3	(10.0)	1.25	7.0	○	○
	小皿a　ヘラ	F-022	Fig.46-4	10.8	1.5～1.9	8.5	○	○
	小皿a　ヘラ	F-021	Fig.46-5	10.8	0.6～1.3	－	○	○
	皿a	F-020	Fig.46-6	(10.5)	2.1	6.3	○	○
黒色土層	鉢c	F-025	Fig.46-7	－	3.0～4	(8.0)	○	○
5-25上層								
上層	皿a　イト	F-001	Fig.48-1	14.25	2.3	10.4	○	○
	丸底Ma	F-002	Fig.48-2	15.7	2.9	－	－	○
下層	鉢c	F-003	Fig.48-3	－	4.2～6	－	－	○
5-27下層								
上層	丸底Ma　ヘラ	F-001	Fig.49-4	－	2.8～3	－	－	○
5-22最下層								
上層	小皿a	F-001	Fig.49-12	9.4	1.4	7.0	○	○
	丸底Ma	F-001	Fig.49-13	(15.4)	2.7	－	－	○
5-23炉層上								
上層	皿a　ヘラ	F-001	Fig.49-17	11.4	3.05	6.5	○	○
	皿a　ヘラ	F-004	Fig.49-18	12.0	2.7	6.9	○	○
	皿a　ヘラ	F-002	Fig.49-19	(12.8)	2.9	(6.7)	○	○
黒色土層上	鉢c	F-003	Fig.49-20	(14.8)	4.1	(8.0)	○	○
5-25炉中央内								
上層	皿a　ヘラ	F-003	Fig.49-1	(10.6)	2.8	(6.0)	－	○
	皿a　ヘラ	F-004	Fig.49-2	11.0	2.7	7.0	○	○
	皿a　ヘラ	F-001	Fig.49-3	11.4	2.7～3.1	7.6	○	○
	皿a　ヘラ	F-007	Fig.49-4	－	1.95～2	(5.7)	○	○
	皿a　ヘラ	F-006	Fig.49-5	－	2.2～3	7.7	○	○
	皿a　ヘラ	F-006	Fig.49-6	－	2.2～3	7.5	○	○
5-25クラメノ								
上層	鉢c	F-001	Fig.49-12	(12.2)	4.9	6.9	○	○
浜貝層上								
上層	皿a	F-005	Fig.50-8	(10.2)	2.1	(7.2)	－	○
	皿	F-002	Fig.50-5	－	2.2～3	－	－	○
	鉢c	F-001	Fig.50-10	－	3.0～4	－	－	○
	鉢c	F-006	Fig.50-11	－	3.9～4	(7.2)	○	○
	鉢c	F-007	Fig.50-12	－	3.0～4	－	－	○
縄文早期終末								
上層	皿a　ヘラ	F-009	Fig.52-59	(11.2)	2.9	(7.5)	○	○
	皿a　ヘラ	F-013	Fig.52-60	(12.0)	2.6	(7.4)	○	○
	皿a　ヘラ	F-010	Fig.52-61	(12.2)	2.85	(7.6)	○	○
	皿a　ヘラ	F-005	Fig.52-62	(12.4)	2.9	(7.6)	○	○
	皿a	F-015	Fig.52-63	(12.6)	3.2	(8.2)	○	○
	皿a　ヘラ	F-004	Fig.52-64	(12.6)	3.8～4	－	－	○
	皿a　ヘラ	F-003	Fig.52-65	－	1.9～2	(6.6)	○	○
	皿a　ヘラ	F-008	Fig.52-66	－	2.2～3	(7.2)	○	○
	皿a　ヘラ	F-007	Fig.52-67	－	1.9～2	(7.6)	○	○
	皿a	F-002	Fig.52-68	－	2.1～3	(8.0)	○	○
	皿a	F-014	Fig.52-69	－	2.4～3	(8.0)	○	○
	鉢c	F-006	Fig.52-70	－	3.8～4	(8.2)	○	○
	鉢c　ヘラ	F-015	Fig.52-71	－	2.8～4	(8.4)	○	○
黒色土層上	鉢c	F-017	Fig.52-72	(15.6)	4.5～6	－	－	○
	鉢c	F-016	Fig.52-73	(16.2)	3.85～4	－	－	○
	鉢c	F-011	Fig.52-74	(17.0)	4.1～6	－	－	○
	鉢c	F-010	Fig.52-75	－	3.5～6	(15.0)	－	○
黒色土層下	鉢c	F-019	Fig.52-76	(14.0)	5.35	(7.4)	－	○
縄文晩期終末								
岩盤層	皿	F-003	Fig.53-123	(6.0)	1.25～2	－	－	○
	皿	F-002	Fig.53-124	－	0.8～1.6	－	－	○
	皿a　ヘラ?	F-005	Fig.53-125	(11.2)	3.1	(6.4)	○	○
	皿a	F-004	Fig.53-127	－	2.7～4	(8.2)	－	○
上層	皿a　ヘラ	F-007	Fig.53-129	(12.8)	3.55	(8.2)	○	○
	皿a	F-006	Fig.53-128	(11.0)	2.1～3	(6.0)	－	○
	皿a	F-010	Fig.53-131	－	1.1～2	(7.0)	－	○
	皿a　ヘラ	F-008	Fig.53-132	－	1.05～2	(6.4)	○	○
茶白色砂								
上層	皿a　ヘラ	F-002	Fig.53-96	(11.0)	2.8	(7.2)	○	○
	皿a	F-001	Fig.53-97	－	2.1～3	－	－	○
	皿a	F-003	Fig.53-98	－	2.1～2	(7.8)	○	○
濃黄灰色粘土								
上層	皿a　ヘラ	F-001	Fig.53-88	－	2.3～3	(7.2)	○	○
	皿a　ヘラ	F-002	Fig.53-90	－	2.0～3	(7.6)	○	○
	皿a　ヘラ	F-003	Fig.53-91	－	2.0～3	(7.6)	○	○
黒色土層上	鉢c	F-005	Fig.53-93	－	3.5～4	(8.1)	－	○
	鉢c	F-004	Fig.53-92	－	3.5～4	－	－	○
茶色砂								
上層	皿a　ヘラ	F-001	Fig.53-102	(11.6)	2.5	(7.4)	○	○
	皿a　ヘラ	F-002	Fig.53-103	－	2.1～3	(7.4)	○	○
	皿a　ヘラ	F-003	Fig.53-104	－	1.9～2	8.1	○	○
	皿a	F-004	Fig.53-105	－	2.7～3	(7.0)	○	○
	鉢c	F-002	Fig.53-106	－	2.1～4	(7.8)	－	○
黒系色土								
上層	皿	F-002	Fig.50-13	－	2.2～3	－	－	○
	皿	F-002	Fig.50-21	－	2.2～3	－	－	○
黒系色粘土								
上層	皿a　ヘラ	F-013	Fig.54-111	(11.4)	2.9	(6.8)	○	○
	皿a　ヘラ	F-004	Fig.54-112	(11.4)	2.25	6.3	○	○
	皿a　ヘラ	F-002	Fig.54-113	(12.0)	2.9	(6.8)	○	○
	皿a　ヘラ	F-001	Fig.54-114	(12.0)	3.2	(6.8)	○	○
	皿a　ヘラ	F-003	Fig.54-115	(12.1)	2.75	7.1	○	○
	皿a　ヘラ	F-001	Fig.54-116	(12.4)	2.9～3	(7.2)	○	○
	皿a　ヘラ	F-002	Fig.54-117	(12.6)	3.45	(7.4)	○	○
	皿a　ヘラ	F-006	Fig.54-118	－	2.2～4	6.8	○	○
	皿a　ヘラ	F-008	Fig.54-119	(15.6)	3.5～4	(8.6)	○	○
黒色土層A	鉢c	F-009	Fig.54-120	(16.2)	6.5	8.2	－	○
灰色砂層								
上層	皿a	F-004	Fig.50-16	11.2	3.3	8.7	－	○
	鉢c	F-005	Fig.50-17	－	4.2～6	8.2	○?	○
鉢c丸底Mc	鉢c	F-006	Fig.50-18	－	3.5～4	(9.8)	－	○
黒、黒灰色土								
下層	皿a	F-003	Fig.50-1	(12.2)	3.1	(6.6)	－	○
黒色土層B	鉢c	F-003	Fig.50-2	(16.0)	5.8～6	－	－	○
黒灰色粘質土								
上層	皿a　ヘラ	F-004	Fig.52-37	(10.6)	2.8	(7.6)	○	○
	皿a　ヘラ	F-005	Fig.52-38	(11.0)	2.5	6.6	○	○
	皿a　ヘラ??	F-006	Fig.52-39	(11.4)	3.3	(6.0)	○	○
	皿a　ヘラ	F-004	Fig.52-30	11.7	3.3	6.3	○	○
	皿a	F-003	Fig.52-31	11.7	2.9	7.1	○?	○
	皿a	F-009	Fig.52-32	(11.9	2.9	7.2	○	○
	皿a　ヘラ?	F-002	Fig.52-33	(12.0)	2.7	(6.8)	○?	○
	皿a　ヘラ?	F-007	Fig.52-34	(12.2)	3.2	(7.2)	○	○
	皿a　ヘラ	F-003	Fig.52-35	(14.0)	3.6	(8.0)	○	○
	皿c	F-010	Fig.52-36	(13.0)	1.6～2	(7.2)	○	○
	鉢c　ヘラ	F-011	Fig.52-37	(14.0)	5.8	(7.6)	○	○
	鉢c　ヘラ	F-012	Fig.52-38	－	3.5～4	8.05	○	○
	鉢c	F-013	Fig.52-39	－	3.7～4	8.6	○	○
黒色土層A	鉢c	F-015	Fig.52-40	－	3.9～4	－	－	○
黒灰色土層	鉢c	F-014	Fig.52-41	－	3.7～4	(15.0)	－	○
黒、灰色層(植物小断片)								
上層	皿a　ヘラ	F-008	Fig.52-80	(10.2)	1.8	(7.7)	－	○
	皿a　ヘラ	F-006	Fig.52-81	10.4	1.1	7.1	○	○
	皿a　ヘラ	F-005	Fig.52-82	10.5	2.05	7.1	○	○
	皿a	F-007	Fig.52-83	(11.4)	3.0	(7.2)	○	○
	皿a　ヘラ	F-001	Fig.52-84	(11.6)	1.7	(7.6)	○	○
	小皿c	F-002	Fig.52-85	(10.6)	2.25	(7.4)	○	○
	鉢c	F-003	Fig.52-86	－	3.5～4	7.8	－	○

7、第 317 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市観世音寺一丁目 226、227、228 で、国指定史跡大宰府学校院跡の南 120m の五反田公園の東隣に位置する。

対象地については、2013（平成 25）年 11 月から、文化財の取り扱いについて問い合わせが始まり、2015（平成 27）年 2 月 17 日に確認調査を実施し、現地面から 0.8m で遺構が確認された。2015（平成 27）年 12 月より、福祉施設建設計画について、株式会社誠心と協議が始まり、遺構の破壊が明確となったため、調査費事業者負担のもと発掘調査を実施することとなった。

調査地は、A・B・C の 3 区に分けて行った。調査の結果、A 区は 11 世紀代に起こった御笠川の氾濫によって遺構面は削られ遺構は確認できなかった。その北側の B 区では 3 本のトレンチを設定したところ、東側の E トレンチで遺構が一部検出されたが、そのトレンチ西側では氾濫の影響で遺構は確認することはできなかった。B 区 E トレンチの東側では氾濫の影響を受けず、遺構が遺存していたため、C 区を設定し発掘調査を行った。

調査期間は 2017（平成 29）年 2 月 27 日～6 月 23 日で、調査は A・B 区を沖田正大、C 区を中村茂央が担当した。対象面積 924.79 ㎡、調査面積 271 ㎡である。

(2) 基本層位（Fig.58・60）

調査区南半部の A 区ではバラスやガラ混じりの造成土が厚さ 0.65m 前後堆積し、その下に淡茶灰色土や淡灰茶色土があり、さらに下層はシルト層や砂層が入り乱れている。A 区南側ではこれら堆積層に深く現代の造成土が入っており、その深さは現地表から 2m に達している。調査区北側の B 区 C・D トレンチでは 1.2 ～ 1.5m の盛土があり、その下では黄灰色砂礫土が確認された。

遺構が遺存していた C 区では、遺構面が南側に向かって僅かに下がっていて、現地表面から深さ 0.7 ～ 1.1m 程で遺構面に達する。その表土の多くは淡灰黄褐色土で、コンクリートが混じるなど、調査区全体が造成に伴って地上げされた土地であることがわかった。

(3) 検出遺構

溝

317SD033

埋土は灰色土で、ほぼ正方位の南北溝である。

317SD034（Fig.61）

SD034 と SD049 はほぼ同一場所で検出された南北溝で、SD034 が SD049 より新しい。埋土は淡灰黄色土である。検出長 5.22m、幅 1.05 ～ 1.7m、深さ 0.15m 前後である。振れは N-1° 20′ 33″ -W である。ほとんど同じ大きさの溝であるが、僅かにズレている部分があり、土層状況を検証しても単純な埋没順の違いではなく時期差があり、同一場所での掘り直しの可能性が高い。

317SD041（Fig.61）

長さ 2.53m 以上、幅 0.65m、深さ 0.1m 前後の南北溝で、南側は調査区へと続いている。振れは N-4° 3′ 22″ -E である。埋土は淡灰黄色土である。

317SD042（Fig.61）

長さ 3.22m、幅 0.32 ～ 0.44m、深さ 0.06m 前後の南北溝で、振れは N-0° 46′ 38″ -W である。埋土は灰色土である。

317SD045（Fig.61）

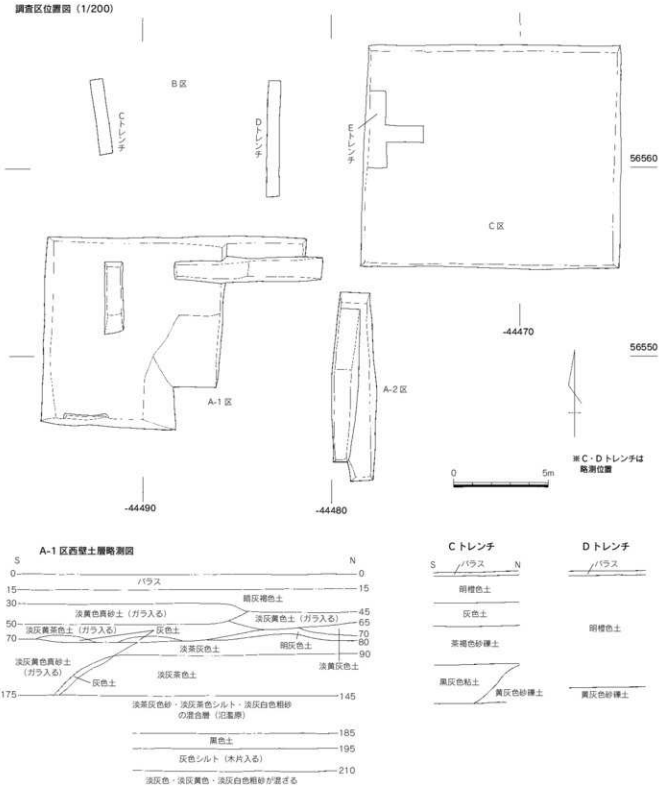


Fig. 58　第 317 次調査区位置図（1/200）、基本土層図

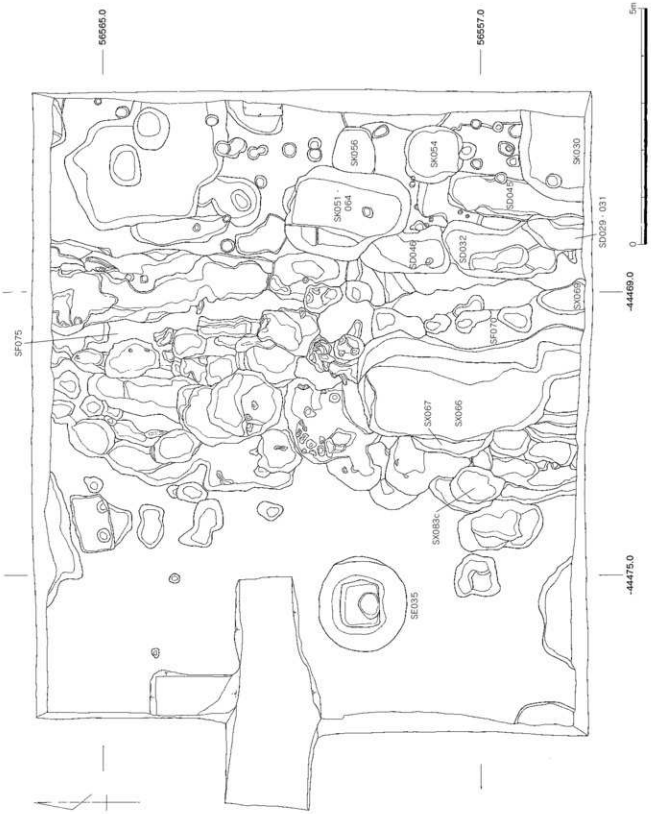


Fig. 59　第 317 次調査C区遺構全体図 (1/80)

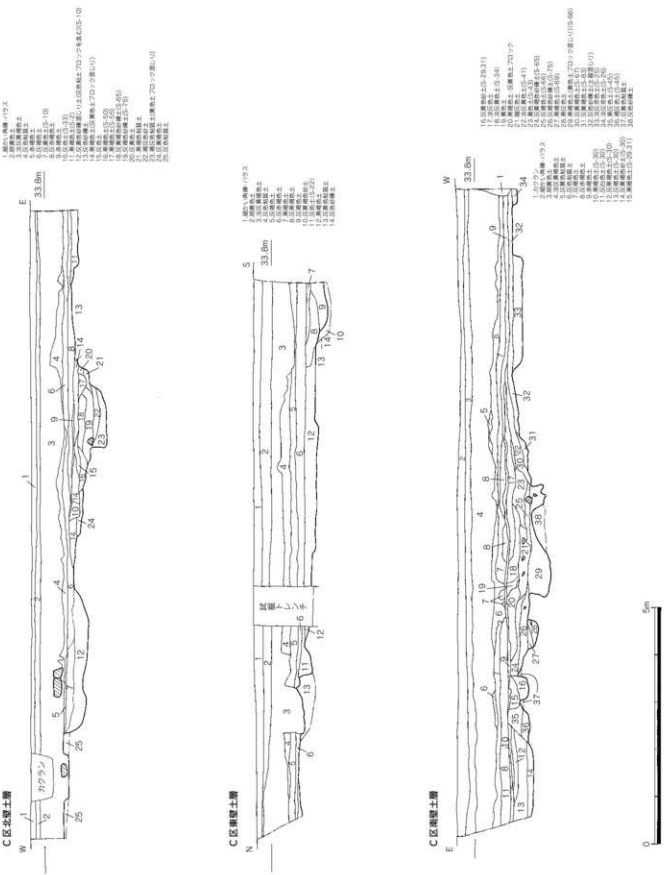


Fig. 60　第 317 次調査区土層実測図 (1/80)

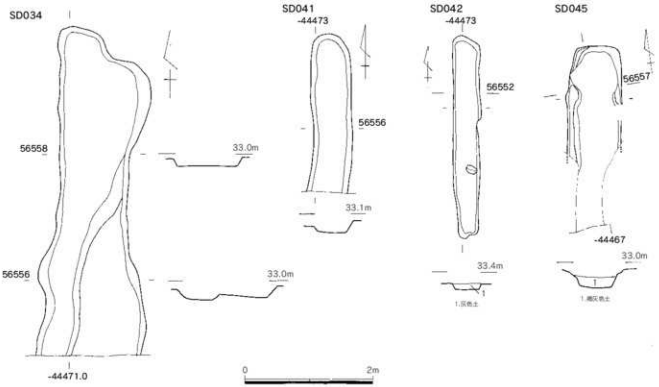


Fig.61　317SD034・041・042・045遺構実測図(1/60)

調査地南東隅で検出した平面長方形の土坑で、さらに南側調査区外へと続く。規模は南北2.94m以上、東西0.86m、深さ0.2～0.3mである。埋土は褐灰色土の単一層で、埋土の一部はSK030とSD031に切られている。残りが良い土師器丸底坏や鉄釘が出土していることから、墓壙の可能性が考えられたが、規模や遺物の出土状況から南北溝と考えた方が妥当と考えられる。振れはN-2°　1′　35″　-Eである。

317SD029・031・032・046 (Fig.63)

SD046・047の南側に掘られている溝状の土坑群で、それぞれが切り合い、凸凹しているが、埋土は全て上層が黒褐色土、下層が灰黄色砂土である。合わせて長さ4.8m以上、最大1.32m、深さ0.2～0.3mある。全て合わせた溝の振れはN-3°　36′　30″　-Wである。

317SD049 (Fig.63)

SD034の下面から検出された南北溝で、検出長5.23m、幅1.08～1.68m、深さ0.13m前後の南北溝で、南側は調査区へと続いている。振れはN-0°　47′　46″　-Eである。埋土は灰色土である。SD034との関係性はSD034で記述した通りである。

317SD050 (Fig.63)

長さ6.2m、幅0.48～0.92m、深さ0.2m前後の南北溝で、南に向かって下がっている。振れはN-1°　2′　30″　-Eである。埋土は黒褐色土で、南端はSD034に切られている。

317SD055 (Fig.63)

長さ6.7m、幅0.4～1.35m、深さ0.25～0.4m前後の南北溝で、南に向かって下がっている。振れはN-6°　28′　22″　-Eである。埋土は上層が黒褐色土、下層が灰褐色砂質土である。SF065・070・075に伴う東側道路側溝であり、南側に連続するSD029・031・032・046と関連のあるものと推測される。

道路関連遺構

317SX001

調査地の北半分で検出された、SF065・SD050・055などの道路関係遺構を覆う整地層。堆積土は赤褐色土や黒褐色土で、厚さ0.1～0.15m程である。検出範囲がSD067～055の範囲で、さらに僅かに高ま

りであることから、堆積層ではなく、側溝は伴わないものの道路の整地である可能性が高い。

317SX043・066・067・082・083（Fig.62）

SD049・050の西隣に平行し僅かに東に振れる南北の溝状整地層である。埋土は、最上層がSX043で黄色土、その下層がSX067で灰黄褐色土、さらにその底面には小土坑（SX067A・B、SX083A～C）が並び、南側ではSX066が堆積している。底面には小土坑があり、歩行痕跡の可能性も考えられる。よって、これらの溝状の堆積層は、路盤や路面の整地など道路に関連した遺構と考えられる。

317SX069（Fig.62）

検出長1.06m、幅0.72m、深さ0.24mの溝状土坑で、調査区外へと続く。埋土は黒褐色土や黒灰色土で土器や礫を含んでいる。

317SX080（Fig.62）

長さ3.1m、幅1.1m、深さ0.2m前後で、埋土は土器や礫を含み、路盤形成の際に埋められたと推測される。

道路遺構

317SF065・070・075（Fig.63）

SD055・047・046・032・031・029を東側溝、SD050・034・049を西側溝とする道路遺構。2本の溝に挟まれた部分は幅0.5～1.6mを測る。その部分には礫や土器、陶磁器片、瓦片が敷き詰められた路盤が2層確認された。上層はSF065・070、下層がSF075である。路盤の厚さは、SF065が0.1m前後、SF075は0.15m前後である。時期は12世紀後半頃である。また、路盤を除去した面には、黒褐色土や砂礫層を埋土とする小土坑（SK072～074・076～079）があり、歩行痕跡や路盤形成痕跡の可能性が考えられる。

井戸

317SE035（Fig.64）

掘り方は径1.84～2.0m、深さ2.28mの円形で、中央に一辺0.84m四方の方形の井戸枠を設ける。井戸枠は底部にホゾ組みされた外法0.807×0.807mの井桁を据え、井桁上の四隅に角材を立て隅柱とし、その最上部に横桟を載せている。井戸枠材は幅0.2m前後の板材を各面4枚程並べている。この井戸枠材の外側には幅0.12m前後の板材を並べ補強している。井戸底の南側に偏った位置に土坑を掘り、径0.42～0.54m、深さ0.26mの曲物を据えていた。曲物は腐食が目立っていたが、枠材等の遺存は良かった。

土坑

317SK030（Fig.65）

調査地南東隅で検出した方形状の土坑で調査区外に続く。東西1.85m以上、南北1.3m以上、深さ0.5mを測る。埋土は最上面が黒褐色土で、土師器坏が合わせたような状態で出土した。その下層の埋土は灰黒褐色土や灰褐色土で、最下層には灰黄褐色砂質土が堆積していた。

317SK051・064（Fig.65）

2つの遺構を一緒に掘削しているため、東西1.9m、南北2.5m、深さ0.6mの楕円形土坑をなしているが、SK064がSK051より新しい。埋土は上層が灰黒褐色土、下層が灰褐色土で、最下層に薄く灰黄褐色砂質土がある。

317SK054（Fig.65）

道路遺構の東側にある、東西1.2m、南北1.22m、深さ0.3mの円形土坑である。埋土は礫を多く含む灰黄色砂礫土である。

317SK056（Fig.65）

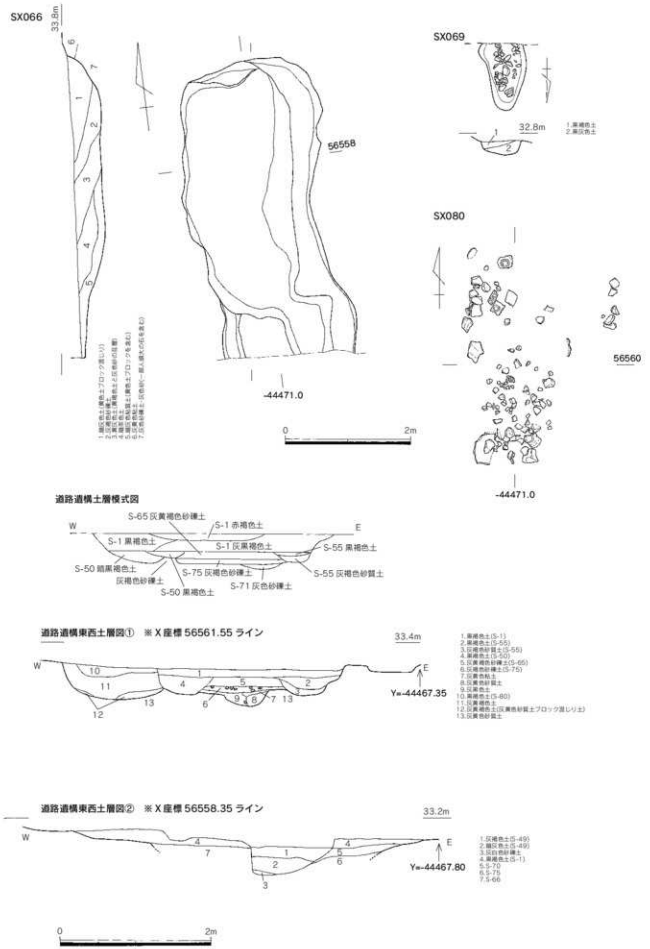


Fig. 62　317SX066・069・080 遺構実測図 (1/60)、道路土層実測図 (1/50)

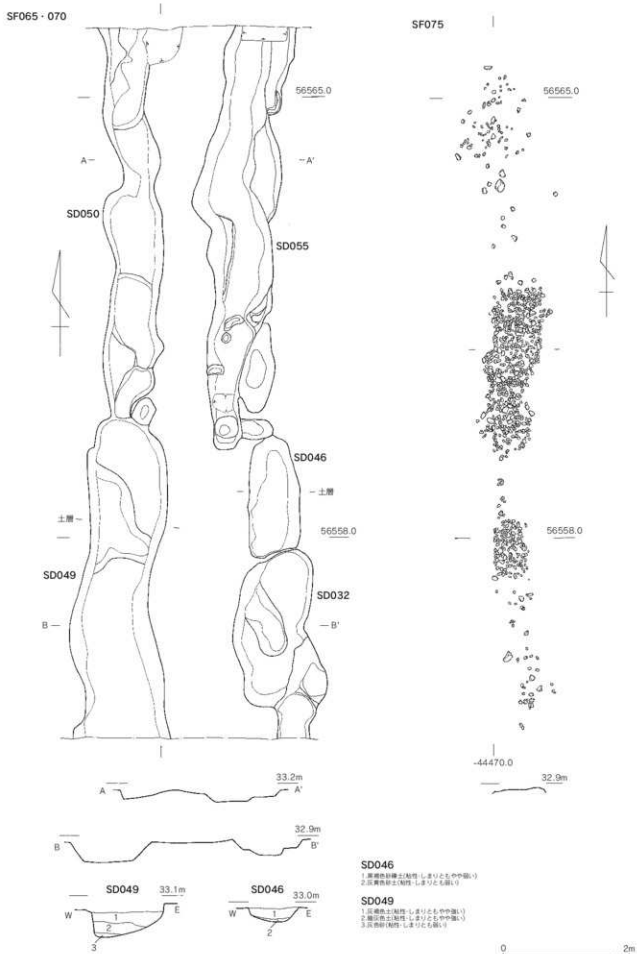


Fig. 63　317SF065・070・075 遺構実測図 (1/60)

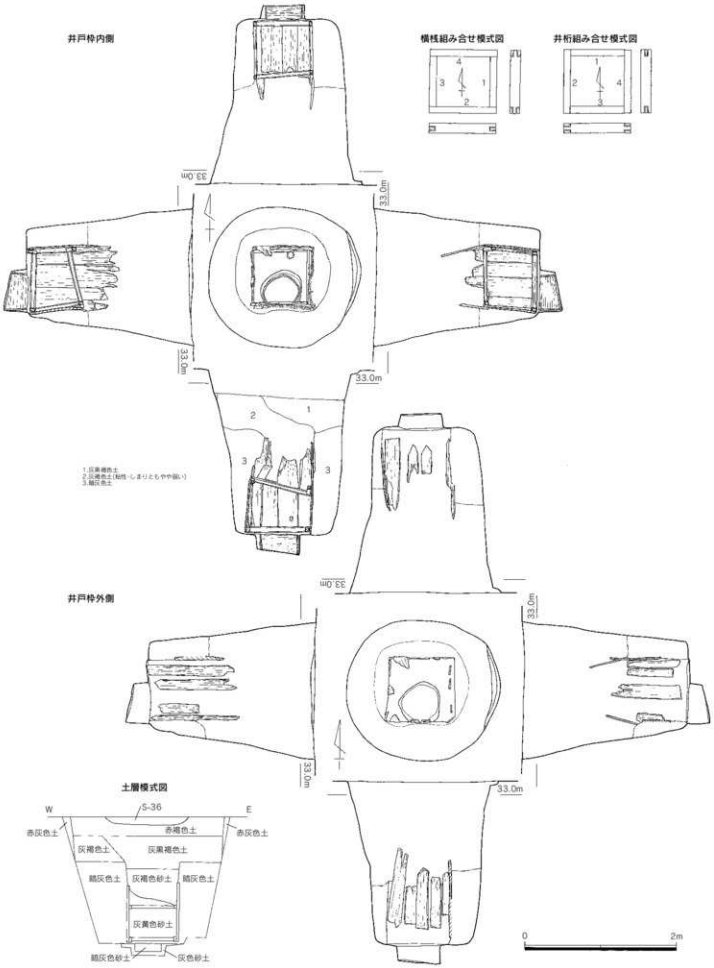


Fig.64 317SE035 遺構実測図 (1/50)

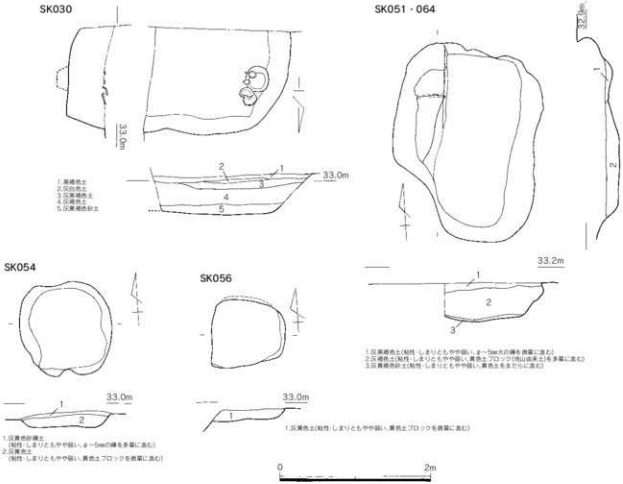


Fig.65　317SK030・051・054・056・064 遺構実測図 (1/50)

東西 0.96m、南北 0.9m、深さ 0.25m の円形状の土坑である。埋土は灰黄色土である。

(4) 出土遺物

溝

317SD029 黒褐色土出土遺物 (Fig.66)

土師器

小皿 a (1)　復元口径 7.8 cm。底部切り離しは回転糸切り。

坏 c (2)　色調は灰橙茶色を呈し、底部に低い外開きの高台を貼付する。復元高台径 7.2 cm。

瓦類

瓦玉 (3)　表面にうっすらと格子目が残る。大きさは 2.7 × 2.1 cm、厚さ 2.1 cm。

石製品

石鍋加工品 (4)　方形状にケズリ加工しているが欠損も目立つ。内外面とも細かい擦痕があり、円孔が 1 ヶ所穿たれている。厚さ 2.2 cm。

317SD032 出土遺物 (Fig.66)

土師器

小皿 a (5)　復元口径 9.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

317SD033 灰色土出土遺物 (Fig.66)

土師器

小皿 a (6)　復元口径 8.7 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

瓦質土器

甕（7） 復元口径25.0㎝。胎土は暗灰色粒をやや多く含み、断面は灰白色、表面は黒灰色を呈する。外面は叩きの後ヨコナデ調整、内面はヨコナデ調整。

317SD041 淡灰黄色土出土遺物（Fig.66）

土師器

丸底坏a（8） 内外面はヨコナデとナデ調整。

瓦器

椀（9） 摩滅が目立つが外面に簡単なミガキcが残る。

石製品

平玉石（10） 大きさは2.25×2.1㎝、厚さ0.65㎝。色調は白色や黒灰色を呈する。

317SD046 黒褐色砂礫土出土遺物（Fig.66）

土師器

丸底坏c（11） 復元口径16.8㎝。底部はやや押し出しで、外面ヨコナデ、内面ナデ調整。

石製品

石鍋（12） 口縁端部に向かってやや肥厚する。内面擦痕、外面ケズリ加工が残る。滑石製。

317SD046 灰黄色砂土出土遺物（Fig.66）

朝鮮系無釉陶器

壺（13） 内外面とも叩きの後強くヨコナデ調整する。色調は暗青灰色を呈する。

317SD034 淡灰黄色土出土遺物（Fig.67）

土師器

小皿a（1～3） 復元口径は8.2～9.2㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏a（4） 復元口径15.0㎝。底部切り離しは回転糸切り。色調は灰橙色を呈する。

須恵質土器

鉢（5） 内外面とも回転ナデ調整。東播系。

土師質土器

鍋（6） 口縁端部を外反させる。内外面とも摩滅し調整不明。

瓦類

瓦玉（7～9） 大きさは、7が2.7×2.3㎝、厚さ1.4㎝。8が2.2×2.1㎝、厚さ1.6㎝。9が2.6×2.3㎝、厚さ1.4㎝。

石製品

石鍋加工品（10） 長さ9.7㎝、幅6.4㎝以上、厚さ1.9㎝。内外面ともヘラケズリ調整し、円孔を1ヶ所穿っている。滑石製。

317SD034 暗灰色土出土遺物（Fig.67）

土師器

小皿a（11、12） 底部切り離しは回転糸切り。

坏a（13、14） 底部切り離しは回転糸切りで淡橙色を呈する。13は復元口径13.6㎝。

瓦器

椀（15） 復元口径16.0㎝。内外面ともミガキcを施す。

須恵質土器

鉢（16） 内外面とも回転ナデで、口縁端部はあまり肥厚させず断面三角形を呈す。東播系。

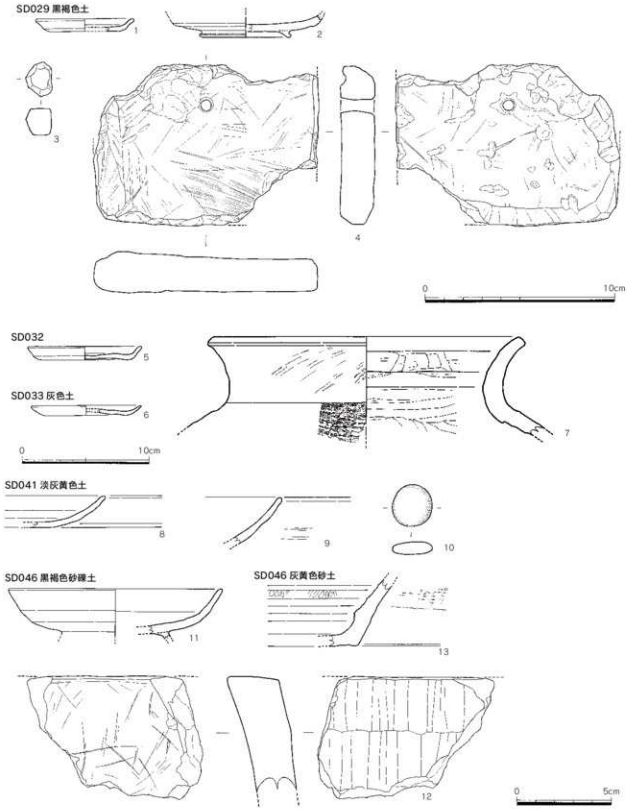


Fig.66　317SD029・032・033・041・046 出土遺物実測図（1/3、石製品は 1/2）

土師質土器

鍋（17）　内外面ともハケ目調整を施し、口縁端部上面に押圧文を施す。

317SD049 灰褐色土出土遺物（Fig.67）

土師器

小皿 a（18） 復元口径 8.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（19） 底部切り離しは回転糸切り。

丸底坏 a（20） 内外面とも摩滅し調整不明。

土師質土器

鍋（21、22） 21 は口縁端部をＬ字形に屈折させ、端部上面に押圧文を施す。22 は内外面ともヨコナデ調整。

土製品

柱状土製品（23） 両端を欠損する。胎土は砂粒を多く含み、全面ナデ調整する。

317SD049 灰色土出土遺物（Fig.67）

土師器

小皿 a（24 ～ 27） 復元口径 7.8 ～ 9.9 ㎝。底部切り離しは、24･25 が回転糸切り、27 は回転ヘラ切り。

瓦器

椀（28） 復元口径 17.0 ㎝。外面ヨコナデ、内面は摩滅するがミガキか。

須恵質土器

鉢（29、30） 東播系。口縁端部は断面三角形を呈し、内外面ともヨコナデ調整。

甕（31） 口縁端部を大きく折り曲げている。胎土は黒色粒を含み、色調は青灰色を呈する。

瓦類

瓦玉（32、33） 大きさは、32 は 2.75 × 2.85 ㎝、厚さ 1.9 ㎝。33 は 2.85 × 3.05 ㎝、厚さ 1.8 ㎝。

317SD050 黒褐色土出土遺物（Fig.67）

瓦器

椀 c（34） 外面は摩滅するが内面はミガキ c を施す。復元高台径 6.0 ㎝。

瓦類

平瓦（35） 横長二重格子叩き。

317SD050 暗黒褐色土出土遺物（Fig.67）

土師器

小皿 a（36） 復元口径 7.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

石製品

砥石（37） 両端を欠損する。使用面は 4 面。白黄茶色の砂岩製。

317SD055 黒褐色土出土遺物（Fig.67）

土師器

小皿 a（38） 復元口径 10.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（39） 復元口径 15.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。色調は淡橙色を呈する。

317SD055 灰褐色砂土出土遺物（Fig.67）

土師器

坏 a（40） 底部切り離しは回転糸切り。

丸底坏 a（41） 復元口径 15.0 ㎝。底部を押し出ししている。色調は明橙色を呈する。

金属製品

鉄釘（42） 断面方形の和釘。頭部をＬ字形に曲げ、先端は欠損する。

石製品

平玉石（43） 大きさは 1.8 × 1.9 ㎝、厚さ 0.65 ㎝。暗灰色に灰白色が斑に入る。

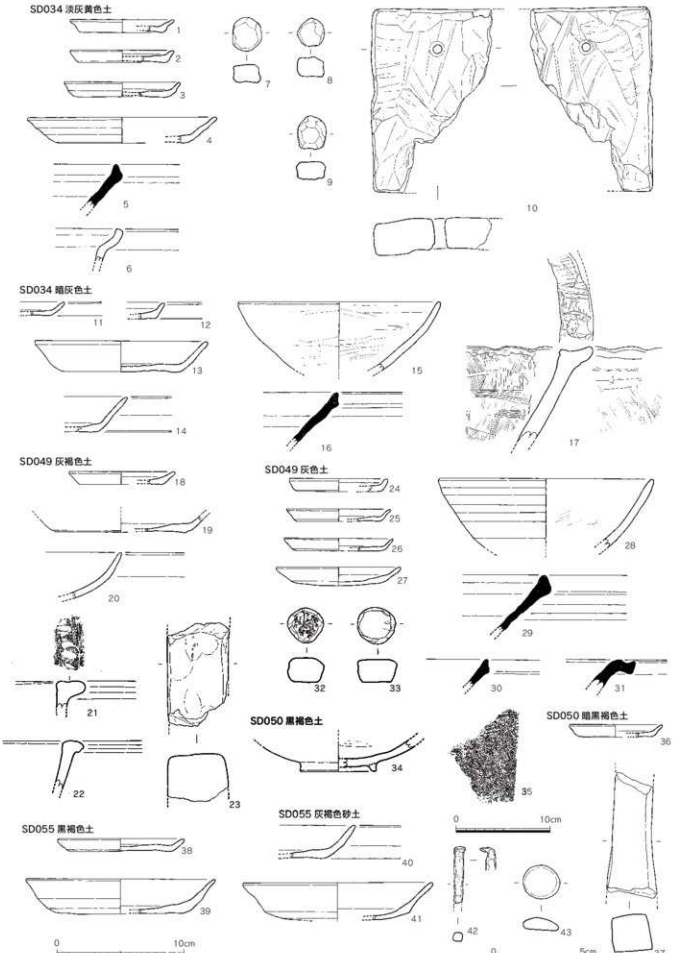


Fig.67　317SD034・049・050・055 出土遺物実測図 (1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2)

道路関連遺構

317SX001 黒褐色土出土遺物（Fig.68・69）

土師器

小皿 a（1 ～ 7）　復元口径 7.4 ～ 9.6 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

小皿 b（8）　復元口径 6.7 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

小皿 c（9）　復元口径 10.4 ㎝。断面三角形の低い高台を貼付する。

坏 a（10 ～ 12）　復元口径 13.8 ～ 14.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。色調は淡橙色を呈する。

椀 c（13、14）　13 は低い高台を外開きに貼付する。復元高台径 7.8 ㎝。14 は断面三角形の高台を貼付し、内外面にミガキ c を施す。高台径 7.0 ㎝。

坏 c（15）　浅い坏部に高い高台を貼付する。復元口径 17.8 ㎝。色調は淡黄橙色を呈する。

鉢（16）　断面三角形の太い高台を貼付する。復元高台径 10.8 ㎝。色調は淡黄茶色を呈する。

瓦器

椀 c（17）　内外面ともミガキ c を施す。

椀（18）　色調は灰色や暗灰色を呈するが、摩滅し調整不明。

土師質土器

鉢（19）　内面ナデ、外面ミガキ調整。胎土は砂粒を多く含み、茶灰色を呈する。

鍋（20 ～ 26）　20 は内面ナデ、外面は粗いヨコハケを施す。21 は口縁端部を折り曲げ肥厚させる。内面ナデ、外面縦方向のケズリ調整。22 の口縁端部を断面三角形に肥厚させる。23 ～ 26 は内外面ともナデやヨコナデ調整。口縁端部上面には押圧文を施す。

須恵器土器

椀（27）　口縁端部は肥厚せずに丸く仕上げる。

鉢（28 ～ 35）　東播系。口縁端部を断面三角形に肥厚させる。内外面とも回転ナデ調整。28 は復元口径 33.0 ㎝。35 の内面は使用により平滑である。

灰釉陶器

甕（36）　頸部で内外面とも回転ナデ調整で、所々に釉が残る。

朝鮮系無釉陶器

甕（37）　表面は暗灰色、断面は赤灰色を呈する。

中世国産陶器

甕（38）　口縁部に向かってやや薄く仕上げる。内面は強いナデ、外面はハケ目を施す。胎土は 0.5 ㎝以下の白色砂粒を含み灰色を呈する。

白磁

蓋（39）　小片でわかりづらいが、蓋と推測される。内外面とも回転ナデし、内面は露胎。外面には貫入が入る光沢のある透明釉を施す。

皿（40）　Ⅹ -b 類。口縁端部は露胎で、内面には印文を施す。

瓦類

軒丸瓦（41）　単弁で菊花状弁。中房の珠文は 1+8 とみられる。九歴分類 143a。

平瓦（42）　二重格子叩きに「安」の文字瓦。九歴分類 904D。

文様塼（43）　厚さ 6.0 ㎝。胎土は白色砂粒を多く含み、白黄灰色を呈する。摩滅が目立つが、表面に宝相華文と水波文がうっすら確認できる。

金属製品

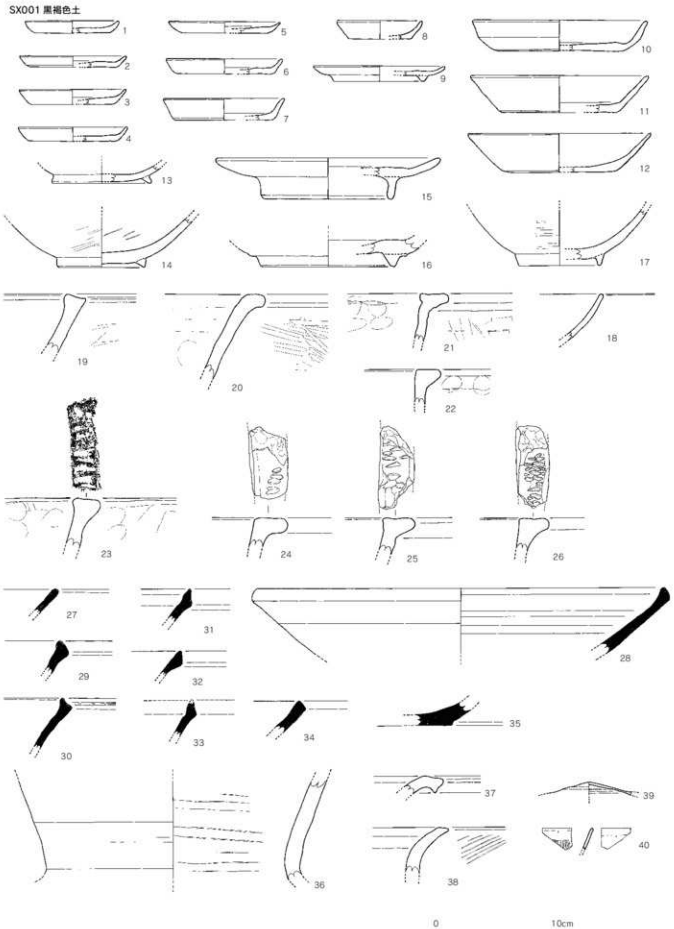


Fig.68　317SX001 出土遺物実測図① (1/3)

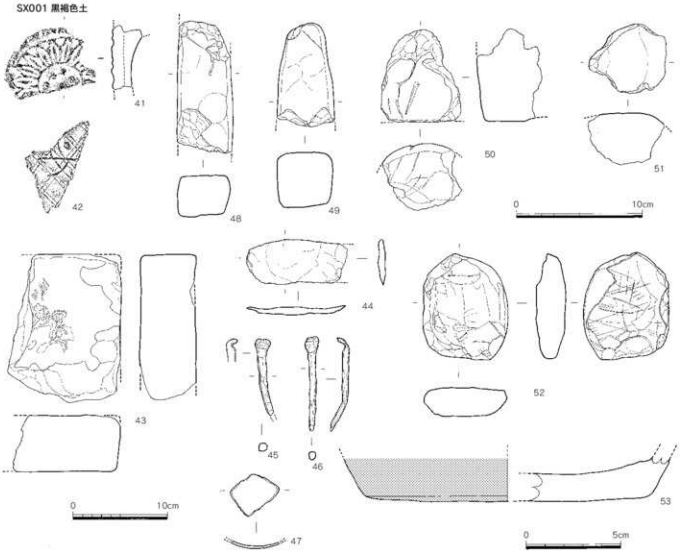


Fig. 69　317SX001 出土遺物実測図②（1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2）

刀子（44）　細長い薄い鉄板で、刀子と推測される。

鉄釘（45、46）　頭部をややL字形に曲げる。現存長は、45 が 4.1 ㎝、46 が 5.0 ㎝。

銅片（47）　厚さ 0.1 ㎝程の銅板片で、丸みを帯びるが大きく欠損し全形は不明である。

土製品

柱状土製品（48、49）　胎土は白色砂粒を多く含む。断面方形でナデ調整する。

用途不明土製品（50）　胎土は砂粒が多く粗い。表面ナデ調整し、やや丸く仕上げる。

土壁（51）　表面をナデ調整するがやや丸味を帯びる。胎土は砂粒を多く含む。

石製品

滑石加工品（52）　大きさは 5.6 × 4.6 ㎝、厚さ 1.5 ㎝。全面ケズリ加工し扁平に仕上げる。

石鍋（53）　滑石製の石鍋の底部で、僅かに丸味を帯び、復元底径 15.0 ㎝。外面には煤が付着し、内面はやや平滑である。

317SX043 淡黄色土出土遺物（Fig. 70）

土師器

小皿 a（1 ～ 3）　復元口径 8.4 ～ 9.1 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（4 ～ 10）　復元口径 14.4 ～ 18.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

瓦器

小皿 a（11、12） 復元口径は 10.0 ㎝と 11.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

椀 c（13、14） 底部に低い断面三角形の高台を貼付し、内外面にミガキ c を施す。

土師質土器

鍋（15） 口縁部はL字形に屈曲させ、口縁端部上面に縄目押圧文を施す。

瓦類

平瓦（16、17） 16 は正方形の二重格子叩き。17 は横長の二重格子叩き。

金属製品

鉄釘（18、19） 断面方形の和釘。先端部を欠損する。19 は中央付近から曲がっている。

土製品

柱状土製品（20、21） 胎土は 0.4 ㎝以下の白色砂粒を多く含む。内外面ともナデ調整。

石製品

平玉石（22） 大きさは 1.9 ㎝、厚さは 0.75 ㎝。色調はやや濁った白色を呈する。

317SX045 出土遺物（Fig.70）

土師器

丸底坏 a（23、24） 復元口径 15.0 ㎝と 15.6 ㎝。内面はミガキ b でコテ当て痕が残る。

317SX045 褐灰色土出土遺物（Fig.70）

土師器

小皿 a（25 ～ 28） 復元口径 8.6 ～ 9.9㎝。底部切り離しは回転ヘラ切り。

丸底坏 a（29、30） 復元口径は 14.5 ㎝と 15.7 ㎝。30 の内面はミガキ b を施す。

瓦類

瓦玉（31、32） 大きさは、31 が 3.1 × 2.7 ㎝、厚さ 1.7 ㎝。32 が 2.6 × 2.5 ㎝、厚さ 1.65 ㎝。

317SX066 灰褐色土出土遺物（Fig.71）

土師器

小皿 a（1） 復元口径 9.2 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（2、3） 底部切り離しは回転糸切り。2 は復元口径 14.2 ㎝。

丸底坏（4） 内面はミガキ b でコテ当て痕を残し、底部押し出しで指頭圧痕を残す。

椀 c（5） 復元口径 18.2 ㎝。断面三角形の高台を貼付する。瓦器のような形状だが、外面ヨコナデ、内面ミガキ b で、色調は暗黄色を呈する。

鉢（6） 直線的な体部で、内外面とも摩滅し調整不明。

瓦器

小皿 a（7） 復元口径 10.4 ㎝。底部切り離しは回転ヘラ切り。内外面ともミガキ c を施す。

椀 c（8） 内面は摩滅し調整不明。高台径 7.7 ㎝。

椀（9 ～ 11） 内面はミガキ c、外面はヨコナデ調整。9 は復元口径 17.2 ㎝。11 は外面にも僅かにミガキ c を施す。

土師質土器

羽釜（12） 復元口径 21.0 ㎝。内外面ともナデ調整。鍔より下には煤が付着する。

須恵質土器

鉢（13、14） 13 は内外面ともヨコナデ調整で、内面下半は使用によりやや平滑となる。

瓦類

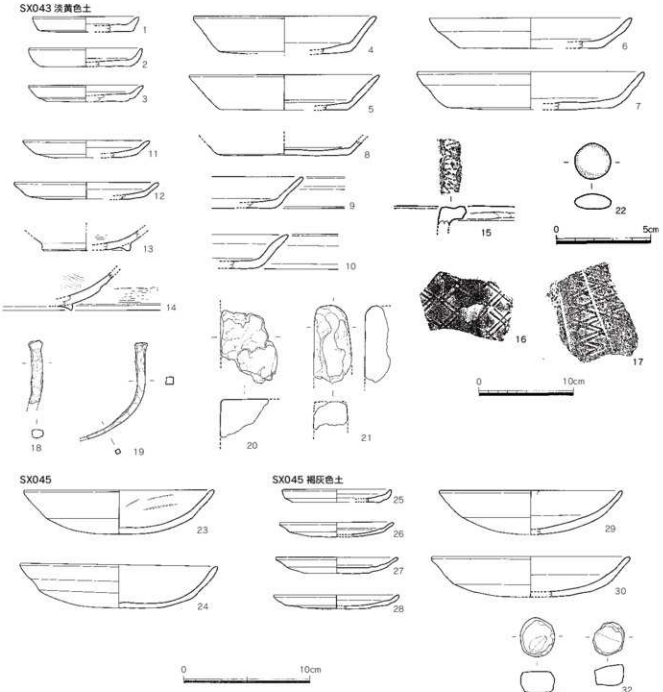


Fig. 70　317SX043・045 出土遺物実測図①（1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2）

瓦玉（15）　大きさは、2.95 × 3.3 ㎝、厚さ 1.75 ㎝。

金属製品

鉄釘（16、17）　16 はコ字形に屈曲させる。17 は完形で長さ 5.7 ㎝。頭部を僅かに曲げる。

土製品

柱状土製品（18 ～ 20）　胎土は砂粒を多く含み、全面ナデ調整。

石製品

石鍋（21、22）　21 は復元口径 18.6 ㎝。鍔の下半には煤が付着する。22 は復元底径 16.0 ㎝。外面には煤が付着する。

平玉石（23）　大きさは、1.6 × 1.7 ㎝、厚さ 0.4 ㎝。

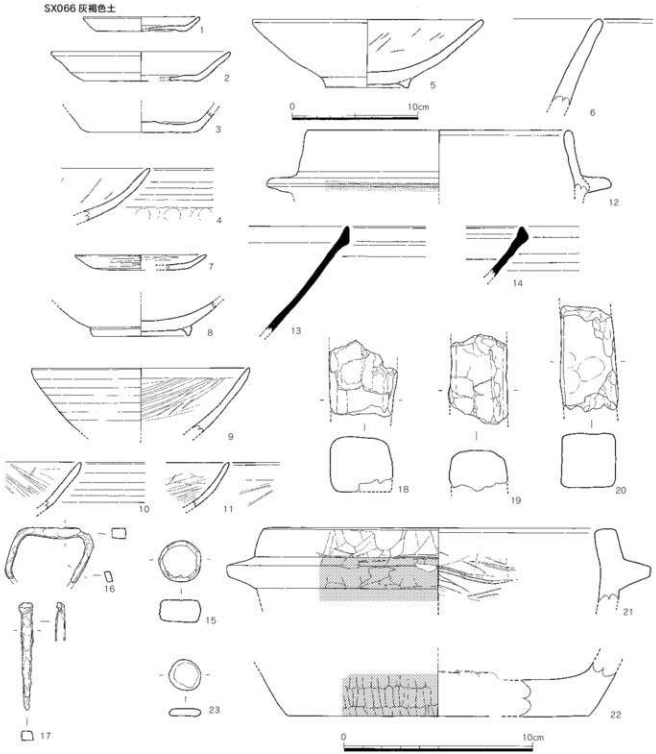


Fig. 71　317SX066 出土遺物実測図①（1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2）

317SX066 出土遺物（Fig. 72）

土師器

小皿 a（24 ～ 27）　復元口径 8.6 ～ 9.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（28、29）　底部切り離しは回転糸切り。28 は口径 16.0 ㎝。

椀（30）　復元口径 17.0 ㎝。外面ヨコナデ、内面ミガキ b を施し、コテ当て痕を残す。

土師質土器

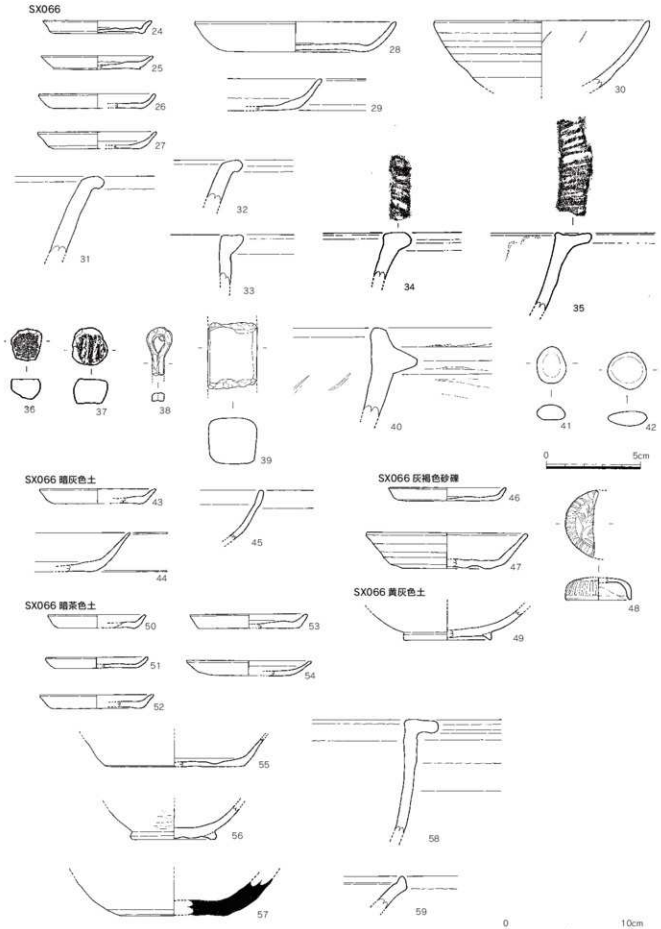


Fig. 72　317SX066 出土遺物実測図②（1/3、金属製品・石製品は 1/2）

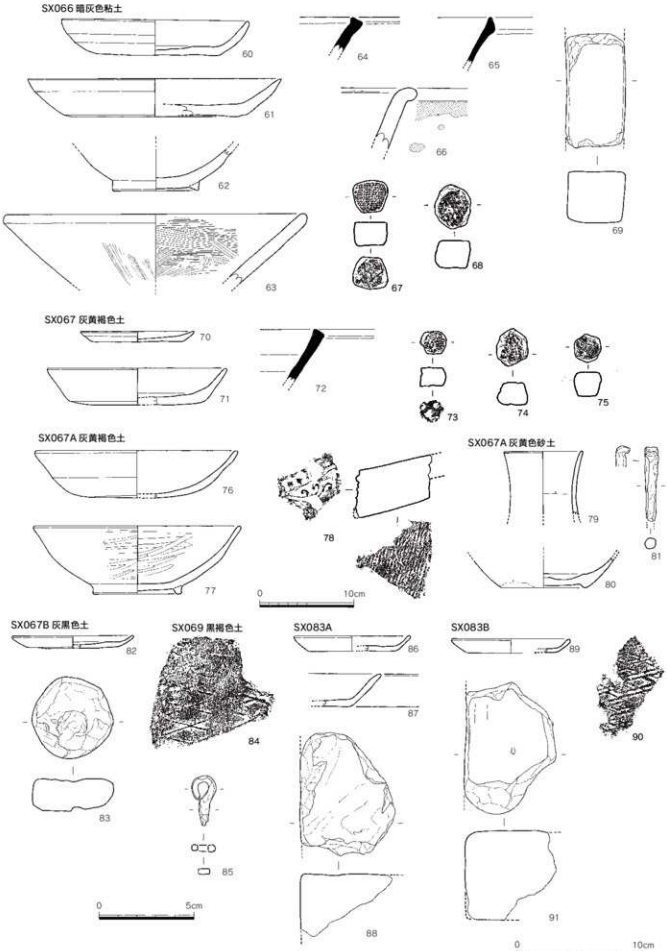


Fig. 73　317SX066 ③・067・069・083 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2）

鉢（31、32）　口縁端部を短く屈曲させる。

鍋（33 ～ 35）　33 は口縁端部を断面三角形に仕上げる。内外面ともヨコナデ調整。34・35 は口縁端部上面に押圧文を施す。

瓦類

瓦玉（36、37）　大きさは、36 が 2.6 × 2.35 ㎝、厚さ 1.55 ㎝。37 が 2.8 × 2.95 ㎝、厚さ 1.95 ㎝。

金属製品

鉄製環状金具（38）　断面方形の鉄棒を曲げ接合せ、内径 0.6 ～ 0.8 ㎝の輪を作る。

土製品

柱状土製品（39）　胎土は白色砂粒を多く含み黄灰色を呈する。全面ナデ調整。

石製品

石鍋（40）　削り成形しているが、全体的にやや摩滅する。

平玉石（41、42）　大きさは、41 が 1.9 × 1.55 ㎝、厚さ 0.8 ㎝。42 は 2.0 × 2.05㎝、厚さ 0.8㎝。

317SX066 暗灰色土出土遺物（Fig.72）

土師器

小皿 a（43）　復元口径 9.2 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（44）　底部切り離しは回転糸切り。

椀（45）　内外面ともヨコナデ調整。

317SX066 灰褐色砂礫出土遺物（Fig.72）

土師器

小皿 a（46）　復元口径 9.2 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（47）　復元口径 12.8 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。色調は淡黄橙色を呈する。

青白磁

合子蓋（48）　復元口径 5.2 ㎝、器高 2.75 ㎝。外面にはヘラ描き文様を施し、ややくすんだ光沢のある淡緑灰色釉を施す。口縁端部は露胎。

317SX066 黄灰色土出土遺物（Fig.72）

瓦器

椀 c（49）　断面三角形の高台を貼付する。内外面とも摩滅し調整不明。

317SX066 暗茶色土出土遺物（Fig.72）

土師器

小皿 a（50 ～ 54）　復元口径 7.7 ～ 9.8 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（55）　底部切り離しは回転糸切り。復元底径 11.0 ㎝。

瓦器

椀 c（56）　内外面にミガキ c を施すが、内面はミガキ単位が不明瞭。

須恵質土器

鉢（57）　東播系。復元底径 9.0 ㎝。内面は使用により平滑となる。底部は回転糸切り。

土師質土器

鍋（58）　外面は摩滅するが、内面はナデ調整。口縁部上面には押圧文を施す。

灰釉陶器

壺（59）　口縁部の破片で、内外面とも回転ナデ調整。

317SX066 暗灰色粘土出土遺物（Fig.73）

土師器

坏a（60） 口径14.8㎝。底部切り離しは回転糸切り。

皿a（61） 口径20.0㎝。底部に板状圧痕が残り、底部切り離しは回転糸切りか。

椀c（62） 断面三角形の高台を外開きに貼付する。外面はヨコナデ調整。内面は摩滅する。

鉢（63） 復元口径24.0㎝。外面はタテハケの後ヨコナデ、内面はハケ調整。

須恵質土器

鉢（64、65） 東播系。64は口縁部が肥厚しない。65は口縁部を断面三角形に肥厚させる。

土師質土器

鉢（66） 口縁端部を短く曲げ、外面には煤が付着する。

瓦類

瓦玉（67、68） 大きさは、67が2.5×2.7㎝、厚さ1.8㎝。68が3.5×2.8㎝、厚さ2.2㎝。

石製品

砥石（69） 両端を欠損する。4面使用する。

317SX067 灰黄褐色土出土遺物（Fig.73）

土師器

小皿a（70） 復元口径は9.0㎝。底部切り離しは回転ヘラ切り。

坏a（71） 復元口径は14.2㎝。底部切り離しは回転ヘラ切りか。

須恵質土器

鉢（72） 東播系。口縁部は僅かに肥厚させる。

瓦類

瓦玉（73～75） 大きさは、73が1.8×2.05㎝、厚さ1.4㎝。74が2.9×2.4㎝、厚さ1.25㎝。75が2.2×2.15㎝、厚さ1.9㎝。

317SX067A 灰黄褐色土出土遺物（Fig.73）

土師器

丸底坏a（76） 復元口径16.0㎝。底部はヘラ切りで板状圧痕を残す。

瓦器

椀c（77） 復元口径16.4㎝。内外面ともミガキcを施す。色調は灰白色を呈する。

瓦類

軒平瓦（78） 瓦当面は偏行唐草文で、凸面は縄目叩きである。

317SX067A 灰黄色砂土出土遺物（Fig.73）

白磁

壺（79、80） 2点は同一個体の可能性がある。胎土は白黄色で内外面に淡く緑色がかった白色釉を薄く施す。79は復元口径6.2㎝。内面下半は露胎。80は復元底径6.8㎝。内面は露胎。外面底部はケズリ出しで露胎。

金属製品

鉄釘（81） 先端は欠損し、頭部を僅かに曲げる。現存長4.0㎝。

317SX067B 灰黒色土出土遺物（Fig.73）

土師器

小皿a（82） 復元口径9.6㎝。底部はヘラ切りで板状圧痕を残す。

石製品

用途不明石製品（83）　大きさは4.3×4.3㎝、厚さ1.7㎝。表裏は粗いケズリで、中央に浅い窪みがある。側面は研磨される。滑石製。

317SX069 黒褐色土出土遺物（Fig.73）

瓦類

丸瓦（84）　大きめの横長格子叩き。

金属製品

鉄製環状金具（85）　鉄棒の先端部を環状に曲げている。

317SX080 黒褐色土出土遺物（Fig.74）

土師器

小皿a（1～4）　復元口径8.0～10.6㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏a（5）　底部切り離しは回転糸切り。

椀（6）　復元口径18.0㎝。外面ナデ、内面ミガキbを施す。色調は淡灰色を呈する。

瓦器

椀（7）　内外面ともミガキcを施す。

土師質土器

鍋（8）　口縁部をL字形に屈曲する。内外面ともヨコナデ調整し、口縁端部上面には押圧文を施す。外面下半は薄く煤が付着する。

白磁

椀（9）　V類。底部外面にはうっすらと墨書があるが読むことができない。

瓦類

瓦玉（10、11）　大きさは、10が2.9×2.7㎝、厚さ1.75㎝。11が2.6×2.7㎝、厚さ2.05㎝。

石製品

砥石（12）　全面使用され、先端部はボコボコで、叩き石としても利用されている。

石鍋二次加工品（13、14）　13は口縁部で、穿孔がある。滑石製。14は底部で外面には煤が付着する。断面部をケズリ調整している。

317SX083A 出土遺物（Fig.73）

土師器

小皿a（86）　復元口径9.2㎝。板状圧痕は残すが底部切り離しは不明。

坏a（87）　底部切り離しは回転糸切り。

瓦類

無文塼（88）　表面はナデ調整で、胎土は砂粒を多く含み、茶白色や暗灰色を呈する。

317SX083B 出土遺物（Fig.73）

土師器

小皿a（89）　復元口径は9.4㎝。底部切り離しは回転糸切り。

瓦類

平瓦（90）　横長の二重格子叩き。

無文塼（91）　表面はナデ調整。厚さ7.0㎝。

道路遺構

317SF065 灰黄色砂礫出土遺物（Fig.75）

土師器

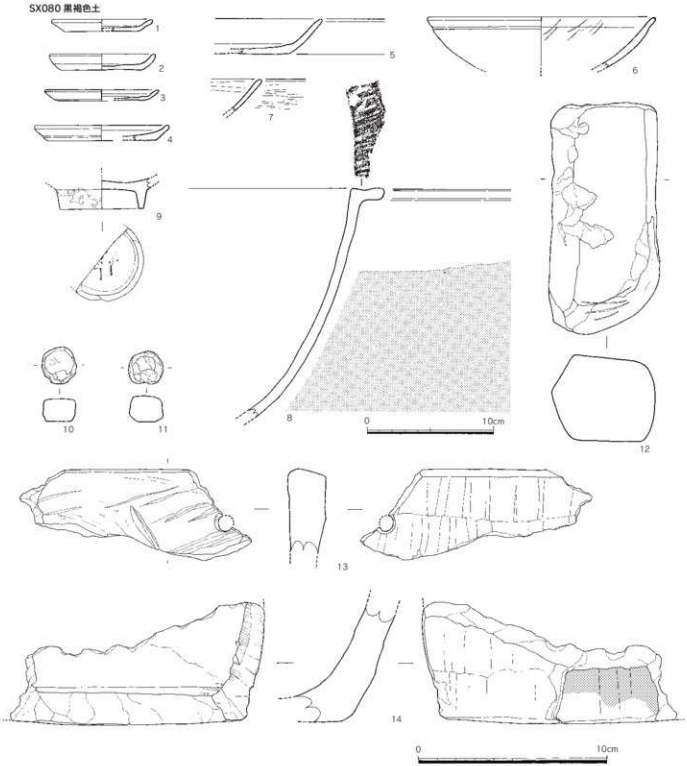


Fig. 74　317SX080 出土遺物実測図（1/3、石製品は 1/2）

小皿 a（1）　復元口径 9.0 cm。底部切り離しは摩滅し不明。

坏 a（2）　底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

丸底坏 a（3）　摩滅も目立つが、内面底部にナデ、外面底面に板状圧痕を残す。

瓦器

椀 c（4）　しっかりした高台を貼付し、内外面にミガキ c を施す。色調は淡灰色を呈する。

瓦類

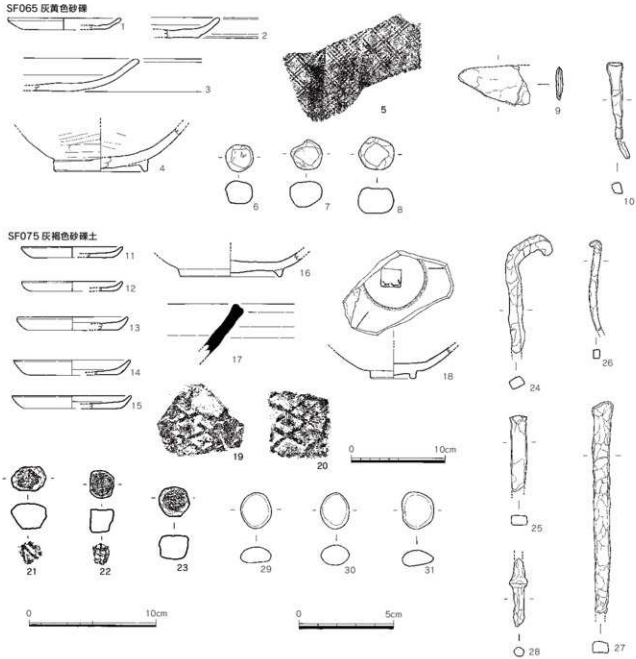


Fig. 75　317SF065・075 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2）

平瓦（5）　二重の正格子叩きに「賀」の文字瓦。九歴分類 903A。

瓦玉（6～8）　大きさは、6 が 2.2 × 2.15 ㎝、厚さ 1.8 ㎝。7 が 2.3 × 2.5 ㎝、厚さ 2.0 ㎝。8 が 2.5 × 2.8 ㎝、厚さ 2.05 ㎝。

金属製品

刀子（9）　刀子の先端部で、最大厚 0.35 ㎝。

鉄釘（10）　頭部は扁平となる。現存長 5.1 ㎝。

317SF075 灰褐色砂礫土出土遺物（Fig. 75）

土師器

小皿 a（11～15）　復元口径 8.0 ～ 9.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

瓦器

椀 c（16）　断面三角形の高台を貼付する。内面は摩滅し調整不明。

須恵質土器

鉢（17）　東播系。内面はやや平滑である。

龍泉窯系青磁

椀（18）　I-4c 類。内面底部に方形印が押されているが、文字は読めない。

瓦類

丸瓦（19）　大きめの横長格子叩き。

平瓦（20）　大きめの横長格子叩き。

瓦玉(21～23)　大きさは、21 が 2.0 × 2.7 ㎝、厚さ 2.0 ㎝。22 が 2.18 × 1.8 ㎝、厚さ 1.8 ㎝。23 が 2.3 × 2.4 ㎝、厚さ 1.9 ㎝。

金属製品

鉄釘（24～27）　全て先端を欠損する。24 は上部が曲がっている。25 は断面長方形。26 は頭部が L 字形で、全体が反っている。現存長 4.8 ㎝。27 は現存長 11.2 ㎝、最大幅 1.1 ㎝。

鉄鏃（28）　柄部の茎部と篦被関部付近で、鏃身部は欠損している。現存長 3.6 ㎝。

石製品

平玉石（29～31）　色調は、29 が黒灰色、30 が白灰色、31 が白色を呈する。

井戸

317SE035 赤褐色土出土遺物（Fig. 76）

土師器

小皿 a（1～3）　復元口径 8.4～10.0 ㎝。摩滅が目立つが底部切り離しは糸切りか。

石製品

平玉石（4）　大きさは 1.95 × 2.2 ㎝、厚さ 0.75 ㎝。色調は灰色を呈する。

317SE035 灰黒褐色土出土遺物（Fig. 76）

土師器

小皿 a（5～9）　復元口径 8.6～10.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（10～14）　底部切り離しは回転糸切り。口径は、10 が 15.7 ㎝。11 は 17.0 ㎝。

鉢（15）　断面三角形の太い高台を貼付する。復元高台径 13.5 ㎝。

瓦器

椀（16、17）　16 は 17.0 ㎝。内外面ともミガキ c。17 は復元口径 19.0 ㎝。内面ミガキ c、外面はヨコナデの後部分的にミガキ c を施す。

須恵質土器

鉢（18）　口縁部はあまり肥厚しない。東播系。

土師質土器

鍋(19～21)　19 の外面はやや強いナデ調整。口縁端部上面は押圧文の後ナデ調整。20 は外面ヨコナデ、内面ヨコハケ調整。

用途不明製品（21、22）　21 は鍋の形状を呈しているが、残存範囲では丸味はなく直線的で、口縁部から 8.6 ㎝の位置に断面部をヨコナデし面取りしているため、全形が不明確である。外面タテハケ、内面ヨコハケ調整。22 は方形の鉢のような作りをし、脚部が貼付されている。しかし、鉢部の裏側はタテハケ調整され、器面の状況は内面のような仕上がりを示し、全形が不明である。

金属製品

鉄釘（23）　頭部は欠損し、先端部はL字形に曲げている。

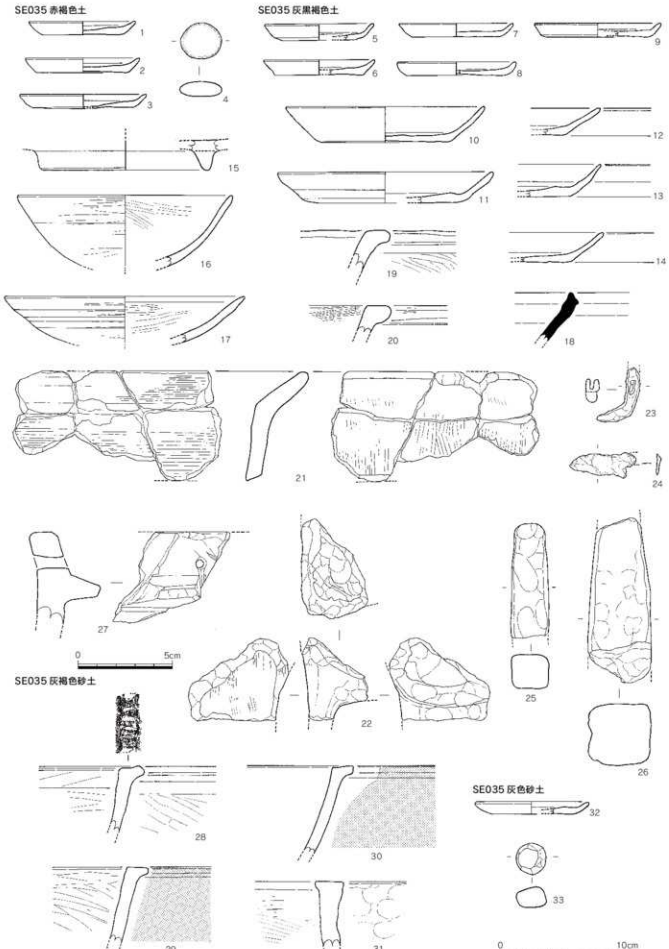


Fig. 76　317SE035 出土遺物実測図① (1/3、金属製品・石製品は 1/2)

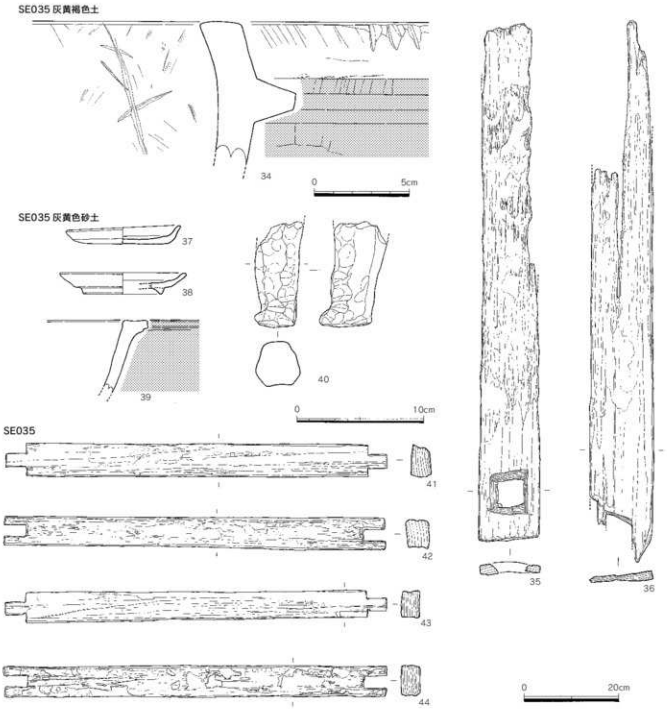


Fig. 77　317SE035 出土遺物実測図②（1/3、石製品は 1/2、木製品は 1/8）

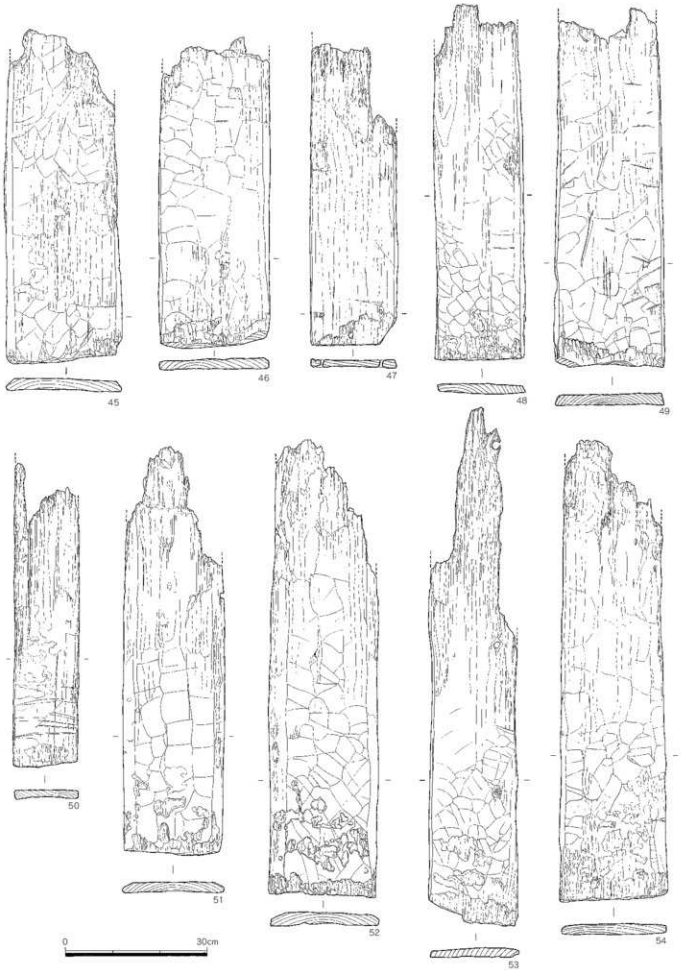


Fig. 78　317SE035 出土遺物実測図③ (1/8)

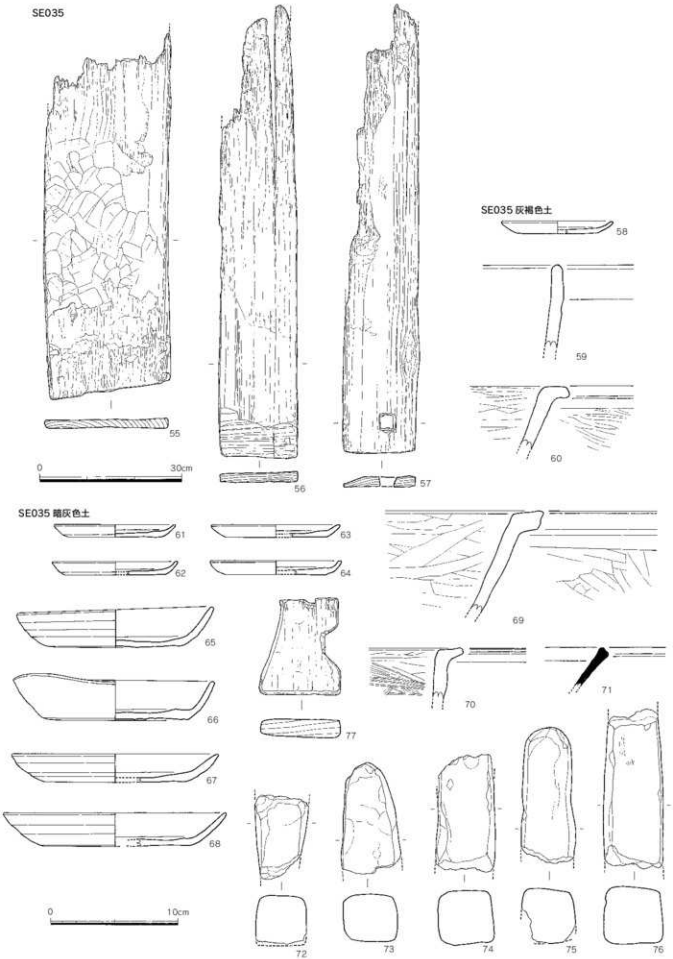


Fig. 79　317SE035 出土遺物実測図④ (1/3、木製品は 1/8)

刀子（24） 腐食し欠損も目立つが刀子と推測される。現存長 3.45 ㎝。

土製品

柱状土製品（25、26） 断面方形で全面ナデ調整。端部を若干細く仕上げる。25 は欠損するが、現存長 9.0 ㎝。26 は両端を欠損する。

石製品

石鍋加工品（27） 鍔を削り出した石鍋の口縁部下に径 0.6 ㎝の円孔を穿っている。滑石製。

317SE035 灰褐色砂土出土遺物（Fig.76）

土師質土器

鍋（28 ～ 31） 28 ～ 30 は口縁部をＬ字形に屈曲させる。内外面ともナデ調整。31 は口縁部を若干肥厚させるが直上する。28 は口縁端部上面に押圧文を施す。外面は強いナデ調整。29 の外面には薄く煤が付着する。30 の外面には煤が付着する。31 は直上した口縁部で、内面ヨコハケ、外面がナデ調整。

317SE035 灰色砂土出土遺物（Fig.76）

土師器

小皿 a（32） 復元口径 9.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

瓦類

瓦玉（33） 大きさは 2.4 × 2.4 ㎝、厚さ 1.65 ㎝。

317SE035 灰黄褐色土出土遺物（Fig.77）

石製品

石鍋（34） 鍔を削り出し、鍔の下半には煤が付着する。滑石製。

木製品

井戸枠材（35、36） 腐食し表面の加工痕は残っていない。35 は下方に方形孔をあける。幅 12.8 ㎝。36 は下端に切り込みを入れるが欠損したのか孔をなしていない。幅 13.3 ㎝。

317SE035 灰黄色砂土出土遺物（Fig.77）

土師器

小皿 a（37） 口径 9.1 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

小皿 c（38） 口径 10.0 ㎝。

土師質土器

鍋（39） 口縁部をＬ字形に屈曲させる。内外面ともヨコナデで、外面には煤が厚く付着する。

脚部（40） 断面多角形状に、外面は手捏ねで仕上げる。胎土はやや粗い。

317SE035 出土遺物（Fig.77 ～ 79）

木製品

井桁（41 ～ 44） 長さ 80.7 ～ 81.2 ㎝。両端部を凸形・凹形に加工している。

井戸枠材（45 ～ 57） 幅 13.7 ～ 25.2 ㎝。片面にカンナ痕を残す。47 の下方には孔を 3 ヶ所穿つ。51・52 の側面には樹皮が残る。56 は先端を斜めにカットする。57 の下方には方形孔を穿つ。

317SE035 灰褐色土出土遺物（Fig.79）

土師器

小皿 a（58） 復元口径 8.8 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

土師質土器

鉢（59） 胎土は砂粒を多く含み、口縁部は直上する。内外面ともヨコナデ調整。

鍋（60） 口縁端部をＬ字形に屈曲させる。内外面ともヨコナデ調整。

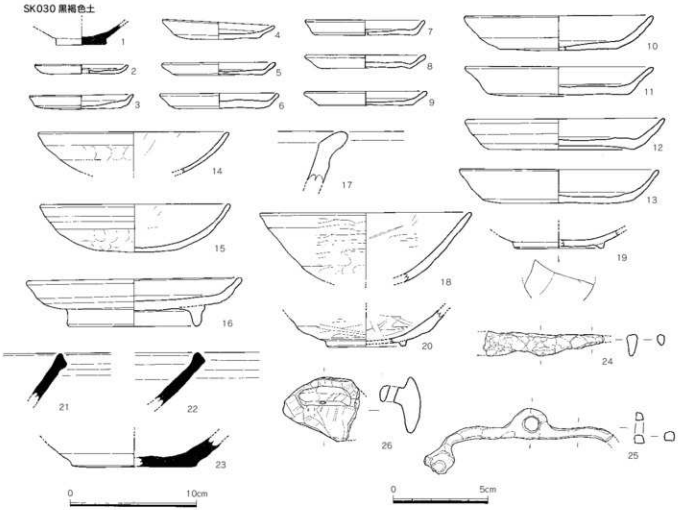


Fig.80　317SK030 出土遺物実測図（1/3、金属製品・石製品は 1/2）

317SE035 暗灰色土出土遺物（Fig.79）

土師器

小皿 a（61 ～ 64）　復元口径 9.6 ～ 10.4 ㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 a（65 ～ 68）　復元口径 15.5 ～ 17.6 ㎝。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

土師質土器

鉢（69、70）　口縁端部をＬ字形に屈曲させる。69 は内外面に不定方向のナデ調整。70 の内面にハケ状工具によるナデ。

須恵質土器

鉢（71）　口縁端部をやや肥厚させる。東播系。

土製品

柱状土製品（72 ～ 76）　胎土は白色砂粒を多く含み粗い。断面方形、端部をやや細く仕上げる。全面ナデ調整。

木製品

用途不明木製品（77）　最大幅 8.6 ㎝、高さ 10.2 ㎝。下駄の歯か。

土坑

317SK030 黒褐色土出土遺物（Fig.80）

須恵器

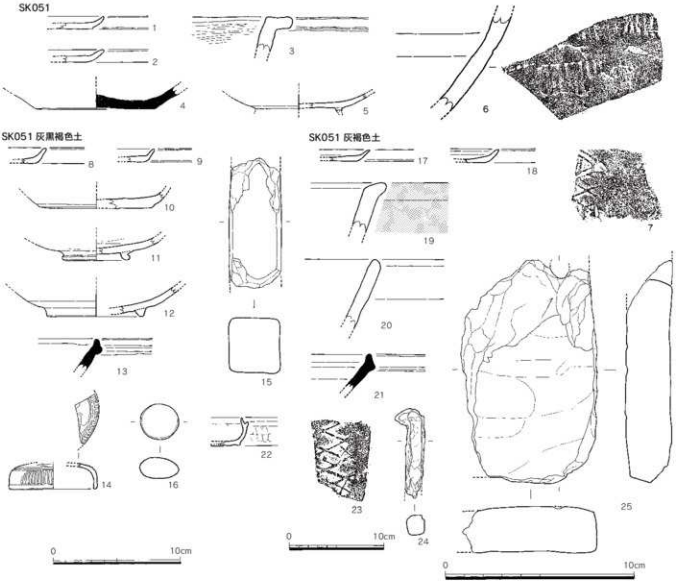


Fig. 81　317SK051 出土遺物実測図（1/3、瓦類は 1/4、金属製品・石製品は 1/2）

椀（1）　底部外面は糸切り。篠窯系。

土師器

小皿 a（2 ～ 9）　復元口径 7.4 ～ 9.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 a（10 ～ 13）　復元口径 15.0 ～ 15.8 cm。底部切り離しは、10 ～ 12 は回転糸切り、13 は回転ヘラ切りである。色調は淡橙色などを呈する。

丸底坏（14、15）　復元口径 15.0 cm。内面ミガキ b で、外面には指頭圧痕を残す。

坏 c（16）　口径 17.0 cm。底部は回転糸切り後に高台を貼付する。内面底部はナデ調整。

鍋（17）　口縁端部を若干曲げる。胎土は砂粒をやや多く含み粗い。内外面とも摩滅する。

瓦器

椀（18）　復元口径 16.8 cm。外面下半には指頭圧痕の後ミガキ c を施し、内面はミガキ b の後ミガキ c だが使用により摩滅する。

椀 c（19、20）　内外面ともミガキ c で低い断面方形の高台を貼付する。19 の底部にはヘラ記号がみられる。

須恵質土器

鉢（21～23）　東播系で、21・22の口縁部は僅かに肥厚させる程度である。23は復元底径10.0㎝。胎土は黒色粒を多く含む。外面底部は糸切りである。

金属製品

刀子（24）　両端を欠損する。錆が覆うが刀子とみられる。現存長6.4㎝、最大幅1.3㎝。

把手状金具（25）　片側を欠損する。中央には円孔をあける。現存長10.0㎝。

石製品

石鍋補修材（26）　大きさは3.4×4.1㎝で、厚さは2.1㎝で突出部には円孔を穿っている。滑石製。

317SK051 出土遺物（Fig.81）

土師器

小皿a（1、2）　底部切り離しは回転糸切り。

土師質土器

鍋（3）　口縁端部をL字形に屈曲する。外面ヨコナデ、内面ヨコハケ調整。

須恵質土器

鉢（4）　復元底径9.6㎝。外面底部は回転糸切りである。内面はやや平滑である。

緑釉陶器

皿（5）　胎土は須恵質で、内外面に濃緑色釉を薄く施す。東海産か。

中世国産陶器

甕（6）　外面に叩きを施し、内面はヨコナデ調整。常滑産。

瓦類

丸瓦（7）　横長格子叩きで、一部二重格子叩きである。

317SK051 灰黒褐色土出土遺物（Fig.81）

土師器

小皿a（8、9）　底部切り離しは回転糸切りである。

坏a（10）　底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

瓦器

椀c（11、12）　11は内面ミガキcだが単位は不明瞭。12は摩滅が目立ち調整不明。

須恵質土器

鉢（13）　口縁端部を曲げ肥厚させる。東播系。

青白磁

合子蓋（14）　復元口径7.0㎝。外面は縦押圧文を施し淡緑色釉を施すが、内面は露胎。

土製品

柱状土製品（15）　胎土は0.6㎝以下の白色砂粒を多く含み、断面方形に仕上げる。

石製品

平玉石（16）　大きさは2.05×1.9㎝、厚さ1.1㎝。

317SK051 灰褐色土出土遺物（Fig.81）

土師器

小皿a（17、18）　底部切り離しは回転糸切り。

土師質土器

鍋（19、20）　19は口縁端部を僅かに外反させる。外面には煤が付着する。20は外面が摩滅するが、内面は回転ナデ調整。

須恵質土器

鉢（21） 東播系。

青白磁

合子身（22） 内外面に淡水色釉を施すが、外面下半と口縁部は露胎。

瓦類

丸瓦（23） 横長の大きな格子叩き。

金属製品

鉄釘（24） 頭部をＬ字形に曲げるが、先端部は欠損する。現存長 4.8 ㎝。

石製品

石鍋二次加工品（25） 石鍋の断面部を加工し、欠損するが円孔が穿たれている。滑石製。

土層

灰黄色土出土遺物（Fig.82）

瓦器

椀ｃ（1、2） 断面三角形の高台を貼付する。内面はミガキｃ、外面はヨコナデ調整。

須恵質土器

鉢（3～7） 東播系。口縁端部は重ね焼きで変色する。6 は復元底径 9.0 ㎝。内外面ともヨコナデで、内面は使用により摩滅する。7 は底部外面が回転糸切り。内面は使用により平滑となる。復元底径 8.2 ㎝。

土師質土器

鍋（8） 口縁部はＬ字形に屈曲する。

石製品

石鍋二次加工品（9） 断面部はケズリ整形する。大きさは 5.45 × 9.3 ㎝、厚さは 2.05 ㎝。滑石製。

淡灰茶色土出土遺物（Fig.82・83）

土師器

小皿ａ（10～12） 復元口径 8.6 ～ 9.0 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。

坏ａ（13～19） 復元口径 13.1 ～ 15.8 ㎝。底部切り離しは回転糸切り。色調は黄橙色を呈する。

瓦器

椀ｃ（20、21） 摩滅が目立つが、内外面ともミガキｃを施す。

須恵質土器

鉢（22～24） 東播系。口縁端部は殆ど肥厚せず、内外面ともヨコナデ調整。

土師質土器

鉢（25） 直線的な体部で、内外面ともハケ調整で、外面には指頭圧痕を残す。

鍋（26～28） 26 は口縁部を肥厚させる。外面には煤が付着する。27・28 は口縁部をＬ字形に屈曲させる。27 は内面ハケ調整。28 は内外面ヨコナデで内面は摩滅し、外面は煤が付着する。

瓦類

平瓦（29、30） 29 は不定形な格子叩き。30 は二重格子叩きに「安」の文字瓦。

金属製品

鉄釘（31） 断面方形で、頭部を僅かに曲げ、先端部を僅かに欠損する。現存長 5.5 ㎝。

土製品

柱状土製品（32） 両端を欠損。断面方形で全面ナデ調整する。

土球（33） 大きさ 2.65 ㎝、厚さ 1.9 ㎝。色調は淡黄茶灰色を呈する。

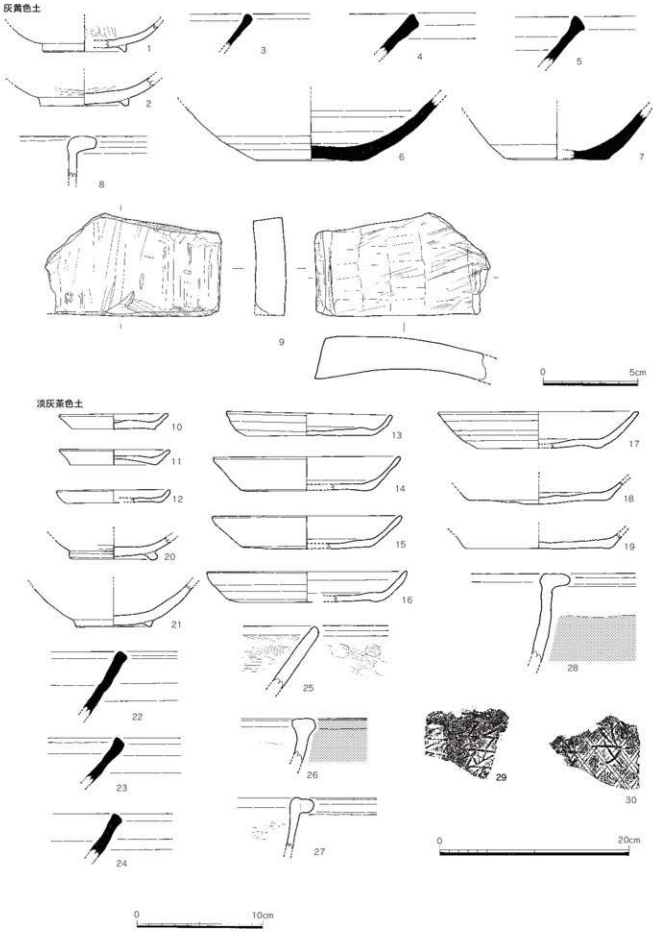


Fig.82　第317次調査灰黄色土・淡灰茶色土①出土遺物実測図（1/3、瓦類は1/4、石製品は1/2）

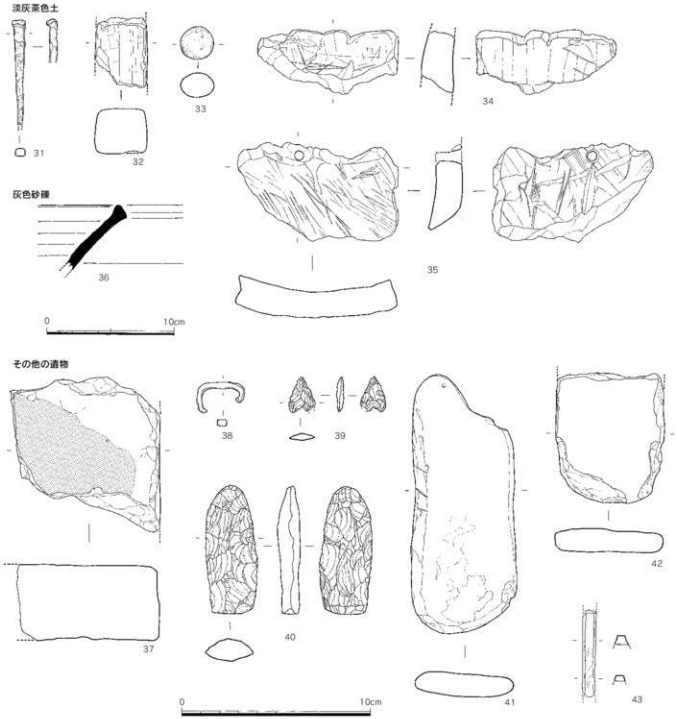


Fig. 83　第 317 次調査淡灰茶色土②、その他の出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は 1/2)

石製品

石鍋二次加工品（34、35）　34 は断面部を一部加工している。滑石製。35 は内外面ともケズリや擦痕が残り、円孔を穿っている。滑石製。

灰色砂礫出土遺物（Fig. 83）

須恵質土器

鉢（36）　内面は強いヨコナデ、外面ヨコナデ。東播系。

その他の出土遺物（Fig. 83）

瓦類

無文塼（37）　大きく欠損する。表面はヘラケズリやナデ調整。色調は黄灰色や黒茶色を呈する。厚さ 6.0 ㎝。SK073 黒褐色土より出土。

金属製品

鉄釘（38）　断面方形の鉄釘をコ字形に曲げている。SK072 黒褐色土より出土。

石製品

石鏃（39）　縦 1.9 ㎝、幅 1.4 ㎝、厚さ 0.4 ㎝。安山岩製。SD066 より出土。

尖頭器（40）　縦 6.8 ㎝、幅 2.75 ㎝、厚さ 1.2 ㎝。全体的に風化が目立つ。安山岩製。SD066 灰褐色砂礫より出土。

石鍬（41、42）　41 は先端部を研磨し、側面部に傷が付く。長さ 13.6 ㎝、幅 5.5 ㎝、厚さ 1.2 ㎝。SX075 灰褐色砂礫より出土。42 は幅 5.7 ㎝、厚さ 1.7 ㎝。端部を打ち欠いている。片岩製。SD066 灰褐色砂礫より出土。

石硯（43）　現状は細長い破片であるが、縁部分とみられる。暗灰色の頁岩製。SK004 より出土。

（5）小結

今回の調査では、対象地の西側の多くが氾濫により削平され、遺構は遺存しておらず、調査地東側のみで遺構が確認された。検出された遺構は 11 世紀後半～ 14 世紀のもので、それ以前の遺構は全く検出されず、遺物も非常に少ない状況であった。

調査では遺構が遺存していた対象地東側中央付近で南北道路遺構が検出された。12 世紀後半頃の側溝を伴った明確な道路遺構（317SF065・070・075）が検出され、その西隣にそれよりやや古い 11 世紀後半～ 12 世紀前半頃の道路関係遺構が検出された。これには明確な道路側溝は確認されていないが溝状の整地が多くみられるため、道路が劣化し窪み状になった部分に整地を繰り返していたものと推測される。よって、SD042 から SD032 までの幅 5 ～ 6m が道路占有範囲であったと理解でき、この道路部分の最終面には 13 世紀代の整地（SX001）や溝（SD033・034・042）が確認できた。ここは井上条坊案の左郭 4 坊路の推定ラインに位置しており、政庁Ⅲ期の終わり頃から鎌倉時代にかけて、政庁廃絶後も条坊道路を引き続き踏襲し利用し続けたことがわかった。

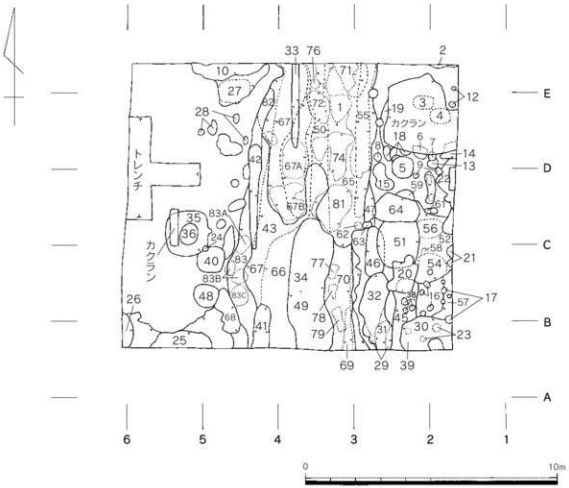


Fig. 84　第317次調査遺構略測図①（1/150）

Fig. 85　第 317 次調査遺構略測図② (1/200)

表 16　第 317 次調査　遺構一覧表①

S-番号	遺構番号	種別	埋土等	時期	地区
1	317SX001	整地層	道路を覆う土　黒褐色土(灰色ﾌﾞﾛｯｸ混じり) S-34→1 S-47→1	13世紀	B～E・3～5
2		土坑?	黒褐色土	12世紀～	E1
3		土坑	灰色土	平安後期	D2
4		土坑	灰色土	平安後期	D1
5		土坑	灰色土	11世紀後半～12世紀前半	C・D2
6		ピット	黒褐色土	平安時代	D2
7		ピット	黒褐色土	12世紀～	D2
8		ピット	黒褐色土	平安時代	D2
9		ピット群	灰色土	12世紀～	C1・2
10		土坑	灰黄色土	12世紀中頃～後半	E4
11		ピット	黒褐色土	12世紀～	D1
12		ピット群	黒褐色土	平安後期	D・E1
13		ピット	灰色土	12世紀～	D1
14		土坑		平安後期～	D1
15		土坑	黒褐色土		C・D2
16		ピット群	黒褐色土	12世紀中頃～後半	B1・2
17		ピット	黒褐色土・灰色土		A1
18		ピット群	灰色土	平安後期～	D2
19		土坑?	灰色土		D2
20		方形土坑	黒色土　S-51・52・32→20	12世紀後半	B2
21		ピット群	灰色土	11世紀後半～12世紀前半	B1
22		土坑	灰色土　S-22→9	11世紀後半～12世紀前半	C1
23		ピット群	灰茶褐色土　S-23→30	12世紀中頃～後半	A1・2
24		ピット	灰褐色土　S-35→24 S-40→24	12世紀後半～	B4
25		土坑	淡灰茶色土	12世紀～	A5
26		土坑	淡灰茶色土	11世紀後半～	A5・6
27		土坑	灰黄色砂土	12世紀	D・E4
28		ピット群	黄灰色土		D4・5
29	317SD029	溝	黒褐色土　S-29→31→32	12世紀中頃～後半？	A・B2
30	317SK030	土坑	灰白色土・黒褐色土　S-23・39→30　　S-57→30	12世紀中頃～後半	A1・2
31	317SD031	溝	灰黄色砂土　S-29→31→32	12世紀中頃～後半	A2
32	317SD032	溝	灰黒褐色土　S-29→31→32	12世紀中頃	A・B2
33	317SD033	溝	灰色土　S-1→33	13世紀～	D・E3
34	317SD034	溝	淡灰黄色土　S-49の上層　S-34→1	13世紀前半前後	A・B・C3
35	317SE035	井戸	赤褐色土	12世紀後半	C5
36		土坑	S-35の一部　灰白色土　S-35→36	12世紀後半	C5
37		ピット	灰褐色土		A2
38		ピット群	黒褐色土　S-38→45	12世紀～	B2
39		ピット	黒褐色土	12世紀後半	A2
40		土坑	黒褐色土	12世紀後半	B4・5
41	317SD041	溝	淡灰黄色土　S-43→41	12世紀後半～	A・B4
42	317SD042	溝	灰色土　S-43→42	13世紀中頃～14世紀	C・D4
43	317SD043	溝状整地層	淡黄色土　S-67→43→41	13世紀～14世紀前半	A～D3・4
45	317SD045	溝	褐灰色土　S-45→38・29・30	11世紀後半～12世紀前半	A・B2
46	317SD046	溝	黒褐色砂礫土　S-46→32	12世紀中頃	B・C2
47	317SD047	溝	黒褐色砂礫土　S-64→47	12世紀前半前後	C2
48		土坑	灰褐色砂礫土　S-54・56→52→51・64・20	平安後期～	B4・5
49	317SD049	溝	S-34の下層	12世紀中頃～後半	A～C3
50	317SD050	溝	上・黒褐色土　下・暗黒褐色土　S-65→50	12世紀中頃～後半	C～E3
51	317SK051	土坑	灰黒褐色土　S-51→64 S-52→51	12世紀中頃～後半	B・C2
52		土坑	黒褐色土(黄色土ﾌﾞﾛｯｸ混じり)　S-54・56→52	平安後期～	B・C1・2
53		ピット	S-51と同じか	12世紀～	B2
54	317SK054	土坑	灰黄色土　S-54→52	11世紀後半～12世紀前半	B1・2
55	317SD055	溝	上・黒褐色土　下・灰褐色土　S-65→55	12世紀中頃～後半	C～E2
56	317SK056	土坑	灰黄色土 S-56→52	12世紀～	C1・2
57		土坑	灰黄色土　S-57→42・30	平安後期	A・B1
58		ピット	灰褐色土　S-58→54	平安後期	B2
59		ピット	灰黄色土　S-59→64	平安後期	C2
61		ピット	黒褐色土　S-56→61	12世紀～	C2

表 16　第 317 次調査　遺構一覧表②

62		ピット	S-65→62→63		C2
63		ピット	黒褐色土　S-62→63		C2
64	317SK064	土坑	灰黄褐色土　S-51→64	12世紀～	C2
65	317SF065	路盤	灰黄褐色砂礫土	12世紀後半～13世紀前半?	A～E2・3
66	317SX066	溝状整地層	灰褐色土、砂が混じる　S-66→67→43	12世紀後半	B3・4
67	317SX067	溝状整地層	灰黄褐色土　S-67→43→41	11世紀後半～12世紀前半	A～E3・4
68		土坑	灰赤褐色土	12世紀中頃～後半	B4
69	317SX069	溝状土坑	黒褐色土　S-69→70	12世紀中頃～後半	A2・3
70	317SF070	路盤	灰褐色砂礫土	12世紀後半	A・B3
71		堆積土か	灰色砂礫土	12世紀～	E2・3
72		土坑	黒褐色土　S-72→67・50	11世紀後半～12世紀前半	D3
73		土坑	黒褐色土　S-73→50		E3
74		土坑	黒褐色土　S-74→50・65	12世紀中頃～後半	C・D3
75	317SF075	路盤	礫敷	12世紀後半	
76		土坑	黒灰色土　S-76→50・55・65	12世紀後半	C～E3
77		土坑	暗灰色砂礫　S-77→70	12世紀～	B3
78		土坑	暗灰色砂礫　S-78→70		B3
79		土坑	暗灰色砂礫　S-79→70		A3
80	317SX080	溝状整地層	黒褐色土　土器多く含む	12世紀後半	C3・4
81		土坑	黒灰色土　S-81→50・65	11世紀後半～12世紀前半	C3
82	317SX082	溝状整地層	灰黄褐色土　S-82→43・6・7	平安後期	D・E4
83	317SX083	溝状整地層	灰黄褐色土　S-83→赤灰色砂礫土	12世紀～	B・C4
灰黄色土			表土下の土層		C区
淡灰茶色土			遺構面直上と遺構検出時の土層		C区
暗灰褐色土			遺構検出時の土層		A-2区
灰色土			A区南端、淡灰茶色土上面の続き		A区
淡茶灰色砂			沼瀉原上面の精査		A区
灰色砂礫			遺構基盤層の一部		C区
淡黄茶色土(淡灰茶色土?)			遺構検出時の土層か		C区

表 17　第 317 次調査 条坊関連遺構座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向 (m)	Y方向 (m)	
317SD034	北端中点	56559.80	−44470.816	−145.371	351.386	N-1° 20′ 33″ -W
	南端中点	56554.85	−44470.700	−150.320	351.552	
317SD041	北端中点	56557.20	−44472.766	−147.990	349.462	N-4° 3′ 22″ -E
	南端中点	56555.00	−44472.810	−150.191	349.440	
317SD042	北端中点	56562.768	−44472.958	−142.425	349.215	N-0° 46′ 38″ -W
	南端中点	56559.820	−44472.918	−145.372	349.284	
317SD049	北端中点	56559.60	−44470.560	−145.569	351.644	N-0° 47′ 46″ -E
	南端中点	56554.85	−44470.626	−150.319	351.626	
317SD029・031・032・046	SD046北端中点	56560.40	−44468.25	−144.745	353.946	N-3° 36′ 30″ -W
	SD029南端中点	56554.85	−44467.90	−150.291	354.352	
317SD050	北端中点	56565.50	−44470.52	−139.668	351.625	N-1° 2′ 30″ -E
	南端中点	56560.00	−44470.62	−145.169	351.580	
317SD055	北端中点	56566.10	−44468.334	−139.047	353.805	N-6° 28′ 22″ -E
	南端中点	56560.60	−44468.950	−144.552	353.244	
317SF065・070・075	北端中点	56565.50	−44469.60	−139.659	352.545	N-3° 7′ 2″ -W
	南端中点	56554.85	−44469.02	−150.303	353.232	

表 18　第 317 次調査　出土遺物一覧表①

S-1 黒色土器

須恵	器蓋1、器3、甕1、坩1、壺1
土師	器小皿a(4)、小皿b、小皿c、坏a(5)、小5、坏c、天坏c、丸底坏a、椀c、甕類、鉢、器台、供膳具
黒色土器A	椀類
黒色土器B	椀類
瓦	器類、椀類
土師質土器	鉢、鍋、破片
須恵質土器	鉢、鉢(東播系)
灰釉陶	器蓋、壺
中世須恵陶器	甕
白磁	椀：Ⅱ(2)、Ⅱ-1(4)、Ⅴ(2)、Ⅳ(18)、Ⅳ-1a(5)、Ⅴ-1a(1)、Ⅴ(3)、Ⅴ-2(1)、Ⅴ-2b(1)、Ⅴ-3(1)、Ⅴ-4b(1)、Ⅴ-4c(1)、Ⅴ-1～Ⅷ-2(2)、Ⅴ-4～Ⅷ-1～3(6)、Ⅶ?(2)、Ⅶ(6)、内面圏台(1)、輪花片(15) 皿：Ⅱ-1a(2)、Ⅲ(2)、Ⅲ-1(1)、Ⅴ-2(1)、Ⅵ(4)、Ⅴ～Ⅷ(6)、Ⅵ-a(1)、Ⅵ-1a(3)、Ⅵ-1b(4)、Ⅵ-1(1)、Ⅷ-1b(1)、Ⅹ-b(1)、底破片(4) 壺類(1)　梅瓶(1)　瓶(1)　輪花(1) 白磁破片：(37)、広東系(4)、底(1)縁(2)、内面圏台(4)、外反(1)縁(4)
瀬戸・美濃青磁	破片(14)、破片?(2)
陸奥型系青磁	椀：(16)、1-1(2)、1-2(2)、1-3(1)、1-4(3)、1-7類(2)、Ⅱ-b(1) 皿：(14)、1-1a(1)、1-1b(1)、1-2(1)　破片：(12)、破片?(1)
同安型系青磁	椀：(2)、1-2(1)、1-1a(2)、1-1b(1)　同安破片(1)
龍泉型系青磁	椀：(1)、1-1a(1)、1-1b(1)、1-2(1)、1-3b(2) 壺：破片(6)、縁(1)、Ⅳ(2)、Ⅳ-1(1)、破片?(1)
中国陶器	耳壺：破片(1)、破片?(1) 鉢：1-1b(2)、縁1(1)、Ⅳ-1(1)、Ⅴ～Ⅶ(1)、破片(4) 甕(2)　甑(1)　陶器破片(14)
瓦質土器	鍋類破片(3)
備前	鉢破片(1)
須恵質土器入子	鉢(東播系無鉢部除く)
黒色陶器	天目椀
瓦	平瓦(磯目、格子叩、格子天、二重格子)、丸瓦(格子、無文)、軒丸瓦、軒丸瓦、文様博、瓦玉
石製品	石臼(粉挽)、刀子、鉄鍋、鍋片、鉄滓
土製品	土玉類、唐石加工品、玉石
土製	土錘、有孔土製品、土偶

S-2

須恵	器蓋1
土師	器供膳具
龍泉型系青磁	椀：1-4(1)
石製	品ナベ～ト、滑石片

S-3

土師	器小皿a(27)、供膳具
瓦	軒平瓦(格子)、丸瓦
鉄滓類	品鉄片

S-4

須恵	器破片
土師	器小皿a、供膳具
瓦	器類、椀
中国陶器	器蓋(1)
瓦	軒平瓦(格子)
石製	品硯

S-5

土師	器丸底坏a、供膳具
瓦	器類、椀c
白磁	椀：Ⅴ-b(1)
瓦	製破片

S-6

土師	器供膳具
黒色土器B	椀類

S-7

須恵	器甕
土師	器小皿a(1)、供膳具
須恵質土器	鉢
土製	品筒状不明土製品

S-8

土師	器小皿a(57)

S-9

須恵	器甕
土師	器小皿(1)、椀c、供膳具、甕類

S-10

土師	器小皿a、坏a(1)、甕類、底台
瓦	器類
白磁	椀：広東系(1)
同安型系青磁	椀：1-2b(1)
瓦	製平瓦(格子)
石製	品硯石

S-10 区黒色土

土師	器小皿a、坏a(1)、供膳具
同安型系青磁	椀：1-2b(1)
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦	製破片(格子)

S-11

土師	器小皿a、坏a(1)

S-12

土師	器丸底坏、供膳具
瓦	製破片

S-13

土師	器坏a(71)、甕類、供膳具
瓦	器類
白磁	椀内面圏台(1)
瓦	製破片

S-14

土師	器小皿a？坏a、供膳具

S-15

土師	器供膳具
中国陶器	器破片(1)(鍔?)

S-16

須恵	器坏、破片
土師	器坏、坏a、供膳具
黒色土器B	椀類破片
土師質土器	鍋
白磁	椀類：Ⅴ-4～Ⅷ-1～2(1)　皿：Ⅷ-2b(1)
龍泉型系青磁	椀：1-1a(1)

S-17 黒色土

須恵	器甕
土師	器供膳具
瓦	製破片

S-17 灰色土

土師	器供膳具、甕類

S-18

土師	器供膳具
黒色土器B	椀類
白磁	椀内面圏台(1)

S-19

瓦	製丸瓦(格子)

S-20

須恵	器甕
土師	器小皿a(1)、坏a(1)、丸底坏a、甕類
瓦	器類
土師質土器	鍋
須恵質土器	鉢
白磁	椀：Ⅷ-a(1)
龍泉型系青磁	椀：(1)、1-2(2)、1-4(1)
瓦	製丸瓦(格子)
金属製	品銅滓
石製	品砥石片
土製	品土塊

S-21

土師	器甕類、供膳具
瓦	器類
白磁	椀：Ⅴ-4～Ⅷ-1～2(1)

S-22

土師	器供膳具
白磁	椀：Ⅳ(1)
瓦	製破片

S-23

土師	器小皿a(11)、坏a
瓦	製丸瓦(格子入)

S-24

土師	器坏、甕類

S-25

須恵	器甕
土師	器小皿a(1)、丸底坏a、椀c、供膳具、甕
瓦	器類
土師質土器	鍋
白磁	椀：Ⅴ外面圏台(1)
同安型系青磁	椀：1-1b(1)　皿：1(1)
瓦	製平瓦(磯目、格子、無文)、瓦玉、破片
土製	品土塊

S-26

須恵	器甕
土師	器坏a、破片
黒色土器B	椀類破片
白磁	椀白磁破片(1)

S-27

須恵	器甕
土師	器坏a、破片
白磁	椀：Ⅴ-1～Ⅷ-2(1)

S-28

土師	器皿？、供膳具、甕類
石製	品砥石

表 18　第 317 次調査　出土遺物一覧表②

S-29黒色土

製　造	器種井
土　師	器土師(石)、丸底坪、丸底坏c、坏c、椀c、壺類
須　恵	器類
土師質土器	器類
白　磁	椀：Ⅲ-5(2)、Ⅳ(4)、V-4×Ⅶ-1×3(1)、破片(4) 皿Ⅱ(1)　白磁破片(3)、広東系(1)、底(1)縁(1)
同安窯系青磁	椀：1-1(1)、1-1b(1)
瓦	類平瓦(格子)、亀甲子、丸瓦(格子、無文)、瓦玉
金属製品	鉄塊
石　製	品紙石？、滑石加工品

S-30灰白色土

製　造	器種井
土　師	器土師(石)、丸底坪、椀c
黒色土器B系	椀
白　磁	椀破片(1)　底広東系(1)
瓦	類平瓦(無文)

S-30黒褐色土

製　造	器種井c、椀(稜部)、壺
土　師	器土師(石)、坏a(石)、大坏c、丸底坏a、椀c、供膳具、鍋、壺類
須　恵	器椀、椀c
土師質土器	器鍋(東播系)
中世陶器類	壺
白　磁	椀：Ⅱ(1)、Ⅳ(3)、Ⅳ-1a(3)、V-4a(1)、Ⅶ-2(1)、Ⅶ(1)、内面櫛目(1)、広東系(1)、椀破片(7) 皿：Ⅲ-1(1)、Ⅱ-1a(1)、Ⅲ(2)、Ⅲ-2(1)、V-×Ⅶ(2)、Ⅵ-1a(1) 底(1)　白磁破片(1)、広東系(1)、底(1)縁(1)
青　磁	椀破片(1)
瀬戸美濃系青	椀：1(1)　瀬戸1破片(1)
同安窯系青磁	底：1(1)
中国陶磁	椀(2)　陶器破片(1)
黒　陶	器天目椀
瓦	類平瓦(鐵目、格子、亀甲子、無文)、丸瓦(格子、無文)
金属製品	刀子、釘子
石　製	品石鏃、砥石、紙石
土　製	品土錘

S-31黒褐色土

製　造	器種井、破片
土　師	器供膳具
白　磁	椀：Ⅳ-1a(1)
中国陶磁	椀(2)
瓦	類平瓦(無文)

S-36黒褐色土

製　造	器種井
土　師	器土師(石)、丸底坏a、椀c、壺類
須　恵	器椀
白　磁	椀：Ⅲ-1(1)、Ⅲ(1)、Ⅲ-2(1)、Ⅶ(1) 皿：Ⅲ-1(1)、Ⅲ(2)、Ⅲ-2(1)、V-×Ⅶ(2)、Ⅵ-1a(1) 底(1)　白磁破片(1)、広東系(1)、底(1)縁(1)
青　磁	椀破片(1)
瀬戸美濃系青	椀：1(1)　瀬戸1破片(1)
同安窯系青磁	底：1(1)
中国陶磁	椀(2)　陶器破片(1)
瓦	類平瓦(鐵目、格子、無文)、瓦玉
金属製品	刀子、釘子
石　製	品石鏃、砥石、紙石
土　製	品土錘、土鈴

S-37黒褐色土

製　造	器種井、壺
土　師	器土師(石)、坏a、丸底坏a、椀c、壺類
須　恵	器椀
白　磁	椀：V-4×Ⅶ-1×3(1)、椀破片(1) 皿：V-×Ⅶ(1)　白磁破片(1)
中国陶磁	椀破片(1)
瓦	類平瓦(無文)

S-38黒褐色土

製　造	器種、破片
土　師	器供膳具
白　磁	椀：V-4×Ⅶ-1×3(1)、椀破片(1) 皿：V-×Ⅶ(1)　白磁破片(1)
中国陶磁	椀破片(1)
瓦	類平瓦(無文)

S-39黒褐色土

製　造	器種井、壺
土　師	器土師(石)、坏a、丸底坏a、供膳具
須　恵	器椀
白　磁	椀：Ⅲ-1(1)、Ⅲ(1)　白磁破片(1)
中国陶磁	椀破片(1)
瓦	類平瓦(格子)、破片

S-40灰黒色土

製　造	器種井、壺
土　師	器土師(石)、坏a、丸底坏a、供膳具
須　恵	器椀
白　磁	椀：Ⅲ-5(2)、Ⅳ(1)、破片(1) 皿Ⅱ(1)　白磁破片(1)、底(1)縁(1)
越州窯系青磁	椀破片(1)
瀬戸美濃系青磁	椀：1-2(1)、Ⅱ-1(1)　瀬戸破片(1)
同安窯系青磁	椀：1-1b(1)　同安1破片(1)
中国陶磁	椀破片(2)
黒高麗系輸入	椀鉢系無釉陶器
瓦	類平瓦(一重格子)、破片
石　製	品石鏃

S-35灰黒褐色土

土　師	器坏、坏a(石)、壺類
須　恵	器椀
白　磁	椀：Ⅳ(1)、V(1)、V-4×Ⅶ-1×3(1)、椀破片(1) 皿：Ⅶ(1)
瀬戸美濃系青	椀破片(1)
同安窯系青磁	底：1(1)
瓦	類瓦
石　製	品石鏃
木　製	品片穿櫛材

S-25黒色砂土

土　師	器坏a(石)

S-35赤黒色土

製　造	器坏
土　師	器土師(石)、坏a(石)、供膳具、壺
須　恵	器椀、椀c
土師質土器	器鍋
黒高麗系	器椀
白　磁	椀：V-4a(1)、V-4b(1) 皿：Ⅲ-1a(1)、Ⅲ-2(1)　白磁破片(3)、底(1)縁(1)
青　磁	椀破片(1)
瀬戸美濃系青	椀：1-2(1)
同安窯系青磁	椀：1-1b(2)
中国陶磁	椀破片(1)
瓦	類平瓦、丸瓦(格子)、瓦玉
石　製	品石鏃、平玉石、滑石片

S-35灰黒褐色土

製　造	器坏、坏a、壺
土　師	器土師(石)、坏a(石)、坏c、鍋、鍋台、鐘、供膳具
黒色土器A系	椀
須　恵	器椀、椀c
土師質土器	器椀、鍋、用途不明製品
白　磁	椀：V-4a(1)、V(3)、V-4×Ⅶ-1×3(2)、V-1×Ⅶ-2(1)、Ⅶ(1)、破片(2)、小椀(1) 皿：Ⅲ-1a(1)、Ⅲ(2)、Ⅲ-1(3)、Ⅲ×Ⅲ(1)、Ⅵ-1b(2)、Ⅶ-2ア(1) 鉢皿(1)　白磁破片(16)、広東系(1)、白磁無釉(1)
瀬戸美濃系青	椀：1(1)
同安窯系青磁	椀：1(1)、1-1b(5)、破片(1)　皿：1(5)、1-2b(2)
中国陶磁	椀(2)　青磁(1)
黒高麗系輸入	椀鉢系無釉陶器
瓦	類平瓦(格子)、丸瓦(無文)
金属製品	鉄釘、刀子
石　製	品丸石、敲石？、砥石？、石錘加工品
土　製	品焼成不明土製品、粘状土製品
その他	被圧化木

S-35灰黒色砂土

製　造	器種井
土　師	器土師(石)、坏a(石)、供膳具
須　恵	器椀
土師質土器	器鍋、ふね、鐘
黒高麗系	器椀
白　磁	椀：Ⅲ-1(1)、広東系(1)　白磁破片(2)
瀬戸美濃系青	椀破片(1)
同安窯系青磁	椀：1-1b(2)、Ⅱ(1)　底：1-2b-1(1)　同安破片(1)
中国陶磁	椀破片(底1底1)
黒高麗系輸入	椀鉢系無釉陶器
瓦	類平瓦(鐵目)、丸瓦(格子)、破片

S-35灰黒色砂土

製　造	器種井
土　師	器土師(石)、小皿c、坏a(石)、供膳具、貯蔵？
須　恵	器椀
土師質土器	器鍋、鐘、鍋台
白　磁	椀：V-4×Ⅶ-1×3(3)、Ⅵ-1b(1)、椀破片(1) 皿：Ⅲ-1(1)　白磁破片(1)
同安窯系青磁	椀：1-1b(2)　底：1(1)　同安破片(1)
瓦	類瓦
石　製	品紙石

S-35灰色砂土

土　師	器小皿a(石)、坏、供膳具
須　恵	器椀
同安窯系青磁	椀：1-1b(1)
瓦	類丸瓦

表 18　第 317 次調査　出土遺物一覧表③

5-35区黒色土

種　別	器種
土　師	器小皿a(1)，坏a(1)，鉢類
土師質土器	器鉢，鍋
石　器	剥片
	石核
	石鏃
	石錐
	石斧
	石製品
	石錘

5-35南区色土

種　別	器種
土　師	器坏
石　器	剥片
	石核

5-35補区色土

種　別	器種
土　師	器小皿a(4)，小皿?，坏a(11)，椀c，鉢類
須　恵	器椀，椀c
土師質土器	器鉢，鍋類
須恵質土器	器鉢
石　器	剥片；V-4a(1)，V-4×Ⅶ-1×3(2)，破片(4) 鋭；Ⅱ-1a(1)，破片(1)　　白磁破片(6)，広東系(1)
縄文黒曜系青磁	器椀；(1)(1)
同安窯系青磁	器椀；1-1b(8)，鐘(1)　　皿；(2)
中国陶磁	器瓶(3)　　陶器破片(4)
瓦	製平瓦(格子)
石　製	品石錘，滑石片
土　製	品粘土製品，土鍋，土錘
木　製	品用途不明品

5-36

木　製	品井戸枠材，井桁

5-36

土　師	器坏，鉢類
瓦	器破片
土師質土器	器鍋?
縄文黒曜系青磁	器破片(1)

5-37

土　師	器坏，鉢類，破片
黒色土器A	器椀

5-38

種　別	器種?
土　師	器小皿a(1)，小?，丸底坏a，椀c
石　器	剥片，破片(1)　　敲石(1)
瓦	製丸瓦，破片

5-39

土　師	器小皿a(1)，坏a(1)，丸底坏a，鉢類
瓦	製丸瓦(無文)

5-40黒色土

土　師	器小皿a(1)，坏a(1)，鉢類
瓦	器破片
土師質土器	器鉢，鍋
石　器	剥破片(3)　　敲石(1)　　白磁広東系(1)

5-41淡灰黒色土

種　別	器種
土　師	器小皿a，坏a，丸底坏a，椀c，鉢類
須　恵	器椀，鉢
石　器	剥；Ⅱ-1(1)，Ⅳ-1a(1)，V-1(1)，破片(1)，広東系(1) 鋭；Ⅱ-1(1)，V-2(1)　　白磁破片(1)，広東系(1)
瓦	製平瓦(格子)，瓦玉
石　製	品平玉石，滑石片

5-42淡色土

種　別	器種
土　師	器坏，鉢類，鍋類
瓦	器椀c
須恵系器	器破片
石　器	剥；Ⅱ-1(1)，Ⅳ(1)　　白磁破片(1)，内面墨書(1)
縄文黒曜系青磁	器椀；1-2(1)　　坏；鐘-2(1)
同安窯系青磁	器破片(1)
中国陶磁	器瓶(3)　　陶器破片(1)
瓦	製平瓦(格子，無文)，丸瓦(無文)，瓦玉
石　製	品石錘

5-43淡黒色土

種　別	器種
土　師	器坏，椀，椀c
土師質土器	器鉢，鍋類
須恵質土器	器鉢(東播系)
石　器	剥；Ⅱ-1(1)，Ⅳ(3)，Ⅳ-1a(3)，V-1(1)，V-1a(1)，V-2?(1)， V-2a(3)，V-3(2)，V-4a(1)，V-1×Ⅶ-3(1)，Ⅶ(1) Ⅹ類(1)，広東系(2)，破片(6)　　椀×並Ⅸ(1) 鋭；Ⅱ-1a(1)，Ⅱ-3類(1)，V-Ⅶ(2)，Ⅶ-1b(2)，広東系(2) 白磁破片；(10)，外反口縁(2)，口縁部(2)，内面墨書(1) 広東系(1)　　道(1)
青　白	器椀(1)
縄文黒曜系青磁	器；(1)，1-2(4)，1-2(1) 坏；鐘-1(1)　　縄文破片；(1)(1)，(7)(1)
同安窯系青磁	器椀；(1)(1)，1-1b(3)，鐘-2(1)，破片(1)　　皿；(1)　　同安?破片(1)
中国陶磁	器瓶(1)
瓦	製平瓦(格子，無格子，無文)，丸瓦(格子，無文)，瓦玉
鉄　製	品鉄釘，鉄片
石　製	品滑石片，滑石加工品，平玉石
土　製	品土鍋，土壁，粘状土製品
石	器剥片

5-45淡

土　師	器小皿a，坏a，丸底坏a
瓦	器椀c
瓦	器破片
金属　製	品鉄釘
石　製	品石錘

5-45黒色土

種　別	器種，坏c，皿?
土　師	器小皿a(?)，坏a(1)，丸底坏a，高台
黒色土器A	器椀
瓦	器椀c
土師質土器	器鉢，鍋類
須恵質土器	器鉢(東播系)
石　器	剥；Ⅱ-1(1)，Ⅳ(1)，V-3a(1)，破片(1) 鋭；Ⅶ-b(1)，広東系(1)　　白磁口縁外反(1)
縄文黒曜系青磁	器破片?(1)
陸奥須恵系青磁	器椀A(1)
同安窯系青磁	器椀；(1)(1)
宋　磁	器白磁，鉢，皿?　　高麗青?，丸瓦(無文)，瓦玉
金属　製	品鉄釘，鉄石
石　製	品石錘，鉄石

5-46灰黒色砂土

土　師	器丸底坏a
鉄道貨物輸入	用材点無鋼版器

5-46黒色砂礫

種　別	器坏，鍋，皿?
土　師	器小皿a(1)，(?)，丸底坏a，丸底坏c，椀c，鉢類
黒色土器A	器椀
瓦	器椀，椀c
石　器	剥；Ⅳ(1)，Ⅳ-1a(1)，広東系(1)，破破片(1) 鋭；Ⅶ-1a(1)　　白磁破片；(2)，広東系(1)
中国陶磁	器瓶×鉢(1)
瓦	製平瓦(格子)，丸瓦
金属　製	品鉄釘
石　製	品石錘

5-47黒色砂礫

種　別	器種
土　師	器坏a×小皿a，丸底坏，丸底坏a，鍋類，鉢類
瓦	器椀，椀c
須恵質土器	器鉢
石　器	剥；Ⅱ-1(2)，Ⅳ(3)，Ⅳ-1a(2)，V-2(1)，破破片(1) 白磁破片；(4)，広東系(2)，道(1)鋭(1)，外反口縁(1)
中国陶磁	器破片(2)
瓦	製丸瓦(無文)
金属　製	品鉄釘

5-48

種　別	器種
土　師	器坏a，鉢類
瓦	器椀
須恵質土器	器鉢(東播系)
石　器	剥；Ⅱ-1(1)，破破片(1)
瓦	製破片

5-49黒色土

種　別	器種，破片
土　師	器小皿a(1)，坏a(1)，丸底坏，丸底坏a，椀c，鉢類，鍋類
黒色土器A	器椀
瓦	器椀
土師質土器	器鉢，鍋類
須恵質土器	器鉢(東播系)
石　器	剥破片
緑釉陶器	器破片
中世国産陶器	器破片
石	器剥；Ⅱ-1(1)，Ⅳ(1)，V-1×Ⅶ-2(1)，破片(6) 鋭；Ⅱ-1(1)，V～Ⅶ(1)，Ⅶ-1a(1)，Ⅶ-a(1)，Ⅶ-1b(1) 道；Ⅱ類(1) 白磁破片；(12)，広東系(2)，白用墨(1)，口縁部(11)
縄文黒曜系青磁	器椀；(12)，1-2(2)　　縄文?破片(1)
同安窯系青磁	器椀；(1)(1)　　皿；(1)-2b(2)　　同安?破片(1)
高麗青磁	器椀；鐘-2(1)
中国陶磁	器瓶(2)　　陶器破片(2)
鉄道貨物輸入	用材点無鋼版器
瓦	製平瓦(格子，無格子)，丸瓦(無文)，破片
金属　製	品鉄釘
石　製	品石錘，滑石片
土　製	品粘状土製品

表 18　第 317 次調査　出土遺物一覧表④

S-49黒色土

墳　底	器壁
土　師	器小;器a(1),>3), 坏a(1), 椀c, 器台, 供膳具
瓦	器
石　器	石製
鉄　器	鉄(東部系)
須恵質土器	器壁, 鉄(東部系)
白　磁	椀：B-1(1), IV(1), V-1×W-2(2), V-4×W-1×3(1), 底E(1), 外底圏B(1), 破片(2), 小椀(1) 皿：B-1a(1), V-1×W(2)　白磁破片(2), 広東系(2)
越州窯系青磁	碗?破片(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), I-2(1)
同安窯系青磁	碗：I-1a(1), I-1b(1)
中　国　陶	器壁：B(1)　陶器破片(4)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(鐵頁), 丸瓦(格子), 丸瓦, 破片
石　製	石砥
土　製	土人形, 土偶

S-50黒色土

墳　底	器壁
土　師	器小;器a(1),>3), 坏a(1), 椀c, 供膳具
瓦	器
石　器	石製
須恵質土器	器壁
白　磁	椀：IV(2), V(1), VI-b(1), V-4×W-1×3(1) 皿：広東系(1), 破片(2) 白磁破片(12), 広東系(6), 外反口縁(1), 直口縁(2), 外面鎬目(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), I-1a(1), I-4(1)　皿：I(2)
同安窯系青磁	碗：I-1b(1)
中　国　陶	器壁(4)　甕(1)　陶器破片(2)
瓦	瓦平瓦(格子, 鐵格子), 丸瓦(格子)
金　属　製	鉄釘
石　製	石玉石, 別片(黒曜石), 砥石, 別片(安山岩), 滑石加工品

S-60暗黒色土

墳　底	器壁, 人骨
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 供膳具, 甕類
黒色土器B	器壁
須恵質土器	器壁
白　磁	椀：IV(3), V(2), VI(2), XII-1b?(1), 内面鎬目(1) 輪花皿(2)　皿：広東系(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I-1a(2), I-2(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2)
中　国　陶	器壁：I-1a(1), 甕(1)
瓦	瓦平瓦(格子, 鐵格子), 熔石
金　属　製	古銭序
石　製	石玉石, 別片(黒曜石), 砥石
土　製	土人形

S-51

墳　底	器壁
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類 須恵, 黒色, 焼土, 焼成, 甕類
黒色土器A	器壁
瓦	器小;器, 椀
土師質土器	器壁
須恵質土器	器壁(東部系)
鉄　器	鉄器
中世須恵陶器	器壁
白　磁	椀：B(1), IV(7), V-1(1), 内面鎬目(1), 内面ハケ(1), 破片(6) 皿：V-4×W(1), VI-1b(1), W(1) 白磁破片(10), 広東系(2), 直口縁(2), 外反口縁(2), 内面鎬目(2)
越州窯系青磁	碗?(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I-7(2), I-2(3), I-4(1)
同安窯系青磁	碗：I(1), I-1b(4)
瓦	瓦鐵瓦(1)
中　国　陶	器底(1)　甕(1)　破片:3層(1), 破片(2)
瓦	瓦平瓦(格子, 鐵格子), 丸瓦(格子, 格子大, 無文)
金　属　製	古銭序, 鉄鏃
石　製	石石錘
土　製	土人形

S-53黒色土

墳　底	器壁, 人骨
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
瓦	器, 椀
土師質土器	器壁
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V-1(1), V-3(1), V-1×W-2(1), V-4×W-1×3(1) 皿：V-4×W(1), VI-1a(1), VI-b(1), W-1c(1), 広東系(1) 白磁破片(1), 直口縁(1), 広東系(1)
青　白	碗?(1), 合子身(1), 破片(2)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), I-1a(1), I-2(1), I-4(1)
同安窯系青磁	碗：I-1(1), I-1b(1)　皿：I-3b(1)
中　国　陶	器底(2)　陶器破片(1)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子), 丸瓦(格子)
金　属　製	古銭序
石　製	石錘石片, 滑石加工品

S-54黒褐色土

墳　底	器壁, 破片
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
瓦	器椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V-1a(1), 外面鎬目(1)　白磁破片(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(2)
中　国　陶	器壁(1), 鉢(1)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子, 無文), 丸瓦(無文)
石　製	土人偶

S-55黒褐色土

墳　底	器壁, 甕
土　師	器小;器a(1), 坏, 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
黒色土器B	器壁, 椀c
瓦	器, 椀?
白　磁	椀：B-1(1), II-5(1), IV(5), IV-1a(1), V(1), W(1), 破片(5) 皿：VI-1b(1), 広東系(1)　底(1) 白磁破片(12), 広東系(1), 直口縁(1), 外反口縁(1)
越州窯系青磁	碗?(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I-1a(1), I-2(2)
同安窯系青磁	碗：I(1), I-1b(1)
中　国　陶	器底：B?-1(1)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 無文), 丸瓦(鐵頁消し)
石　製	石錘石片
土　製	土人偶, 土偶

S-55黒色砂土

墳　底	器壁
土　師	器坏a(1), 丸底坏a, 供膳具
須恵質土器	器壁
白　磁	椀：B(1), 外面ハケ縦さ(1), 広東系(1), 輪花片(2) 皿：V-4×W(2), VII-1b(1)　白磁破片:(2), 輪花(1)
青　白	碗?小底(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), II-1a(1)　皿:皿?破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2), 破片?(1)　皿：I(3)　同安?破片(1)
中　国　陶	器底(4)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(格子), 丸瓦(格子)
石　製	石錘石, 石玉石
土　製	土人偶, 焼成土製品

S-56黒褐色土

墳　底	器壁, 破片
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具
黒色土器B	器壁, 破片
白　磁	椀：IV(1)　白磁破片:広東系(1), 直口縁(1)
瓦	器平瓦(格子), 破片
金　属　製	古銭序

S-57黒褐色土

墳　底	器壁
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 供膳具
須恵質土器	器壁
白　磁	椀：IV(2), V-1(1), 破片
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), I-1a(1), I-2(1), I-4(1) 皿：I(2) 瀬戸窯系青磁破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(1)　皿：I-3b(1)
中　国　陶	器壁(2)　陶器破片(1)
瓦	瓦平瓦(格子), 丸瓦(格子)
金　属　製	古銭序
石　製	石錘石片, 滑石加工品

S-58暗黒色土

墳　底	器壁, 人骨
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 丸底坏a, 椀c, 供膳具
黒色土器A	器壁, 椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(3), V(2), VI(2), XII-1b?(1), 内面鎬目(1) 輪花皿(2)　皿：広東系(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(2), I-1a(2), I-2(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2)
中　国　陶	器壁：I-1a(1), 甕(1)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子, 無文), 丸瓦(無文)
金　属　製	古銭序
石　製	石玉石, 別片(黒曜石), 砥石
土　製	土人偶

S-59黒褐色土

墳　底	器壁, 破片
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
瓦	器椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V-1(1), 破片(2) 皿：V-4×W(2), VII-1b(1)　白磁破片:(2), 輪花(1)
青　白	碗?小底(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), II-1a(1)　皿:皿?破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2), 破片?(1)　皿：I(3)　同安?破片(1)
中　国　陶	器底(4)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(格子), 丸瓦(格子)
石　製	石錘石, 石玉石
土　製	土人偶, 焼成土製品

S-60黒褐色土

墳　底	器壁, 人骨
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
黒色土器A	器壁, 椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V-1a(1), 外面鎬目(1)　白磁破片(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(2)
中　国　陶	器壁(1), 鉢(1)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子, 無文), 丸瓦(無文)
石　製	土人偶

S-61

墳　底	器壁
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 丸底坏a, 椀c, 供膳具 須恵, 黒色, 焼成, 甕類
黒色土器A	器壁
瓦	器小;器, 椀
土師質土器	器壁
須恵質土器	器壁(東部系)
鉄　器	鉄器
中世須恵陶器	器壁
白　磁	椀：B(1), IV(7), V-1(1), 内面鎬目(1), 内面ハケ(1), 破片(6) 皿：V-4×W(1), VI-1b(1), W(1) 白磁破片(10), 広東系(2), 直口縁(2), 外反口縁(2), 内面鎬目(2)
越州窯系青磁	碗?(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I-7(2), I-2(3), I-4(1)
同安窯系青磁	碗：I(1), I-1b(4)
瓦	瓦鐵瓦(1)
中　国　陶	器底(1)　甕(1)　破片:3層(1), 破片(2)
瓦	瓦平瓦(格子, 鐵格子), 丸瓦(格子, 格子大, 無文)
金　属　製	古銭序, 鉄鏃
石　製	石石錘
土　製	土人偶

S-63黒褐色土

墳　底	器壁, 人骨
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
瓦	器, 椀
土師質土器	器壁
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V-1(1), V-3(1), V-1×W-2(1), V-4×W-1×3(1) 皿：V-4×W(1), VI-1a(1), VI-b(1), W-1c(1), 広東系(1) 白磁破片(1), 直口縁(1), 広東系(1)
青　白	碗?小底(1), 合子身(1), 破片(2)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), I-1a(1), I-2(1), I-4(1)
同安窯系青磁	碗：I-1(1), I-1b(1)　皿：I-3b(1)
中　国　陶	器底(2)　陶器破片(1)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子), 丸瓦(格子)
金　属　製	古銭序
石　製	石錘石片, 滑石加工品

S-64黒褐色土

墳　底	器壁, 人骨
土　師	器小;器a(1), 坏a, 丸底坏a, 椀c, 供膳具, 甕類, 鉢
黒色土器A	器壁, 椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：V-1a(1), 外面鎬目(1)　白磁破片(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(2)
中　国　陶	器底(1), 鉢(1)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子, 無文), 丸瓦(無文)
石　製	土人偶

S-65黒褐色土

墳　底	器壁, 甕
土　師	器小;器a(1), 坏, 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
黒色土器A	器壁, 椀?
瓦	器小;器a(1), 椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：B-1(1), II-5(1), IV(5), IV-1a(1), V(1), W(1), 破片(5) 皿：VI-1b(1), 広東系(1)　底(1) 白磁破片(12), 広東系(1), 直口縁(1), 外反口縁(1)
越州窯系青磁	碗?(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I-1a(1), I-2(2)
同安窯系青磁	碗：I(1), I-1b(1)
中　国　陶	器底：B?-1(1)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 無文), 丸瓦(鐵頁消し)
石　製	石錘石片
土　製	土人偶, 土偶

S-55黒色砂土

墳　底	器壁
土　師	器坏a(1), 丸底坏a, 供膳具
須恵質土器	器壁
白　磁	椀：B(1), 外面ハケ縦さ(1), 広東系(1), 輪花片(2) 皿：V-4×W(2), VII-1b(1)　白磁破片:(2), 輪花(1)
青　白	碗?小底(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), II-1a(1)　皿:皿?破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2), 破片?(1)　皿：I(3)　同安?破片(1)
中　国　陶	器底(4)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(格子), 丸瓦(格子)
石　製	石錘石, 石玉石
土　製	土人偶, 焼成土製品

S-53黒褐色土

墳　底	器壁, 破片
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
瓦	器椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V-1(1), V-3(1), V-1×W-2(1), V-4×W-1×3(1) 皿：V-4×W(1), VI-1a(1), VI-b(1), W-1c(1), 広東系(1) 白磁破片(1), 直口縁(1), 広東系(1)
青　白	碗?小底(1), 合子身(1), 破片(2)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), I-1a(1), I-2(1), I-4(1)
同安窯系青磁	碗：I-1(1), I-1b(1)　皿：I-3b(1)
中　国　陶	器底(2)　陶器破片(1)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子), 丸瓦(格子)
金　属　製	古銭序
石　製	石錘石片, 滑石加工品

S-54黒褐色土

墳　底	器壁
土　師	器小;器a(1), 坏a, 丸底坏a, 椀c, 供膳具
黒色土器A	器壁, 椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：V-1a(1), 外面鎬目(1)　白磁破片(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(2)
中　国　陶	器底(1), 鉢(1)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子, 無文), 丸瓦(無文)
石　製	土人偶

S-55黒褐色土

墳　底	器壁, 甕
土　師	器小;器a(1), 坏, 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
黒色土器A	器壁, 椀c
瓦	器, 椀?
白　磁	椀：B-1(1), II-5(1), IV(5), IV-1a(1), V(1), W(1), 破片(5) 皿：VI-1b(1), 広東系(1)　底(1) 白磁破片(12), 広東系(1), 直口縁(1), 外反口縁(1)
越州窯系青磁	碗?(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I-1a(1), I-2(2)
同安窯系青磁	碗：I(1), I-1b(1)
中　国　陶	器底：B?-1(1)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 無文), 丸瓦(鐵頁消し)
石　製	石錘石片
土　製	土人偶, 土偶

S-55黒色砂土

墳　底	器壁
土　師	器坏a(1), 丸底坏a, 供膳具
須恵質土器	器壁
白　磁	椀：B(1), 外面ハケ縦さ(1), 広東系(1), 輪花片(2) 皿：V-4×W(2), VII-1b(1)　白磁破片:(2), 輪花(1)
青　白	碗?小底(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), II-1a(1)　皿:皿?破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2), 破片?(1)　皿：I(3)　同安?破片(1)
中　国　陶	器底(4)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(格子), 丸瓦(格子)
石　製	石錘石, 石玉石
土　製	土人偶, 焼成土製品

S-53黒褐色土

墳　底	器壁, 破片
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
瓦	器椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V-1(1), 破片(2) 皿：V-4×W(2), VII-1b(1)　白磁破片:(2), 輪花(1)
青　白	碗?小底(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), II-1a(1)　皿:皿?破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2), 破片?(1)　皿：I(3)　同安?破片(1)
中　国　陶	器底(4)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(格子), 丸瓦(格子)
石　製	石錘石, 石玉石
土　製	土人偶, 焼成土製品

S-52黒褐色土

墳　底	器壁, 破片
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
瓦	器椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V-1(1), 破片(2) 皿：V-4×W(2), VII-1b(1)　白磁破片:(2), 輪花(1)
青　白	碗?小底(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), II-1a(1)　皿:皿?破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2), 破片?(1)　皿：I(3)　同安?破片(1)
中　国　陶	器底(4)　陶器破片(1)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(格子), 丸瓦(格子)
石　製	石錘石, 石玉石
土　製	土人偶, 焼成土製品

S-50黒褐色土

墳　底	器壁, 人骨
土　師	器小;器a(1), 坏a(1), 椀c, 供膳具, 甕類
黒色土器A	器壁, 椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：IV(2), V(1), VI-b(1), V-4×W-1×3(1) 皿：広東系(1), 破片(2) 白磁破片(12), 広東系(6), 外反口縁(1), 直口縁(2), 外面鎬目(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), I-1a(1), I-4(1)　皿：I(2)
同安窯系青磁	碗：I-1b(1)
中　国　陶	器底(4)　甕(1)　陶器破片(2)
瓦	瓦平瓦(鐵頁, 格子), 丸瓦(格子)
金　属　製	古銭序
石　製	石玉石, 別片(安山岩), 滑石加工品

S-49黒色土

墳　底	器壁
土　師	器小;器a(1),>3), 坏a(1), 椀c, 器台, 供膳具
瓦	器椀c
須恵質土器	器壁(東部系)
白　磁	椀：B-1(1), IV(1), V-1×W-2(2), V-4×W-1×3(1), 底E(1), 外底圏B(1), 破片(2), 小椀(1) 皿：B-1a(1), V-1×W(2)　白磁破片:(2), 広東系(2)
越州窯系青磁	碗?破片(1)
瀬戸窯系青磁	碗：I(1), I-2(1)
同安窯系青磁	碗：I-1a(1), I-1b(1)
中　国　陶	器底：B(1)　陶器破片(4)
須恵質土輸入	回転広葉輪陶器
瓦	瓦平瓦(鐵頁), 丸瓦(格子), 丸瓦, 破片
石　製	石砥
土　製	土人偶, 土偶

表 18　第 317 次調査　出土遺物一覧表⑤

S-61黒褐色土

質　出	砂礫片
土　師	須小皿a(1)、坏a
黒色土 縄B	縄表台

S-63黒褐色土

土　師	須供膳具
石	軽石及(砥子)

S-65灰黄色砂礫

質　出	砂礫(粗)、坏、瓶胴部?、甕、甕?、破片
土　師	須小皿L(57)、坏、坏a(11)、丸底坏a、供膳具、甕類
灰	砂礫、輪C
鉄 滓 貿 土	砂礫、鉄
銅 鐵 関	砂礫片
灰 釉 陶	砂礫片?
白 磁	碗：B-1(1)、BV(8)、V(2)、VB-b(1)、破片(5) 皿：B-1a(1)、III-1(1)、V-4×VB-1×3(1)VI(1)、VI-1a(1)、VI-1-(2)、VI-1b(2)、広東系(1) 白磁破片(31)、広東系(2)、底口縁(1)、外反口縁(1)、屈折口縁(1)
國 泉 窯 系 青 磁	碗：I-1(1)、I-1a(1)、I-2×2(1)、I-b(1)
同 安 窯 系 青 磁	碗：I(4)、I-1b(4)　皿：I(3)
瓦　類	砂礫、鐵
宁　面　陶	須(5)　　陶器破片(4)
石	粗平瓦(格子入)、亀格子、無文)、丸瓦、瓦玉
金 属	品鉄釘、刀子
土 製	品土製、土偶

S-65灰黄色砂礫

金 属	品鉄釘

S-66灰黒色土

質　出	砂礫
土　師	須小皿L(72)、坏、坏a(11)、丸底坏、椀
灰	砂礫、輪C
土 師 質 土	砂礫
須 恵 質 土	砂礫(東播系)
白 磁	碗：BV(3)、V(1)、V-1a(1)、破片(2) 皿：VI-1a(1)、VB-1b(1)、広東系(1) 白磁破片(9)、広東系(3)、底口縁(4)
國 泉 窯 系 青 磁	碗：I-2(2)、II-1(2)　龍泉破片(2)　龍泉?破片(1)
同 安 窯 系 青 磁	碗：I(5)　皿：I-1b(1)
宁　面　陶	須盤(1)　甕(1)　陶器破片(1)
須 恵 質 土 輪 入	須転点無輪陶器
石	粗平瓦(格子入、無文)、丸瓦(格子入、破片)
金 属	品鉄釘、鉄塊
土 製	品石状土製品、土鈴、焼土塊

S-66灰黒色土

質　出	砂礫、鉄?、破片
土　師	須小皿a(1)、坏a(4)、小?、椀、丸底坏a、椀c、供膳具、鉢、鉢台?、把手、甕、甕類
黒色土 縄B	縄表台
灰	砂礫、輪C、椀?、破片
土 師 質 土	砂礫、鉢、鉢蓋
須 恵 質 土	砂礫?、鉢
灰 釉 陶	砂礫
白 磁	碗：B-1(1)、B-3×4(2)、BV(8)、IV-1a(1)、V(1)、V内面輪目(1)、V-3(1)、V-4a(1)、V-4×VB-1×3(1)、V-b(1)、VB(1)、広東系(1)、内面輪目(1)、破片(7) 皿：B-1a(1)、II-1類(1)、BV(1)、V-a(1)、VI-1b(2)、広東系(2) 白磁破片(8)、広東系(5)、口縁部折口(1)、底口縁(1) 蓋類(1)、鍋?(1)
國 泉 窯 系 青 磁	碗：I(1)、I-1a(2)
同 安 窯 系 青 磁	碗：I(3)、I-1b(7)、I-1×3(1)、破片(1) 皿：I(1)、I-2c(1)、鍋?(1)、V-VB(1)
宁　面　陶	須盤(1)　陶器破片(4)
須 恵 質 土 輪 入	須転点無輪陶器
石	粗平瓦(格子入、無文)、丸瓦(格子入、無文)、瓦玉
金 属	品鉄釘、鉄製?品、鉄滓?
石 製	品平玉石、石錘、丸石、剥片(黒曜石)
土 製	品石状土製品、土鈴、錘型?

S-66

質　出	砂礫、坏c、盤
土　師	須小皿L(51)、坏a(7)、椀、椀c、甕類、把手
黒色土 縄A	縄表、破片
灰	砂礫、輪C
土 師 質 土	砂礫、鉢
須 恵 質 土	砂礫、鉢
白 磁	碗：B-1(1)、BV(6)、IV-1a(3)、V(1)、V内面輪目(1)、V-2(1)、V-4a(1)、VB(2)、広東系(1)、破片(10) 皿：B-1(1)、V-VB(5)、VB-1a(1)、VB-1b(1)、広東系(1) 白磁破片(2)、広東系(1)、底口縁(1)、屈折口縁(1)、外反口縁(1)
青　白	碗：底(1)、底口縁?、破片(1)
國 泉 窯 系 青 磁	碗：I(2)、I-1a(1)、I-2(2)、I-4(1)、破片(7)　龍泉?破片(1)
同 安 窯 系 青 磁	碗：I-1b(4)
宁　面　陶	須盤、甕(5)、I-2(1)、破片(6)　青磁(1)　陶器破片(4)
石	粗平瓦(格子入、無文)、丸瓦(格子入)、瓦玉
金 属	品鉄釘、環状金具
石 製	品石錘、滑石加工品、石鏃、剥片(黒曜石)、丸石
土 製	品石状土製品

S-66灰黒色土

質　出	砂礫
土　師	須小皿a(1)、坏a(1)、丸底坏、椀
白 磁	碗：B(1)、BV(1)、V(1)、V-4×VB-1×3(1)、破片(1) 皿：B(1)
國 泉 窯 系 青 磁	碗：I-1a(1)
瓦　類	砂礫片
石	粗平瓦(格子、無文)

S-66灰黒色砂礫

質　出	砂礫、甕、甕
土　師	須小皿L(1)、坏、坏a(1)、椀c、鉢×把手、供膳具
灰	砂礫、輪C
土 師 質 土	砂礫
須 恵 質 土	砂礫
灰 釉 陶	砂礫
白 磁	碗：BV(3)、BV-1a(1)、V-4×VB-1×3(2)、V-1×VB-2(1) 白磁破片(1)、底口縁(1)
青　白	碗：底?(1)
國 泉 窯 系 青 磁	碗：I-1a(1)、I-2(1)
同 安 窯 系 青 磁	碗：I-1b(2)　皿：I-1b(1)
石	粗平瓦(格子、無文)、丸瓦(無文)、瓦玉
石　製	品石錘、石鏃?
土　製	品石状土製品

S-66灰黒色土

土　師	須小皿a(1)、坏a(1)、丸底坏a
灰	砂礫、輪C
土 師 質 土	砂礫
白 磁	碗破片(1)　皿：VI-1a(1)、VB-1b(1)、広東系(1) 白磁破片(4)底口縁(1)
國 泉 窯 系 青 磁	碗：I-1b(1)
同 安 窯 系 青 磁	碗：I-1b(1)
宁　面　陶	須(1)
石	粗平瓦(格子入、無文)、丸瓦(無文)、瓦玉
金 属	品鉄釘
石　製	品平玉石

S-66黒褐色土

質　出	砂礫
土　師	須小皿a(1)、坏a(7)、椀、椀c、甕類
灰	砂礫、輪C
土 師 質 土	砂礫
須 恵 質 土	砂礫
白 磁	碗：BV(2)、IV-1a(1)、V(1)、V-4b×VB-1×3(1)、VB-b(1)、破片(1) 皿：BB-1(1)、破片(1)　　白磁破片:広東系(1)
國 泉 窯 系 青 磁	碗:龍泉I破片(1)
同 安 窯 系 青 磁	碗:I-1b(1)
石	粗平瓦(鐵目、格子)、丸瓦(格子、無文)

S-66褐灰色粘土

質　出	砂礫、甕
土　師	須坏、坏a(17)、皿a、椀c、供膳具
灰	砂礫、輪C
土 師 質 土	砂礫
須 恵 質 土	砂礫、鉢
白 磁	碗：BV(5)、V-3(1)、VB(1)、破片(3) 皿：VB-1a(1)　　白磁破片:広東系(1)
國 泉 窯 系 青 磁	碗:龍泉I破片(1)
同 安 窯 系 青 磁	碗:I-1b(1) 皿:I-1a(1)、I-2c(1)、鍋?(1)、V-VB(1)、VI-1b(2)
石	粗平瓦(鐵目、格子)、丸瓦(格子、無文)
石　製	品砥石、滑石加工品、石錘、剥片(黒曜石)、丸石
土　製	品石状土製品

S-67灰黒褐色土

質　出	砂礫?、甕c、鍋
土　師	須小皿L(5)、小皿a×坏a(11)、坏a(5)、丸底坏a、椀c、甕、甕類、鍋有
灰	砂礫
須 恵 質 土	砂礫、破片
中 世 須 恵 器	砂礫
白 磁	碗：B(1)、B-3×4(1)、BV(10)、BV-1a(2)、V内面輪目(1) V-3(1)、VB(1)、広東系(1)、破片(3) 皿：B(1)、BB-1(2)、V-3a(1)、V-VB(2)、VI-1b(2)、VB-2b(1)、広東系(2)、破片(1) 白磁破片(5)、広東系(1)、底口縁(1)、外反口縁(1)
越 州 窯 系 青 磁	碗：I-1(2)、I-1b(1)
宁　面　陶	須椀(1)　甕(1)　陶器破片(1)
石	粗平瓦(鐵目、格子、無文)、丸瓦(格子、無文)、瓦玉
石　製	品丸石、滑石片
土　製	品鍋造土製品、土鈴

S-67灰黒褐色土

質　出	砂礫
土　師	須坏、坏a、丸底坏、丸底坏a、供膳具、甕類
黒色土 縄A	縄表
灰	砂礫、輪C
須 恵 質 土	砂礫
白 磁	碗：IV-1a(1)、V(1)、V-1×VB-2(2)、内面輪目(1)、広東系(1)、破片(1) 皿：BB(1)、V-VB(1)
中 世 須 恵 器	砂礫(1)
石	粗平瓦(鐵目、格子)、丸瓦(格子)、軒平瓦
金 属	品鉄釘
石　製	品滑石片

S-67灰黒色砂土

質　出	砂礫片
土　師	須丸底坏a、供膳具
灰	砂礫
白 磁	碗破片:広東系(1)、破片(1)　　蓋目(2)
石	粗平瓦(無文)、丸玉
金 属	品鉄釘、鉄滓?

S-67灰黒色土

土　師	須丸底坏
石	粗平瓦(無文)

表 18　第 317 次調査　出土遺物一覧表⑥

S-67B区黒色土

種　別	器台(ハ), 坏a(イ),ハ), 丸底坏, 甕
土　師	器/甕
瓦	須/甕
須恵質土器	器/坏ア
石	鏃/鏃 I 類(1)　並/V～W類(1)　石扁破片(2)
瓦	粘/平瓦(鎌倉,格子), 丸瓦(無文)
石　製	品/滑石加工品

S-68B区赤黒色土

種　別	器/坏, 甕
土　師	器/甕
須恵質(輸入)	硯/赤黒輪陶器
白　磁	碗：B-(1), V-(1), V-2b-(1), 内面鞠目(1), 破片(3) 皿：V～W類(2), 広東系(1) 白磁破片：外反口縁(1), 削出口縁(1)
瀬戸美濃青磁	皿：I-2(1)
中　国　陶	器(1)
瓦	粘/平瓦(鎌倉)
石　製	品/石錘

S-69黒色土

種　別	器/坏, 甕, 破片
土　師	器/小皿a,ハ),ハ(イ),ハ),ハ), 甕/鉢, 供膳具
瓦	須/鉢, 鞴c
須恵質土器	器/坏ア
白　磁	碗：B(2), V-(1), V類(1) 皿：V類(1)　白磁破片：(2), 内面鞠目(1)
越前焼系青磁	碗：I-1b(2)　同安破片類(1)
中　国　陶	器/石臼
瓦	粘/平瓦(格子), 丸瓦
金　属　製	品/鉄釘, 煙状金具
石	製/品土錘

S-70B黒色砂鐵

種　別	器/坏, 甕
土　師	器/小皿a, ハ(イ), 供膳具, 甕/鉢
瓦	須/石臼
須恵質土器	器/坏
陶　器	器/碗×陶
白　磁	碗/碗：広東系(1)　皿(1)　白磁破片(2)
瀬戸美濃青磁	碗/破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(1)
瓦	粘/平瓦(格子)

S-71B黒色砂鐵

種　別	器/甕
土　師	器/ハ(イ), 鉢, 鞴c, 供膳具
白	磁/碗：B(1)
石	製/丸玉

S-72黒色土

種　別	器/ふた, 甕
土　師	器/小皿a(ハ), ハ(イ), 丸底坏, 甕/鉢
瓦	須/鉢, 鞴c
須恵質土器	器/坏
白　磁	碗：B(2), V(1), V-2b-(1), V-4×W類-1×3(1) 皿：B(1)　白磁破片(1)
同安窯系青磁	碗：I-(1)
須恵質(輸入)	硯/赤黒輪陶器
瓦	粘/平瓦(格子), 丸瓦(無文)
金　属　製	品/釘
石　製	品/石錘/工具

S-73黒色土

土　師	器/供膳具
瓦	粘/鞴c/甕

S-74黒色土

種　別	器/ヘ, 甕, 蓋
土　師	器/鉢c, 供膳具
黒色土器A	器/碗
瓦	須/鉢, 鞴c
須恵質土器	器/坏
白　磁	碗：B(1), IV(6), IV-1a(1), V(1), V類(1), 破片(2), 輪7(1) 皿：B(2), VI-1b(1), V類-b(1) 白磁破片：(2), 広東系(1), 底(1)縁(1)
瀬戸美濃青磁	碗：I-2(2)
同安窯系青磁	碗：I-2(1), I-×皿(1)
中　国　陶	器/瓦窯(1)
瓦	粘/平瓦(格子), 丸瓦(格子), 瓦玉
金　属　製	品/釘
石　製	品/石錘, 磨石2

S-75B黒色砂鐵

種　別	器/坏
土　師	器/坏
須恵質土器	器/坏
瓦	須/口縁為反(1)

S-75B黒色砂鐵

種　別	器/坏ヘ, 甕
土　師	器/小皿a(ハ), ハ(イ), 鉢c, 供膳具, 甕/鉢
黒色土器A	器/碗
瓦	須/鉢, 鞴c
須恵質土器	器/坏
白　磁	碗：B-(1), IV(20), IV-2(1), IV-2(1), V-4a(1), V(4), V-4×W類-1×3(3), IV-1a(2), V(1), V-4(2), VI-4a(1), VI-4×(1), VI-1b(1), VI類(3), XIII-b(1), 広東系(1), 外反口縁(5), 破片(17) 皿：B-2(1), III-1(3), III-2(1), IV(1), V-×W類(2), VI-1a(1), VI-1b(1), XI?(1), 内面鞠目(1), 破片(3) 白磁破片:(26), 刷毛目縁(2), 広東系(10), 底(1)縁(2), 内面鞠目(1), 外面ヘラ(1) 器(2), 耳器(1)
瀬戸美濃青磁	碗：I-1(5), I-2(10), I-2×3(1), I-4(1), I-4c(1) 瀬戸破片:I-7(1), I-(2)
同安窯系青磁	碗：I-(2), I-(11), I-1×3(1), I-1b(12), I×II(1), II?(1), 破片(2) 皿：I-(2), I-2b(1)
中　国　陶	器：A群(1), 破片(6)　耳器(3)
須　恵　器	器：I(1), I-1b(1), 破片(1) 甕：破片(2)　壺×甕(1)　陶器破片：(17), A群(1), C群(1)
瓦	粘/平瓦(鎌倉,格子,無文), 丸瓦(格子,無文), 瓦玉
金　属　製	品/釘, 鉄片, 鉄鏃, 鉄棒, 鉄片, 刀子?, 鉄滓
石　製	品/砥, 丸石, 石錘, 磨石, 平石石
土　製	品/土錘

S-75B黒褐色砂鐵

種　別	器/ヘ, 甕
土　師	器/小皿a(ハ), ハ(イ), 供膳具, 甕/鉢
白	磁/碗：B(1), 破片(1)　皿：V類-1(1)　白磁破片(2)
須恵質(輸入)	硯/赤黒輪陶器
瓦	粘/丸瓦(格子)
金　属　製	品/鉄釘

S-75黒褐色土

種　別	器/ヘ, 甕
土　師	器/小皿a(ハ), ハ(イ), 鉢c, 供膳具
黒色土器A	器/碗
瓦	須/鉢, 鞴c
須恵質土器	器/坏
白　磁	碗：B(2), IV(4), V-4(2), 輪破片(1) 皿：V～VI類(2)　白磁破片:(2), 内面鞠目(1)
瓦	粘/平瓦(二重格子), 丸瓦
金　属　製	品/鉄釘

S-76黒灰色土

種　別	器/ヘ, 甕, 蓋, 破片
土　師	器/小皿a, 坏, ハ(イ), 丸底坏a, 甕
瓦	須/破片
須恵質土器	器/坏
瓦　質　土	器/鞴c
白　磁	碗：B(2), IV(5), IV-1a(2), V-4c(1), V-4×W類-1×3(1), 広東系(1), 破片(2) 皿：B-1a(1), VI(1), VI-1b(1) 白磁破片：(2), 広東系(2), 外反口縁(1)
瀬戸美濃青磁	碗：I-2(1)　皿：I-2(1)　瀬戸破片:(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2)　皿：I-1(1), I-2b(1)
青	磁/碗(1)
中　国　陶	器/鉢破片(4)
瓦	粘/平瓦(鎌倉), 丸瓦(無文)
石	製/品砥土
石　製	品/砥, 滑石片

S-76黒灰色砂土

種　別	器/ヘ, 甕
土　師	器/小皿a(ハ), ハ(イ), 鉢, 鞴c, 供膳具
瓦	須/鉢
須恵質土器	器/坏
白　磁	碗：B(2), IV-1a(1), V(1), V-4b(1), 広東系(1), 破片(2) 皿：V～VI類(3), 広東系(1)
瀬戸美濃青磁	碗/(1), 皿(1), 瓶(2)　白磁破片：(2), 底(1)縁(1)
瀬戸美濃青磁	瓶/破片(2)
中　国　陶	器/鉢c(2)　耳器(1)　陶器破片:(1)
瓦	粘/丸瓦(格子), 丸瓦(格子), 瓦玉, 鞴c
金　属　製	品/鉄滓

S-76

種　別	器/鉢
土　師	器/供膳具

S-77暗灰色砂

種　別	器/小皿a(ハ), 破片
瓦	須/甕
瓦	粘/平瓦(二重格子)

S-78暗灰色砂

土　師	器/坏
須恵質土器	器/広東系破片(1)

S-79暗灰色砂

土　師	器/鉢ア

表 18　第 317 次調査　出土遺物一覧表⑦

S-80黒褐色土

現　出	器種、産
土　師	小皿、小皿A(?)、坏a(?)、丸底坏a、丸底坏c、椀c、供膳具、器台、高坏
弥	器種、椀c
土 師 質 土 器	器種
須 恵 質 土 器	器種
白 磁	椀：IV-1a(1)、IV-4(1)、V-4b-i(1)、V-4c(1)、V-外面櫛目(1) V類(2)、X類a-i(1)、内面櫛目(1)、破片(2)
緑 釉	皿：III-1(1)、V-V類(1)、VI-1a(2)、VI-1b(3)、VI-4c(1)、広東系(1) 破片(1) 水注(1)　　白磁破片：(2)、広東系(2)
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：I-2(2)、I-2×2(1)
瓦 質 土 器 系 白 磁	椀：III-2(1)
中 国 陶 磁	皿系(2)　　壺(2)　　陶器破片(1)
東 京 窯 (輸 入)	側耳系無釉陶器
瓦	鬼ヶ平瓦(格子、無文)、丸瓦(格子、無文)、瓦玉
金 属 製	品鉄片
石 製	品砥石、滑石片、石鏃
土 製	品土錘

S-81黒灰色土

現　出	器種
土　師	椀c皿a×坏a、坏、供膳具
瓦	器種、椀c
須 恵 質 土 器	器種
中 世 須 恵 陶 器	器種
白 磁	椀：IV-1(1)、IV-1a(4)、V-2(1)、V-4×V類-1×3(1)、VI-1(1)、破片(2) 皿：II-1a(1)、V-V類(1)、VI-a(1) 白磁破片：(3)、広東系(2)
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：I-1(1)
中 国 陶 磁	壺(2)　　鉢×水注(1)　　甕(1)
東 京 窯 (輸 入)	側耳系無釉陶器
瓦	鬼ヶ平瓦(格子)、瓦玉
石 製	品石皿、石錘、石鏃、加工品

S-83灰茶褐色土

現　出	器種
土　師	坏b底坏a、椀c、器台、供膳具
黒 色 土 器 B	器種、椀c
土 師 質 土 器	器種
白	椀：III-1、IV-1a(4)　皿：V-V類(1)　広東系破片(1)
瓦	鬼ヶ平瓦(格子、無文)、瓦玉、無文塼
石 製	品石鏃、剥片(黒曜石)

S-85B

現　出	器坏c、椀
土　師	小皿a、小皿a×坏a(?)、丸底坏、椀c、供膳具
瓦	器椀、椀c
白 磁	椀：V-V類(1) 白磁破片(1)　皿：V-b(1) 白磁破片(1)、広東系破片(2)
瓦 質 土 器 系 青 磁	破片(1)
瓦	鬼ヶ平瓦(格子、蓋格子)、丸瓦(格子)、無文塼

S-85C

土　師	器坏

灰黄色土(AIC)

土　師	器小皿c、供膳具、椀c
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀(外行)、皿(外行)
須 恵 陶 器	器タイル、破片
中 国 陶 器	器椀(1)
瓦	器鬼ヶ平瓦(無文)
金 属 製	品鉄釘
石 製	品剥片(黒曜石)

灰黄色土

現　出	器坏B、壺
土　師	小皿a(?)、坏a、丸底坏a、椀c、壺、器台
黒 色 土 器 A	器椀、椀c
瓦	器椀、椀c
土 師 質 土 器	器椀
須 恵 質 土 器	器椀(東播系)
白 磁 系 陶 器	器椀(青白)
白	椀：IV-1(1)、V-(2)、V-1(1)、V-4×V類-1×3(2)、破片(3) 皿：III-1(1)、V-V類(1)、VI-(1)、VI-1b(1) 白磁破片：(1)、縁取り(緑白)
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：(1)、I-1b(2)
中 国 陶 磁	器椀(1)
瓦	器鬼ヶ平瓦(格子大・格子小)、丸瓦(格子)、磚I、瓦(平瓦)、瓦玉
石 製	品石錘加工品
土 製	品土塊
その他	器ガラス、石臼

カクラン

現　出	器椀
土　師	器小皿c、小皿a(?)、坏c、椀c、供膳具
古 式 土 師	器高坏
黒 色 土 器 A	器椀
白	椀：III-2(1)　白磁破片(1)
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：I-2(1)
中 国 陶 磁	器椀：I-2(1)
瓦	器鬼ヶ平瓦(無文)、丸瓦(無文)
土 製	品土錘

黒色土

現　出	器椀
土　師	小皿a(?)、坏、坏c(?)、椀c、供膳具
黒 色 土 器 A	器椀、椀c
瓦	器椀、椀c
土 師 質 土 器	器椀
須 恵 質 土 器	器椀(東播系)
中 世 須 恵 陶 器	器椀(1)
白 磁	椀：II-1(1)、IV(1)、V(1)、V-4c(1)、V-4×V類-1×3(2)、破片(3) 皿：III-1a(1)、III-2(1)、III-3(1)、V(1)、V-V類(2)、 VI(2)、VI-a(2)、VI-1a(1)、VI-b(4)、VI-1b?(1)、VI-2(1)、 VI-1b(1)、破片(3)、広東系破片
瓦 質 土 器 系 青 磁	器：II(1)、III(2)　合子(1)　鉢皿(1) 白磁破片：(24)、広東系(6)、外反口縁(2)、底口縁(4)、内面櫛目(1)
瓦	器鬼ヶ平瓦(格子)、破片(1)
中 国 陶 磁	器椀：I-2(1)　　越州窯(1)
須 恵 陶 器	器タイル
中 世 須 恵 陶 器	器椀
白	椀：II(1)、II-1(3)、IV(21)、IV-1a(1)、IV-2(1)、V(3)、V-2(1)、 V-3(1)、V-1×V類-2(3)、V-4×V類-1×3(10)、VI-b(1)、 V内面櫛目(2)、V類(3)、V類-1×3(1)、X(1)、X1-1×2(1) 注口(2)、内面ハラケ(1)、内面櫛目(1)、広東系(1)、破片(36) 皿：I-2b(1)、II-1a(1)、III(3)、III-1(3)、V(1)、V-V類(2)、 VI(2)、VI-a(2)、VI-1a(1)、VI-b(4)、VI-1b?(1)、VI-2(1)、 VI-1b(1)、破片(3)、広東系破片 壺：II(1)、III(2)　合子(1)　鉢皿(1) 白磁破片：(24)、広東系(6)、外反口縁(2)、底口縁(4)、内面櫛目(1)
瓦 質 土 器 系 白 磁	椀：(1)、破片(1)
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：(1)　　碗底破片(1)
珠 洲 窯 系 青 磁	太皿(1)
瓦 質 土 器	器椀：(17)、I-1a(1)、I-2(4)、I-2×3(6)、I-4a(2)、II-b(1)、IV?(2)
同 安 窯 系 青 磁	椀：(1)　　端里1破片(2)
龍 泉 窯 系 青 磁	椀：(3)、I-1a(2)、I-1a?(1)、I-1b(16)、I-1c(1) 皿：I(4)、I-1b(2)、I-2b(1)　　同安破片(1)
瓦	器鬼ヶ平瓦：(1)、瓦玉(1)　　磚片 磚I(1)
青	器破片(1)
中 国 陶 磁	器：IV-1(1)、破片(8)　耳壺(1) 鉢：I-b(1)　　甕(1)　　盤(2)　　陶器破片(17)
東 京 窯 (輸 入)	側耳系無釉陶器
瓦	鬼ヶ平瓦(格子、格子大、二重格子)、 丸瓦(磚目、格子、無文)、瓦玉、塼?
金 属 製	品鉄釘、刀子小、鉄片、鉄板、鉄滓
石 製	品砥石(砥面1)、磨石加工品、石鏃、平玉石 軽石、紡石
土 製	品土錘、有孔土製品、土球

褐灰黒色土(A-3IC)

土　師	器小皿
瓦	器鬼ヶ平瓦

灰色土(AIC)

土　師	器破片
須 恵 系 陶 器	器、破片
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：(1)
龍 泉 窯 (輸 入)	側耳系無釉陶器
瓦	器鬼ヶ平瓦(無文)、丸瓦

淡茶灰色砂(AIC)

現　出	器、破片
土　師	器坏、坏a、椀、供膳具、壺
瓦	器椀c
須 恵 質 土 器	器椀?
須 恵 陶 器	器椀?(1)
白 磁	椀：破片(1)
瓦	器鬼ヶ平瓦(磚目、格子)、丸瓦(無文)
金 属 製	品鉄釘
石 製	品剥片(黒曜石)
その他	器タイル

灰色砂礫

土　師	器供膳具
黒 色 土 器 A	器椀
須 恵 質 土 器	器椀(東播系)

淡黒茶色土(須恵茶色土?)

現　出	器坏c、壺、破片
土　師	器小皿a、坏a(?)、丸底坏a、椀c、供膳具、壺類
黒 色 土 器 A	器椀
瓦	器椀c
土 師 質 土 器	器椀?
須 恵 質 土 器	器椀(東播系)
中 世 須 恵 陶 器	器破片
白	椀：II(1)、IV(1)、V(1)、V-4c(1)、V-4×V類-1×3(2)、破片(3) 白磁破片：(1)、広東系(2)
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：I-2(2)　　瓦質破片(1)
同 安 窯 系 青 磁	椀：(1)、I-1b(1)、破片(1)　皿：III-a?(1)
龍 泉 窯 系 青 磁	椀：III(1)
中 国 陶 磁	器：IV(1)　　甕(1)　　陶器破片(1)
瓦	器鬼ヶ平瓦(磚目、格子)、瓦玉(1)
土 製	品土錘

黒土

現　出	器椀
土　師	器小皿a(?)、坏、坏a(?)、椀c、供膳具、壺
白 磁	椀：破片(1)、広東系破片(1)、無縁破片(1)　白磁破片(2)
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：破片(1)
同 安 窯 系 青 磁	椀：(1)、I-1b(2)　底破片(1)
中 国 陶 磁	器椀：I-1(1)
瓦	器鬼ヶ平瓦(格子)、丸瓦(無文)、瓦玉、破片
金 属 製	品鉄片

黒土地不詳

土　師	器供膳具
青 白 磁	器椀(1)
瓦 質 土 器 系 青 磁	椀：(1)
中 国 陶 磁	器壺V(1)

表 19　第 317 次調査　土器供膳具計測表①

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1系幾色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-020	Fig.68-1	(7.4)	0.95	(6.1)	○	○
	小皿a　イ ト	K-023	Fig.68-2	(8.4)	0.9	(7.4)	○	○
	小皿a　イ ト	K-024	Fig.68-3	(8.4)	1.2	(6.7)	○	○
	小皿a　イ ト	K-027	Fig.68-4	(8.6)	1.1	(7.0)	○	○
	小皿a　イ ト	K-028	Fig.68-5	(8.8)	0.9	(7.6)	○	○
	小皿a　イ ト	K-029	Fig.68-6	(9.0)	1.2	(6.0)	○	○
	小皿b　イ ト	K-004	Fig.68-7	(9.6)	1.0	(7.7)	○	○
	小皿b　イ ト	K-023	Fig.68-8	(10.8)	1.65	(8.0)	○	○
	小皿b　イ ト	K-014	Fig.68-9	(10.4)	1.2	(8.4)	○	○
	Wa　イ ト	K-017	Fig.68-10	(13.8)	2.45	(10.5)	○	○
	Wa　イ ト	K-002	Fig.68-11	(14.6)	2.9	(9.6)	○	○
	Wa　ヘラ	K-028	Fig.68-12	(14.4)	3.1	(9.6)	○	○
	椀c	K-018	Fig.68-13	-	1.4+α	(7.8)	-	○
	椀c	K-021	Fig.68-14	-	4.0+α	7.6	-	-
	Wc	K-025	Fig.68-15	(17.0)	3.25	(10.6)	○	-
瓦器	椀c	K-022	Fig.68-17	-	4.2+α	(6.5)	-	-
	椀	K-045	Fig.68-18	-	3.7+α	-	-	-

S-2B黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.66-1	(7.8)	1.05	(5.4)	-	-
	Wc　ヘラ?	K-003	Fig.66-2	-	1.7+α	(7.2)	-	○

S-3B黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	椀	K-14	Fig.66-3	-	1.8+α	-	-	-
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.66-2	(7.4)	0.8	(6.0)	-	○
	小皿a　イ ト	K-003	Fig.66-3	(8.2)	1.2	(6.5)	-	○
	小皿a　ヘラ	K-010	Fig.66-4	(8.8)	0.55	(6.8)	○	○
	小皿a　イ ト	K-009	Fig.66-5	(9.0)	1.0	(7.3)	○	○
	小皿a　イ ト	K-013	Fig.66-6	(9.4)	1.2	(7.8)	○	○
	小皿a　イ ト	K-011	Fig.66-7	(9.6)	1.2	(8.2)	○	○
	小皿a　イ ト	K-012	Fig.66-8	(9.6)	1.1	(7.3)	○	○
	小皿a　イ ト	K-014	Fig.66-9	(9.8)	1.1	(7.5)	○	○
	小皿a　イ ト	K-005	Fig.66-10	(10.0)	2.75	(8.4)	○	○
	小皿a　イ ト	K-004	Fig.66-11	(13.0)	2.4	(11.2)	○	○
	Wa　ヘラ	K-007	Fig.66-12	15.8	2.4	11.5	○	○
	Wa　ヘラ	K-006	Fig.66-13	(15.8)	2.7	(12.1)	○	○
	丸皿Wa　ヘラ	K-016	Fig.66-14	(15.0)	3.2+α	-	-	-
	丸皿Wa　ヘラ	K-015	Fig.66-15	(15.0)	3.8	-	-	-
	Wc　イ ト	K-008	Fig.66-16	17.6	3.6	10.5	-	-
瓦器	椀	K-018	Fig.66-18	(16.8)	5.4+α	-	-	-
	椀c	K-020	Fig.66-19	-	1.4+α	(7.1)	-	-
	椀c	K-019	Fig.66-20	-	2.8+α	(6.2)	-	-

S-3D

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.66-5	(9.0)	1.1	(7.3)	○	○

S-3DE

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.66-6	(8.7)	0.8	(6.4)	○	○

S-3DE区黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.67-1	(8.0)	0.9	(6.8)	-	-
	小皿a　イ ト	K-002	Fig.67-2	(8.2)	1.0	(7.2)	-	-
	小皿a　イ ト	K-009	Fig.67-3	(9.2)	1.2	(7.6)	-	-
	小皿a　イ ト	K-003	Fig.67-4	(15.0)	2.65	(10.5)	-	○

S-3HE区黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-004	Fig.67-11	-	1.1	-	-	-
	小皿a　イ ト	K-005	Fig.67-12	-	1.2	-	-	-
	Wa　イ ト	K-013	Fig.67-13	(13.6)	2.4	(9.2)	-	○
	椀c	K-003	Fig.67-14	-	2.8	-	-	-
瓦器	椀	K-006	Fig.67-15	(16.0)	5.3+α	-	-	-

S-3JE黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	K-002	Fig.76-1	(8.4)	1.05	(6.4)	-	-
	小皿a　イ ト	K-003	Fig.76-2	(9.0)	1.15	(7.4)	○	○
	小皿a	K-001	Fig.76-3	(10.0)	1.1	(8.1)	-	-

S-3JC黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.76-5	(8.6)	1.2	(6.0)	-	-
	小皿a　イ ト	K-004	Fig.76-6	(8.8)	1.2	(5.6)	○	○
	小皿a	K-012	Fig.76-7	(9.0)	1.05	(7.0)	-	○
	小皿a　イ ト	K-010	Fig.76-8	(9.4)	1.1	(6.0)	○	○
	小皿a　イ ト	K-011	Fig.76-9	(10.0)	1.1	(8.0)	○	○
	Wa　イ ト	K-016	Fig.76-10	15.7	2.8	10.6	○	○
	Wa	K-013	Fig.76-11	(17.0)	3.45	(13.2)	○	○
	Wa　イ ト	K-015	Fig.76-12	-	2.2	-	-	○
	Wa　イ ト	K-014	Fig.76-13	-	2.55	-	-	○
	Wa　イ ト	K-003	Fig.76-14	-	2.4	-	-	○
瓦器	椀	K-008	Fig.76-16	(17.0)	5.6+α	-	-	-
	椀	K-007	Fig.76-17	(19.0)	3.7+α	-	-	-

S-3JCE黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.76-32	(9.6)	0.95	6.5	-	-

S-3JE黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-004	Fig.77-37	9.1	1.1~1.5	6.7	○	○
	小皿c	K-002	Fig.77-38	(10.0)	1.7	(6.3)	○	○

S-3JE黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.79-58	(8.8)	1.6	(6.6)	-	○

S-3JHE黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-002	Fig.79-59	(8.8)	1.0	(7.0)	○	○
	小皿a　イ ト	K-003	Fig.79-60	(9.2)	1.02	(6.6)	○	○
	小皿a　イ ト	K-004	Fig.79-61	(10.2)	1.0	(8.0)	○	○
	小皿a　イ ト	K-005	Fig.79-64	(10.4)	1.1	(8.0)	○	○
	Wa　イ ト	K-013	Fig.79-65	15.7~15.2	2.5	11.5	○	○
	Wa　イ ト	K-015	Fig.79-66	15.8	3.1~2.7	11.4	○	○
	Wa　イ ト	K-006	Fig.79-67	(16.2)	3.2	(11.3)	○	○
	椀c	K-007	Fig.79-68	(17.4)	3.45	(12.0)	○	○

S-4H黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸皿Wa　ヘラ	K-001	Fig.66-8	-	2.5	-	-	-
瓦器	椀	K-003	Fig.66-9	-	3.7+α	-	-	-

S-4JE黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-005	Fig.70-1	(8.4)	1.2	(7.4)	-	○
	小皿a	K-002	Fig.70-2	(9.0)	1.45	(7.0)	-	○
	小皿a　イ ト	K-019	Fig.70-3	(9.1)	1.2	(6.4)	○	○
	Wa	K-001	Fig.70-4	(14.4)	3.0+α	(10.4)	-	-
	Wa　イ ト	K-014	Fig.70-5	(15.0)	2.75	(10.0)	○	○
	Wa　イ ト	K-009	Fig.70-6	(16.0)	2.4	(11.0)	-	-
	Wa　イ ト	K-026	Fig.70-7	(16.0)	3.0	(13.0)	-	-
	Wa　イ ト	K-008	Fig.70-8	-	1.1+α	(10.4)	-	○
	Wa　イ ト?	K-006	Fig.70-9	-	2.9+α	-	-	-
	Wc　イ ト	K-008	Fig.70-10	-	3.7+α	-	○	○
瓦器	小皿a　イ ト?	K-017	Fig.70-11	(10.0)	1.4	(7.8)	○	○
	小皿a　イ ト	K-020	Fig.70-12	(11.4)	1.35	(9.2)	-	○
	椀c	K-018	Fig.70-13	-	1.5+α	(7.0)	-	-
	椀c	K-004	Fig.70-14	-	2.9+α	-	-	-

S-4D

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸皿Wa	K-001	Fig.70-23	-	2.1	-	-	-
	丸皿Wa	K-002	Fig.70-24	(15.8)	3.5	-	-	-

S-4HE黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	K-008	Fig.70-25	(8.6)	1.0	(6.1)	-	-
	小皿a　ヘラ	K-001	Fig.70-26	(8.8)	1.0	(7.0)	-	-
	小皿a　ヘラ	K-002	Fig.70-27	(9.8)	1.3	(5.1)	○	○
	小皿a　ヘラ	K-003	Fig.70-28	(9.9)	1.05	(8.0)	-	-
	丸皿Wa　ヘラ	K-005	Fig.70-29	(14.4)	3.5	-	-	-
	丸皿Wa　ヘラ	K-006	Fig.70-30	(15.7)	3.2	-	-	-

S-4E黒色土の線

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸皿Wc　ヘラ	K-001	Fig.66-11	(16.8)	3.9+α	-	-	○

S-4E区黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	K-001	Fig.67-17	(8.4)	1.0	(6.7)	○	○
	Wa	K-004	Fig.67-18	-	1.3+α	(10.4)	-	-
	丸皿Wa	K-003	Fig.67-20	-	1.6+α	-	-	-

S-4HE区色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-006	Fig.67-24	(7.8)	1.0	(7.0)	○	○
	小皿a	K-001	Fig.67-25	(8.2)	1.0	(6.0)	○	-
	小皿a	K-005	Fig.67-26	(8.6)	1.0	(7.4)	○	○
	小皿a　ヘラ	K-002	Fig.67-30	(9.0)	1.45	(7.6)	○	○
瓦器	椀	K-007	Fig.67-28	(17.0)	5.5+α	-	-	-

S-3E黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
瓦器	椀c	K-001	Fig.67-34	-	3.5+α	(6.0)	-	-

S-5E黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	K-001	Fig.67-36	(9.4)	1.0	(6.0)	-	-

S-51

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.81-1	-	1.0	-	×	×
	小皿a　イ ト	K-004	Fig.81-2	-	1.0	-	×	×

S-51E黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イ ト	K-001	Fig.81-7	-	1.0+α	-	-	-
	小皿a　イ ト	K-003	Fig.81-9	-	1.05	-	-	-
	Wa　イ ト	K-006	Fig.81-10	-	1.3+α	(9.0)	-	-
瓦器	椀c	K-003	Fig.81-11	-	3.0+α	(5.4)	-	-
	椀c	K-004	Fig.81-12	-	3.2+α	(7.7)	-	-

S-51E黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	K-003	Fig.81-17	-	0.9	-	-	-
	小皿a　イ ト	K-006	Fig.81-18	-	1.05	-	○	-

S-5S黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	K-001	Fig.67-39	(10.0)	1.0	(8.0)	○	-
	Wa　イ ト	K-001	Fig.67-39	(15.0)	2.9	(10.0)	○	-

表19　第317次調査　土器供膳具計測表②

S-55区黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	$Ⅳ_{a}$	イ	R-002	Fig.67-40		2.6			
	丸底$Ⅳ_{a}$		R-001	Fig.67-41	(15.0)	3.0+α		○	

S-65区黄色砂礫

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	―	R-007	Fig.75-1	(9.0)	0.95	(6.5)	―	―
	$Ⅳ_{a}$	イ	R-008	Fig.75-2		1.6		○	○
	丸底$Ⅳ_{a}$		R-001	Fig.75-3		2.6		○	○
瓦器	椀$_{c}$		R-002	Fig.75-4	―	3.4+α	(7.4)		

S-66区黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ	R-003	Fig.71-4	(9.2)	1.1	(7.2)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ	R-005	Fig.71-5	(14.2)	2.35	(9.0)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ？	R-001	Fig.71-7		1.7+α	(8.6)	○	○

S-66区黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底$Ⅳ$		R-003	Fig.71-4		4.1+α			
	椀$_{c}$		R-004	Fig.71-5	(18.2)	5.4	(6.6)		
瓦器	小皿$_{a}$	―？	R-004	Fig.71-7	(10.4)	1.2	(7.7)		
	椀$_{c}$		R-013	Fig.71-8		2.85+α	7.7		
	椀		R-011	Fig.71-9	(17.2)	3.1+α			
	椀		R-007	Fig.71-10		3.8+α			
	椀		R-006	Fig.71-11		3.5+α			

S-66

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ	R-013	Fig.72-24	(8.6)	1.0	(6.3)	○	○
	小皿$_{a}$	イ	R-005	Fig.72-25	(8.8)	1.05	(6.9)	○	○
	小皿$_{a}$	イ	R-004	Fig.72-26	(9.2)	1.15	(7.0)	○	―
	小皿$_{a}$	イ	R-012	Fig.72-27	(9.4)	1.35	(6.7)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ	R-001	Fig.72-28	(6.0)	2.4	(6.7)	○	―
	$Ⅳ_{a}$	イ？	R-006	Fig.72-29		2.5		○	○
	椀		R-014	Fig.72-30	(17.0)	3.3+α			

S-66暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ	R-001	Fig.72-43	(9.2)	1.3	(7.6)	○?	―
	$Ⅳ_{a}$	イ	R-002	Fig.72-44	―	3.05		○	―
	椀		R-003	Fig.72-45	―	4.0+α			

S-66灰黒色砂礫

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ	R-001	Fig.72-46	(9.2)	1.05	(7.8)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ	R-002	Fig.72-47	(12.8)	2.8	(9.0)	○	○

S-66黄灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
瓦器	椀$_{c}$	―	R-003	Fig.72-49		2.35+α	(6.8)	―	○

S-66暗黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ	R-001	Fig.72-51	(7.7)	0.85	(6.6)	○	○
	小皿$_{a}$	イ	R-005	Fig.72-52	(8.1)	0.85	(6.6)	○	×
	小皿$_{a}$	イ	R-002	Fig.72-53	(9.0)	1.1	(7.6)	○	○
	小皿$_{a}$	イ	R-003	Fig.72-54	(9.2)	1.15	(8.0)	○	○
	小皿$_{a}$	―	R-007	Fig.72-55	(9.8)	1.2	(6.4)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ	R-008	Fig.72-56		2.15+α	(11.0)	○	○
瓦器	椀$_{c}$	イ	R-009	Fig.72-58		2.45+α	(7.6)	×	○

S-66暗灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	$Ⅳ_{a}$	イ	R-003	Fig.72-60	14.8	2.8	9.7	○	―
	皿$_{b}$	イ？	R-001	Fig.72-61	(20.0)	3.0	(14.4)	○	○
	椀$_{c}$		R-003	Fig.72-62		3.3+α	6.8		

S-67区黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	―？	R-002	Fig.73-20	(9.0)	0.85	(7.4)	―	―
	$Ⅳ_{a}$	―？？	R-001	Fig.73-21	(14.2)	2.9	(10.6)	○?	○

S-67区黄黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底$Ⅳ_{a}$	―？	R-001	Fig.73-26	(16.0)	3.7	8.1	―	○
瓦器	椀$_{c}$		R-002	Fig.73-27	(16.4)	3.4	(7.0)		

S-67区黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	―？	R-001	Fig.73-92	(9.8)	1.0	(7.2)	○	○

S-73区黒色砂礫土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ？	R-015	Fig.73-11	(8.0)	0.85	(6.6)	○?	○
	小皿$_{a}$	イ	R-014	Fig.73-12	(8.6)	0.8	(7.0)	○	―
	小皿$_{a}$	イ？？	R-002	Fig.73-13	(8.8)	1.05	(7.4)	○?	○
	小皿$_{a}$	イ	R-012	Fig.73-14	(9.2)	1.1	(7.4)	○?	○
	小皿$_{a}$	イ	R-013	Fig.73-15	(9.4)	1.0	(7.6)	○	○
瓦器	椀$_{c}$		R-011	Fig.73-16		1.9+α	(8.0)		

S-80黒褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ？	R-001	Fig.74-1	(8.0)	0.95	(6.6)	○	○
	小皿$_{a}$	イ	R-003	Fig.74-2	(8.4)	0.8	(6.4)	―	○
	小皿$_{a}$	イ	R-002	Fig.74-3	(9.0)	0.85	(7.4)	×	○
	小皿$_{a}$		R-006	Fig.74-4	(10.6)	1.25	(8.6)		
	$Ⅳ_{a}$	イ	R-004	Fig.74-5		2.8+α		○	×
	椀		R-006	Fig.74-6	(18.0)	4.0+α			
瓦器	椀		R-005	Fig.74-7		2.9+α			

S-83L

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	―	R-002	Fig.78-96	(9.2)	1.2	(7.6)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ？	R-001	Fig.78-97		2.6	―	○?	―

S-83R

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ？	R-001	Fig.78-99	(9.4)	1.1	(7.0)	―	―

旧表土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
瓦器	椀$_{c}$		R-006	Fig.82-3		2.2+α	(6.6)		
	椀$_{c}$		R-007	Fig.82-5		3.5+α	(7.0)		

旧灰黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿$_{a}$	イ？	R-018	Fig.82-10	8.6	1.0	6.6	○	○
	小皿$_{a}$	イ	R-012	Fig.82-11	8.7	1.2	7.0		
	小皿$_{a}$	イ？	R-005	Fig.82-12	(9.0)	1.0	(7.4)	○	×
	$Ⅳ_{a}$	イ？	R-023	Fig.82-13	13.1	1.8	9.4	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ	R-013	Fig.82-14	(14.8)	2.7	(10.4)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ？	R-019	Fig.82-15	(15.0)	2.6	(10.4)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	―	R-007	Fig.82-16	(15.8)	2.4	(10.7)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ？	R-008	Fig.82-17	(15.8)	3.9	(9.6)	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ？	R-020	Fig.82-18		1.7+α	10.7	○	○
	$Ⅳ_{a}$	イ？	R-022	Fig.82-19		1.7+α	(11.6)	○	○
瓦器	椀$_{c}$		R-002	Fig.82-20		1.75+α	7.0		
	椀$_{c}$		R-001	Fig.82-21		3.25+α	(6.6)		

表 20　317SE035 井戸枠部材観察表

317SE035

取り上げ番号	図番号	種類	長さ	幅	高さ(厚さ)	観察所見	写番号
1		横桟(上段)	78.5 (ホゾ部70.0)	3.7	5.7	ホゾ部分(凸)以外腐食し、加工痕が残っていない。	—
2		横桟(上段)	80.0 (ホゾ部68.7)	3.2	6.0	ホゾ部分(凹)以外腐食し、加工痕が残っていない。	—
3		横桟(上段)	77.6 (ホゾ部68.7)	2.7	4.3	ホゾ部分(凸)以外腐食し、加工痕が残っていない。	—
4		横桟(上段)	78.8 (ホゾ部71.2)	3.2	5.3	ホゾ部分(凹)以外腐食し、加工痕が残っていない。	—
5		隅柱(南東)	62.0	3.3	4.9	角材、加工痕跡残存せず。	—
6		隅柱(南西)	63.0	3.3	5.0	角材、加工痕跡残存せず。	—
7		隅柱(北西)	63.0	2.8	4.8	角材、加工痕跡残存せず。	—
9-1	Fig. 77-43	井桁	80.7	6.8	4.3	両端は凸に加工。	014
9-2	Fig. 77-42	井桁	80.7	6.8	4.9	両端は凹に加工。	016
9-3	Fig. 77-43	井桁	80.7	6.6	4.1	両端は凸に加工。	015
9-4	Fig. 77-44	井桁	81.2	6.6	4.0	両端は凹に加工。	017
10	Fig. 78-45	井戸枠	70.7+α	24.3	2.3	片面にカンナ痕あり。	009
11	Fig. 78-46	井戸枠	65.8+α	23.3	1.8~2.2	片面にカンナ痕あり。	011
12・13		井戸枠	70.5+α	25.2	2.3	腐食し加工不確認。	—
14	Fig. 78-47	井戸枠	63.7+α	18.5	1.3~1.8	加工は確認できないが、孔が3ヵ所あり。	013
15	Fig. 78-48	井戸枠	75.5+α	18.9	1.5~2.1	片面にカンナ痕が明瞭に残る。	012
16	Fig. 78-49	井戸枠	76.0+α	23.5	2.5	片面にカンナ痕あり。	005
17	Fig. 78-50	井戸枠	64.6+α	13.7	1.5~2.0	片面にカンナ痕あり。	002
18		井戸枠	64.0+α	21.8	2.5	腐食し加工不確認。	—
19	Fig. 78-51	井戸枠	86.3+α	21.5	2.1	片面にカンナ痕、側面に研度が残る。	004
20	Fig. 78-52	井戸枠	79.0+α	22.0	2.2~2.8	片面にカンナ痕、側面に研度が残る。	008
21	Fig. 78-53	井戸枠	109.8+α	18.7	1.5~2.0	片面にカンナ痕あり。	003
22		井戸枠	71.9+α	14.0	3.2	腐食し加工不確認。	—
23	Fig. 78-54	井戸枠	97.3+α	22.4	2.4	片面にカンナ痕あり。底面に樹皮を剥いだ状態。	006
24	Fig. 79-55	井戸枠	77.5+α	26.2	1.5~2.1	片面にカンナ痕あり。	007
25		井戸枠	67.8	24.1	2.7	片面にカンナ痕があるが、腐食し残存悪い。	—
26		井戸枠	80.4	14.2	1.5	片面にカンナ痕あり。煤著。	×
101	Fig. 79-56	井戸枠補強材	95.8+α	16.5	1.5~2.1	板材。先端を斜めにカット。	001
102		井戸枠補強材	32.5	12.5	1.0	板材。表裏面に加工なし。	×
103		井戸枠補強材	79.0	13.2	1.0	板材。表裏面に加工なし。	—
104		井戸枠補強材	52.4	3.1	1.3	板材。表裏面に加工なし。	—
105		井戸枠補強材	49.5	10.3	1.5	板材。表裏面に加工なし。	×
106		井戸枠補強材	106.8	12.5	1.7	板材。表裏面に加工なし。	—
107		井戸枠補強材	105.5	12.8	1.6	板材。表裏面に加工なし。先端を三角状にカット。	—
108		井戸枠補強材	58.0	11.8	0.9	板材。表裏面に加工なし。先端をギザギザにカット。	—
109		井戸枠補強材	106.5	13.5	1.6	板材。表裏面に加工なし。先端を三角状にカット。	—
110		井戸枠補強材	38.7	11.7	1.3	板材。表裏面に加工なし。先端を三角状にカット。	—
111		井戸枠補強材	45.7	12.0	0.7	板材。表裏面に加工なし。先端を三角状にカット。	—
112	Fig. 79-57	井戸枠補強材	94.9+α	16.1	2.0	板材。表裏面に加工なし。方形孔あり。	010
113		井戸枠補強材	37.2	11.9	1.7	板材。表裏面に加工なし。先端を斜めにカット。	—
114		井戸枠補強材	84.5	12.0	1.8	板材。表裏面に加工なし。	—
115		井戸枠補強材	58.8	12.0	1.2	板材。表裏面に加工なし。	—
116		井戸枠補強材	73.3	12.0	2.3	板材。表裏面に加工なし。先端を斜めにカット。	—

317SE035暗灰色土

取り上げ番号	図番号	種類	長さ	幅	厚さ	観察所見	写番号
	Fig. 79-77	用途不明品	10.2+α	5.4~8.6	1.5~1.9		001

317SE035灰黄褐色土

取り上げ番号	図番号	種類	長さ	幅	厚さ	観察所見	写番号
1	Fig. 77-36	井戸枠材ウ	114.7	13.3	1.0~1.7	欠損した方形孔あり。	001
2	Fig. 77-35	井戸枠材ウ	109.7	12.8	1.5~2.3	方形孔あり。	002

8、推定朱雀門礎石の移設について

推定朱雀門礎石は、1982（昭和 57）年に観世音寺土地区画整理事業に伴う御笠川の河川改修工事中に発見された。その発見地が、大宰府政庁跡の南側正面の朱雀門推定地の近くであったことから、朱雀門礎石と推定され、その後に大宰府政庁跡前の多目的広場の東隅に移設されていた。

2012（平成 24）年、礎石を多目的広場から朱雀大橋の北西部に移設したのだが、その移設については、以下のような観点から決定し実施された。なお、その経過については表 21 のとおりである。

・大宰府政庁跡多目的広場では、存在感がなく、知らない人も多い。
・移設予定地が、発見地の近くで朱雀門推定地にも近く、東側の歩道からは、大宰府政庁跡や四王寺山が望むことができ、朱雀門を入った当時を想像でき、史跡解説には適地である。
・移設予定地の周辺環境として、東側と南側に広い歩道があり、車両通行等の危険はなく、見学者にとって安全な環境である。
・大宰府政庁跡から榎社や客館跡など南方への散策者の回遊性を高めることができる。
・普段は草地になっている市有地の有効利用ができる。

表 21　朱雀門礎石移設に関する経緯

年	月日	動き
1982年	12月	・観世音寺土地区画整理事業に伴う、御笠川の河川改修工事で発見される。
1983年	1月10日	・川底より引き揚げられ、その後大宰府政庁跡多目的広場東隅に移設。
2012年	1月	・礎石を政庁跡多目的広場から矢倉大橋横への移設について、文化財担当技師内で内諾を得る。
	2月16日	・移設先の北隣接地について、斉藤工務店が93条の書類を提出し、宅地造成を行う。これを受けて、礎石移設予定地についての諾手続について、市建設課に確認。
	9月中旬	・次年度予算作成のため、移設に関わる費用について、（有）松田造園土木と現場で協議。作業にあたっては、礎石の重量を考えると余道を利用した作業は歩道面に影響が及ぶ可能性があるので、北隣の空き地の利用が適切という意見をもらう。
	10月4日	・礎石の移設は、早急にやった方が良いと判断。移設先の土地について、市建設課に移設予定地に関する手続きを行う意向を伝え、詳細をうかがう。「現場にある交通安全協会の看板の撤去」と「西隣にポンプ小屋があるため水利組合との協議」について、文化財課で対処・解決すれば、速やかに占有許可の手続きを行うことを確認。
	10月9日	・交通安全協会に照会。申し出があれば撤去可能であることを確認。
	10月10日	・市文化財課長・調査係長に今年度の予算内で移設したい旨を伝え、了解を得る。県・九州歴史資料館・保存協会に移設の情報は事前に流すよう指示される。 ・県文化財課に現状変更など礎石移設に関する相談を行う。問題ないと思うが、文化庁に確認が必要とのこと。
	10月23日 午前 午後	・国分寺サミットのため、文化庁調査官来る。移設については良いことであり問題ない。移設後は移設先を案内する表示を設置するようにとの指示。 ・通古賀本利組合に照会。問題なしとのこと。 ・北隣の宅地造成を行った斉藤工務店に照会。北隣の地権者である木氏を紹介され確認の電話を行う。11月には整地をする予定であるが、文化財課に協力する旨伝え、ただし、できる限り早く終わるとありがたい旨の話を受ける。 ・松田造園土木に電話し、クレーン等の手配を行う。
	10月24日	・交通安全協会に電話。正式に撤去の申し出を行う。撤去に際しては宮原産業に電話。10月末までの撤去を約束。 ・現状変更、占有許可の手続きを行う。夕方、観世区長に承認を頂く。
	10月25日	・通古賀本利組合と現場で協議。承認を頂く。 ・保存協会に移設の話をする。 ・移設先の93条の書類作成。 ・課内会議で経緯を報告。
	10月30日	・松田造園土木より移設日程の連絡あり。11月1日準備、2日移設の予定。 ・九州歴史資料館に連絡。
	10月31日	・松田造園土木とクレーン業者と現場で協議。 ・93条の決裁状況を県に確認し作業を進めて良いとのこと。 ・乙木氏のほか斉藤工務店にも日程を連絡。
	11月1日	・移設の事前準備。礎石周囲の舗装や移設先の表土除去。 ・以前陣ノ尾古墳整備で不要になっていた石材を斉藤造園からもらい受け、自力で現場に設置。 ・夕方政庁跡多目的広場東側をカラーコーンで封鎖。
	11月2日	・午前8時過ぎクレーン到着。政庁駐車場の東側一帯を封鎖し作業開始。12時過ぎ移動完了。午後礎石周囲の整地、旧設置場所の埋め戻しを行う。 ・仮設の説明板を設置。 ・西日本新聞取材。斉藤工務店、保存協会ほか数名の見学者あり。
	11月3日	・西日本新聞朝刊に移設について記事が掲載される。
	11月5日	・午後にクラッシャーランを入れ、その上に2mmの砕石を入れる。
	11月14～16日	・国分千足町遺跡第7次調査の調査区内に生えているリュウノヒゲを地権者松嶋氏の了解を得て移植する。リュウノヒゲの移植は砕石が歩道に飛散するのを防ぐ目的である。（その後、2018年頃、除草作業にて除去される）
	11月26日	・蔵司前面で整地予定のツツジを移植。ツツジは礎石の背景にあるポンプ小屋を隠すこととポンプ小屋の敷地との境界の意味合いを持たせるため。
2013年		・説明板の設置。設置費用は都市整備課の歴まち事業による。

Ⅴ、調査まとめ

今回得られた主な所見は以下のとおりである。

・12 世紀中頃～ 13 世紀代の南北道路の検出。(第 317 次調査)
・東西方向の区画溝（道路？）の検出。(第 67・79 次調査)
・氾濫原の確認。(第 39・109・317 次調査)
・奈良時代以前の遺構が確認されていない。
・遺構のほとんどが 11 世紀後半～中世にかけてのもの。(第 36・67・79・317 次調査)

今回報告した政庁前面から観世音寺前面にかけての調査(左郭 1 ～ 8 坊路)では、発掘調査範囲が狭く、明確に言い難いことが多いが、全体的な傾向としては、政庁に近い第 109 次調査では平安前期～中期の遺構が確認され、第 36 次調査で 10 世紀中頃の井戸が 1 基見つかっている以外は、ほとんどが 11 世紀後半以降のもので、東側に行くほど新しく中世の遺構が展開している。

今回の報告エリアの西隣に位置する日吉地区では、8 世紀～ 9 世紀後半の掘立柱建物が並ぶ官衙が確認されているが、その廃絶後 11 世紀後半になって、住宅のような小規模な建物が建築されているが、それまで、目立った遺構は検出されていない。その官衙域以東の今回の報告地では、8 ～ 9 世紀の官衙的な遺構は全くなく、以前から指摘されている 2 坊路を日吉官衙域の東辺とする案を傍証している。

また、同じく政庁前面域で日吉官衙と対称の位置にある右郭の不丁・大楠・広丸地区は氾濫をあまり受けず、多くの掘立柱建物や遺物が見つかっている。この地域は官衙域と考えられ、官衙的な建物の終焉時期は、不丁地区・大楠地区で 10 世紀前半、広丸地区で 9 世紀後半であり、政庁Ⅲ期には政庁前面には官衙が存在しない状況となっている。しかし、政庁前広場を挟んで対称位置にある今回の報告地域では、奈良時代の遺構は、戒壇院前面の第 50・149 次調査で確認した溝などだけである。調査地点が少ない上に右郭と比較して氾濫を受けているとはいえ、官衙的な建物はもちろん建物や井戸などの生活遺構が全くなく、第 50 次調査では、9 ～ 11 世紀中頃まで遺構が皆無であり、第 149 次調査でも平安中期の遺構が希薄であった。

4 条路付近を境に北側は史跡地ということもあり、調査条件に違いはあるが、左郭の 4 条路以南の政庁Ⅱ期の遺構は、氾濫により完全に消滅したという見方もできるが、あまりに広範囲であり、氾濫原を確認していない場所でも奈良～平安中期の遺構が希薄であることを考えると、日吉官衙以東の左郭 4 条路から御笠川まで範囲は、右郭と異なり官衙の広がりはなく、奈良時代から比較的閑散とした区域だった可能性も考えられ、この地域が広く開発されるのは平安後期からということになる。

参考文献

太宰府市教委『大宰府条坊跡Ⅲ』太宰府市の文化財第 8 集　1984 年
太宰府市教委『大宰府条坊跡 XI』太宰府市の文化財第 42 集　1999 年
太宰府市教委『大宰府条坊跡 XII』太宰府市の文化財第 43 集　1999 年
九州歴史資料館『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅱ－日吉地区－』2011 年
九州歴史資料館『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅴ－不丁地区　遺物編 2 －』2014 年
九州歴史資料館『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅸ－大楠地区　総括・図版編－』2017 年
九州歴史資料館『大宰府政庁周辺官衙 XI －広丸地区　遺物編－』2018 年

写真図版

写真図版には遺構の主な写真を掲載している。その他の遺構写真および遺物写真は、付録の CD にカラー情報で収録している。

第 33 次調査全景（西から）

第 36 次調査全景（西から）

36SE015・001 井戸枠検出状況（南から）

第 67 次調査全景（上が北、空中写真）

第 79 次調査全景（上が北、空中写真）

第 109 次調査　第 3 面遺構状況（南から）

109SE025 検出状況（南から）

第 317 次調査 A-1 区全景（南から）

第 317 次調査 C 区全景（上が北、空中写真）

317SF065・070 全景（北から）

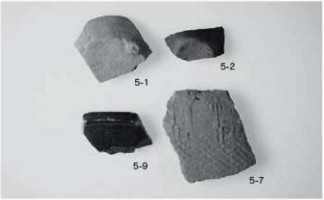
317SF075 全景（北から）

317SF075 礫敷近景（北から）

317SE035 井戸枠状況（南から）

推定朱雀門礎石移設作業風景

推定朱雀門礎石移設後状況（南東から、2014 年）

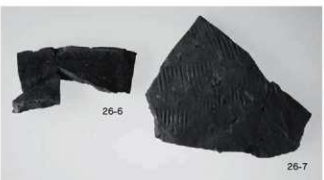


第 33 次調査出土遺物（Fig. 5）

第 39 次調査出土軒平瓦（Fig. 17-2）

36SE001 出土中国陶器四耳壺（Fig. 10-19）

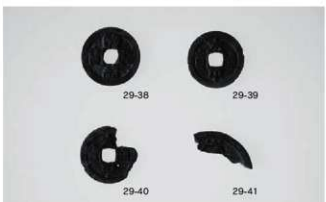
第 36 次調査出土茶灰色土出土文様塼（Fig. 14-18）



67SK035 上層出土中世国産陶器甕（Fig. 26）

67SK035 下層出土中国陶器壺（Fig. 26-21）

第 67 次調査黒褐色土出土硯（Fig. 28-12）

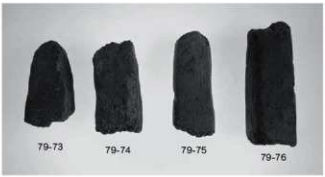


第 67 次調査出土銭貨（Fig. 29）

79SE001 裏込め上層出土高麗青磁壺外面（Fig. 35-29）

79SK011 枠内下層出土瓦質土器火鉢（Fig. 37-10）

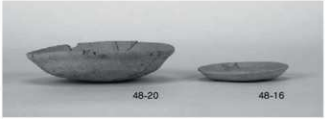
317SX067A 灰黄褐色土出土土師器・瓦器（Fig. 73）



317SE035 暗灰色土出土柱状土製品（Fig. 79）

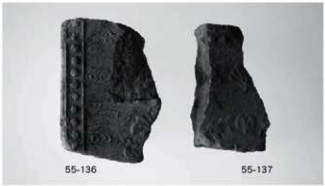
317SK030 黒褐色土出土土師器（Fig. 80）

109SD010 出土黒色土器椀・土師器丸底坏（Fig. 44）

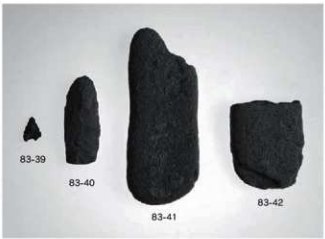


109SK005 出土土師器小皿 a・丸底坏（Fig. 48）

109SX023 炭層土出土黒色土器椀 c・土師器椀 c（Fig. 49）



第 109 次調査 暗黒青色粘土出土文様塼（Fig. 55）



第 317 次調査出土石製品（Fig. 83）

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと
書名	太宰府条坊跡 50
副書名	日吉・五反田・土居ノ内地区
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	139 集
編著者	宮崎亮一
編集機関	太宰府市教育委員会
所在地	福岡県太宰府市観世音寺１丁目１番１号
発行年月日	2020（令和２）年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鏡山推定案】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
だざいふじょうぼうあと 太宰府条坊跡　第 33 次	左郭４・５条３坊	かんぜおんじ 大字観世音寺	402214	210050-33	56655.0	−44527.5	19820510	19820520	42	区画整理 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 太宰府条坊跡　第 36 次	左郭５条５坊	かんぜおんじ 大字観世音寺	402214	210050-36	56616.0	−44350.0	19821116	19821207	72.4	区画整理 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 太宰府条坊跡　第 39 次	左郭６条１坊	かんぜおんじ 大字観世音寺	402214	210050-39	56534.0	−44820.0	19820510	19830315	—	区画整理 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 太宰府条坊跡　第 67 次	左郭５条６坊	かんぜおんじ 大字観世音寺	402214	210050-67	56610.0	−44265.0	19870925	19871015	179	学校寮建築 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 太宰府条坊跡　第 79 次	左郭５条７坊	かんぜおんじ 大字観世音寺	402214	210050-79	56610.0	−44138.0	19881028	19881111	61.5	専用住宅建築 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 太宰府条坊跡　第 109 次	左郭４・５条３坊	かんぜおんじ 大字観世音寺	402214	210050-109	56645.0	−44535.0	19910516	19910621	173.7	共同住宅建設 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 太宰府条坊跡　第 317 次	左郭５条４坊	かんぜおんじ 観世音寺１丁目	402214	210050-317	56560.0	−44470.0	20170227	20170623	271	福祉施設建設 記録保存調査

所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
太宰府条坊跡　第 33 次	都城	平安	ピット	土師質土器、高麗青磁 龍泉窯系青磁、石鏃	
太宰府条坊跡　第 36 次	都城	平安・中世	井戸、土坑	土師器、黒色土器、陶磁器 石鏃	
太宰府条坊跡　第 39 次	都城	奈良	旧亂原	越州窯系青磁、軒平瓦	
太宰府条坊跡　第 67 次	都城	平安・中世	井戸、土坑、溝 礎石建物	土師器、瓦器、土師質土器 中世国産陶器、銭貨	
太宰府条坊跡　第 79 次	都城	中世	溝、井戸、土坑 流路	土師器、須恵質土器、石鏃 土師質土器、白磁、高麗青磁	
太宰府条坊跡　第 109 次	都城	平安	溝、井戸、土坑 流路	須恵器、土師器、黒色土器 叉様埠	
太宰府条坊跡　第 317 次	都城	中世	道路、溝、井戸 土坑	土師器、瓦器、土師質土器 輸入陶磁器	

太宰府市の文化財　第 139 集

大宰府条坊跡 50

−日吉・五反田・土居ノ内地区の調査−

令和２（2020）年３月

編集　太宰府市教育委員会

発行　太宰府市観世音寺一丁目１番１号

印刷　有限会社 システム・レコ
福岡県古賀市今の庄三丁目 13 番１号